

第5期朝霞市地域福祉計画・
第5期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかる
アンケート調査・グループヒアリング
結果報告書

令和7年3月
朝霞市
朝霞市社会福祉協議会

目 次

I アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 集計・分析のための地区区分	1
4 回収結果	2
5 報告書の見方	2
II 市民調査結果	3
1 回答者自身について	3
2 暮らしの状況について	11
3 近所付き合いについて	19
4 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）について	27
5 民生委員・児童委員、保護司について	28
6 身近な地域の課題について	29
7 コミュニティ活動について	47
8 防災活動について	56
9 困りごとの相談について	59
10 福祉施策について	66
III 児童生徒調査結果	73
1 回答者自身について	73
2 地域での暮らしについて	76
3 地域での活動について	82
IV 専門職調査結果	86
1 回答者自身について	86
2 地域の課題について	89
3 活動の状況について	142
V 団体調査結果	177
1 団体について	177
2 団体の活動について	178
3 地域の課題について	190
VI アンケート調査結果からみえる主な課題・方向性	218
VII グループヒアリングの概要	225
1 調査の目的	225
2 調査概要	225

Ⅷ グループヒアリング結果.....	227
1 子ども分野.....	227
2 高齢者分野.....	230
3 障害者分野.....	234
4 地域福祉活動分野.....	237
5 ヒアリング結果からみえる主な課題・方向性.....	240

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、一般市民、市内で福祉・医療・介護または教育・保育機関で業務を行う皆様の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、アンケート調査を実施しました。

2 調査概要

種別	対象	調査方法	調査期間
市民調査	市内在住の18歳以上の方 (無作為抽出)	郵送配布・ 郵送回収 及びWEBによる 本人回答方式	令和6年 11月8日(金) (児童生徒調査は11 月15日(金))～ 11月29日(金)
児童生徒 調査	市内の小学5年生、中学2年生、 高校2年生相当にあたる方		
専門職 調査	市内で福祉・医療・介護または 教育・保育機関で業務を行う方 (代表者)		
団体調査	市内に組織されている 福祉関係団体の方(代表者)	郵送配布・ 郵送回収による 本人回答方式	

3 集計・分析のための地区区分

区分	地区
地区1	大字上内間木、大字下内間木、宮戸、大字宮戸、朝志ヶ丘
地区2	東弁財、西弁財、三原、泉水
地区3	本町1・2丁目、溝沼1～5丁目、大字溝沼、膝折町3～5丁目
地区4	仲町、根岸台、大字根岸、大字台
地区5	青葉台、栄町、幸町、膝折町1・2丁目、大字膝折、本町3丁目
地区6	北原、西原、浜崎、大字浜崎、田島、大字田島、岡、大字岡、溝沼6・7丁目

4 回収結果

種別	配布数	有効回収数	有効回収率
市民調査	3,000 件	946 件	31.5%
児童生徒調査	1,000 件	341 件	34.1%
専門職調査	450 件	158 件	35.1%
団体調査	83 件	52 件	62.7%

5 報告書の見方

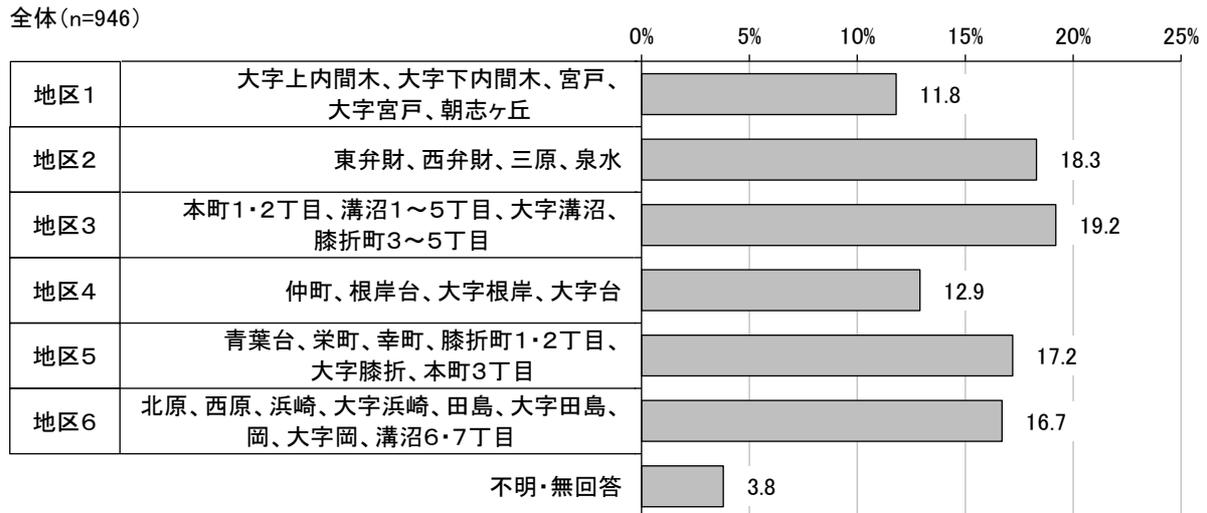
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

II 市民調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つを選択)

「地区3(本町1・2丁目、溝沼1～5丁目、大字溝沼、膝折町3～5丁目)」が19.2%と最も高く、次いで「地区2(東弁財、西弁財、三原、泉水)」が18.3%、「地区5(青葉台、栄町、幸町、膝折町1・2丁目、大字膝折、本町3丁目)」が17.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男性では「地区2」、女性では「地区3」が最も高くなっています。

単位: %		地区1	地区2	地区3	地区4	地区5	地区6	不明・無回答
全体(n=946)		11.8	18.3	19.2	12.9	17.2	16.7	3.8
性別	男性(n=387)	12.4	19.9	16.5	13.7	18.1	17.8	1.6
	女性(n=538)	11.7	17.7	21.6	12.5	17.3	16.5	2.8

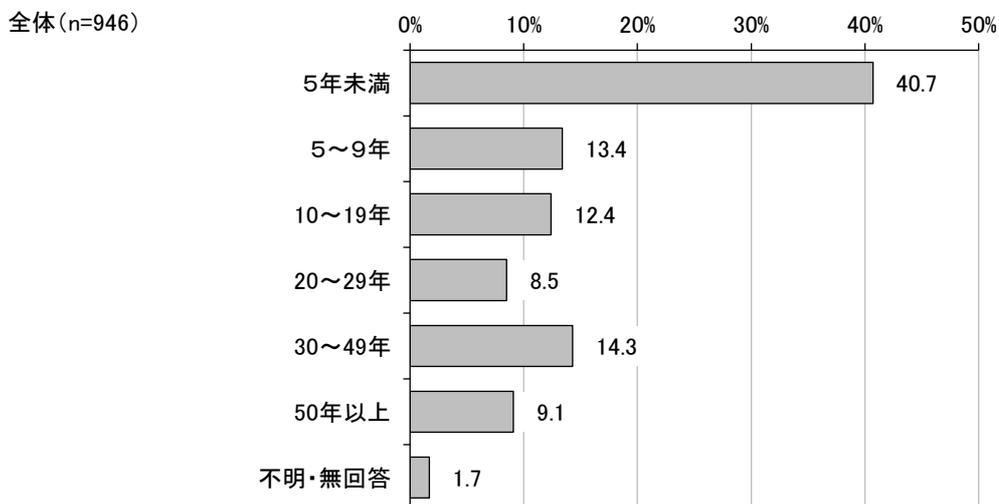
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「地区3」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：%		地区 1	地区 2	地区 3	地区 4	地区 5	地区 6	不明・ 無回答
全体(n=946)		11.8	18.3	19.2	12.9	17.2	16.7	3.8
年齢別	18～29歳(n=69)	10.1	13.0	23.2	17.4	17.4	17.4	1.4
	30～39歳(n=132)	11.4	12.9	22.7	17.4	15.9	18.9	0.8
	40～49歳(n=157)	8.9	18.5	20.4	13.4	17.8	18.5	2.5
	50～59歳(n=197)	16.8	20.8	18.8	11.2	14.7	15.2	2.5
	60～69歳(n=150)	8.0	22.0	18.0	11.3	20.7	18.0	2.0
	70～79歳(n=146)	16.4	19.2	17.8	9.6	19.9	15.1	2.1
	80歳以上(n=77)	9.1	20.8	16.9	15.6	16.9	16.9	3.9

問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどのくらいになりますか。延べ年数でお答えください。(1つを選択)

「5年未満」が40.7%と最も高く、次いで「30～49年」が14.3%、「5～9年」が13.4%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「5年未満」が最も高くなっています。

単位：%		5年未満	5～9年	10～19年	20～29年	30～39年	50年以上	不明・無回答
全体(n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7
地区別	地区1(n=112)	37.5	15.2	13.4	8.9	14.3	10.7	0.0
	地区2(n=173)	37.6	11.0	16.8	14.5	13.3	6.9	0.0
	地区3(n=182)	46.2	16.5	9.9	5.5	15.4	6.6	0.0
	地区4(n=122)	56.6	10.7	7.4	6.6	8.2	9.8	0.8
	地区5(n=163)	38.0	16.0	9.8	9.2	14.7	12.3	0.0
	地区6(n=158)	36.7	12.7	15.8	6.3	18.4	10.1	0.0

〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「5年未満」が最も高くなっています。

単位：%		5年未満	5～9年	10～19年	20～29年	30～39年	50年以上	不明・無回答
全体(n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7
性別	男性(n=387)	40.8	11.6	12.7	8.5	15.5	10.9	0.0
	女性(n=538)	41.4	15.1	12.5	8.7	13.8	8.2	0.4

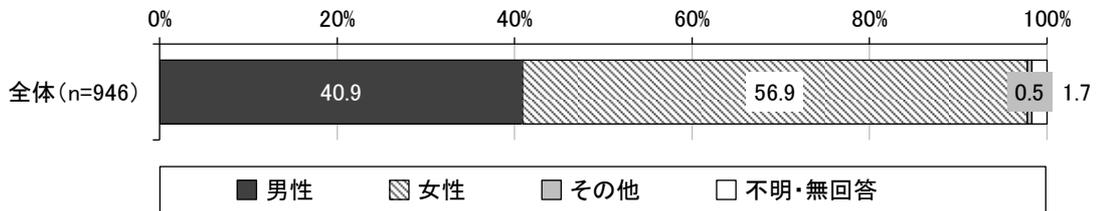
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の低い方が「5年未満」の割合が高く、年齢の高い方が「30～49年」「50年以上」の割合が高い傾向にあります。

単位：%		5年未満	5～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40～49年	50年以上	不明・無回答
全体 (n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7	
年齢別	18～29歳 (n=69)	82.6	8.7	7.2	1.4	0.0	0.0	0.0	
	30～39歳 (n=132)	75.8	18.2	2.3	0.8	3.0	0.0	0.0	
	40～49歳 (n=157)	45.9	22.9	20.4	5.7	5.1	0.0	0.0	
	50～59歳 (n=197)	31.5	15.2	19.8	13.2	10.7	9.6	0.0	
	60～69歳 (n=150)	27.3	8.0	11.3	14.7	24.7	14.0	0.0	
	70～79歳 (n=146)	22.6	8.9	9.6	11.6	30.1	16.4	0.7	
	80歳以上 (n=77)	26.0	6.5	7.8	3.9	27.3	28.6	0.0	

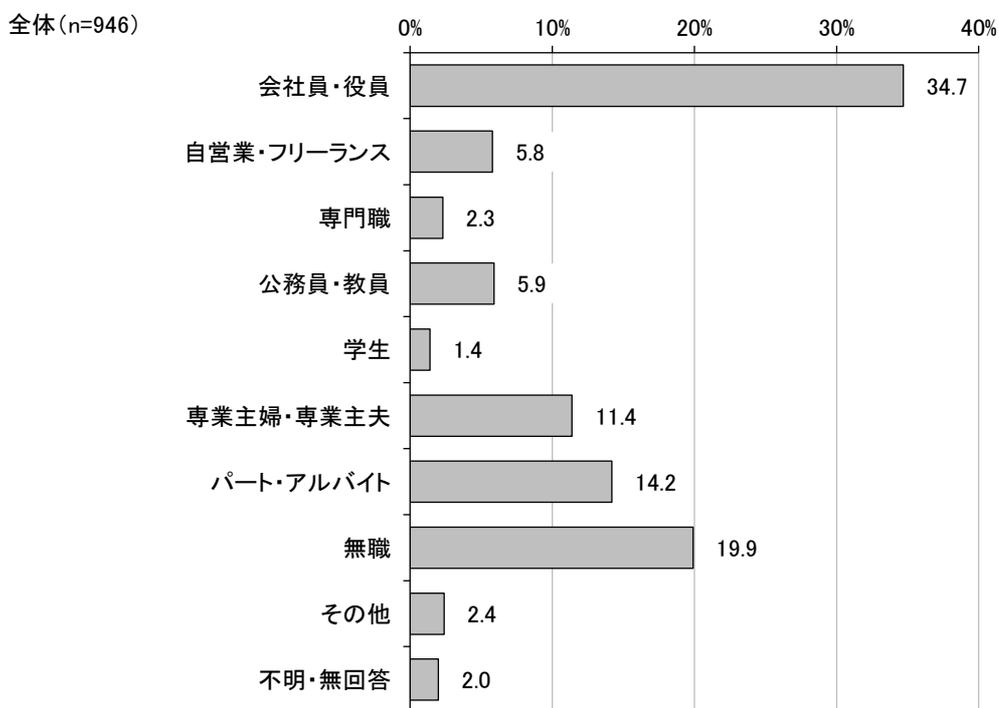
問3 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)

「女性」が56.9%と最も高く、次いで「男性」が40.9%となっています。



問4 あなたの職業をお答えください。(1つを選択)

「会社員・役員」が34.7%と最も高く、次いで「無職」が19.9%、「パート・アルバイト」が14.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「会社員・役員」が最も高くなっています。また、男性では「無職」の割合が女性と比べて高く、女性では「パート・アルバイト」「専業主婦・専業主夫」の割合が男性と比べて高くなっています。

単位: %		会社員・役員	自営業・フリーランス	専門職	公務員・教員	学生	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	無職	その他	不明・無回答
全体(n=946)		34.7	5.8	2.3	5.9	1.4	11.4	14.2	19.9	2.4	2.0
性別	男性(n=387)	41.3	7.8	2.6	9.3	1.3	0.3	6.2	26.9	3.9	0.5
	女性(n=538)	30.9	4.3	2.2	3.7	1.5	19.9	20.4	15.1	1.5	0.6

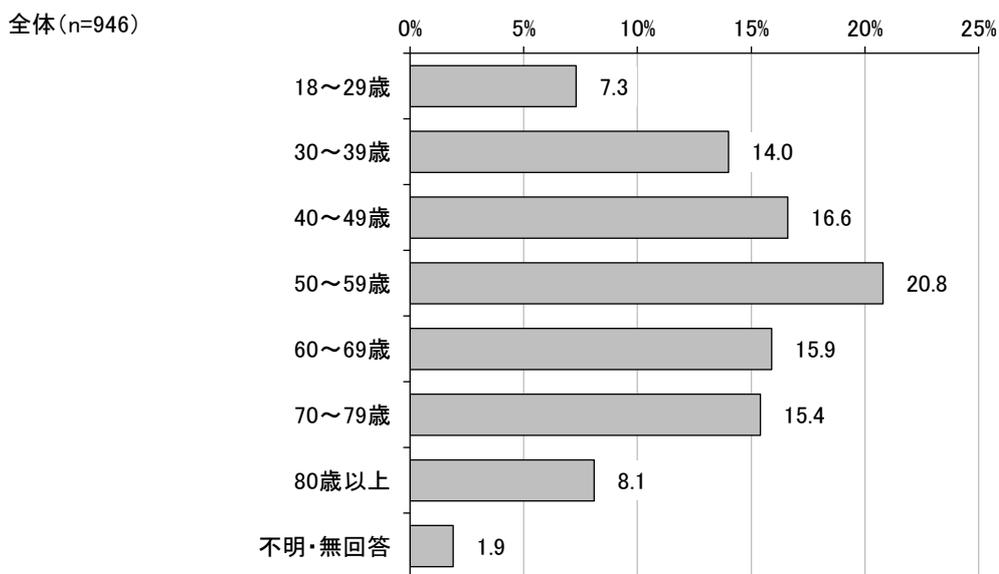
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～59歳では「会社員・役員」、60歳以上では「無職」が最も高くなっています。

単位：%		会社員・役員	自営業・フリーランス	専門職	公務員・教員	学生	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	無職	その他	不明・無回答
全体(n=946)		34.7	5.8	2.3	5.9	1.4	11.4	14.2	19.9	2.4	2.0
年齢別	18～29歳(n=69)	42.0	4.3	1.4	14.5	18.8	4.3	7.2	1.4	5.8	0.0
	30～39歳(n=132)	59.8	5.3	4.5	9.1	0.0	8.3	11.4	0.8	0.8	0.0
	40～49歳(n=157)	58.0	3.2	4.5	10.2	0.0	7.6	12.7	2.5	1.3	0.0
	50～59歳(n=197)	44.7	7.1	2.0	6.6	0.0	7.1	20.8	7.1	4.6	0.0
	60～69歳(n=150)	20.7	9.3	1.3	2.7	0.0	16.7	21.3	26.7	0.7	0.7
	70～79歳(n=146)	5.5	6.2	1.4	0.7	0.0	16.4	13.0	53.4	2.7	0.7
	80歳以上(n=77)	1.3	2.6	0.0	0.0	0.0	24.7	2.6	64.9	2.6	1.3

問5 あなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

「50～59歳」が20.8%と最も高く、次いで「40～49歳」が16.6%、「60～69歳」が15.9%となっています。



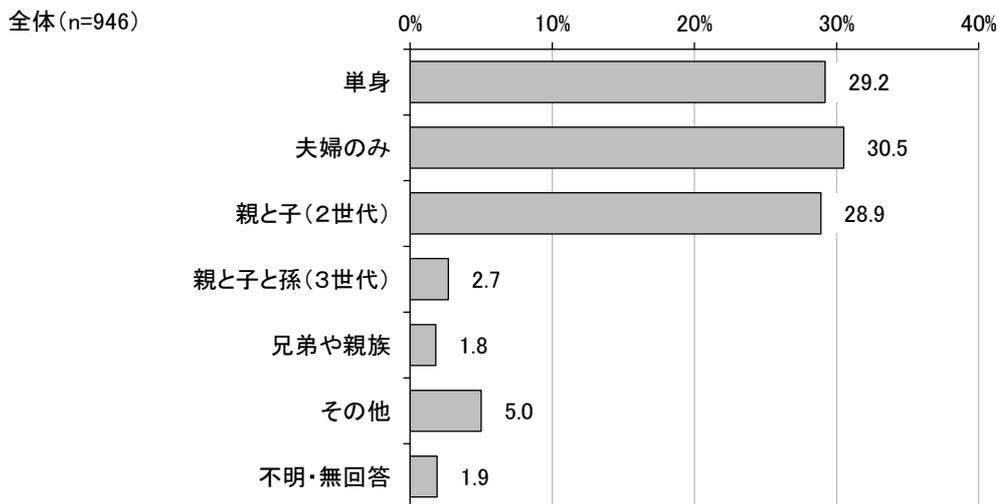
〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も高くなっています。

単位：%		18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不明・無回答
全体(n=946)		7.3	14.0	16.6	20.8	15.9	15.4	8.1	1.9	
性別	男性(n=387)	4.7	13.4	15.5	24.3	17.1	17.8	7.0	0.3	
	女性(n=538)	9.5	14.5	17.8	19.0	15.6	14.1	9.1	0.4	

問6 あなたの同居している世帯・家族の構成をお答えください。(1つを選択)

「夫婦のみ」が30.5%と最も高く、次いで「単身」が29.2%、「親と子(2世代)」が28.9%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男性では「単身」、女性では「親と子(2世代)」が最も高くなっています。

単位：%		単身	夫婦のみ	親と子(2世代)	親と子と孫(3世代)	兄弟や親族	その他	不明・無回答
全体(n=946)		29.2	30.5	28.9	2.7	1.8	5.0	1.9
性別	男性(n=387)	37.7	34.4	21.2	1.6	1.6	3.4	0.3
	女性(n=538)	24.0	28.4	35.5	3.7	2.0	5.9	0.4

〈年齢別クロス〉

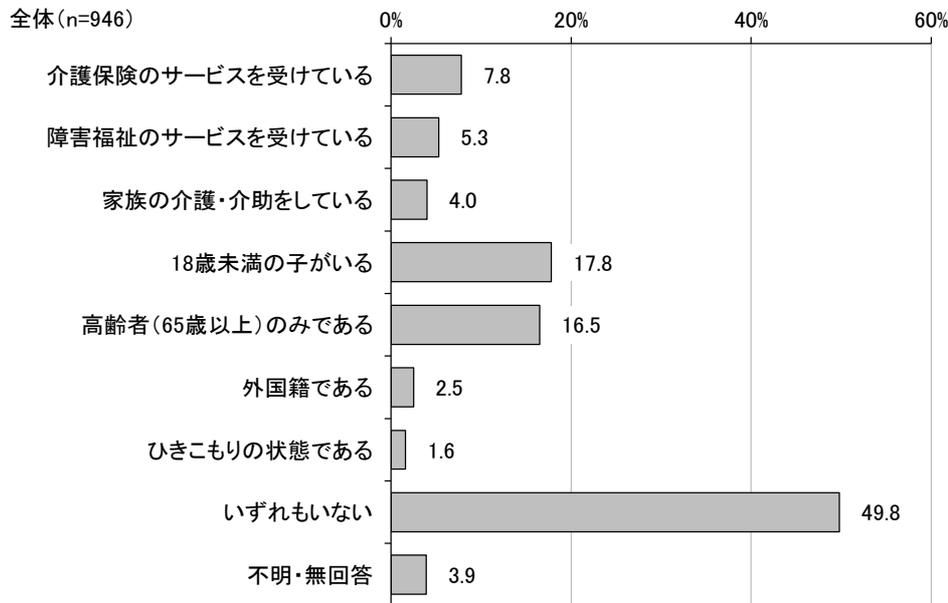
年齢別にみると、18～49歳では「親と子（2世代）」、50～59歳、70歳以上では「単身」、60～69歳では「夫婦のみ」が最も高くなっています。

単位：%		単身	夫婦のみ	親と子（2世代）	親と子と孫（3世代）	兄弟や親族	その他	不明・無回答
全体 (n=946)		29.2	30.5	28.9	2.7	1.8	5.0	1.9
年齢別	18～29歳 (n=69)	23.2	26.1	33.3	1.4	1.4	14.5	0.0
	30～39歳 (n=132)	19.7	25.8	47.7	0.8	0.8	5.3	0.0
	40～49歳 (n=157)	22.9	22.9	47.1	1.3	1.3	4.5	0.0
	50～59歳 (n=197)	34.0	31.5	24.4	0.5	4.1	5.6	0.0
	60～69歳 (n=150)	27.3	48.7	15.3	4.0	2.0	2.7	0.0
	70～79歳 (n=146)	41.1	34.9	12.3	7.5	0.7	3.4	0.0
	80歳以上 (n=77)	39.0	19.5	31.2	5.2	1.3	3.9	0.0

2 暮らしの状況について

問7 あなた自身もしくは、ご家族の中で該当する方はいますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「いずれもない」が49.8%と最も高く、次いで「18歳未満の子がいる」が17.8%、「高齢者(65歳以上)のみである」が16.5%となっています。



〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、いずれの居住年数も「いずれもない」が最も高くなっています。また、20年未満では「18歳未満の子がいる」が2割台、30年以上では「高齢者(65歳以上)のみである」が3割台となっています。

単位: %		介護保険のサービスを受けている	障害福祉のサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者(65歳以上)のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体(n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
居住年数別	5年未満(n=385)	6.8	5.5	4.2	23.1	7.8	5.2	1.3	52.5	3.4
	5～9年(n=127)	7.9	6.3	3.1	26.8	11.0	1.6	3.9	48.0	1.6
	10～19年(n=117)	5.1	2.6	0.9	29.1	12.0	0.9	1.7	50.4	2.6
	20～29年(n=80)	8.8	5.0	6.3	5.0	20.0	0.0	1.3	58.8	3.8
	30～49年(n=135)	8.1	3.7	3.7	3.0	34.1	0.7	0.0	45.9	5.9
	50年以上(n=86)	12.8	7.0	4.7	2.3	36.0	0.0	1.2	39.5	7.0

〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「いずれもない」が最も高くなっています。

単位：％		介護保険のサービスを受けている	障害福祉サービスのサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上）のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
性別	男性 (n=387)	6.2	5.9	2.8	14.7	17.8	2.6	2.1	53.0	3.1
	女性 (n=538)	8.7	4.5	4.5	20.4	15.2	2.6	0.9	47.4	4.5

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳、50～69歳では「いずれもない」、40～49歳では「18歳未満の子がいる」「いずれもない」、70歳以上では「高齢者（65歳以上）のみである」が最も高くなっています。また、30～49歳では「18歳未満の子がいる」が4割台と他の年齢と比べて高くなっています。

単位：％		介護保険のサービスを受けている	障害福祉サービスのサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上）のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
年齢別	18～29歳 (n=69)	1.4	2.9	1.4	21.7	0.0	5.8	1.4	65.2	2.9
	30～39歳 (n=132)	0.8	5.3	1.5	40.9	0.8	5.3	0.0	50.0	1.5
	40～49歳 (n=157)	2.5	7.6	0.6	42.7	1.9	3.8	1.9	42.7	1.9
	50～59歳 (n=197)	10.7	6.6	5.6	10.7	1.5	2.5	1.5	66.0	3.0
	60～69歳 (n=150)	6.7	2.0	4.7	2.0	22.0	0.7	3.3	62.0	3.3
	70～79歳 (n=146)	7.5	4.1	5.5	4.1	54.8	0.0	1.4	29.5	4.8
	80歳以上 (n=77)	29.9	5.2	6.5	1.3	41.6	1.3	0.0	23.4	13.0

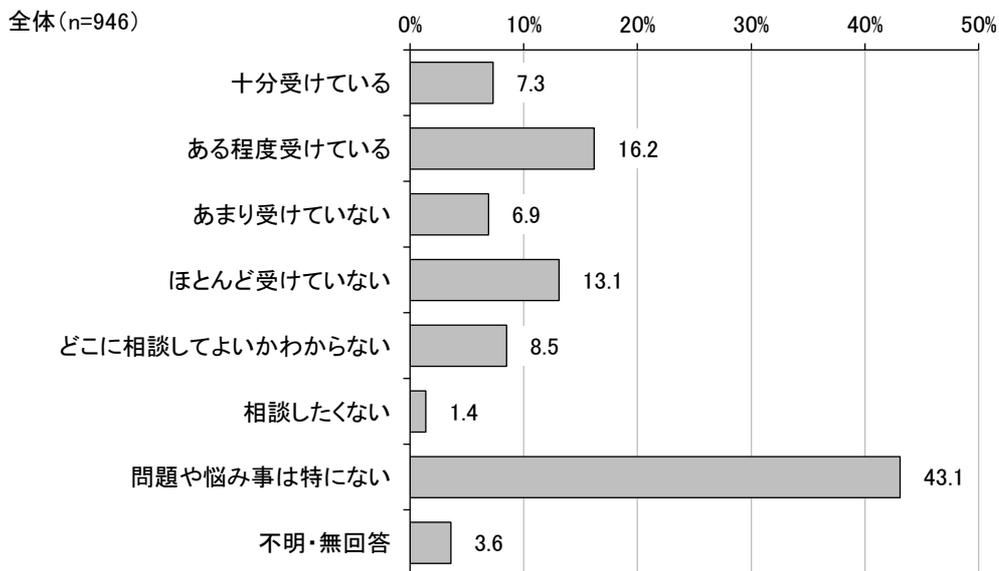
〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、〔親と子（2世代）〕〔親と子と孫（3世代）〕では「18歳未満の子がいる」、その他の家族構成では「いずれもない」が最も高くなっています。

単位：%		介護を受けているサービス	障害を受けているサービス	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上のみ）である	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
家族構成別	単身 (n=276)	7.2	5.4	1.8	1.4	22.5	1.4	2.2	60.9	3.3
	夫婦のみ (n=289)	6.6	3.1	5.5	1.4	24.2	3.1	1.4	60.6	3.5
	親と子(2世代) (n=273)	8.1	6.2	2.9	50.5	4.0	2.2	0.7	29.3	4.4
	親と子と孫(3世代) (n=26)	19.2	7.7	7.7	50.0	0.0	3.8	0.0	23.1	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	5.9	11.8	0.0	17.6	23.5	0.0	5.9	41.2	5.9
	その他 (n=47)	8.5	4.3	8.5	10.6	10.6	8.5	2.1	55.3	2.1

問8 あなたや家族は、生活上の問題や悩み事について、相談や支援を十分に受けられていますか。（1つを選択）

「問題や悩み事は特にない」が43.1%と最も高く、次いで「ある程度受けている」が16.2%、「ほとんど受けていない」が13.1%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：%		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
年齢別	18～29歳 (n=69)	10.1	18.8	2.9	7.2	15.9	1.4	43.5	0.0
	30～39歳 (n=132)	9.8	19.7	10.6	8.3	12.1	1.5	37.9	0.0
	40～49歳 (n=157)	7.6	18.5	6.4	8.3	12.1	1.9	43.3	1.9
	50～59歳 (n=197)	5.1	17.8	6.1	15.7	7.1	2.0	43.1	3.0
	60～69歳 (n=150)	4.0	13.3	7.3	15.3	8.7	1.3	46.0	4.0
	70～79歳 (n=146)	6.8	9.6	6.2	16.4	2.1	0.0	52.7	6.2
	80歳以上 (n=77)	10.4	20.8	6.5	19.5	1.3	1.3	31.2	9.1

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：%		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
家族構成別	単身 (n=276)	5.1	13.8	4.7	18.5	5.8	1.8	46.4	4.0
	夫婦のみ (n=289)	4.5	12.1	6.6	11.4	10.0	0.3	51.9	3.1
	親と子 (2世代) (n=273)	11.4	22.0	9.9	10.6	7.7	0.7	35.5	2.2
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	15.4	15.4	3.8	19.2	11.5	3.8	26.9	3.8
	兄弟や親族 (n=17)	0.0	23.5	5.9	11.8	11.8	11.8	29.4	5.9
	その他 (n=47)	8.5	25.5	4.3	4.3	12.8	4.3	34.0	6.4

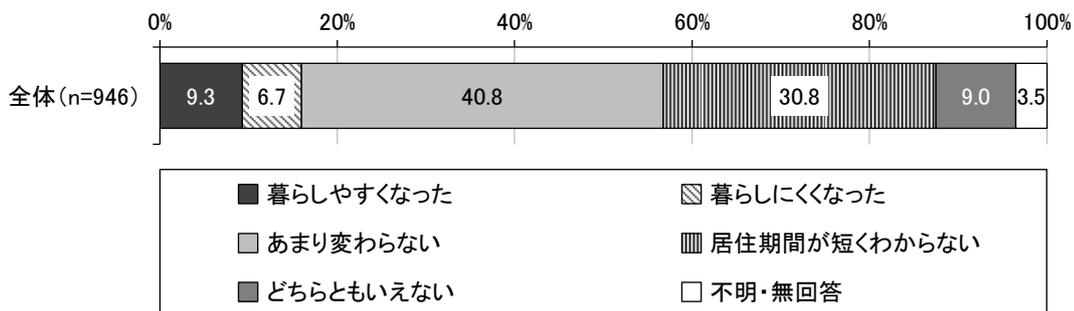
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔介護保険のサービスを受けている〕〔障害福祉のサービスを受けている〕〔家族の介護・介助をしている〕〔18歳未満の子がいる〕では「ある程度受けている」、〔ひきこもりの状態である〕では「どこに相談してよいかわからない」、その他の区分では「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：%		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	21.6	44.6	10.8	5.4	0.0	0.0	13.5	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	22.0	50.0	10.0	6.0	8.0	0.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	7.9	55.3	10.5	7.9	2.6	0.0	7.9	7.9
	18歳未満の子がいる (n=168)	17.3	27.4	10.7	8.3	9.5	1.2	24.4	1.2
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	5.1	12.8	7.1	19.9	3.2	0.6	45.5	5.8
	外国籍である (n=24)	8.3	12.5	4.2	8.3	20.8	12.5	25.0	8.3
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	20.0	0.0	6.7	40.0	6.7	20.0	0.0
	いずれもない (n=471)	3.6	7.6	5.7	13.8	9.1	1.3	57.1	1.7

問9 あなたにとって、朝霞市は5年前と比べて暮らしやすいですか。(1つを選択)

「あまり変わらない」が40.8%と最も高く、次いで「居住期間が短くわからない」が30.8%、「暮らしやすくなった」が9.3%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、地区3、地区4では「居住期間が短くわからない」、その他の地区では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
地区別	地区1 (n=112)	2.7	8.9	44.6	31.3	11.6	0.9
	地区2 (n=173)	8.1	7.5	45.7	24.3	9.8	4.6
	地区3 (n=182)	12.1	5.5	35.7	38.5	6.0	2.2
	地区4 (n=122)	8.2	4.9	34.4	42.6	6.6	3.3
	地区5 (n=163)	11.7	5.5	40.5	27.6	11.0	3.7
	地区6 (n=158)	9.5	6.3	46.2	25.9	8.9	3.2

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、5年未満では「居住期間が短くわからない」、5年以上では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
居住年数別	5年未満 (n=385)	3.9	2.1	13.0	70.6	4.9	5.5
	5～9年 (n=127)	10.2	7.9	62.2	10.2	8.7	0.8
	10～19年 (n=117)	20.5	8.5	61.5	0.0	7.7	1.7
	20～29年 (n=80)	11.3	7.5	62.5	0.0	16.3	2.5
	30～49年 (n=135)	11.9	8.1	65.9	0.0	11.9	2.2
	50年以上 (n=86)	11.6	17.4	51.2	2.3	16.3	1.2

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳では「居住期間が短くわからない」、40歳以上では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
年齢別	18～29歳 (n=69)	1.4	2.9	15.9	71.0	8.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	6.1	2.3	25.0	59.8	5.3	1.5
	40～49歳 (n=157)	12.1	7.0	40.8	34.4	3.2	2.5
	50～59歳 (n=197)	11.7	5.6	51.8	18.8	9.6	2.5
	60～69歳 (n=150)	8.7	8.0	46.7	19.3	14.0	3.3
	70～79歳 (n=146)	8.2	8.9	49.3	17.1	11.0	5.5
	80歳以上 (n=77)	13.0	10.4	40.3	18.2	10.4	7.8

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、〔親と子（2世代）〕〔その他〕では「居住期間が短くわからない」、その他の家族構成では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
家族構成別	単身 (n=276)	8.7	8.3	45.3	24.3	11.2	2.2
	夫婦のみ (n=289)	9.7	6.6	41.5	32.2	6.2	3.8
	親と子(2世代) (n=273)	9.5	4.4	37.4	38.5	7.3	2.9
	親と子と孫(3世代) (n=26)	11.5	3.8	50.0	15.4	11.5	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	11.8	11.8	41.2	5.9	29.4	0.0
	その他 (n=47)	6.4	6.4	34.0	36.2	10.6	6.4

〈家族内被支援者別クロス〉

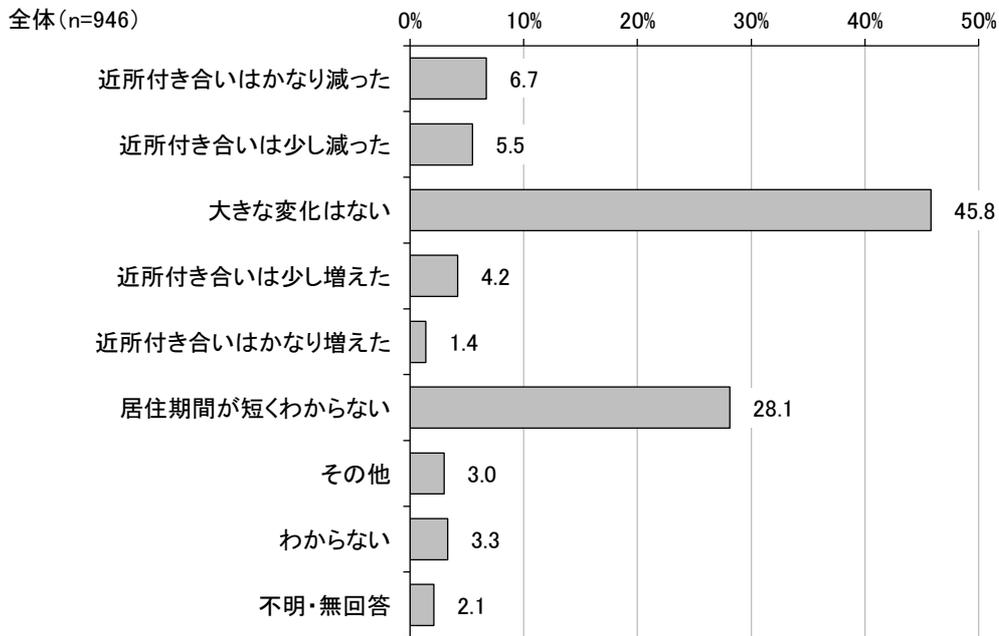
家族内被支援者別にみると、「家族の介護・介助をしている」〔18歳未満の子がいる〕〔外国籍である〕では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	12.2	2.7	40.5	28.4	12.2	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	18.0	6.0	36.0	26.0	10.0	4.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	7.9	31.6	36.8	7.9	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	10.7	5.4	36.9	44.0	3.0	0.0
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	6.4	10.9	53.2	13.5	11.5	4.5
	外国籍である (n=24)	16.7	12.5	25.0	33.3	4.2	8.3
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	20.0	26.7	20.0	13.3	13.3
	いずれもない (n=471)	8.1	5.9	40.3	34.0	9.8	1.9

3 近所付き合いについて

問 10 5年前と比べて、普段の近所付き合いはどのように変化しましたか。(1つを選択)

「大きな変化はない」が45.8%と最も高く、次いで「居住期間が短くわからない」が28.1%、「近所付き合いはかなり減った」が6.7%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、地区4では「居住期間が短くわからない」、その他の地区では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位: %		かなり減った 付き合いはか	少し減った 付き合いは少	大きな変化 はない	少し増えた 付き合いは少	かなり増えた 付き合いはか	居住期間が短く わからない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
地区別	地区1 (n=112)	11.6	8.0	43.8	3.6	0.0	27.7	2.7	2.7	0.0
	地区2 (n=173)	5.8	5.8	51.4	4.0	2.9	23.1	3.5	1.2	2.3
	地区3 (n=182)	6.0	2.7	42.9	4.4	1.6	34.1	4.9	2.2	1.1
	地区4 (n=122)	5.7	4.1	33.6	3.3	1.6	41.0	4.1	4.9	1.6
	地区5 (n=163)	5.5	6.7	47.2	4.9	0.0	25.2	0.6	6.1	3.7
	地区6 (n=158)	6.3	6.3	50.6	5.1	1.3	23.4	1.3	3.2	2.5

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、5年未満では「居住期間が短くわからない」、5年以上では「大きな変化はない」が最も高くなっています。また、50年以上では「近所付き合いはかなり減った」が50年未満と比べて高くなっています。

単位：%		なり近 所減 付き 合 い は か	し近 減 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増 所 付 き 合 い は 少	なり近 所増 付き 合 い は か	か ら 居 住 期 間 が 短 く わ か ら な い	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
居 住 年 数 別	5年未満 (n=385)	3.4	1.3	15.8	3.9	1.0	64.4	2.3	4.7	3.1
	5～9年 (n=127)	7.9	2.4	64.6	7.9	0.8	6.3	6.3	3.1	0.8
	10～19年 (n=117)	5.1	6.0	76.9	2.6	1.7	0.9	2.6	3.4	0.9
	20～29年 (n=80)	3.8	8.8	75.0	1.3	1.3	1.3	2.5	5.0	1.3
	30～49年 (n=135)	9.6	13.3	67.4	2.2	0.7	2.2	3.0	0.7	0.7
	50年以上 (n=86)	18.6	12.8	50.0	9.3	3.5	2.3	1.2	0.0	2.3

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳では「居住期間が短くわからない」、40歳以上では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：%		なり近 所減 付き 合 い は か	し近 減 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増 所 付 き 合 い は 少	なり近 所増 付き 合 い は か	か ら 居 住 期 間 が 短 く わ か ら な い	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	4.3	1.4	15.9	0.0	0.0	71.0	2.9	4.3	0.0
	30～39歳 (n=132)	1.5	0.8	28.0	11.4	2.3	52.3	0.8	2.3	0.8
	40～49歳 (n=157)	3.8	5.1	48.4	5.7	0.6	31.2	1.9	1.9	1.3
	50～59歳 (n=197)	7.1	5.1	56.3	2.5	1.5	17.8	4.1	4.1	1.5
	60～69歳 (n=150)	12.0	6.0	54.7	0.0	0.7	18.0	2.7	4.0	2.0
	70～79歳 (n=146)	7.5	11.0	51.4	5.5	1.4	14.4	2.7	3.4	2.7
	80歳以上 (n=77)	9.1	9.1	41.6	3.9	2.6	16.9	6.5	3.9	6.5

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：%		な り 減 つ た 合 い は か	し 近 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し 近 所 付 き 合 い は 少	な り 増 え た 合 い は か	か ら な い 居 住 期 間 が 短 く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
家 族 構 成 別	単身 (n=276)	6.2	5.8	52.2	1.8	1.4	24.6	3.3	2.9	1.8
	夫婦のみ (n=289)	6.2	7.3	44.3	4.8	0.3	29.8	2.4	3.1	1.7
	親と子 (2世代) (n=273)	5.5	2.9	41.8	6.6	2.2	31.9	2.9	4.4	1.8
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	11.5	0.0	46.2	7.7	3.8	19.2	3.8	0.0	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	23.5	5.9	52.9	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0
	その他 (n=47)	8.5	12.8	36.2	0.0	0.0	34.0	4.3	2.1	2.1

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、「家族の介護・介助をしている」では「大きな変化はない」「居住期間が短くわからない」、[ひきこもりの状態である]では「近所付き合いはかなり減った」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：%		な り 減 つ た 合 い は か	し 近 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し 近 所 付 き 合 い は 少	な り 増 え た 合 い は か	か ら な い 居 住 期 間 が 短 く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	17.6	8.1	33.8	4.1	2.7	23.0	4.1	4.1	2.7
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	16.0	8.0	44.0	4.0	2.0	20.0	2.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	10.5	34.2	0.0	0.0	34.2	5.3	2.6	2.6
	18歳未満の子がいる (n=168)	5.4	1.8	41.7	8.3	3.0	35.7	1.2	3.0	0.0
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	7.1	11.5	54.5	3.2	1.3	14.1	2.6	5.1	0.6
	外国籍である (n=24)	0.0	4.2	41.7	4.2	4.2	37.5	0.0	8.3	0.0
	ひきこもりの状態である (n=15)	40.0	6.7	20.0	0.0	0.0	13.3	13.3	0.0	6.7
	いずれもない (n=471)	5.5	4.9	45.4	3.6	0.8	32.3	3.4	3.4	0.6

〈生活上の問題等への支援状況別クロス〉

生活上の問題等への支援状況別にみると、〔どこに相談してよいかわからない〕では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位:%		なり近 り所 減付 った 合 いは か	し近 減所 った 付 き 合 いは 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増所 えた 付 き 合 いは 少	なり近 り所 増付 えた 合 いは か	か居 ら住 ない 期 間 が 短 く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
生活上 の 支 援 状 況 等 へ の	十分受けている (n=69)	10.1	7.2	36.2	8.7	1.4	29.0	0.0	7.2	0.0
	ある程度受けている (n=153)	10.5	7.2	40.5	6.5	1.3	26.1	2.6	3.9	1.3
	あまり受けていない (n=65)	7.7	4.6	40.0	6.2	1.5	32.3	0.0	7.7	0.0
	ほとんど受けていない (n=124)	8.9	7.3	54.8	4.8	1.6	14.5	4.8	2.4	0.8
	どこに相談してよいかわからない (n=80)	8.8	2.5	37.5	2.5	1.3	41.3	5.0	0.0	1.3
	相談したくない (n=13)	7.7	0.0	61.5	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0
	問題や悩み事は特にない (n=408)	3.7	4.9	49.5	2.9	1.2	31.6	2.9	2.9	0.2

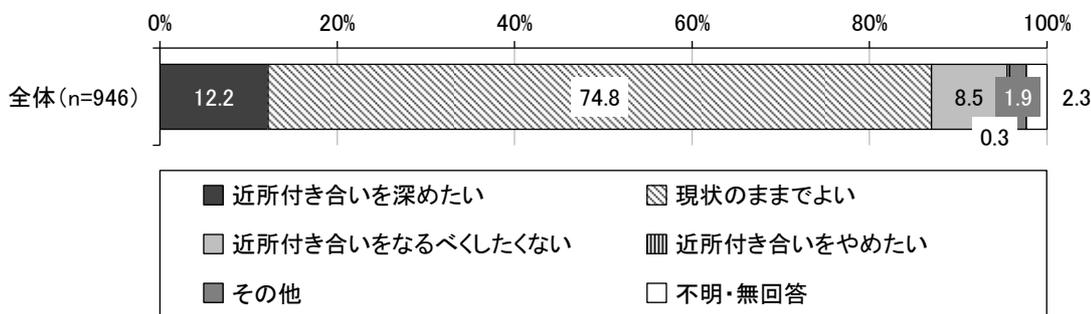
〈暮らしやすさ別クロス〉

暮らしやすさ別にみると、〔居住期間が短くわからない〕では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位:%		なり近 り所 減付 った 合 いは か	し近 減所 った 付 き 合 いは 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増所 えた 付 き 合 いは 少	なり近 り所 増付 えた 合 いは か	か居 ら住 ない 期 間 が 短 く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
暮 ら し や す さ 別	暮らしやすくなった (n=88)	9.1	9.1	61.4	9.1	3.4	2.3	2.3	2.3	1.1
	暮らしにくくなった (n=63)	17.5	14.3	58.7	0.0	0.0	3.2	3.2	1.6	1.6
	あまり変わらない (n=386)	7.5	7.3	71.2	4.9	1.0	3.1	2.8	2.1	0.0
	居住期間が短くわからない (n=291)	1.4	0.0	4.5	4.1	1.4	82.5	1.7	4.1	0.3
	どちらともいえない (n=85)	11.8	7.1	55.3	1.2	1.2	9.4	5.9	8.2	0.0

問 11 あなたは、普段の近所付き合いを今後どうしたいと思いますか。(1つを選択)

「現状のままでよい」が74.8%と最も高く、次いで「近所付き合いを深めたい」が12.2%、「近所付き合いをなるべくしたくない」が8.5%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位: %		め近 た所 い付 き合 いを 深	現 状 の ま ま で よ い	る近 べ所 く付 しき した 合 い な い	め近 た所 い付 き合 いを や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
地区別	地区1 (n=112)	9.8	77.7	8.9	1.8	0.9	0.9
	地区2 (n=173)	10.4	75.7	9.2	0.0	1.7	2.9
	地区3 (n=182)	11.5	76.4	7.7	0.5	3.8	0.0
	地区4 (n=122)	14.8	69.7	11.5	0.0	0.8	3.3
	地区5 (n=163)	12.9	75.5	6.7	0.0	1.2	3.7
	地区6 (n=158)	12.0	75.9	7.6	0.0	1.9	2.5

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、いずれの居住年数も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：%		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
居 住 年 数 別	5年未満 (n=385)	16.9	66.8	10.4	0.5	3.1	2.3
	5～9年 (n=127)	7.9	80.3	7.9	0.8	1.6	1.6
	10～19年 (n=117)	11.1	79.5	6.8	0.0	1.7	0.9
	20～29年 (n=80)	7.5	80.0	11.3	0.0	0.0	1.3
	30～49年 (n=135)	6.7	86.7	3.0	0.0	1.5	2.2
	50年以上 (n=86)	10.5	77.9	7.0	0.0	0.0	4.7

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：%		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	14.5	62.3	18.8	0.0	4.3	0.0
	30～39歳 (n=132)	16.7	72.7	9.1	0.8	0.8	0.0
	40～49歳 (n=157)	12.7	72.0	10.8	1.3	1.9	1.3
	50～59歳 (n=197)	9.1	77.2	10.7	0.0	1.0	2.0
	60～69歳 (n=150)	10.7	77.3	5.3	0.0	3.3	3.3
	70～79歳 (n=146)	6.8	87.0	2.7	0.0	0.7	2.7
	80歳以上 (n=77)	20.8	67.5	1.3	0.0	3.9	6.5

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：%		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
家 族 構 成 別	単身 (n=276)	9.8	73.2	11.6	0.4	2.2	2.9
	夫婦のみ (n=289)	10.7	78.5	7.3	0.3	0.7	2.4
	親と子 (2世代) (n=273)	16.1	75.5	6.2	0.4	0.7	1.1
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	11.5	80.8	3.8	0.0	3.8	0.0
	兄弟や親族 (n=17)	5.9	94.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 (n=47)	12.8	57.4	10.6	0.0	14.9	4.3

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「現状のままでよい」が最も高くなっています。また、〔外国籍である〕では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高くなっています。

単位：%		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	18.9	68.9	4.1	0.0	2.7	5.4
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	10.0	76.0	10.0	0.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	18.4	71.1	2.6	0.0	2.6	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	15.5	74.4	7.1	1.2	1.8	0.0
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	9.6	82.1	5.1	0.0	1.3	1.9
	外国籍である (n=24)	29.2	45.8	12.5	0.0	8.3	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	13.3	73.3	6.7	0.0	0.0	6.7
	いずれもない (n=471)	10.0	76.9	10.4	0.2	1.9	0.6

〈近所付き合いの変化別クロス〉

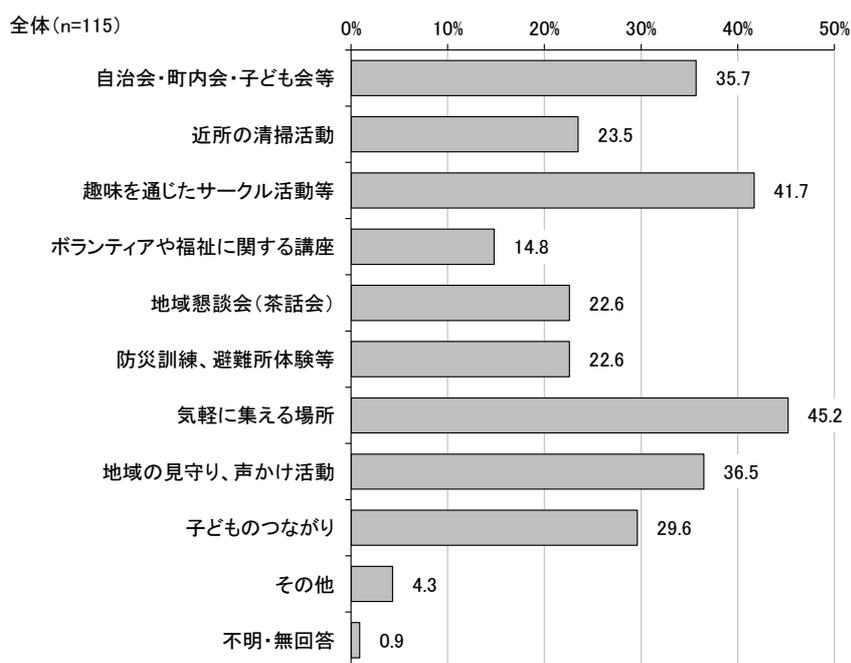
近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「現状のままでよい」が最も高くなっています。また、「近所付き合いはかなり増えた」では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高くなっています。

単位：%		め 近 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き し た 合 い を な	め 近 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
近 所 付 き 合 い の 変 化 別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	19.0	66.7	12.7	0.0	1.6	0.0
	近所付き合いは少し減った (n=52)	11.5	76.9	1.9	0.0	3.8	5.8
	大きな変化はない (n=433)	6.5	84.8	7.4	0.5	0.7	0.2
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	17.5	80.0	0.0	0.0	0.0	2.5
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	30.8	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	19.5	66.2	11.3	0.4	2.3	0.4
	その他 (n=28)	3.6	57.1	7.1	0.0	21.4	10.7
	わからない (n=31)	9.7	67.7	22.6	0.0	0.0	0.0

問 11 で「近所付き合いを深めたい」を選んだ方

問 11-1 近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなものが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてを選択)

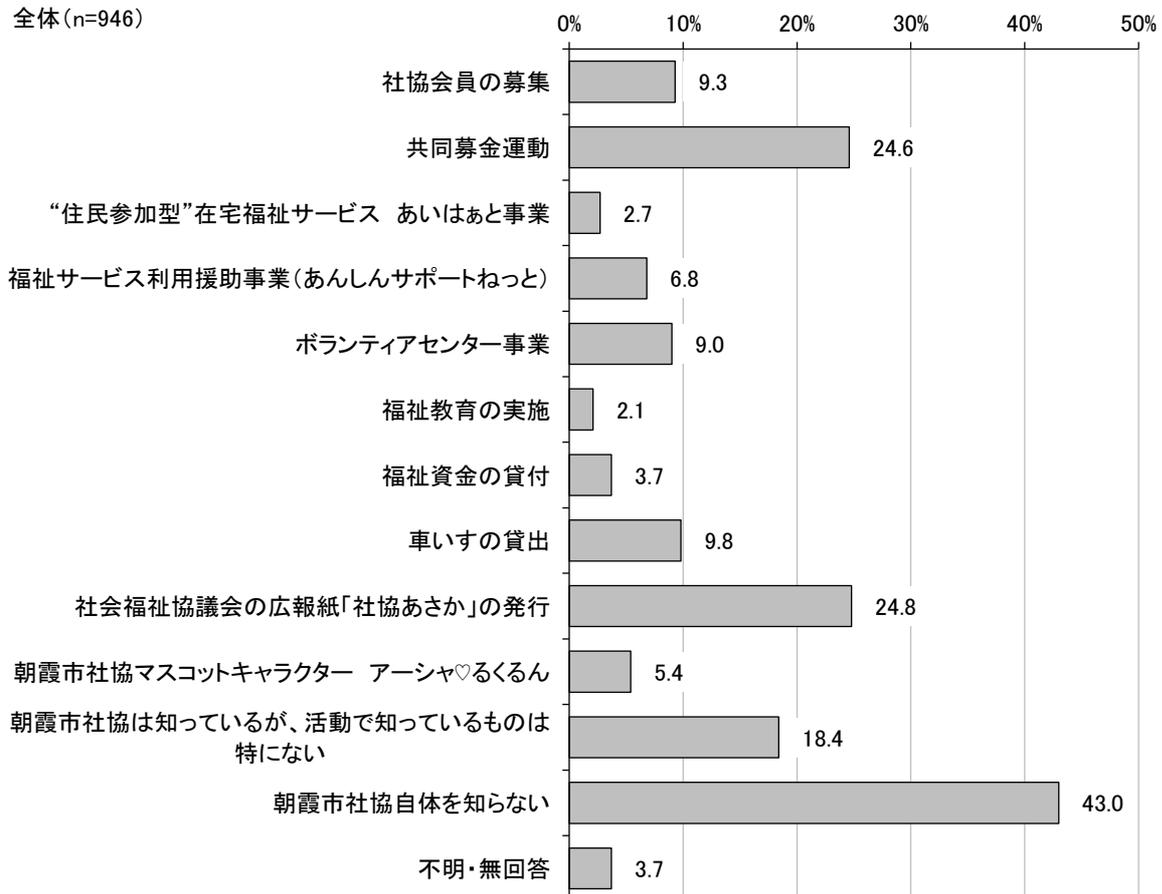
「気軽に集える場所」が 45.2%と最も高く、次いで「趣味を通じたサークル活動等」が 41.7%、「地域の見守り、声かけ活動」が 36.5%となっています。



4 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）について

問 12 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）の活動のうち、知っているものは何ですか。
（あてはまるものすべてを選択）

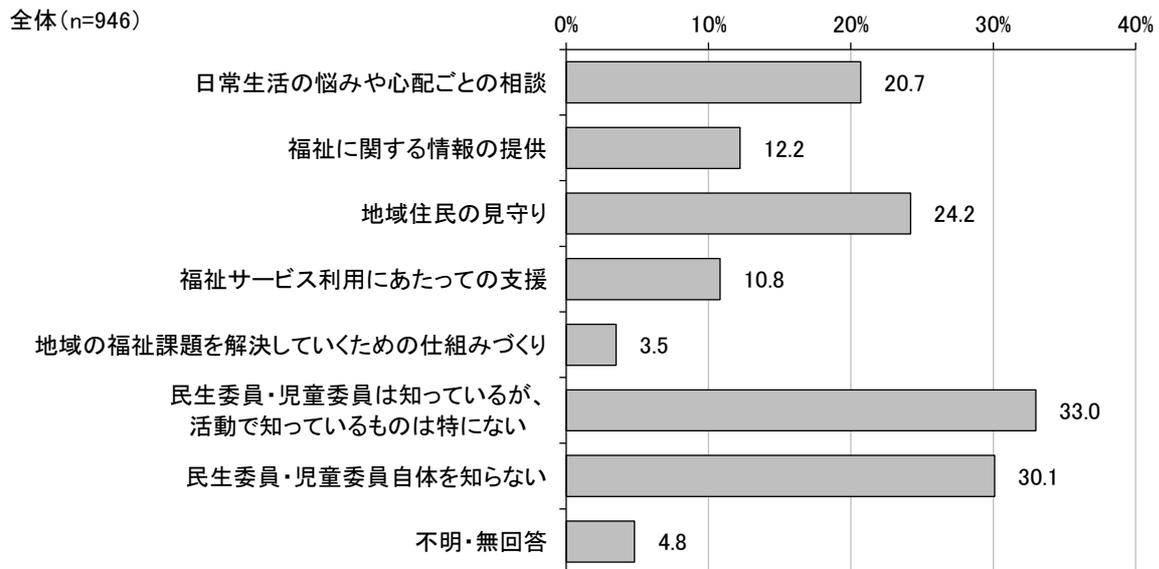
「朝霞市社協自体を知らない」が43.0%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の広報紙『社協あさか』の発行」が24.8%、「共同募金運動」が24.6%となっています。



5 民生委員・児童委員、保護司について

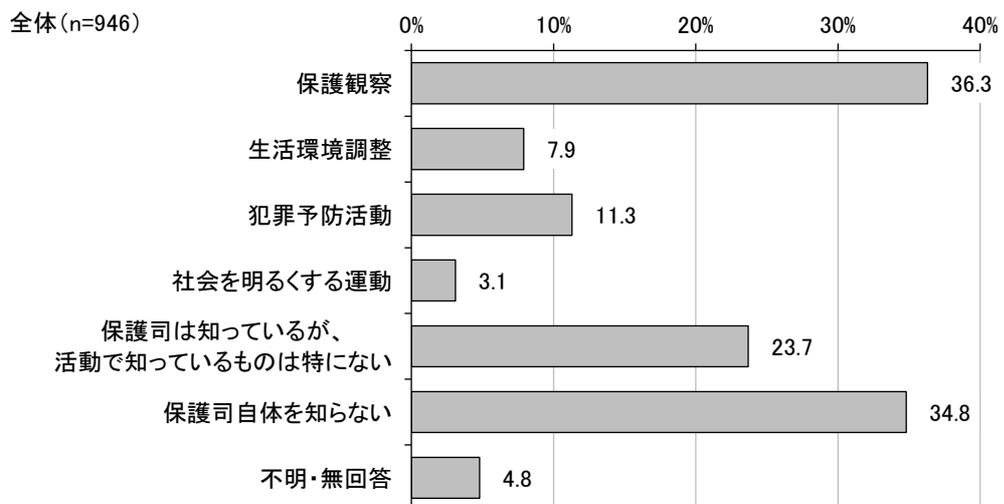
問 13 民生委員・児童委員の活動のうち、知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「民生委員・児童委員は知っているが、活動で知っているものは特にない」が 33.0%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員自体を知らない」が 30.1%、「地域住民の見守り」が 24.2%となっています。



問 14 保護司の活動のうち、知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてを選択)

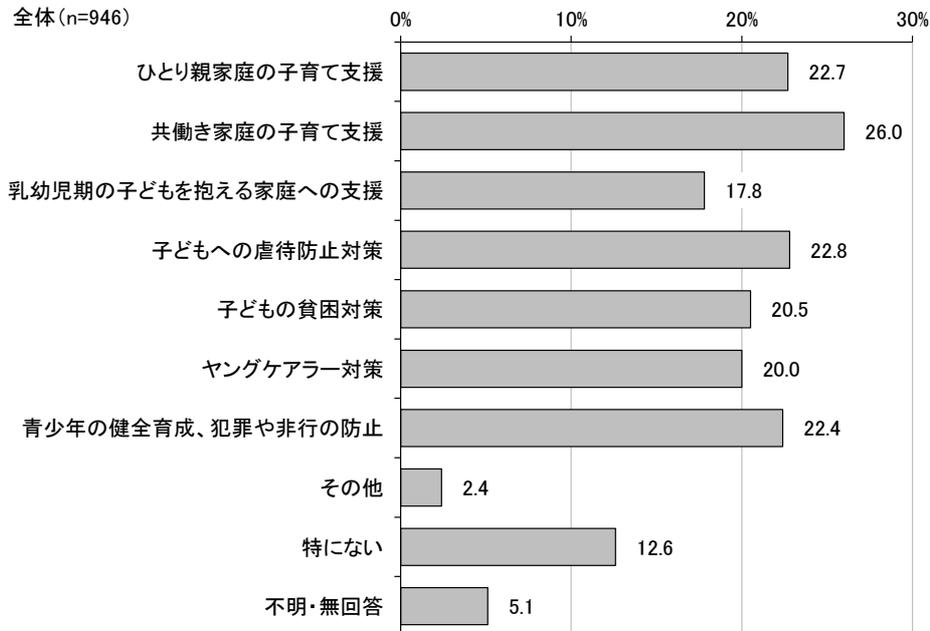
「保護観察」が 36.3%と最も高く、次いで「保護司自体を知らない」が 34.8%、「保護司は知っているが、活動で知っているものは特にない」が 23.7%となっています。



6 身近な地域の課題について

問 15 子ども・若者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。(2つまで選択)

「共働き家庭の子育て支援」が26.0%と最も高く、次いで「子どもへの虐待防止対策」が22.8%、「ひとり親家庭の子育て支援」が22.7%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「共働き家庭の子育て支援」「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」の割合が概ね低くなる傾向にあります。

単位：%		育ひとり支援	て共働	支を乳	止子	子	策ヤ	防成	青	そ	特	不
		ひとり親家庭の子	働家庭の子育	援を抱える家庭の子ども	対策	どもの虐待防	子どもの貧困対策	止、少年の健全育の	年の健全育の	他	にない	明・無回答
全体 (n=946)		22.7	26.0	17.8	22.8	20.5	20.0	22.4	2.4	12.6	5.1	
年齢別	18～29歳 (n=69)	23.2	46.4	34.8	8.7	13.0	18.8	15.9	0.0	8.7	0.0	
	30～39歳 (n=132)	15.9	52.3	41.7	18.2	13.6	9.8	20.5	5.3	4.5	0.8	
	40～49歳 (n=157)	18.5	35.7	18.5	22.3	21.7	22.9	23.6	4.5	6.4	1.3	
	50～59歳 (n=197)	27.9	15.7	11.7	24.4	22.8	24.9	19.8	3.6	16.2	2.5	
	60～69歳 (n=150)	28.0	20.0	13.3	30.7	24.0	21.3	24.7	0.7	10.0	4.7	
	70～79歳 (n=146)	22.6	12.3	6.2	26.7	24.0	21.9	27.4	0.7	22.6	6.2	
	80歳以上 (n=77)	16.9	9.1	3.9	14.3	14.3	10.4	22.1	0.0	22.1	29.9	

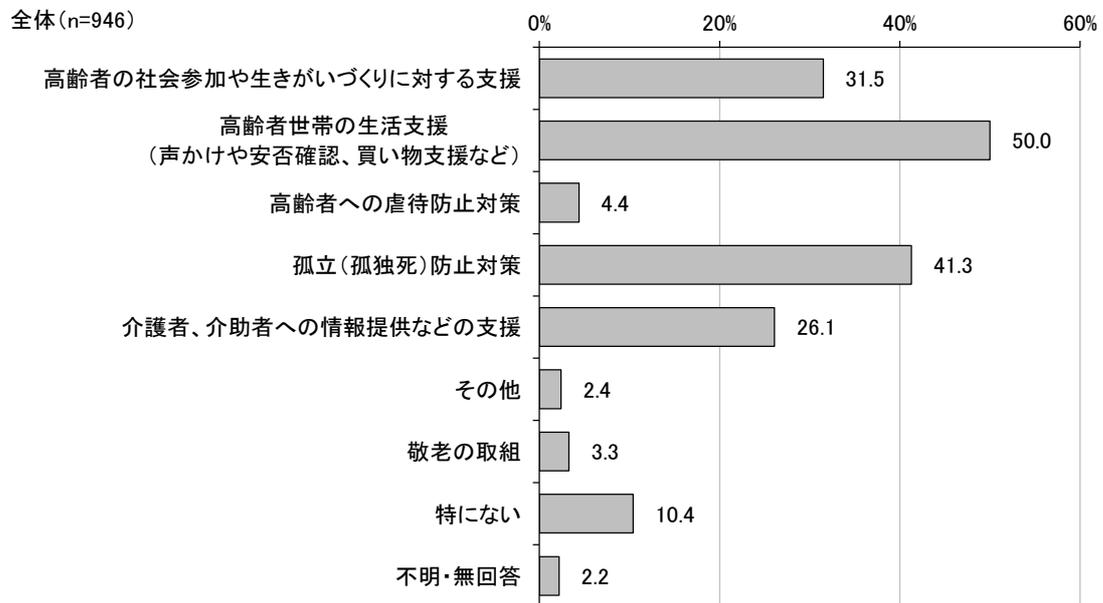
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔介護保険のサービスを受けている〕〔家族の介護・介助をしている〕〔外国籍である〕では「ひとり親家庭の子育て支援」、〔障害福祉のサービスを受けている〕では「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」、〔18歳未満の子がいる〕〔いずれもない〕では「共働き家庭の子育て支援」、〔高齢者（65歳以上）のみである〕では「子どもへの虐待防止対策」、〔ひきこもりの状態である〕では「子どもの貧困対策」が最も高くなっています。

単位：%		育ひとり支援	て共働	支を乳	止子	子	策ヤ	防成	青	そ	特	不
		ひとり親家庭の子	働家庭の子育	援を抱える家庭の子ども	対策	どもの虐待防	子どもの貧困対策	止、少年の健全育の	年の健全育の	他	にない	明・無回答
全体 (n=946)		22.7	26.0	17.8	22.8	20.5	20.0	22.4	2.4	12.6	5.1	
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	31.1	20.3	12.2	20.3	27.0	17.6	25.7	1.4	17.6	9.5	
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	20.0	26.0	30.0	24.0	26.0	16.0	24.0	6.0	18.0	2.0	
	家族の介護・介助をしている (n=38)	50.0	31.6	21.1	26.3	21.1	23.7	26.3	2.6	10.5	2.6	
	18歳未満の子がいる (n=168)	17.3	45.8	37.5	19.6	18.5	17.3	23.8	4.8	1.8	0.0	
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	20.5	16.0	5.8	31.4	25.0	20.5	29.5	0.6	16.0	7.7	
	外国籍である (n=24)	41.7	16.7	16.7	16.7	12.5	8.3	37.5	4.2	8.3	0.0	
	ひきこもりの状態である (n=15)	26.7	13.3	20.0	33.3	40.0	33.3	13.3	0.0	26.7	0.0	
	いずれもない (n=471)	24.0	26.5	16.3	22.1	20.6	22.1	20.0	2.1	14.0	3.0	

問 16 高齢者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。(2つまで選択)

「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が 50.0%と最も高く、次いで「孤立(孤独死)防止対策」が 41.3%、「高齢者の社会参加や生きがいのづくりに対する支援」が 31.5%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「高齢者世帯の生活支援」が最も高くなっています。

単位：%		が高齢者のくりに社会参加や支援	い（物支）（声か）（援）（け）（や）（安）（否）（確）（認）（支）（援）（買）	高齢者への虐待防止対策	孤立（孤独死）防止対策	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	敬老の取組	特にな	不明・無回答
全体 (n=946)		31.5	50.0	4.4	41.3	26.1	2.4	3.3	10.4	2.2
年齢別	18～29歳 (n=69)	21.7	40.6	14.5	29.0	23.2	2.9	2.9	21.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	23.5	49.2	3.0	47.0	27.3	0.8	1.5	13.6	0.8
	40～49歳 (n=157)	36.3	49.0	1.9	42.7	35.7	3.8	0.6	7.6	0.6
	50～59歳 (n=197)	32.0	56.3	5.6	46.2	29.4	1.5	0.0	7.6	0.0
	60～69歳 (n=150)	38.7	50.7	4.0	45.3	25.3	3.3	4.7	5.3	2.7
	70～79歳 (n=146)	34.9	47.3	2.7	34.9	14.4	2.7	6.2	10.3	5.5
	80歳以上 (n=77)	18.2	46.8	2.6	28.6	20.8	1.3	10.4	18.2	9.1

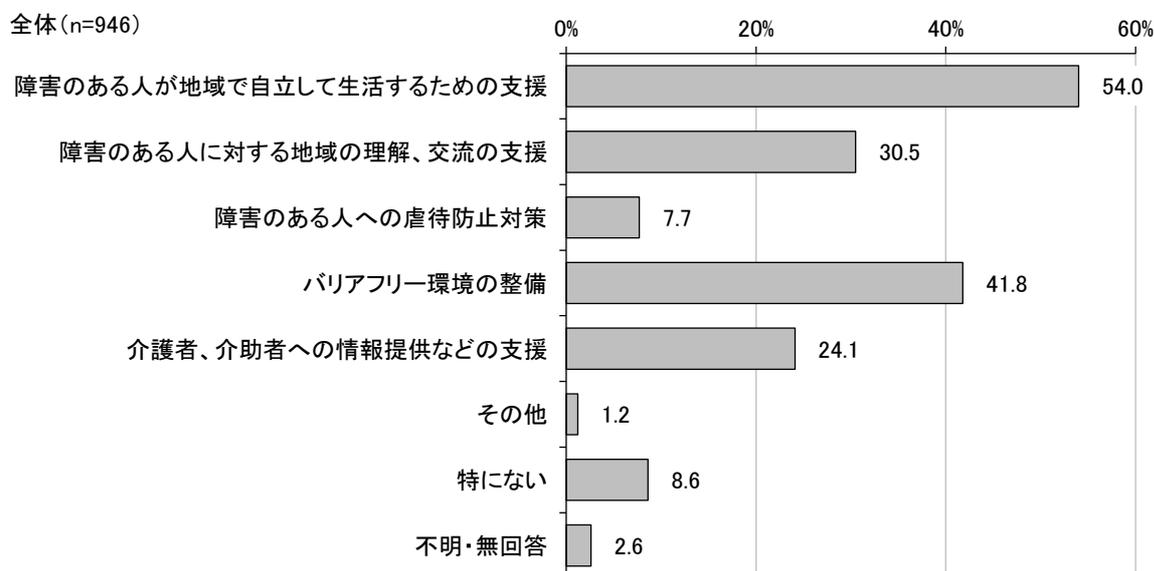
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔家族の介護・介助をしている〕では「介護者、介助者への情報提供などの支援」、〔ひきこもりの状態である〕では「孤立（孤独死）防止対策」、その他の区分では「高齢者世帯の生活支援」が最も高くなっています。

単位：%		が高齢者のくりに社会参加や支援	い（物支）（声か）（援）（け）（や）（安）（否）（確）（認）（支）（援）（買）	高齢者への虐待防止対策	孤立（孤独死）防止対策	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	敬老の取組	特にな	不明・無回答
全体 (n=946)		31.5	50.0	4.4	41.3	26.1	2.4	3.3	10.4	2.2
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	28.4	48.6	6.8	36.5	37.8	2.7	8.1	6.8	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	32.0	52.0	10.0	38.0	34.0	2.0	6.0	14.0	0.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	23.7	55.3	5.3	39.5	63.2	2.6	5.3	5.3	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	29.8	53.0	3.6	42.3	31.0	2.4	1.2	10.7	0.6
	高齢者（65歳以上）のみである (n=156)	37.8	48.7	2.6	39.1	19.2	2.6	5.8	7.7	5.1
	外国籍である (n=24)	25.0	33.3	16.7	25.0	29.2	0.0	0.0	20.8	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	40.0	33.3	13.3	46.7	33.3	6.7	20.0	13.3	0.0
	いずれもない (n=471)	30.6	49.3	4.5	43.7	25.3	2.3	2.3	11.3	1.7

問 17 障害者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。(2つまで選択)

「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が 54.0%と最も高く、次いで「バリアフリー環境の整備」が 41.8%、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が 30.5%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～29歳、80歳以上では「バリアフリー環境の整備」、30～79歳では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が最も高くなっています。

単位: %		支援	バリアフリー環境の整備	虐待防止対策	地域の理解、交流の支援	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		54.0	41.8	7.7	30.5	24.1	1.2	8.6	2.6
年齢別	18～29歳 (n=69)	43.5	46.4	15.9	37.7	17.4	1.4	8.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	49.2	39.4	8.3	31.1	25.8	0.0	13.6	0.8
	40～49歳 (n=157)	63.7	41.4	7.6	27.4	28.7	1.3	6.4	1.3
	50～59歳 (n=197)	57.9	43.7	6.6	27.9	26.4	2.0	6.1	0.5
	60～69歳 (n=150)	64.0	47.3	7.3	32.0	21.3	2.0	3.3	1.3
	70～79歳 (n=146)	50.7	35.6	6.8	31.5	21.2	0.7	9.6	6.2
	80歳以上 (n=77)	29.9	33.8	1.3	31.2	19.5	0.0	18.2	13.0

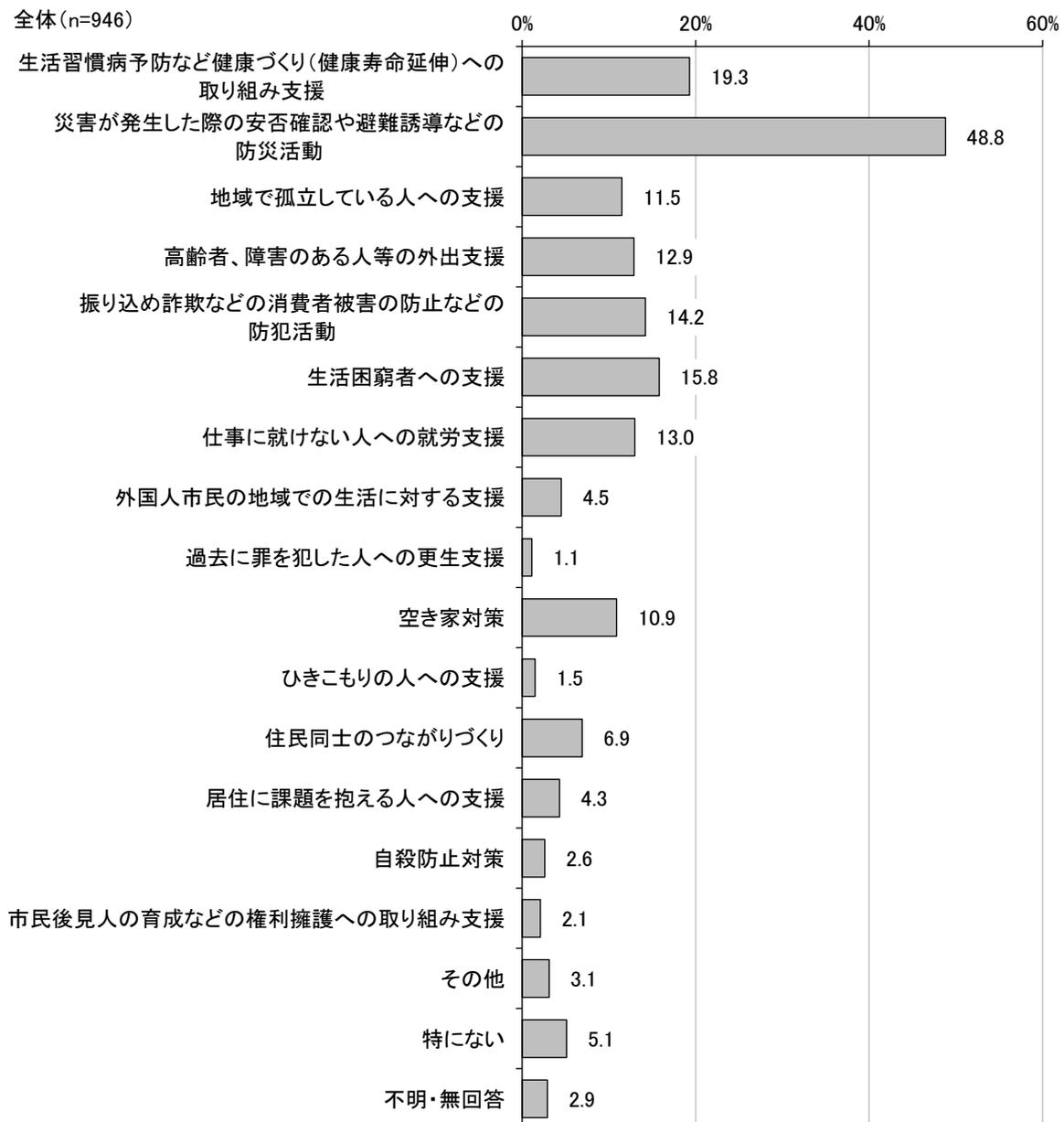
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、「家族の介護・介助をしている」では「バリアフリー環境の整備」、
「外国籍である」では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」「バリアフリー環境の
整備」、その他の区分では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が最も高くなって
います。

単位：%		す 域 障 害 の あ る 人 が 活 地	交 流 の 支 援	障 害 の あ る 理 人 に 対	虐 待 防 止 対 策	障 害 の あ る 人 へ の	バ リ ア フ リ ー 環 境 の 整 備	支 援 の 情 報 提 供 な ど の 介 護 者 、 介 助 者 へ	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		54.0	30.5	7.7	41.8	24.1	1.2	8.6	2.6		
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	48.6	31.1	6.8	43.2	28.4	0.0	8.1	4.1		
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	60.0	36.0	12.0	26.0	40.0	0.0	6.0	0.0		
	家族の介護・介助をしている (n=38)	47.4	34.2	10.5	65.8	26.3	0.0	2.6	2.6		
	18歳未満の子がいる (n=168)	57.7	27.4	8.3	45.2	30.4	1.2	7.1	0.6		
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	48.1	28.8	8.3	40.4	24.4	0.6	10.3	4.5		
	外国籍である (n=24)	37.5	29.2	4.2	37.5	29.2	0.0	16.7	4.2		
	ひきこもりの状態である (n=15)	60.0	26.7	13.3	26.7	46.7	0.0	20.0	6.7		
	いずれもない (n=471)	54.1	32.1	7.2	42.9	21.2	1.7	8.9	1.7		

問 18 その他の支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。(2つまで選択)

「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が48.8%と最も高く、次いで「生活習慣病予防など健康づくり(健康寿命延伸)への取り組み支援」が19.3%、「生活困窮者への支援」が15.8%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：％		支援（健康寿命延伸）への取り組み	生活習慣病予防など健康づくり	避難誘導などの防災活動	災害が発生した際の安否確認や	地域で孤立している人への支援	高齢者、障害のある人等の外出支援	振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動	生活困窮者への支援	仕事に就けない人への就労支援	外国人市民の地域での生活に対する支援	過去に罪を犯した人への更生支援	空き家対策	ひきこもりの人への支援	住民同士のつながりづくり	居住に課題を抱える人への支援
全体 (n=946)		19.3	48.8	11.5	12.9	14.2	15.8	13.0	4.5	1.1	10.9	1.5	6.9	4.3		
年齢別	18～29歳 (n=69)	17.4	46.4	7.2	8.7	13.0	17.4	20.3	8.7	1.4	7.2	1.4	2.9	2.9		
	30～39歳 (n=132)	12.9	56.1	9.8	9.1	12.1	15.9	16.7	4.5	0.0	12.1	0.8	6.1	5.3		
	40～49歳 (n=157)	19.7	54.8	14.0	9.6	10.8	11.5	13.4	5.1	1.9	14.6	1.3	6.4	3.2		
	50～59歳 (n=197)	17.8	48.7	10.7	14.2	12.7	14.2	13.2	7.1	0.5	13.2	0.0	3.0	4.1		
	60～69歳 (n=150)	24.0	46.0	10.0	16.0	18.0	18.7	15.3	2.7	0.0	8.0	1.3	6.7	6.0		
	70～79歳 (n=146)	21.9	45.2	13.0	12.3	15.1	23.3	7.5	1.4	1.4	10.3	3.4	11.0	4.8		
	80歳以上 (n=77)	18.2	36.4	11.7	20.8	18.2	5.2	3.9	1.3	2.6	6.5	2.6	14.3	2.6		

単位：％		自殺防止対策	市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		2.6	2.1	3.1	5.1	2.9
年齢別	18～29歳 (n=69)	4.3	2.9	4.3	2.9	0.0
	30～39歳 (n=132)	2.3	0.8	5.3	8.3	1.5
	40～49歳 (n=157)	5.1	2.5	3.8	2.5	1.3
	50～59歳 (n=197)	3.0	1.5	5.1	6.1	1.0
	60～69歳 (n=150)	2.0	2.0	0.7	2.7	4.0
	70～79歳 (n=146)	0.7	2.7	1.4	6.2	4.1
	80歳以上 (n=77)	0.0	2.6	0.0	7.8	11.7

〈家族内被支援者別クロス〉

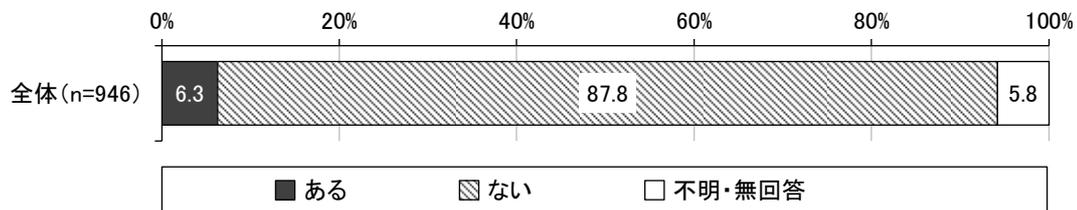
家族内被支援者別にみると、〔外国籍である〕では「外国人市民の地域での生活に対する支援」、〔ひきこもりの状態である〕では「生活困窮者への支援」、その他の区分では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：%		支援（健康寿命延伸）への取り組み	避難誘導などの防災活動	災害が発生した際の安否確認や	地域で孤立している人への支援	高齢者、障害のある人等の外出支援	振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動	生活困窮者への支援	仕事に就けない人への就労支援	外国人市民の地域での生活に対する支援	過去に罪を犯した人への更生支援	空き家対策	ひきこもりの人への支援	住民同士のつながりづくり	居住に課題を抱える人への支援
全体 (n=946)		19.3	48.8	11.5	12.9	14.2	15.8	13.0	4.5	1.1	10.9	1.5	6.9	4.3	
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	21.6	43.2	12.2	32.4	17.6	16.2	5.4	5.4	2.7	6.8	4.1	9.5	6.8	
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	18.0	50.0	22.0	22.0	8.0	14.0	20.0	2.0	2.0	12.0	4.0	12.0	6.0	
	家族の介護・介助をしている (n=38)	23.7	71.1	7.9	31.6	21.1	15.8	10.5	5.3	5.3	10.5	7.9	13.2	7.9	
	18歳未満の子がいる (n=168)	15.5	56.0	10.7	13.7	13.7	6.5	16.7	4.2	1.2	12.5	2.4	6.5	4.8	
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	24.4	44.9	16.0	14.1	19.2	21.2	9.0	0.6	0.6	6.4	2.6	10.3	3.8	
	外国籍である (n=24)	8.3	33.3	12.5	8.3	8.3	16.7	8.3	41.7	0.0	0.0	0.0	4.2	4.2	
	ひきこもりの状態である (n=15)	26.7	20.0	26.7	13.3	6.7	46.7	40.0	6.7	6.7	13.3	26.7	13.3	20.0	
	いずれもない (n=471)	18.9	50.1	9.6	10.4	13.4	16.6	14.4	4.7	0.8	12.7	0.4	5.5	4.9	

単位：%		自殺防止対策	市民後見人の取り組み育成などの権利擁護	その他	特になし	不明・無回答
全体 (n=946)		2.6	2.1	3.1	5.1	2.9
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	2.7	1.4	1.4	6.8	5.4
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	8.0	6.0	0.0	6.0	0.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	2.6	2.6	2.6	0.0	2.6
	18歳未満の子がいる (n=168)	3.0	1.8	5.4	3.6	1.2
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	1.3	3.8	0.6	5.8	2.6
	外国籍である (n=24)	0.0	4.2	0.0	4.2	8.3
	ひきこもりの状態である (n=15)	20.0	6.7	0.0	13.3	6.7
	いずれもない (n=471)	3.0	1.5	3.4	5.1	2.5

問 19 あなたの身近な地域で、孤立の状況を見たり聞いたりしたことがありますか。
 (1つを選択)

「ある」が6.3%、「ない」が87.8%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「ない」が「ある」を上回っています。

単位: %		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
地区別	地区1 (n=112)	7.1	88.4	4.5
	地区2 (n=173)	4.0	92.5	3.5
	地区3 (n=182)	8.2	86.8	4.9
	地区4 (n=122)	4.1	90.2	5.7
	地区5 (n=163)	4.9	89.6	5.5
	地区6 (n=158)	8.2	83.5	8.2

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
年齢別	18～29歳 (n=69)	8.7	88.4	2.9
	30～39歳 (n=132)	5.3	90.9	3.8
	40～49歳 (n=157)	5.7	90.4	3.8
	50～59歳 (n=197)	5.6	89.8	4.6
	60～69歳 (n=150)	8.7	84.7	6.7
	70～79歳 (n=146)	6.2	87.7	6.2
	80歳以上 (n=77)	2.6	81.8	15.6

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	8.1	81.1	10.8
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	14.0	84.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	13.2	73.7	13.2
	18歳未満の子がいる (n=168)	4.8	94.0	1.2
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	9.6	82.7	7.7
	外国籍である (n=24)	8.3	79.2	12.5
	ひきこもりの状態である (n=15)	26.7	66.7	6.7
	いずれもない (n=471)	5.3	89.0	5.7

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	12.7	84.1	3.2
	近所付き合いは少し減った (n=52)	13.5	75.0	11.5
	大きな変化はない (n=433)	5.3	89.8	4.8
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	2.5	90.0	7.5
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	0.0	100.0	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	5.6	88.7	5.6
	その他 (n=28)	7.1	82.1	10.7
	わからない (n=31)	9.7	87.1	3.2

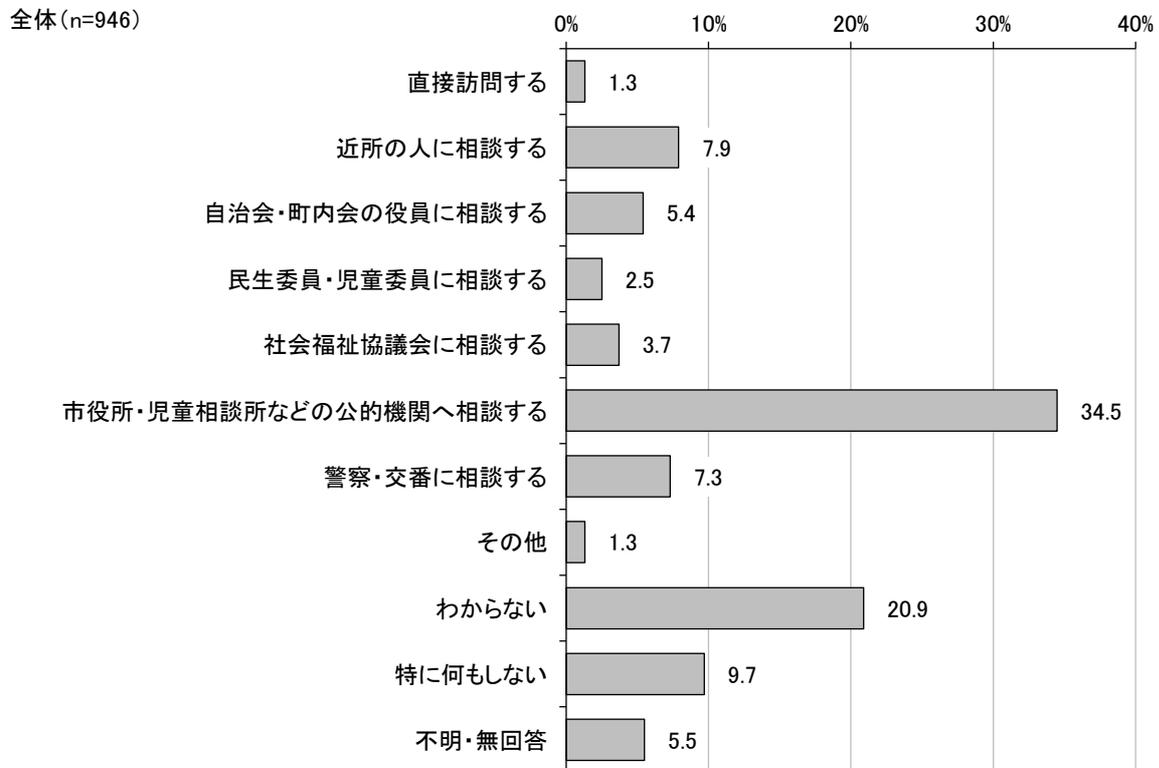
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
近所付き合いの意向別	近所付き合いを深めたい (n=115)	7.0	87.8	5.2
	現状のままでよい (n=708)	5.6	89.1	5.2
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	12.5	85.0	2.5
	近所付き合いをやめたい (n=3)	0.0	100.0	0.0
	その他 (n=18)	5.6	72.2	22.2

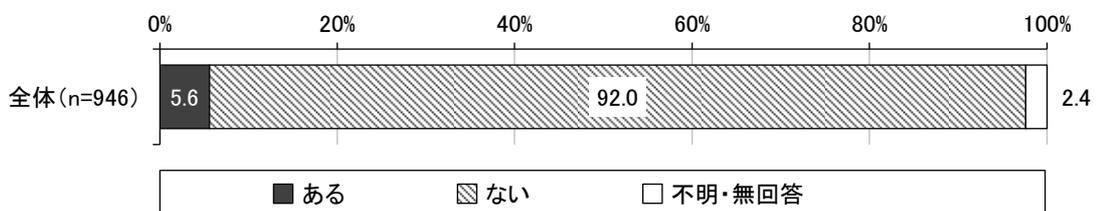
問 20 もし、あなたの周辺で孤立の状況を知った場合、最初にどのように対応しますか。
(1つを選択)

「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」が34.5%と最も高く、次いで「わからない」が20.9%、「特に何もしない」が9.7%となっています。



問 21 あなたの身近な地域で、虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を見たり聞いたりしたことがありますか。(1つを選択)

「ある」が5.6%、「ない」が92.0%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
地区別	地区1 (n=112)	7.1	90.2	2.7
	地区2 (n=173)	3.5	94.2	2.3
	地区3 (n=182)	6.6	90.1	3.3
	地区4 (n=122)	5.7	94.3	0.0
	地区5 (n=163)	4.9	93.9	1.2
	地区6 (n=158)	5.7	90.5	3.8

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
年齢別	18～29歳 (n=69)	4.3	94.2	1.4
	30～39歳 (n=132)	6.8	91.7	1.5
	40～49歳 (n=157)	7.0	91.1	1.9
	50～59歳 (n=197)	6.1	93.4	0.5
	60～69歳 (n=150)	6.0	91.3	2.7
	70～79歳 (n=146)	2.1	95.2	2.7
	80歳以上 (n=77)	3.9	87.0	9.1

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	6.8	86.5	6.8
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	12.0	88.0	0.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	7.9	84.2	7.9
	18歳未満の子がいる (n=168)	6.5	91.7	1.8
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	4.5	91.7	3.8
	外国籍である (n=24)	0.0	95.8	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	86.7	6.7
	いずれもない (n=471)	4.7	94.5	0.8

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	15.9	81.0	3.2
	近所付き合いは少し減った (n=52)	5.8	90.4	3.8
	大きな変化はない (n=433)	5.3	93.3	1.4
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	5.0	95.0	0.0
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	7.7	92.3	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	3.4	93.2	3.4
	その他 (n=28)	7.1	92.9	0.0
	わからない (n=31)	6.5	93.5	0.0

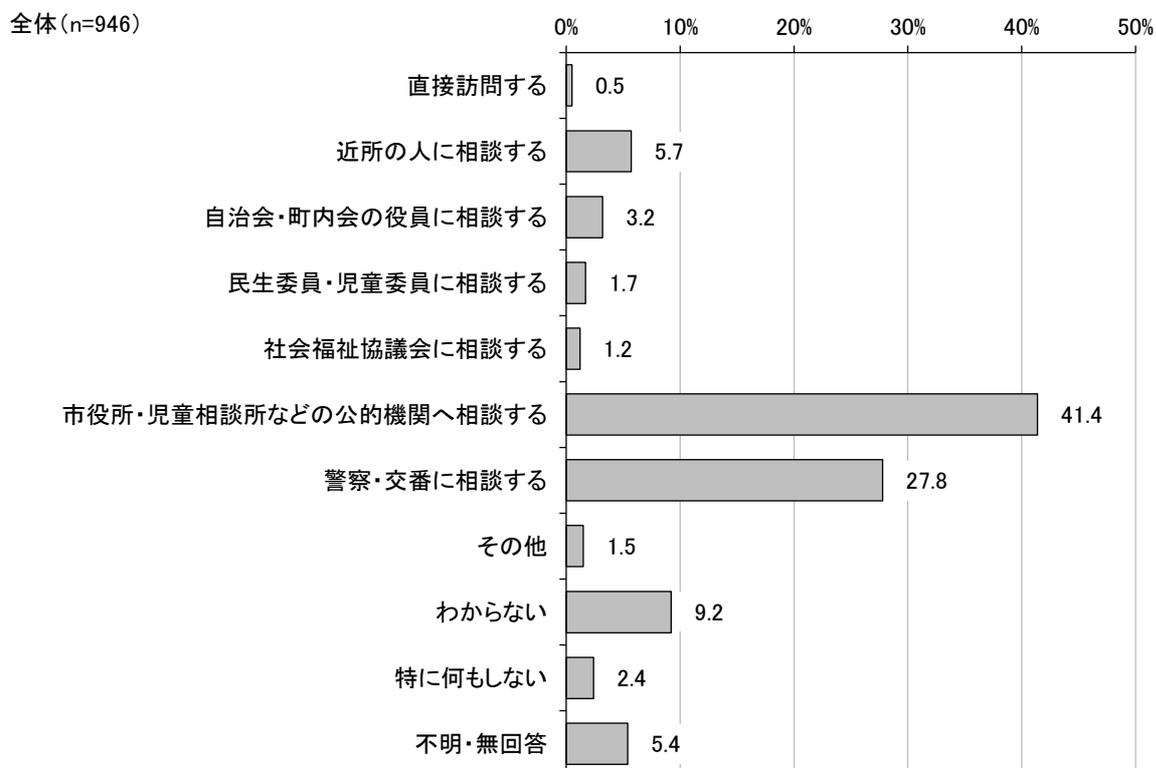
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：%		ある	ない	不明・無回答
全体(n=946)		5.6	92.0	2.4
近所 意 付 き 合 い の 意 向 別	近所付き合いを深めたい(n=115)	8.7	87.0	4.3
	現状のままでよい(n=708)	4.9	93.4	1.7
	近所付き合いをなるべくしたくない(n=80)	10.0	88.8	1.3
	近所付き合いをやめたい(n=3)	0.0	100.0	0.0
	その他(n=18)	0.0	88.9	11.1

問 22 もし、あなたの周辺で虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を知った場合、最初に対応のように対処しますか。（1つを選択）

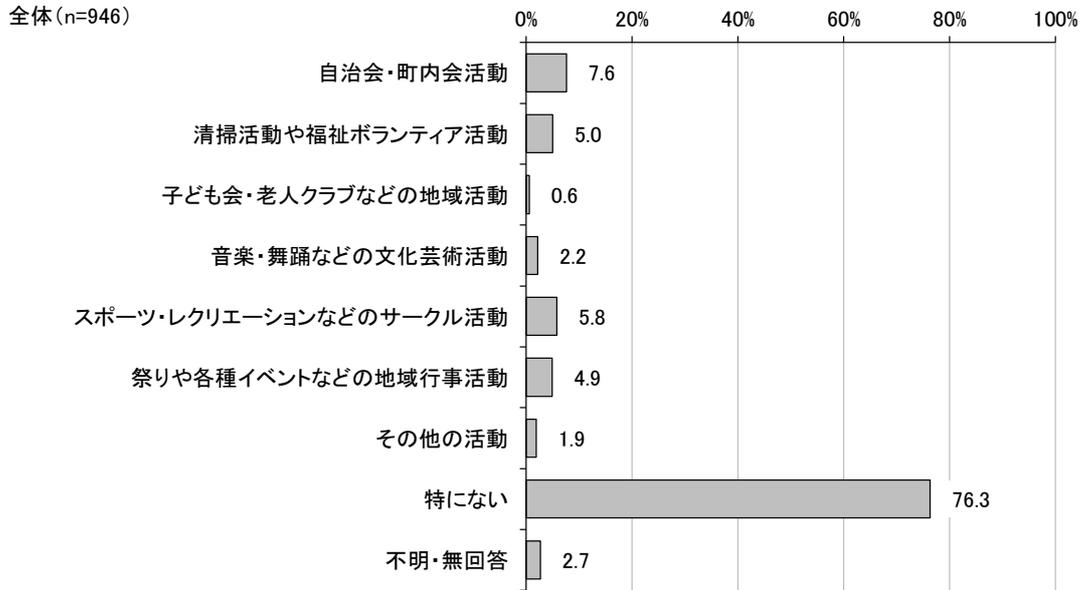
「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」が41.4%と最も高く、次いで「警察・交番に相談する」が27.8%、「わからない」が9.2%となっています。



7 コミュニティ活動について

問 23 あなたは日頃、地域の自治会・町内会活動やボランティア団体などで、コミュニティ活動をしていますか。(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が76.3%と最も高く、次いで「自治会・町内会活動」が7.6%、「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が5.8%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「特にない」が最も高くなっています。

単位: %		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
地区別	地区1 (n=112)	8.0	3.6	1.8	4.5	8.0	2.7	1.8	75.0	0.9
	地区2 (n=173)	7.5	4.0	0.0	0.6	6.9	5.2	1.2	76.9	2.3
	地区3 (n=182)	7.7	6.0	0.5	1.6	4.9	4.4	0.5	76.9	4.4
	地区4 (n=122)	6.6	4.9	0.0	0.8	2.5	3.3	0.0	82.8	3.3
	地区5 (n=163)	10.4	4.9	0.0	3.1	6.1	6.1	3.1	76.7	1.8
	地区6 (n=158)	6.3	5.7	1.9	1.9	7.0	5.7	3.2	73.4	1.9

〈職業別クロス〉

職業別にみると、いずれの職業も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体(n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7	
職業別	会社員・役員(n=328)	6.1	2.1	0.3	0.9	3.0	5.2	0.6	84.5	1.2	
	自営業・フリーランス(n=55)	14.5	1.8	0.0	5.5	7.3	10.9	1.8	67.3	1.8	
	専門職(n=22)	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.4	0.0	
	公務員・教員(n=56)	7.1	5.4	0.0	1.8	3.6	7.1	1.8	73.2	3.6	
	学生(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	84.6	0.0	
	専業主婦・専業主夫(n=108)	11.1	7.4	1.9	3.7	11.1	6.5	3.7	65.7	3.7	
	パート・アルバイト(n=134)	6.0	6.7	0.0	2.2	8.2	6.0	3.0	73.1	1.5	
	無職(n=188)	7.4	6.4	1.6	2.1	7.4	0.5	2.1	73.4	6.4	
	その他(n=23)	8.7	17.4	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	73.9	0.0	

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体(n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7	
年齢別	18～29歳(n=69)	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	7.2	2.9	87.0	1.4	
	30～39歳(n=132)	6.8	2.3	1.5	1.5	2.3	7.6	0.8	82.6	0.0	
	40～49歳(n=157)	3.2	1.9	0.0	0.6	4.5	6.4	1.3	82.8	2.5	
	50～59歳(n=197)	9.6	4.6	0.0	0.5	3.6	2.5	1.0	81.7	0.0	
	60～69歳(n=150)	8.0	8.7	0.0	3.3	8.0	5.3	2.7	68.7	2.7	
	70～79歳(n=146)	11.6	8.9	2.1	4.8	13.7	4.8	3.4	67.1	2.7	
	80歳以上(n=77)	10.4	5.2	1.3	2.6	6.5	1.3	1.3	63.6	15.6	

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7	
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	5.4	5.4	0.0	4.1	2.7	2.7	4.1	75.7	9.5	
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	6.0	6.0	2.0	4.0	6.0	10.0	0.0	72.0	2.0	
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	0.0	0.0	5.3	7.9	2.6	2.6	68.4	7.9	
	18歳未満の子がいる (n=168)	9.5	4.2	1.2	1.8	4.2	8.9	2.4	76.2	1.2	
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	10.3	7.1	1.3	6.4	10.3	4.5	3.8	66.0	5.1	
	外国籍である (n=24)	8.3	8.3	4.2	0.0	0.0	4.2	4.2	62.5	12.5	
	ひきこもりの状態である (n=15)	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	13.3	
	いずれもない (n=471)	6.4	4.5	0.0	0.8	5.9	4.0	1.1	81.3	0.4	

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7	
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	11.1	4.8	0.0	1.6	11.1	9.5	0.0	65.1	6.3	
	近所付き合いは少し減った (n=52)	13.5	7.7	0.0	7.7	11.5	7.7	0.0	55.8	3.8	
	大きな変化はない (n=433)	9.2	5.8	0.5	2.3	6.0	4.8	1.6	75.1	2.5	
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	22.5	7.5	0.0	5.0	10.0	0.0	10.0	62.5	0.0	
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	15.4	0.0	53.8	7.7	
	居住期間が短くわからない (n=266)	2.3	3.0	0.8	0.8	3.8	4.5	1.9	85.0	1.9	
	その他 (n=28)	3.6	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	89.3	0.0	
	わからない (n=31)	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.8	0.0	

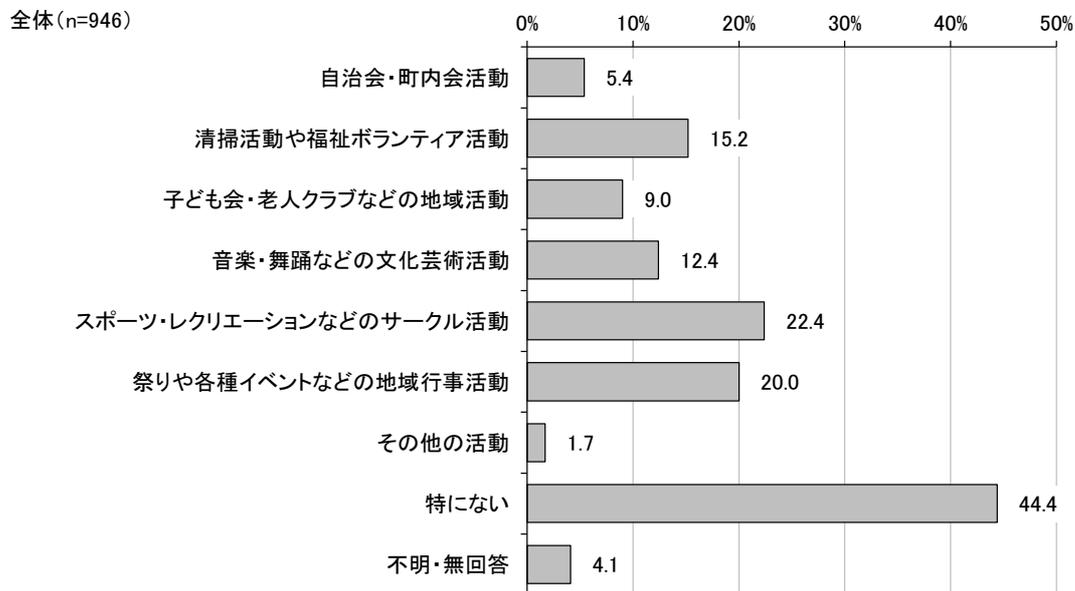
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7	
近所付き合い意向別の	近所付き合いを深めたい(n=115)	8.7	3.5	0.0	6.1	8.7	8.7	1.7	69.6	3.5	
	現状のままでよい(n=708)	8.1	5.4	0.8	1.6	5.8	4.8	2.0	76.7	2.3	
	近所付き合いをなるべくしたくない(n=80)	5.0	5.0	0.0	2.5	3.8	0.0	0.0	85.0	0.0	
	近所付き合いをやめたい(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	
	その他(n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	72.2	11.1	

問 24 あなたは今後機会があれば、どのようなコミュニティ活動をしてみたいですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が 44.4%と最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が 22.4%、「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」が 20.0%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
地区別	地区1 (n=112)	8.9	11.6	8.9	10.7	25.9	17.9	0.9	42.9	8.0	
	地区2 (n=173)	6.4	17.3	8.7	8.7	19.7	18.5	2.3	45.1	2.9	
	地区3 (n=182)	4.4	13.7	8.2	16.5	22.5	24.2	1.6	44.0	3.8	
	地区4 (n=122)	4.1	12.3	10.7	14.8	24.6	22.1	3.3	41.8	4.9	
	地区5 (n=163)	7.4	15.3	8.6	8.6	23.3	15.3	1.2	52.1	1.2	
	地区6 (n=158)	3.2	19.6	9.5	12.7	20.9	22.2	0.6	44.3	3.2	

〈職業別クロス〉

職業別にみると、いずれの職業も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
職業別	会社員・役員 (n=328)	4.6	14.6	9.5	11.0	22.0	28.7	2.1	45.1	0.9	
	自営業・フリーランス (n=55)	3.6	18.2	5.5	18.2	25.5	18.2	3.6	41.8	5.5	
	専門職 (n=22)	4.5	22.7	4.5	9.1	18.2	22.7	0.0	50.0	0.0	
	公務員・教員 (n=56)	7.1	10.7	10.7	14.3	23.2	30.4	0.0	35.7	3.6	
	学生 (n=13)	0.0	0.0	0.0	15.4	30.8	7.7	0.0	53.8	0.0	
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	8.3	20.4	17.6	13.0	23.1	16.7	0.9	38.0	8.3	
	パート・アルバイト (n=134)	6.0	16.4	6.0	11.9	29.9	19.4	2.2	39.6	3.0	
	無職 (n=188)	4.3	12.2	6.9	12.8	18.1	6.9	0.5	53.2	8.0	
	その他 (n=23)	13.0	26.1	8.7	0.0	17.4	17.4	4.3	47.8	0.0	

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
年齢別	18～29歳 (n=69)	0.0	10.1	8.7	14.5	24.6	37.7	1.4	34.8	0.0	
	30～39歳 (n=132)	5.3	12.1	17.4	12.1	22.7	31.1	2.3	42.4	0.8	
	40～49歳 (n=157)	5.1	16.6	10.8	14.6	21.7	25.5	1.3	45.2	1.3	
	50～59歳 (n=197)	5.6	15.7	2.5	8.6	19.8	17.8	3.0	51.8	3.6	
	60～69歳 (n=150)	7.3	22.7	9.3	14.0	27.3	18.0	1.3	42.7	1.3	
	70～79歳 (n=146)	5.5	14.4	6.8	12.3	26.7	8.2	0.7	40.4	8.9	
	80歳以上 (n=77)	7.8	9.1	10.4	7.8	11.7	7.8	0.0	50.6	14.3	

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔外国籍である〕では「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」、その他の区分では「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	2.7	17.6	10.8	10.8	14.9	14.9	1.4	47.3	9.5	
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	4.0	16.0	14.0	4.0	18.0	14.0	2.0	48.0	4.0	
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	5.3	13.2	13.2	18.4	23.7	0.0	44.7	15.8	
	18歳未満の子がいる (n=168)	6.0	13.1	18.5	13.1	24.4	33.9	2.4	36.3	1.8	
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	7.1	10.9	10.3	13.5	27.6	9.6	1.9	39.7	7.1	
	外国籍である (n=24)	4.2	8.3	20.8	29.2	37.5	25.0	4.2	16.7	0.0	
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	0.0	13.3	13.3	13.3	6.7	0.0	60.0	13.3	
	いずれもない (n=471)	4.9	18.0	5.5	12.3	22.1	20.8	1.5	47.1	2.8	

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボラ	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	6.3	12.7	11.1	9.5	19.0	11.1	0.0	46.0	7.9	
	近所付き合いは少し減った (n=52)	3.8	9.6	7.7	15.4	25.0	11.5	1.9	48.1	5.8	
	大きな変化はない (n=433)	6.5	15.5	7.2	11.8	20.1	16.9	1.6	49.0	2.8	
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	10.0	25.0	10.0	7.5	25.0	27.5	0.0	30.0	7.5	
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	7.7	15.4	23.1	15.4	23.1	23.1	0.0	30.8	0.0	
	居住期間が短くわからない (n=266)	3.8	15.8	10.5	13.9	28.2	28.2	1.5	38.3	3.0	
	その他 (n=28)	0.0	17.9	3.6	10.7	14.3	14.3	10.7	50.0	10.7	
	わからない (n=31)	6.5	3.2	16.1	9.7	19.4	29.0	0.0	48.4	3.2	

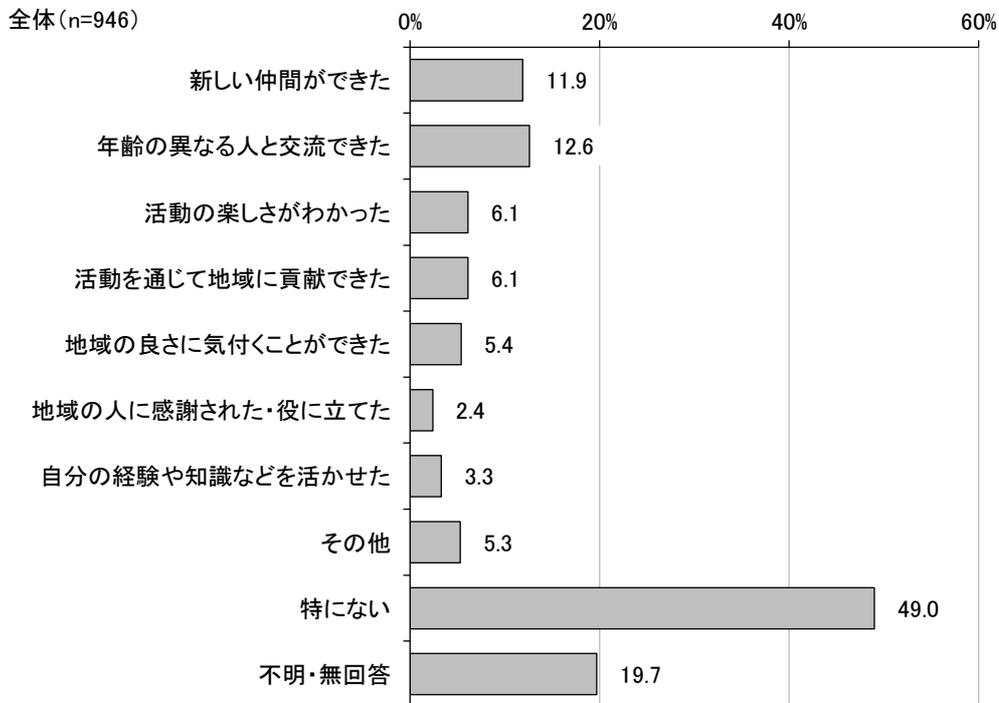
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、〔近所付き合いを深めたい〕では「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」、その他の区分では「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボラ	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
近所付き合いの意向別	近所付き合いを深めたい (n=115)	14.8	21.7	20.9	23.5	34.8	37.4	3.5	19.1	3.5	
	現状のままでよい (n=708)	4.2	14.4	7.1	11.3	21.8	18.2	1.0	47.0	4.1	
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	5.0	12.5	8.8	6.3	13.8	16.3	1.3	56.3	2.5	
	近所付き合いをやめたい (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	
	その他 (n=18)	0.0	16.7	5.6	11.1	22.2	16.7	11.1	44.4	5.6	

問 25 コミュニティ活動に参加して良かったと思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が 49.0%と最も高く、次いで「年齢の異なる人と交流できた」が 12.6%、「新しい仲間ができた」が 11.9%となっています。



問 26 あなたは、地域で困っている世帯がある場合、現在既に「手助けしていること」や今後「手助けできること」はありますか。また、現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてもらいたいこと」はありますか。

(①～⑳のそれぞれ、あてはまるものすべてを選択)

「手助けしていること」については、いずれの項目も3%未満となっています。「手助けできること」については、〔① 安否確認の声かけ〕で4割台、〔② 話し相手〕〔④ 日用品などのちょっとした買い物〕〔⑤ 電球交換などのちょっとした作業〕〔⑥ ごみ出し〕〔⑫ 散歩の付き添い〕〔⑲ 近所のイベントの手伝い〕で3割台となっています。「手助けしてもらいたいこと」については、〔⑯ 経済的な支援〕で2割台となっています。

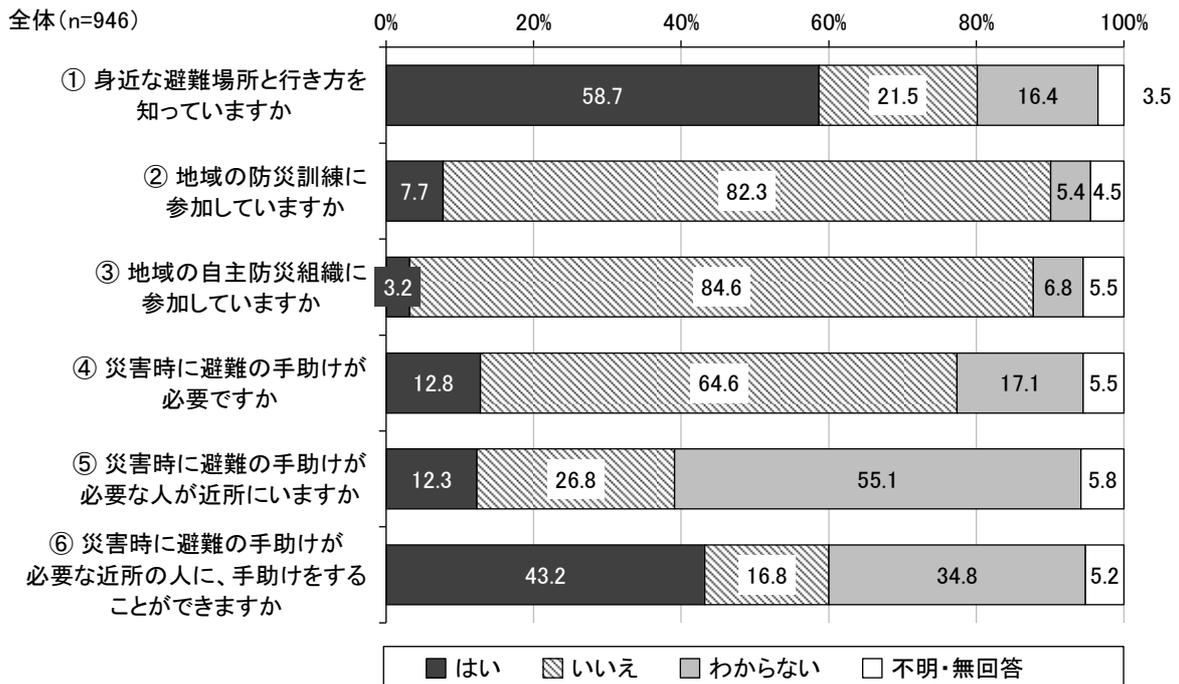
上段:度数 下段: %	全体	手助けしていること	できる手助け	も手助けしたいこと	無不明答・
① 安否確認の声かけ	946 100.0	24 2.5	404 42.7	118 12.5	400 42.3
② 話し相手	946 100.0	27 2.9	370 39.1	68 7.2	481 50.8
③ 困りごとなどの相談	946 100.0	19 2.0	277 29.3	153 16.2	497 52.5
④ 日用品などのちょっとした買い物	946 100.0	15 1.6	349 36.9	97 10.3	485 51.3
⑤ 電球交換などのちょっとした作業	946 100.0	16 1.7	315 33.3	132 14.0	483 51.1
⑥ ごみ出し	946 100.0	27 2.9	312 33.0	84 8.9	523 55.3
⑦ 家の中の掃除や洗濯	946 100.0	20 2.1	223 23.6	115 12.2	588 62.2
⑧ 庭の手入れ	946 100.0	20 2.1	216 22.8	106 11.2	604 63.8
⑨ 食事づくり	946 100.0	16 1.7	202 21.4	115 12.2	613 64.8
⑩ 短時間の子どもの預かり	946 100.0	10 1.1	229 24.2	97 10.3	610 64.5
⑪ 保育園・幼稚園の送迎	946 100.0	10 1.1	222 23.5	87 9.2	627 66.3
⑫ 散歩の付き添い	946 100.0	11 1.2	291 30.8	53 5.6	591 62.5
⑬ 通院の付き添い(送迎)	946 100.0	7 0.7	205 21.7	120 12.7	614 64.9
⑭ 買い物の付き添い(送迎)	946 100.0	12 1.3	213 22.5	99 10.5	622 65.8
⑮ 病気の時の看病	946 100.0	13 1.4	142 15.0	153 16.2	638 67.4
⑯ 経済的な支援	946 100.0	11 1.2	106 11.2	199 21.0	630 66.6
⑰ 防犯見回り、防災訓練などへの参加	946 100.0	16 1.7	271 28.6	90 9.5	569 60.1
⑱ 災害時・緊急時の手助け	946 100.0	9 1.0	275 29.1	172 18.2	490 51.8
⑲ 近所のイベントの手伝い	946 100.0	17 1.8	309 32.7	49 5.2	571 60.4
⑳ その他	946 100.0	5 0.5	38 4.0	20 2.1	883 93.3

8 防災活動について

問27 防災に関連する項目について、①～⑥のそれぞれあてはまるものをお答えください。
 (①～⑥のそれぞれ1つを選択)

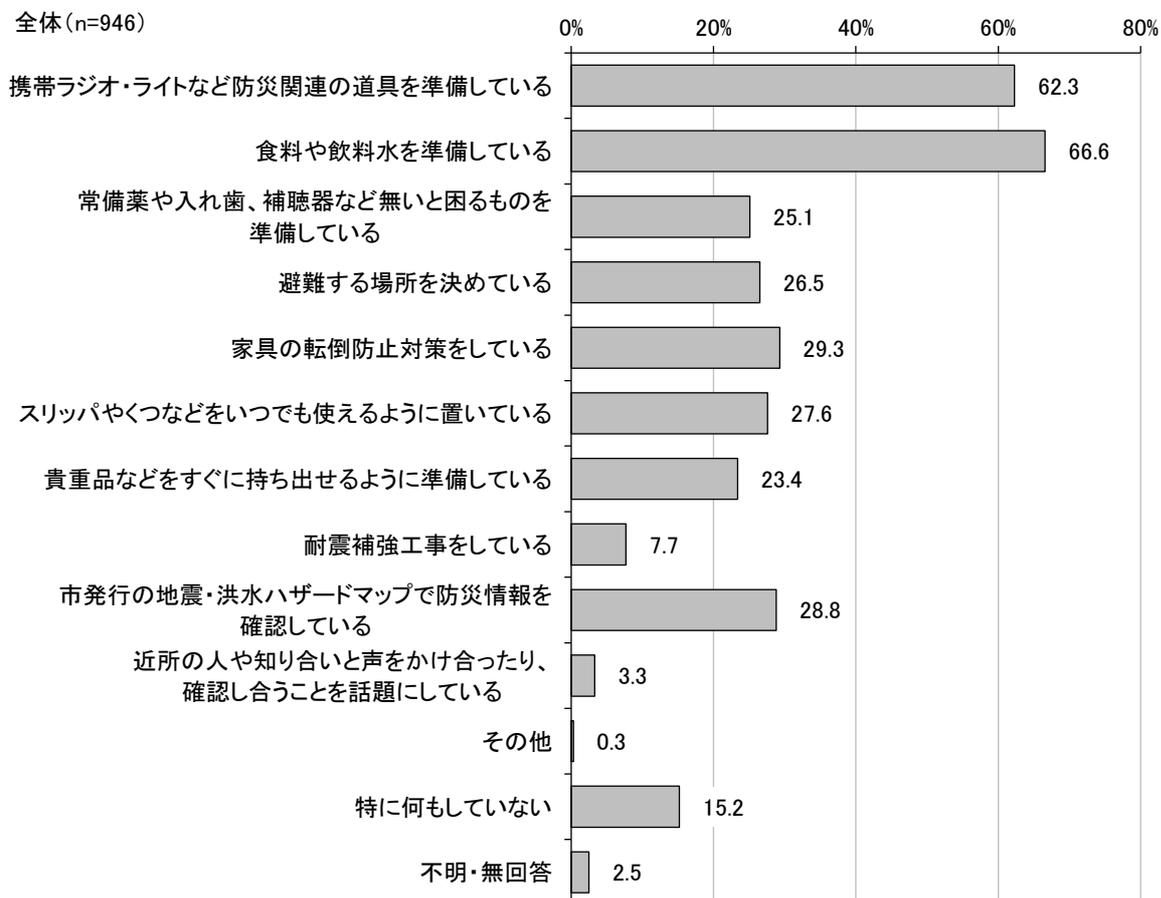
「はい」については、〔① 身近な避難場所と行き方を知っていますか〕で5割台後半、〔⑥ 災害時に避難の手助けが必要な近所の人に、手助けをすることができますか〕で4割台となっています。

「いいえ」については、〔② 地域の防災訓練に参加していますか〕〔③ 地域の自主防災組織に参加していますか〕で8割台、〔④ 災害時に避難の手助けが必要ですか〕で6割台となっています。



問 28 災害時の備えとして、普段どのようなことをしていますか。
 (あてはまるものすべてを選択)

「食料や飲料水を準備している」が 66.6%と最も高く、次いで「携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している」が 62.3%、「家具の転倒防止対策をしている」が 29.3%となっています。



〈年齢別クロス〉

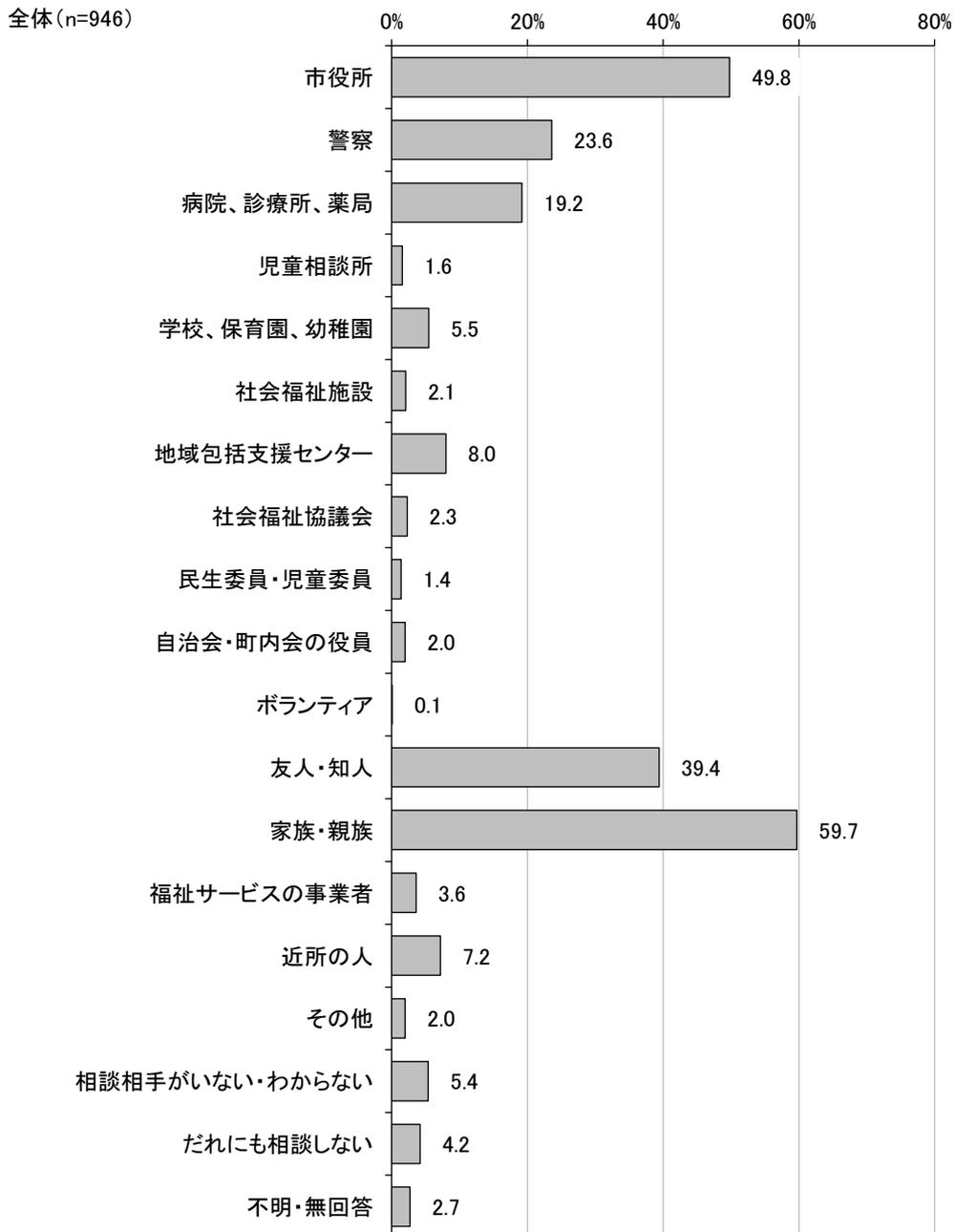
年齢別にみると、18～59歳では「食料や飲料水を準備している」、60歳以上では「携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している」が最も高くなっています。また、30～49歳では「市発行の地震・洪水ハザードマップで防災情報を確認している」が他の年齢と比べて高くなっています。

単位：%		携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している	食料や飲料水を準備している	常備薬や入れ歯、補聴器など無いと困るものを準備している	避難する場所を決めている	家具の転倒防止対策をしている	スリッパやくつなどをいつでも使えるように置いている	貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	耐震補強工事をしている	市発行の地震・洪水ハザードマップで防災情報を確認している	近所の人や知り合いと声をかけ合ったり、確認し合うことを話題にしている	その他	特に何もしていない	不明・無回答
全体 (n=946)		62.3	66.6	25.1	26.5	29.3	27.6	23.4	7.7	28.8	3.3	0.3	15.2	2.5
年齢別	18～29歳 (n=69)	49.3	66.7	21.7	20.3	14.5	30.4	21.7	5.8	23.2	0.0	2.9	14.5	1.4
	30～39歳 (n=132)	52.3	78.0	23.5	25.0	31.1	31.8	27.3	8.3	36.4	3.8	0.0	11.4	0.8
	40～49歳 (n=157)	65.0	76.4	26.8	24.8	30.6	28.7	21.7	8.3	43.9	1.9	0.6	9.6	1.3
	50～59歳 (n=197)	60.4	61.9	20.8	26.9	26.9	24.9	16.2	8.6	28.4	1.5	0.0	16.8	1.5
	60～69歳 (n=150)	69.3	68.0	24.0	29.3	33.3	24.0	23.3	6.0	26.7	2.0	0.0	17.3	1.3
	70～79歳 (n=146)	67.8	59.6	28.8	28.8	34.2	28.1	28.1	8.9	21.9	8.2	0.0	19.9	3.4
	80歳以上 (n=77)	67.5	54.5	32.5	24.7	26.0	27.3	29.9	5.2	11.7	6.5	0.0	19.5	7.8

9 困りごとの相談について

問 29 日常生活で困ったことがあった場合、どこに相談しますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「家族・親族」が 59.7%と最も高く、次いで「市役所」が 49.8%、「友人・知人」が 39.4%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「家族・親族」が最も高くなっています。また、地区3では「市役所」が他の地区と比べて高くなっています。

単位:%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体(n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
地区別	地区1(n=112)	42.0	16.1	17.0	0.0	5.4	1.8	7.1	3.6	2.7	2.7	0.0	44.6	68.8
	地区2(n=173)	42.8	22.5	22.0	1.7	4.0	1.7	7.5	2.3	1.7	2.9	0.6	41.6	59.5
	地区3(n=182)	60.4	26.4	15.9	2.2	7.7	2.7	11.5	4.9	1.1	1.1	0.0	38.5	61.0
	地区4(n=122)	48.4	22.1	23.8	0.8	2.5	5.7	9.8	1.6	0.0	2.5	0.0	39.3	60.7
	地区5(n=163)	50.9	26.4	18.4	2.5	6.7	1.8	6.7	0.0	0.6	3.1	0.0	32.5	54.0
	地区6(n=158)	50.6	23.4	18.4	1.9	7.0	0.0	5.1	0.0	1.3	0.0	0.0	44.3	60.1

単位:%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体(n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
地区別	地区1(n=112)	2.7	11.6	0.9	5.4	4.5	4.5
	地区2(n=173)	1.7	7.5	2.9	4.6	5.2	3.5
	地区3(n=182)	3.8	6.6	1.1	4.9	1.6	1.1
	地区4(n=122)	4.1	8.2	3.3	4.9	4.9	3.3
	地区5(n=163)	6.1	6.7	1.8	5.5	6.1	1.2
	地区6(n=158)	3.8	4.4	1.3	6.3	2.5	2.5

〈職業別クロス〉

職業別にみると、専門職では「友人・知人」、公務員・教員では「市役所」、その他の職業では「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
職業別	会社員・役員 (n=328)	50.3	27.7	19.5	3.0	7.3	2.4	3.0	1.2	0.0	0.9	0.3	41.5	62.5
	自営業・フリーランス (n=55)	45.5	18.2	16.4	0.0	7.3	3.6	1.8	1.8	0.0	3.6	0.0	52.7	56.4
	専門職 (n=22)	45.5	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	54.5	50.0
	公務員・教員 (n=56)	58.9	26.8	12.5	1.8	7.1	1.8	8.9	3.6	0.0	1.8	0.0	48.2	57.1
	学生 (n=13)	38.5	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	46.2	69.2
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	52.8	22.2	25.0	0.9	6.5	2.8	16.7	2.8	2.8	3.7	0.0	40.7	67.6
	パート・アルバイト (n=134)	50.0	14.2	13.4	1.5	7.5	0.7	10.4	3.7	2.2	0.0	0.0	49.3	65.7
	無職 (n=188)	47.3	23.4	22.9	0.5	0.0	2.1	13.3	1.6	3.2	4.3	0.0	20.2	49.5
	その他 (n=23)	56.5	30.4	26.1	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	43.5	65.2

単位：%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	わかera相手がない・	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
職業別	会社員・役員 (n=328)	1.5	3.7	2.4	6.1	4.6	0.9
	自営業・フリーランス (n=55)	1.8	12.7	0.0	0.0	3.6	3.6
	専門職 (n=22)	0.0	4.5	4.5	13.6	4.5	0.0
	公務員・教員 (n=56)	0.0	0.0	1.8	5.4	8.9	3.6
	学生 (n=13)	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	6.5	15.7	0.0	4.6	0.9	2.8
	パート・アルバイト (n=134)	4.5	6.0	3.7	6.0	3.0	2.2
	無職 (n=188)	7.4	9.0	1.1	3.2	4.8	5.3
	その他 (n=23)	0.0	17.4	4.3	8.7	0.0	0.0

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「家族・親族」が最も高くなっています。また、年齢の高い方が「友人・知人」の割合が概ね低くなる傾向にあります。

単位：%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
年齢別	18～29歳 (n=69)	39.1	20.3	13.0	0.0	2.9	1.4	2.9	1.4	0.0	0.0	0.0	44.9	69.6
	30～39歳 (n=132)	50.0	28.8	18.9	5.3	17.4	0.0	0.8	1.5	0.0	0.0	0.8	53.8	68.9
	40～49歳 (n=157)	59.9	23.6	26.1	3.8	14.6	2.5	3.2	2.5	0.0	0.0	0.0	46.5	61.8
	50～59歳 (n=197)	46.7	24.9	15.2	1.0	1.5	3.0	8.1	1.5	1.5	1.0	0.0	45.2	55.3
	60～69歳 (n=150)	54.7	22.7	18.0	0.0	0.7	2.0	7.3	3.3	2.0	5.3	0.0	32.7	55.3
	70～79歳 (n=146)	49.3	18.5	17.8	0.0	0.0	2.7	15.1	2.7	1.4	4.1	0.0	28.1	58.2
	80歳以上 (n=77)	40.3	24.7	24.7	0.0	0.0	2.6	23.4	1.3	5.2	3.9	0.0	18.2	55.8

単位：%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	わかからない・相談相手がいない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
年齢別	18～29歳 (n=69)	0.0	0.0	4.3	5.8	5.8	0.0
	30～39歳 (n=132)	0.8	6.8	3.0	3.8	3.0	0.8
	40～49歳 (n=157)	3.2	5.7	3.2	8.9	4.5	1.3
	50～59歳 (n=197)	3.0	4.1	1.0	5.1	4.6	2.5
	60～69歳 (n=150)	4.0	8.0	2.0	6.0	4.7	0.7
	70～79歳 (n=146)	6.2	11.0	0.0	3.4	3.4	5.5
	80歳以上 (n=77)	9.1	16.9	2.6	2.6	1.3	7.8

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、「障害福祉のサービスを受けている」では「市役所」、その他の区分では「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	41.9	16.2	23.0	0.0	0.0	5.4	18.9	2.7	0.0	2.7	0.0	24.3	58.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	58.0	12.0	22.0	2.0	10.0	6.0	8.0	2.0	2.0	4.0	0.0	32.0	48.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	39.5	15.8	18.4	0.0	0.0	2.6	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0	55.3	60.5
	18歳未満の子がいる (n=168)	59.5	23.2	24.4	7.1	27.4	1.2	5.4	2.4	0.6	0.0	0.0	58.9	73.8
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	47.4	21.8	17.9	0.0	0.0	1.9	16.0	1.3	3.8	5.1	0.0	29.5	59.0
	外国籍である (n=24)	41.7	29.2	16.7	0.0	4.2	0.0	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	54.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	13.3	13.3	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	いずれもない (n=471)	48.6	26.3	17.6	0.4	0.8	1.9	5.5	2.5	0.8	1.3	0.2	38.0	57.5
単位：%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	わかからない・相談相手がいない	だれにも相談しない	不明・無回答							
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7							
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	17.6	5.4	4.1	2.7	5.4	8.1							
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	16.0	8.0	0.0	8.0	6.0	2.0							
	家族の介護・介助をしている (n=38)	13.2	7.9	2.6	7.9	2.6	10.5							
	18歳未満の子がいる (n=168)	2.4	10.1	3.0	4.8	1.8	0.6							
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	4.5	13.5	0.6	3.2	3.8	1.3							
	外国籍である (n=24)	8.3	4.2	4.2	16.7	4.2	0.0							
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	0.0	0.0	26.7	20.0	6.7							
	いずれもない (n=471)	1.3	4.5	1.3	5.3	4.9	2.8							

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	55.6	22.2	14.3	0.0	1.6	4.8	17.5	1.6	4.8	0.0	0.0	30.2	58.7
	近所付き合いは少し減った (n=52)	48.1	21.2	19.2	1.9	3.8	1.9	5.8	1.9	0.0	3.8	0.0	44.2	57.7
	大きな変化はない (n=433)	50.1	23.3	19.4	1.4	5.5	1.6	7.6	2.5	1.6	2.5	0.0	39.7	59.6
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	62.5	20.0	17.5	7.5	10.0	5.0	17.5	0.0	0.0	2.5	0.0	40.0	65.0
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	46.2	38.5	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	38.5	53.8
	居住期間が短くわからない (n=266)	48.5	25.6	20.7	1.1	6.8	1.9	6.4	2.6	0.8	0.4	0.4	43.2	62.0
	その他 (n=28)	46.4	32.1	28.6	0.0	0.0	3.6	10.7	7.1	3.6	0.0	0.0	39.3	64.3
	わからない (n=31)	38.7	9.7	16.1	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.0	48.4

単位：%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	わからない・相談相手がない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	9.5	11.1	0.0	7.9	9.5	1.6
	近所付き合いは少し減った (n=52)	5.8	7.7	1.9	1.9	5.8	1.9
	大きな変化はない (n=433)	2.8	7.9	1.4	5.3	4.2	2.3
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	2.5	15.0	2.5	0.0	0.0	5.0
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	0.0	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	1.9	5.3	2.3	6.4	3.8	2.3
	その他 (n=28)	7.1	0.0	3.6	3.6	3.6	7.1
	わからない (n=31)	6.5	0.0	3.2	12.9	3.2	0.0

〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、〔近所付き合いをやめたい〕を除き、いずれの区分も「家族・親族」が最も高くなっています。

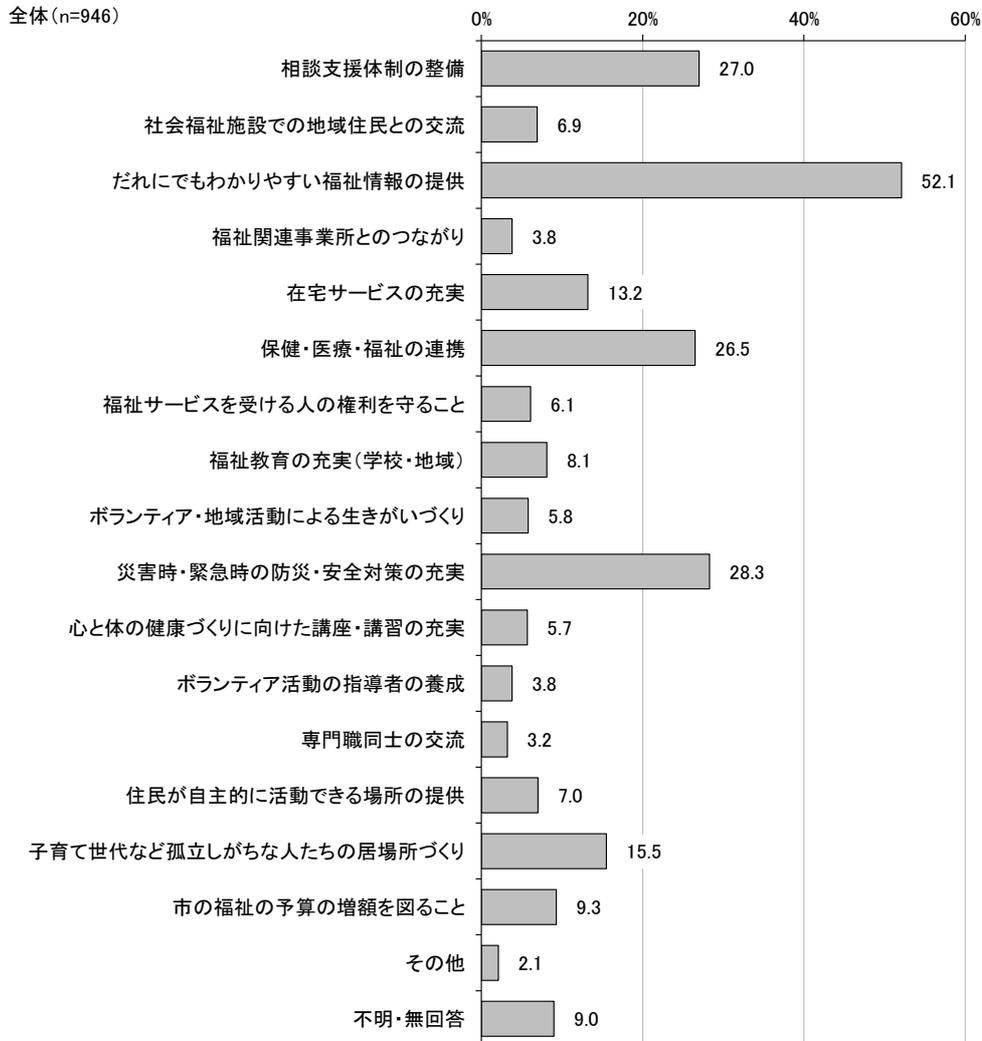
単位：%		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
近所付き合いの意向別の	近所付き合いを深めたい(n=115)	52.2	28.7	20.9	1.7	8.7	1.7	13.9	2.6	0.9	2.6	0.9	43.5	61.7
	現状のままでよい(n=708)	50.6	23.4	19.1	1.6	5.6	2.1	7.3	2.1	1.6	1.6	0.0	40.8	61.3
	近所付き合いをなるべくしたくない(n=80)	38.8	17.5	18.8	0.0	1.3	3.8	2.5	2.5	0.0	2.5	0.0	30.0	46.3
	近所付き合いをやめたい(n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	その他(n=18)	50.0	27.8	22.2	5.6	5.6	0.0	16.7	11.1	5.6	0.0	0.0	38.9	55.6

単位：%		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	わか相談相手がいない・	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
近所付き合いの意向別の	近所付き合いを深めたい(n=115)	6.1	10.4	1.7	8.7	4.3	3.5
	現状のままでよい(n=708)	3.0	7.8	1.7	3.4	3.8	2.3
	近所付き合いをなるべくしたくない(n=80)	2.5	1.3	3.8	17.5	7.5	3.8
	近所付き合いをやめたい(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他(n=18)	5.6	0.0	5.6	11.1	5.6	5.6

10 福祉施策について

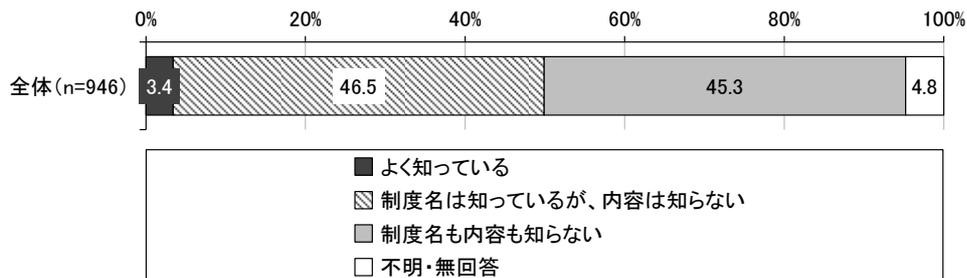
問 30 今後、朝霞市及び朝霞市社会福祉協議会で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択）

「だれにでもわかりやすい福祉情報の提供」が52.1%と最も高く、次いで「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が28.3%、「相談支援体制の整備」が27.0%となっています。



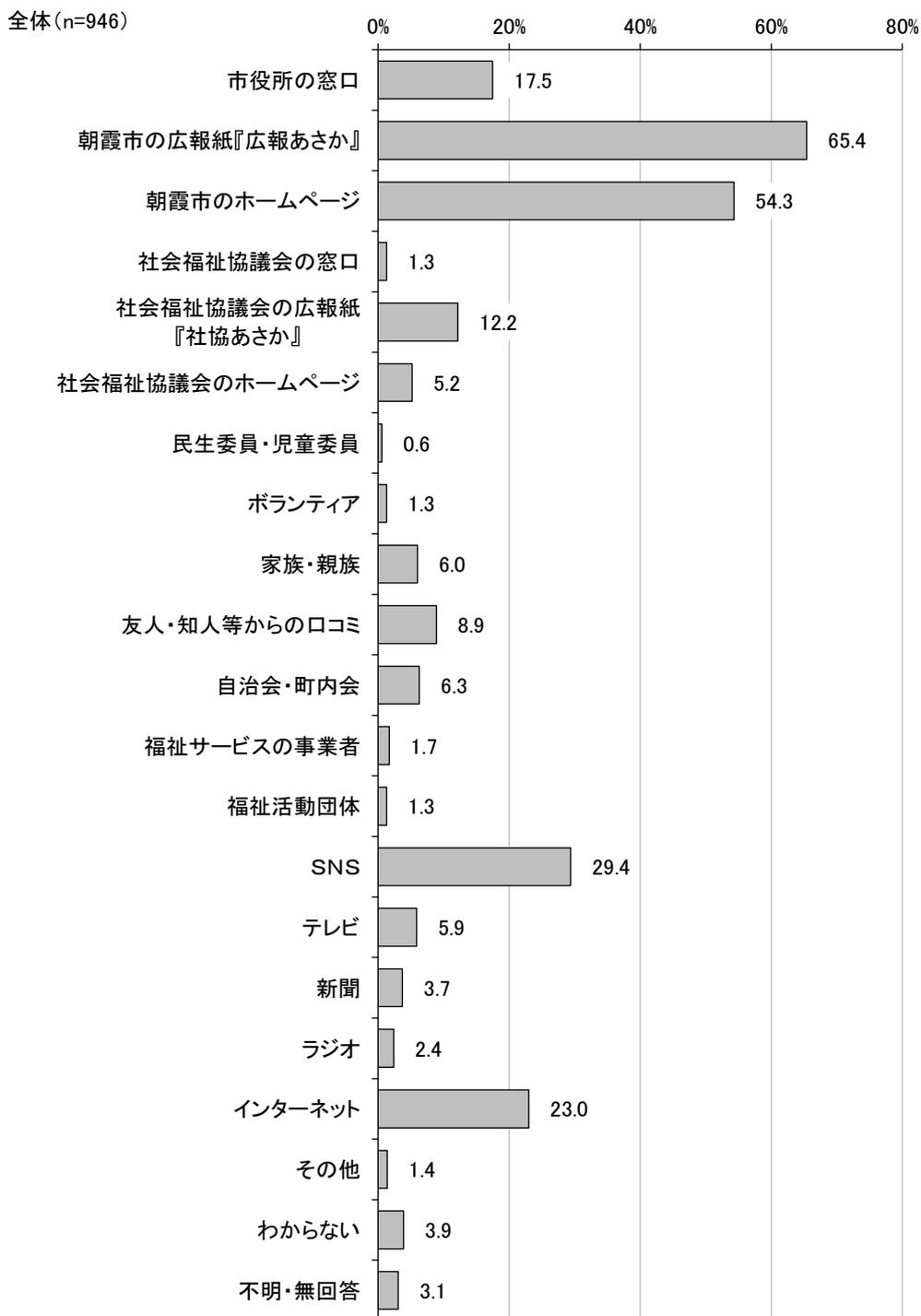
問 31 あなたは、生活困窮者自立支援制度について知っていますか。（1つを選択）

「制度名は知っているが、内容は知らない」が46.5%と最も高く、次いで「制度名も内容も知らない」が45.3%、「よく知っている」が3.4%となっています。



問 32 朝霞市の情報を今後何から手に入れたと思いますか。
 (あてはまるものすべてを選択)

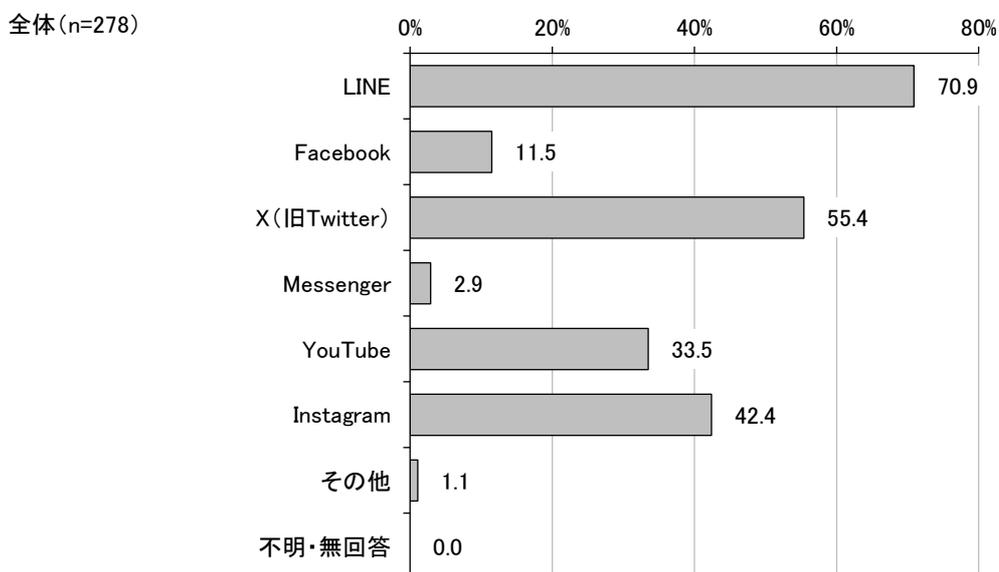
「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が 65.4%と最も高く、次いで「朝霞市のホームページ」が 54.3%、「SNS」が 29.4%となっています。



問 32 で「SNS」を選んだ方

問 32-1 あなたが朝霞市に関する情報を手に入れる手段として、利用したいSNSは何か。 (あてはまるものすべてを選択)

「LINE」が70.9%と最も高く、次いで「X (旧Twitter)」が55.4%、「Instagram」が42.4%となっています。



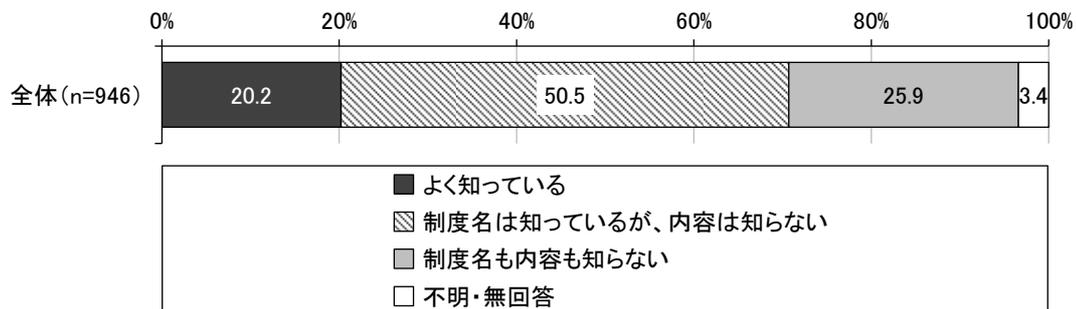
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～79歳では「LINE」が最も高くなっています。また、他の年齢と比べて、18～29歳では「Instagram」が高く、70～79歳では「X (旧Twitter)」「Instagram」が低くなっています。

単位: %		L I N E	F a c e b o o k	X (旧 T w i t t e r)	M e s s e n g e r	Y o u T u b e	I n s t a g r a m	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=278)		70.9	11.5	55.4	2.9	33.5	42.4	1.1	0.0
年 齢 別	18～29歳 (n=46)	69.6	2.2	65.2	2.2	28.3	67.4	2.2	0.0
	30～39歳 (n=63)	74.6	7.9	65.1	0.0	34.9	41.3	1.6	0.0
	40～49歳 (n=65)	66.2	13.8	46.2	3.1	33.8	40.0	0.0	0.0
	50～59歳 (n=62)	66.1	17.7	59.7	3.2	33.9	38.7	0.0	0.0
	60～69歳 (n=22)	81.8	22.7	59.1	9.1	40.9	40.9	0.0	0.0
	70～79歳 (n=14)	100.0	0.0	7.1	0.0	35.7	14.3	7.1	0.0
	80歳以上 (n=3)	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

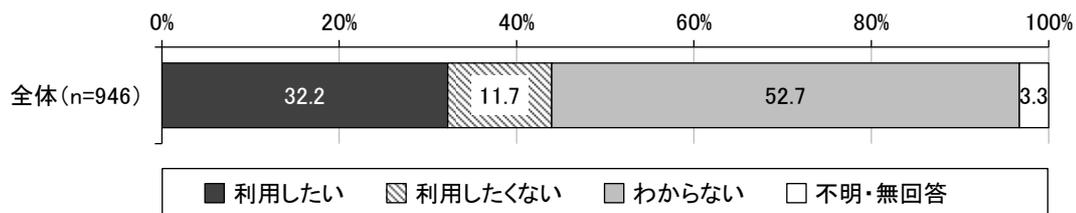
問 33 あなたは、成年後見制度について知っていますか。(1つを選択)

「制度名は知っているが、内容は知らない」が50.5%と最も高く、次いで「制度名も内容も知らない」が25.9%、「よく知っている」が20.2%となっています。



問 34 将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つを選択)

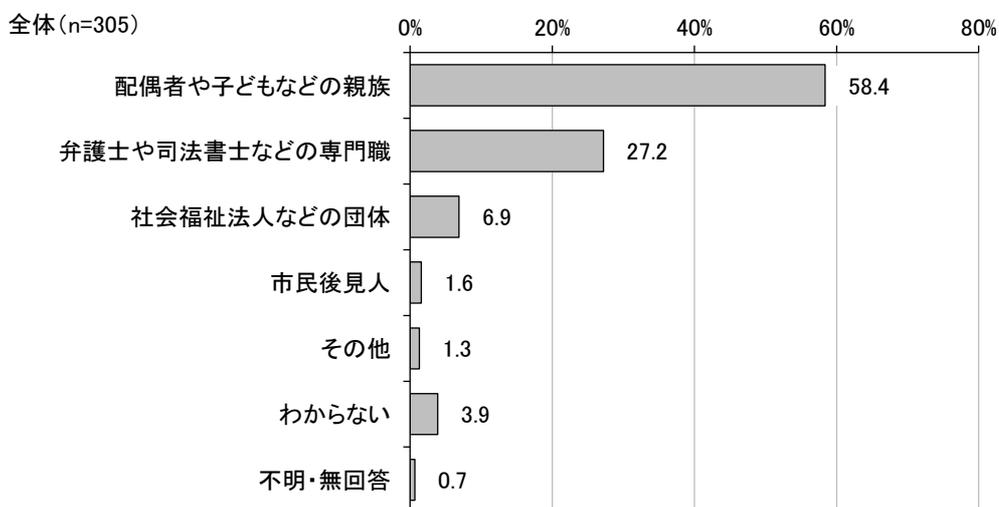
「わからない」が52.7%と最も高く、次いで「利用したい」が32.2%、「利用したくない」が11.7%となっています。



問 34 で「利用したい」を選んだ方

問 34-1 成年後見制度を利用することになった場合、だれに後見人になって支援してほしいですか。(1つを選択)

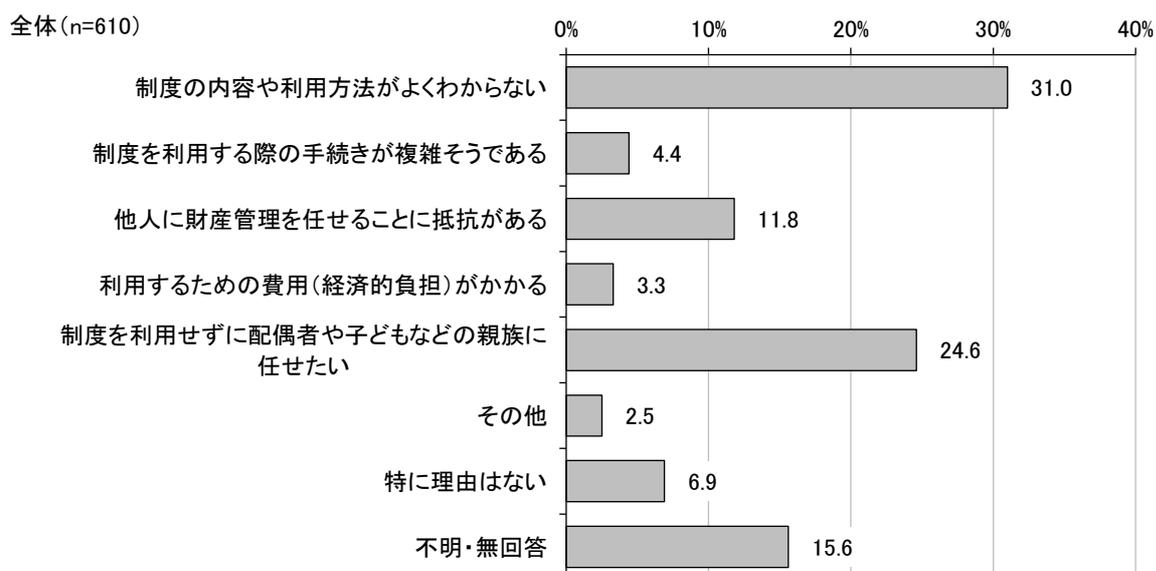
「配偶者や子どもなどの親族」が 58.4%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が 27.2%、「社会福祉法人などの団体」が 6.9%となっています。



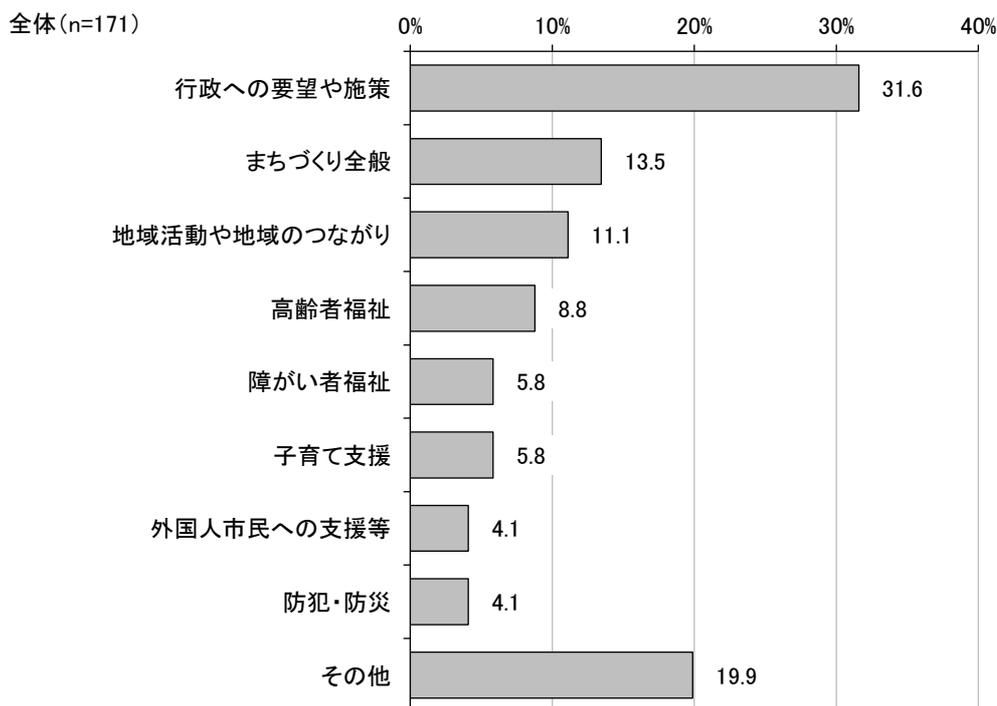
問 34 で「利用したくない」または「わからない」を選んだ方

問 34-2 「利用したくない」あるいは「わからない」と答えた理由は何ですか。(1つを選択)

「制度の内容や利用方法がよくわからない」が 31.0%と最も高く、次いで「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が 24.6%、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」が 11.8%となっています。



問 35 最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。(自由記述)



【全体】

自由記述欄に記入があったのは回答者 946 人のうち 171 人 (18.1%) である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 179 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別にみると、「行政への要望や施策」が回答者全体の 31.0% と最も多く、続いて「まちづくり全般」(13.5%)、「地域活動や地域のつながり」(11.1%) となっている。

【分類別】

- 行政への要望や施策 (54 件) では、「情報発信の強化、適切な発信方法の検討」「高齢者や子育て世代への支援強化」「市役所の相談窓口の改善」に関する意見が多数あった。
- まちづくり全般 (23 件) では、「道路や歩道の整備、安全対策」「コミュニティバスの充実、増便」に関する意見が多数あった。
- 地域活動や地域のつながり (19 件) では、「地域のつながりや近所付き合いの希薄化」「イベント等による交流機会の創出」「負担の少ない町内会や、互助のしくみづくり」などに関する意見があった。
- 高齢者福祉 (15 件) では、「移動支援の充実」「高齢者が住みやすいまちづくり」「孤立防止策」などに関する意見があった。
- 障がい者福祉 (10 件) では、「相談先の充実と周知」「居場所づくり」「障がいのある人への理解促進」などに関する意見があった。
- 子育て支援 (10 件) では、「保育園の充実」「子どもの居場所、遊び場の充実」「産後ケア事業の充実」などに関する意見があった。

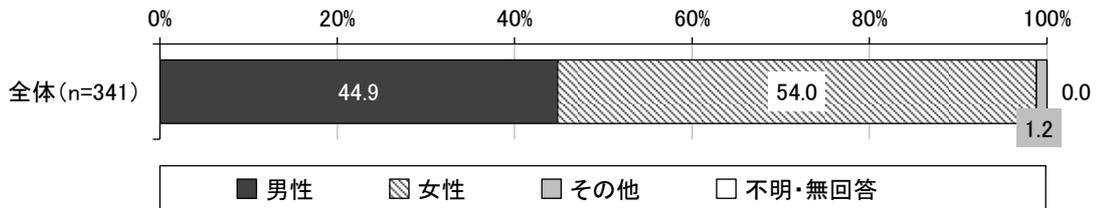
- 外国人市民への支援等（7件）では、「地域におけるゴミ出し等のマナーの遵守」「外国人労働者等の労働環境整備」などに関する意見があった。
- 防犯・防災（7件）では、「防災無線の聞き取りにくさ」「防犯対策の強化」などに関する意見があった。
- その他（34件）では、「地域福祉の更なる推進を願う声」「行政への感謝」などに関する意見が多数あった。

Ⅲ 児童生徒調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたの性別を教えてください。(1つを選択)

「女性」が54.0%と最も高く、次いで「男性」が44.9%となっています。



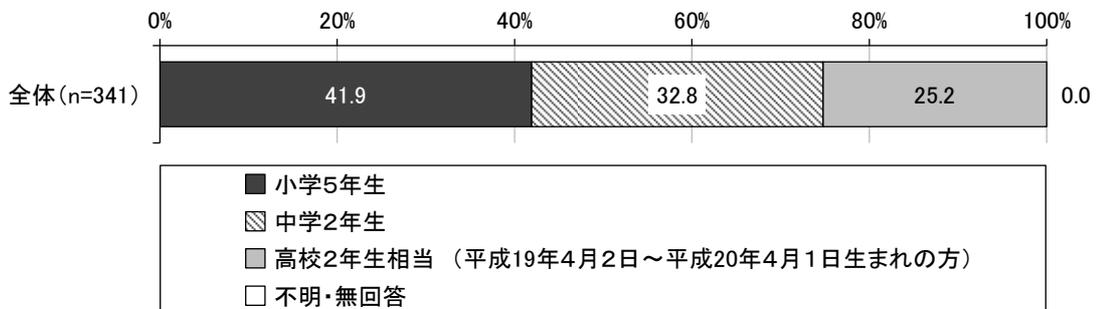
〈学年別クロス〉

学年別にみると、いずれの学年も「女性」が最も高くなっています。

単位: %		男性	女性	その他	不明・無回答
全体 (n=341)		44.9	54.0	1.2	0.0
学年別	小学5年生 (n=143)	45.5	53.8	0.7	0.0
	中学2年生 (n=112)	46.4	52.7	0.9	0.0
	高校2年生相当 (n=86)	41.9	55.8	2.3	0.0

問2 あなたの学年を教えてください。(1つを選択)

「小学5年生」が41.9%と最も高く、次いで「中学2年生」が32.8%、「高校2年生相当 (平成19年4月2日～平成20年4月1日生まれの方)」が25.2%となっています。



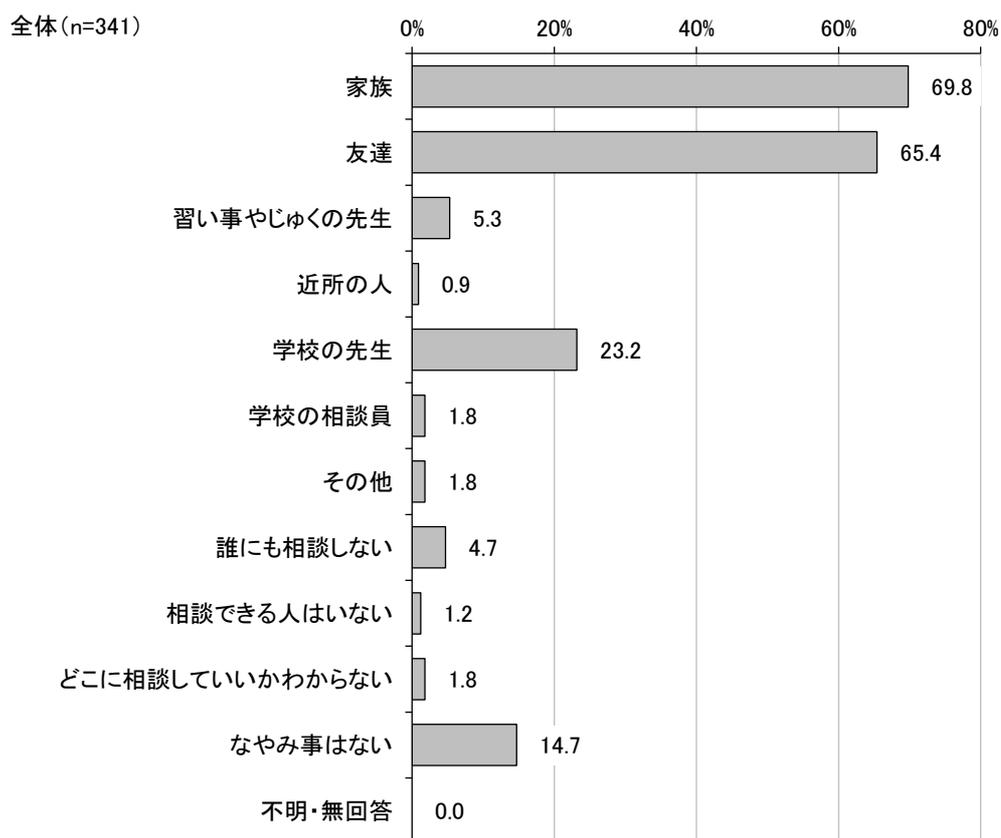
〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「小学5年生」が最も高くなっています。

単位：%		小学5年生	中学2年生	1日（高校生 まれの04月 2	不明・無回答
全体 (n=341)		41.9	32.8	25.2	0.0
性別	男性 (n=153)	42.5	34.0	23.5	0.0
	女性 (n=184)	41.8	32.1	26.1	0.0

問3 ふだんのなやみ事を誰に相談しますか。(あてはまるものすべてを選択)

「家族」が69.8%と最も高く、次いで「友達」が65.4%、「学校の先生」が23.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「家族」が最も高くなっています。また、女性では「友達」の割合が男性と比べて高くなっています。

単位：%		家族	友達	習い事やじゅくの先生	近所の人	学校の先生	学校の相談員	その他	誰にも相談しない	相談できる人はいない	どこに相談していいかわからない	なやみ事はない	不明・無回答
全体(n=341)		69.8	65.4	5.3	0.9	23.2	1.8	1.8	4.7	1.2	1.8	14.7	0.0
性別	男性(n=153)	68.0	58.8	8.5	1.3	25.5	2.6	1.3	4.6	0.0	0.7	18.3	0.0
	女性(n=184)	72.3	71.7	2.7	0.5	21.2	1.1	2.2	3.8	2.2	2.7	11.4	0.0

〈学年別クロス〉

学年別にみると、小学5年生では「家族」、中学2年生では「友達」、高校2年生相当では「家族」「友達」が最も高くなっています。また、高校2年生相当では「学校の先生」が他の学年と比べて低くなっています。

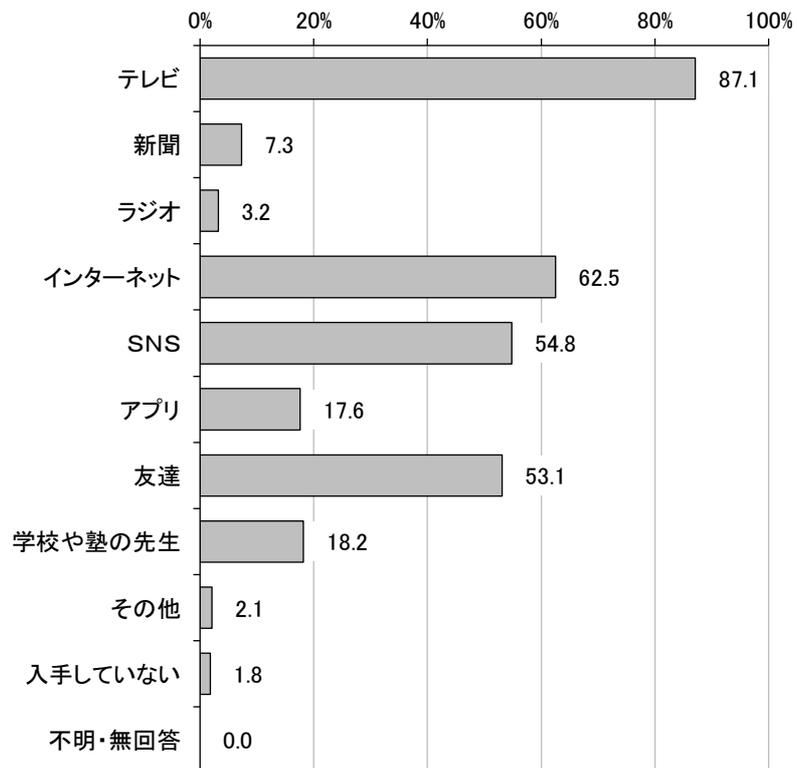
単位：%		家族	友達	習い事やじゅくの先生	近所の人	学校の先生	学校の相談員	その他	誰にも相談しない	相談できる人はいない	どこに相談していいかわからない	なやみ事はない	不明・無回答
全体(n=341)		69.8	65.4	5.3	0.9	23.2	1.8	1.8	4.7	1.2	1.8	14.7	0.0
学年別	小学5年生(n=143)	72.7	58.7	5.6	0.7	25.2	0.7	1.4	2.1	0.7	2.1	17.5	0.0
	中学2年生(n=112)	71.4	75.9	7.1	0.9	27.7	3.6	1.8	4.5	0.0	1.8	11.6	0.0
	高校2年生相当(n=86)	62.8	62.8	2.3	1.2	14.0	1.2	2.3	9.3	3.5	1.2	14.0	0.0

2 地域での暮らしについて

問4 あなたはふだんの生活で、ニュースや情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてを選択)

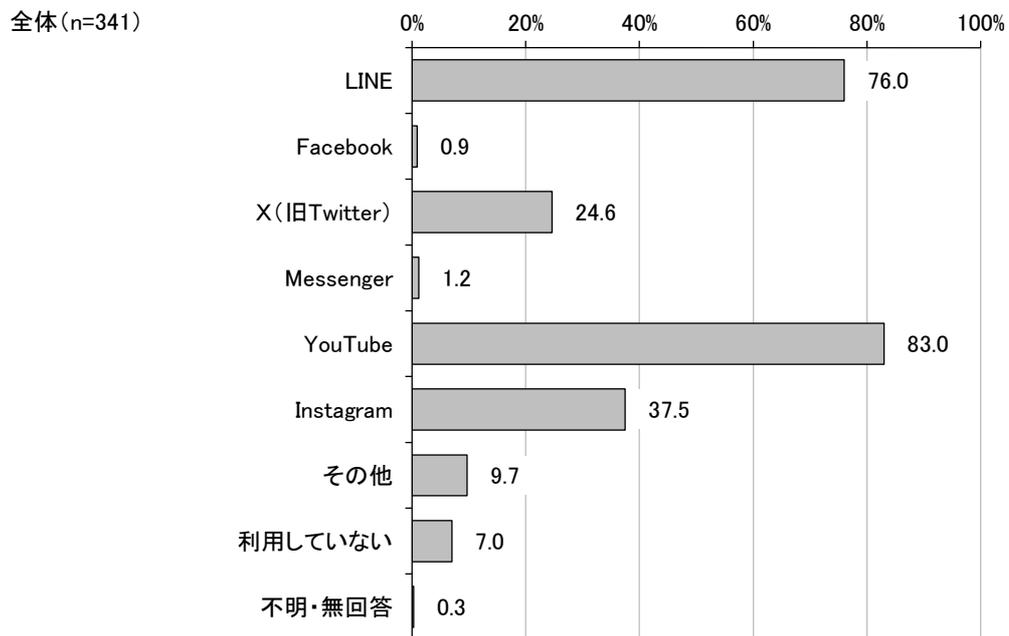
「テレビ」が87.1%と最も高く、次いで「インターネット」が62.5%、「SNS」が54.8%となっています。

全体(n=341)



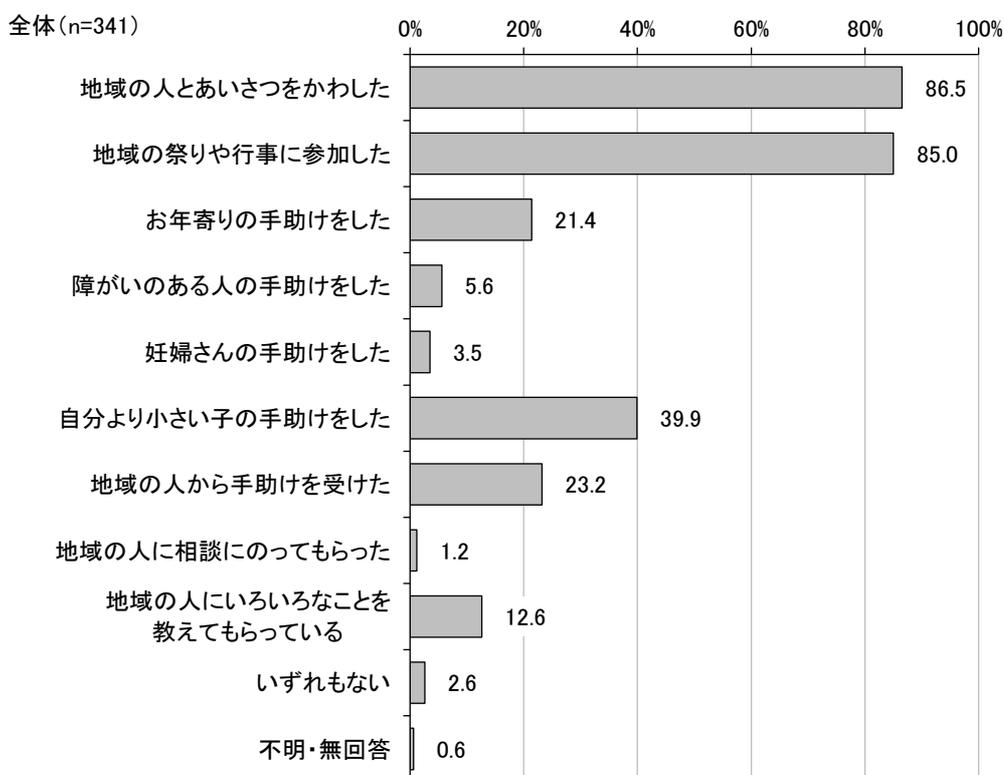
問5 あなたがふだん利用しているSNSは何ですか。(あてはまるものすべてを選択)

「YouTube」が83.0%と最も高く、次いで「LINE」が76.0%、「Instagram」が37.5%となっています。



問6 今までに、あなたが地域で経験したことがあることを教えてください。
 (あてはまるものすべてを選択)

「地域の人とあいさつをかわした」が86.5%と最も高く、次いで「地域の祭りや行事に参加した」が85.0%、「自分より小さい子の手助けをした」が39.9%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「地域の人とあいさつをかわした」が最も高くなっています。

単位: %		地域の人とあいさつをかわした	地域の祭りや行事に参加した	お年寄りの手助けをした	障がいのある人の手助けをした	妊婦さんの手助けをした	自分より小さい子の手助けをした	地域の人から手助けを受けた	地域の人に相談にのってもらった	地域の人にいろいろなことを教えてもらっている	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=341)		86.5	85.0	21.4	5.6	3.5	39.9	23.2	1.2	12.6	2.6	0.6
性別	男性 (n=153)	86.3	85.0	25.5	6.5	3.9	39.2	27.5	2.0	14.4	2.0	1.3
	女性 (n=184)	87.0	85.3	18.5	4.9	3.3	40.8	20.1	0.5	11.4	3.3	0.0

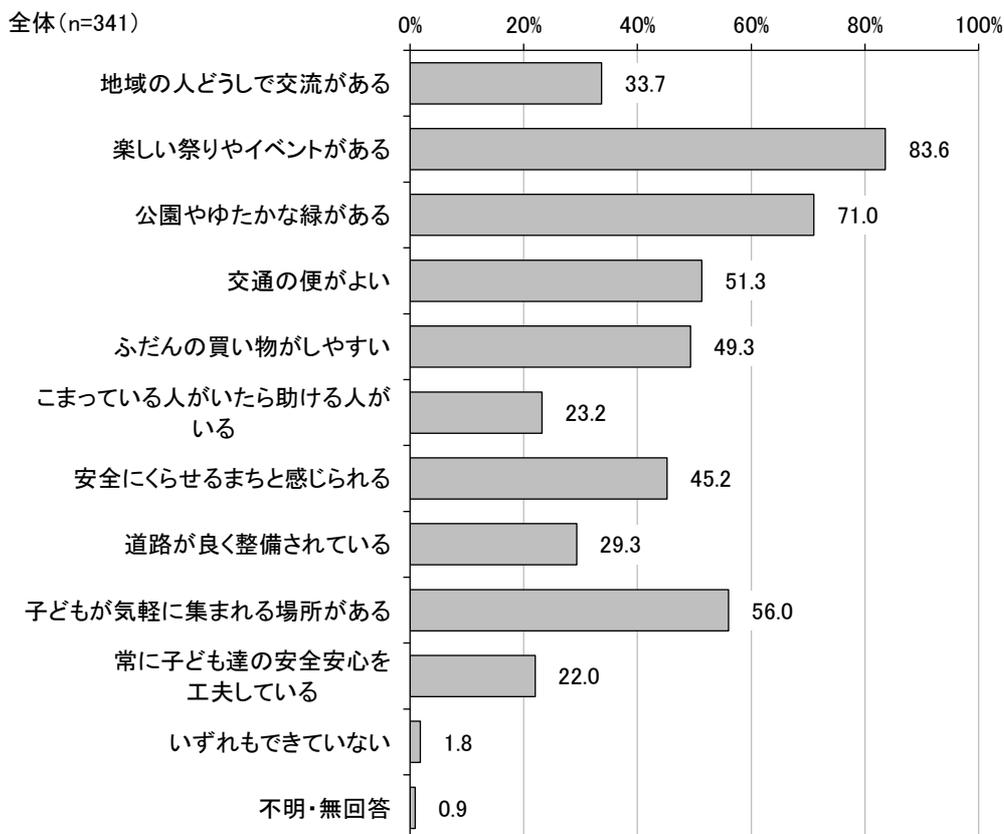
〈学年別クロス〉

学年別にみると、中学2年生では「地域の祭りや行事に参加した」、その他の学年では「地域の人とあいさつをかわした」が最も高くなっています。また、学年の高い方が「自分より小さい子の手助けをした」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：%		地域の人とあいさつをかわした	地域の祭りや行事に参加した	お年寄りの手助けをした	障がいのある人の手助けをした	妊婦さんの手助けをした	自分より小さい子の手助けをした	地域の人から手助けを受けた	地域の人と相談した	地域の人に教えてもらった	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=341)		86.5	85.0	21.4	5.6	3.5	39.9	23.2	1.2	12.6	2.6	0.6
学年別	小学5年生 (n=143)	88.1	84.6	15.4	7.7	2.8	46.2	24.5	2.1	18.2	2.1	0.0
	中学2年生 (n=112)	84.8	86.6	29.5	5.4	5.4	39.3	22.3	0.0	10.7	3.6	1.8
	高校2年生相当 (n=86)	86.0	83.7	20.9	2.3	2.3	30.2	22.1	1.2	5.8	2.3	0.0

問7 あなたにとって、今の朝霞市で、できていると思うものはどれですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「楽しい祭りやイベントがある」が 83.6%と最も高く、次いで「公園やゆたかな緑がある」が 71.0%、「子どもが気軽に集まれる場所がある」が 56.0%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「楽しい祭りやイベントがある」が最も高くなっています。また、男性では「安全にさせるまちと感じられる」が女性と比べて高くなっています。

単位：%		交流の地域がある人どうし	楽しい祭りやイベントがある	公園やゆたかな緑がある	交通の便がよい	ふだんの買い物がしやすい	いたら助ける人がいる	こまっ助ける人がいる	安全に感じられるまち	道路が良く整備されている	子どもが気軽に集まれる場所がある	常に子ども達の安全安心を工夫している	ないけれどもできていない	不明・無回答
全体(n=341)		33.7	83.6	71.0	51.3	49.3	23.2	45.2	29.3	56.0	22.0	1.8	0.9	
性別	男性(n=153)	35.3	79.7	69.3	56.9	54.2	25.5	50.3	30.1	56.2	22.9	3.3	0.7	
	女性(n=184)	33.2	87.0	71.7	47.8	45.7	21.7	40.8	29.3	56.0	21.2	0.5	1.1	

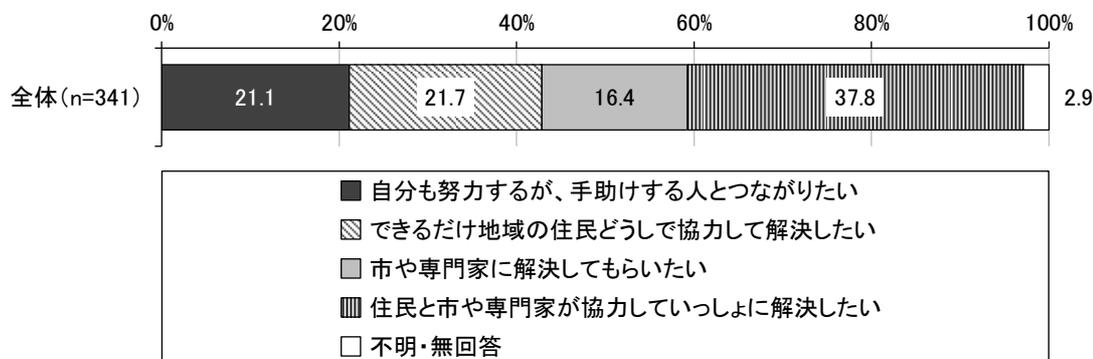
〈学年別クロス〉

学年別にみると、いずれの学年も「楽しい祭りやイベントがある」が最も高くなっています。また、学年の高い方が「交通の便がよい」の割合が高くなり、「公園やゆたかな緑がある」「こまっ助ける人がいる」「子どもが気軽に集まれる場所がある」「常に子ども達の安全安心を工夫している」が低くなる傾向にあります。

単位：%		交流の地域がある人どうし	楽しい祭りやイベントがある	公園やゆたかな緑がある	交通の便がよい	ふだんの買い物がしやすい	いたら助ける人がいる	こまっ助ける人がいる	安全に感じられるまち	道路が良く整備されている	子どもが気軽に集まれる場所がある	常に子ども達の安全安心を工夫している	ないけれどもできていない	不明・無回答
全体(n=341)		33.7	83.6	71.0	51.3	49.3	23.2	45.2	29.3	56.0	22.0	1.8	0.9	
学年別	小学5年生(n=143)	37.8	89.5	78.3	42.0	55.2	33.6	49.7	31.5	65.7	33.6	2.8	0.0	
	中学2年生(n=112)	34.8	79.5	70.5	53.6	45.5	17.9	41.1	29.5	53.6	17.0	0.9	1.8	
	高校2年生相当(n=86)	25.6	79.1	59.3	64.0	44.2	12.8	43.0	25.6	43.0	9.3	1.2	1.2	

問8 今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。(1つを選択)

「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が37.8%と最も高く、次いで「できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい」が21.7%、「自分も努力するが、手助けする人とつながりたい」が21.1%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が最も高くなっており、女性が男性と比べて高くなっています。

単位: %		自分も努力するが、手助けする人とつながりたい	できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい	市や専門家に解決してもらいたい	住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい	不明・無回答
全体 (n=341)		21.1	21.7	16.4	37.8	2.9
性別	男性 (n=153)	24.8	23.5	17.6	32.7	1.3
	女性 (n=184)	17.9	20.1	15.2	42.9	3.8

〈学年別クロス〉

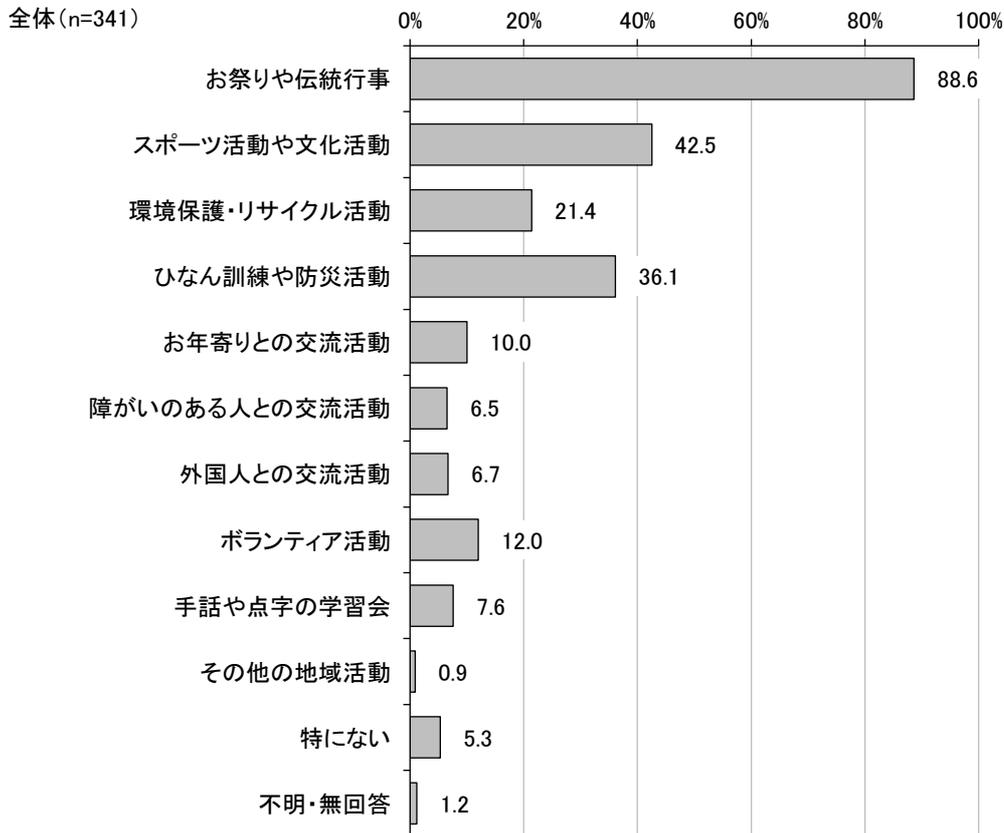
学年別にみると、いずれの学年も「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が最も高くなっています。また、高校2年生相当では他の学年と比べて「自分も努力するが、手助けする人とつながりたい」が低く、「市や専門家に解決してもらいたい」が高くなっています。

単位: %		自分も努力するが、手助けする人とつながりたい	できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい	市や専門家に解決してもらいたい	住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい	不明・無回答
全体 (n=341)		21.1	21.7	16.4	37.8	2.9
学年別	小学5年生 (n=143)	25.2	23.1	14.0	36.4	1.4
	中学2年生 (n=112)	24.1	21.4	13.4	37.5	3.6
	高校2年生相当 (n=86)	10.5	19.8	24.4	40.7	4.7

3 地域での活動について

問9 今までに、あなたが地域で参加したことがある活動を教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

「お祭りや伝統行事」が88.6%と最も高く、次いで「スポーツ活動や文化活動」が42.5%、「ひなん訓練や防災活動」が36.1%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「お祭りや伝統行事」が最も高くなっています。また、男性では「スポーツ活動や文化活動」の割合が女性と比べて高くなっています。

単位: %		お祭りや伝統行事	スポーツ活動や文化活動	環境保護・リサイクル活動	ひなん訓練や防災活動	お年寄りとの交流活動	障がいのある人との交流活動	外国人との交流活動	ボランティア活動	手話や点字の学習会	その他の地域活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=341)		88.6	42.5	21.4	36.1	10.0	6.5	6.7	12.0	7.6	0.9	5.3	1.2
性別	男性 (n=153)	87.6	51.0	25.5	37.9	6.5	5.9	5.9	11.1	5.2	2.0	5.2	1.3
	女性 (n=184)	89.7	35.3	17.9	34.8	13.0	7.1	7.6	12.5	9.8	0.0	5.4	0.5

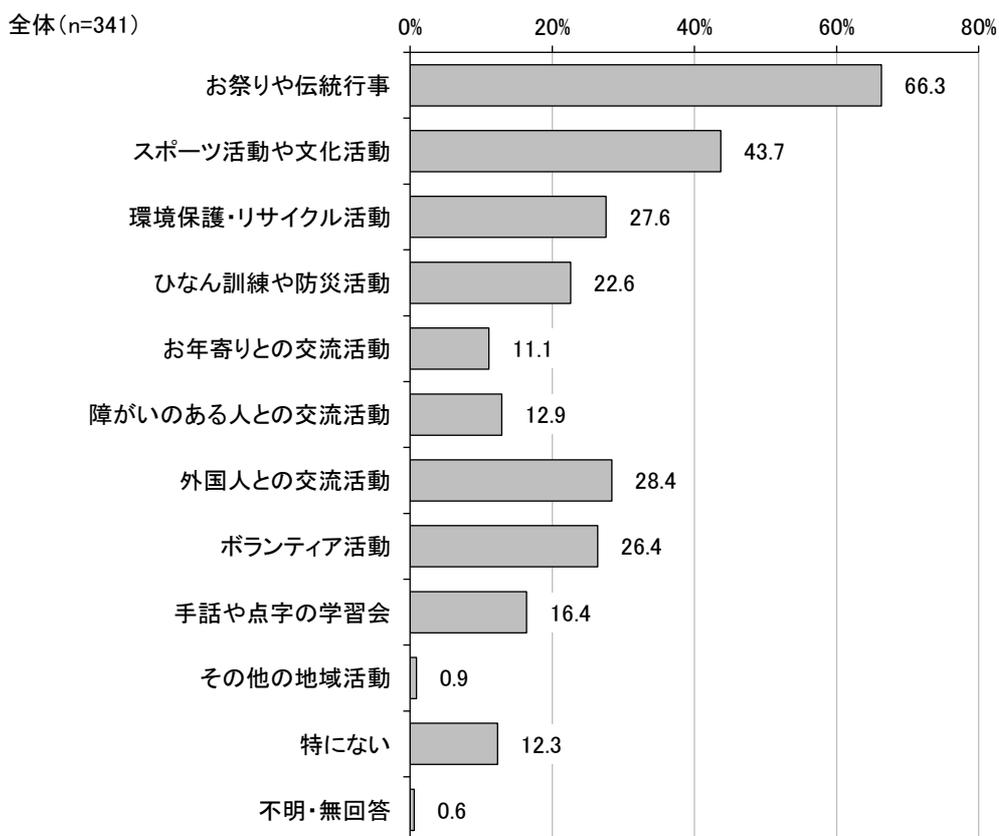
〈学年別クロス〉

学年別にみると、いずれの学年も「お祭りや伝統行事」が最も高くなっています。また、中学2年生では「スポーツ活動や文化活動」がその他の学年と比べて高くなっています。

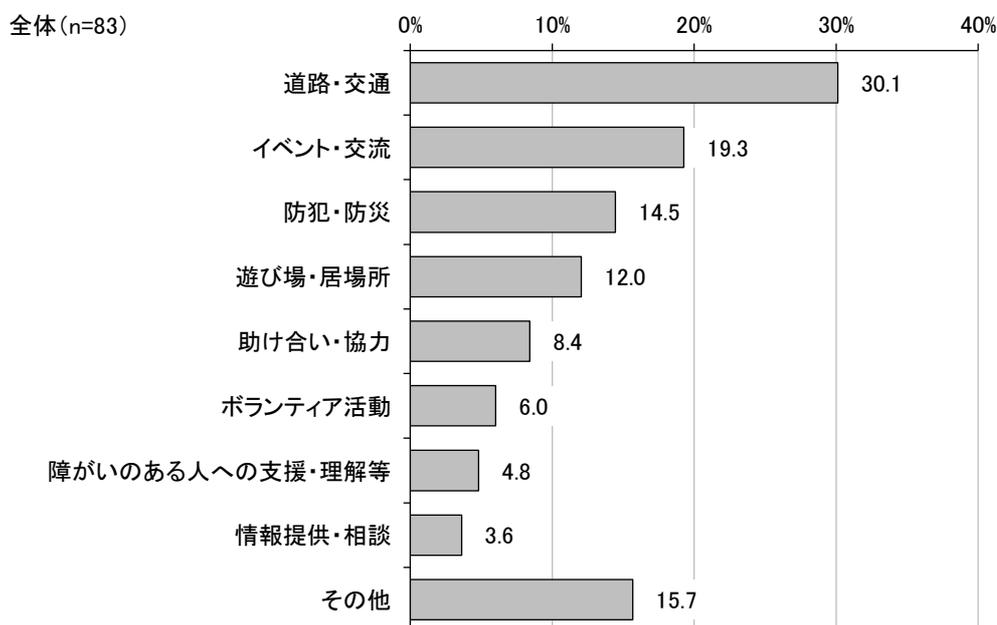
単位：%		お祭りや伝統行事	スポーツ活動や文化活動	環境保護・リサイクル活動	ひなん訓練や防災活動	お年寄りとの交流活動	障がいのある人との交流活動	外国人との交流活動	ボランティア活動	手話や点字の学習会	その他の地域活動	特にない	不明・無回答
全体(n=341)		88.6	42.5	21.4	36.1	10.0	6.5	6.7	12.0	7.6	0.9	5.3	1.2
学年別	小学5年生(n=143)	87.4	41.3	21.0	41.3	12.6	8.4	9.8	13.3	12.6	1.4	5.6	1.4
	中学2年生(n=112)	91.1	51.8	22.3	35.7	6.3	5.4	6.3	12.5	5.4	0.0	3.6	0.9
	高校2年生相当(n=86)	87.2	32.6	20.9	27.9	10.5	4.7	2.3	9.3	2.3	1.2	7.0	1.2

問 10 今後、あなたが地域で参加したいと思う活動を教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

「お祭りや伝統行事」が66.3%と最も高く、次いで「スポーツ活動や文化活動」が43.7%、「外国人との交流活動」が28.4%となっています。



問 11 誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるために
ご意見ご要望がありましたら、どんな事でも結構ですので、ご記入ください。
(自由記述)



【全体】

自由記述欄に記入があったのは回答者 341 人のうち 83 人 (24.3%) である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 95 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別にみると、「道路・交通」が回答者全体の 30.1% と最も多く、続いて「イベント・交流」(19.3%)、「防犯・防災」(14.5%) となっている。

【分類別】

- 道路・交通 (25 件) では、「道路や歩道の整備・安全対策」「自転車道の整備」「交通ルールの遵守」に関する意見が多数あった。
- イベント・交流 (16 件) では、「お祭りやイベントの増加」「高齢者との交流や子ども同士の交流など、市民の交流機会の創出」に関する意見が多数あった。
- 防犯・防災 (12 件) では、「街灯の増設」「防犯カメラの設置」「見回りの強化」に関する意見が多数あった。
- 遊び場・居場所 (10 件) では、「ボール遊びができる場所」「公園や児童館の充実」などに関する意見があった。
- 助け合い・協力 (7 件) では、「みんなで協力して助け合う」「困っている人がいたら声をかける」などの意見があった。
- ボランティア活動 (5 件) では、「ボランティア活動の増加」「ボランティアに関する情報提供」などに関する意見があった。

- 障がいのある人への支援・理解等（4件）では、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくり」「障がい特性の理解と交流の機会づくり」などに関する意見があった。
- 情報提供・相談（3件）では、「地域での活動に関する情報提供の充実」「相談会の実施」などに関する意見があった。
- その他（13件）では、「環境美化」などに関する意見があった。

IV 専門職調査結果

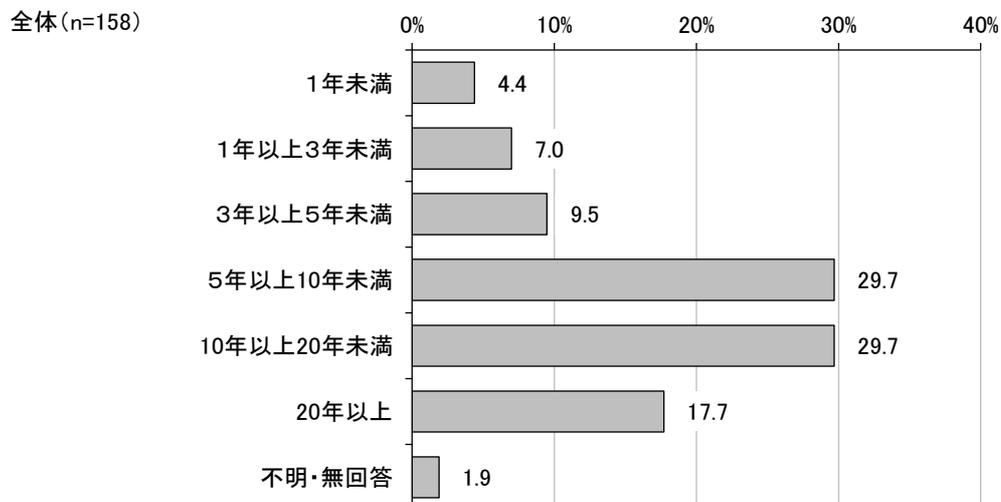
1 回答者自身について

問1 あなたの現在の職種をお書きください。(複数記載可)

回答内容	
介護士	児童発達支援事業所保育士
介護支援専門員	主任介護支援専門員
介護施設職員	社会福祉士
介護施設職員、民生委員	障害施設職員
介護福祉士、訪問介護事業所管理者	障害者就労支援員
介護支援専門員、介護福祉士	障がい者施設職員
看護、相談支援専門員	障害児通所施設職員、自立支援委員
看護師	障害者相談支援専門員 自立生活援助支援員
管理者	障害者日中支援施設施設長
管理栄養士	障害福祉施設職員
管理者兼児童指導員	生活支援員
グループホーム管理者	精神保健士
グループホーム職員	精神保健福祉士社会福祉士
ケアマネ（居宅）	相談支援専門員
ケアマネ、整体師（カイロ）	団体職員、生活介護職員
言語聴覚士	中学校サポート相談員、児童委員
作業療法士	通所介護職員
児童指導員	保育園長
児童スタッフ	保育園事務
児童発達支援センター施設長	保育士
児童発達支援管理責任者	保育士（管理職）

問2 あなたの現在の職種での延べ経験年数をお選びください。(1つを選択)

「5年以上10年未満」「10年以上20年未満」が29.7%と最も高く、次いで「20年以上」が17.7%となっています。



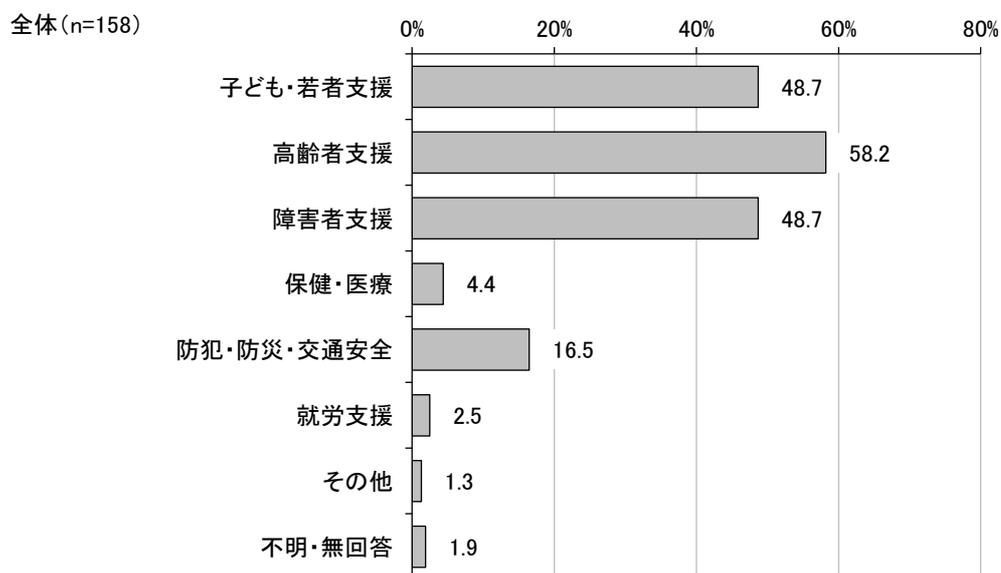
〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、障害者支援では「10年以上20年未満」、高齢者支援、防犯・防災・交通安全では「5年以上10年未満」が最も高くなっています。

単位: %		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不明・無回答
全体(n=158)		4.4	7.0	9.5	29.7	29.7	17.7	1.9
専門分野別	子ども・若者支援(n=77)	5.2	2.6	10.4	26.0	31.2	23.4	1.3
	高齢者支援(n=92)	4.3	5.4	5.4	35.9	26.1	21.7	1.1
	障害者支援(n=77)	3.9	7.8	11.7	26.0	33.8	15.6	1.3
	保健・医療(n=7)	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9	28.6	0.0
	防犯・防災・交通安全(n=26)	11.5	0.0	3.8	34.6	23.1	23.1	3.8
	就労支援(n=4)	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0

問3 あなたの関わる専門分野をお選びください。(あてはまるものすべてを選択)

「高齢者支援」が58.2%と最も高く、次いで「子ども・若者支援」「障害者支援」が48.7%となっています。



〈経験年数別クロス〉

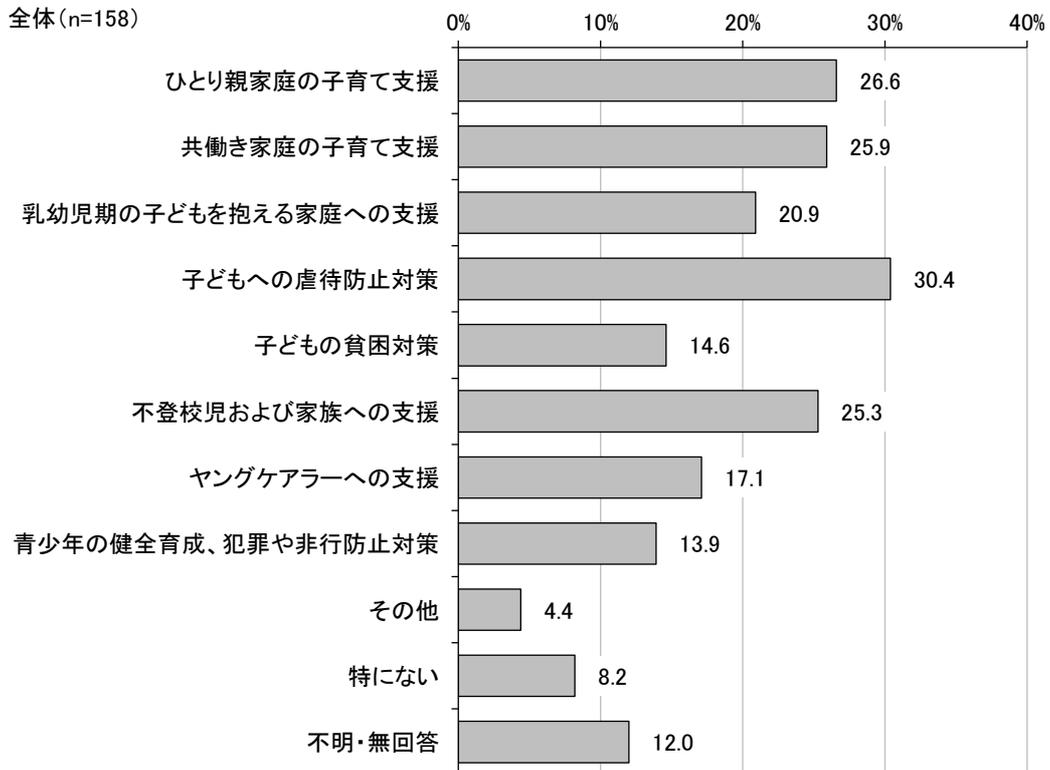
経験年数別にみると、1年以上5年未満、10年以上20年未満では「障害者支援」、5年以上10年未満、20年以上では「高齢者支援」が最も高くなっています。

単位: %		子ども・若者支援	高齢者支援	障害者支援	保健・医療	防犯・防災・交通安全	就労支援	その他	不明・無回答
全体 (n=158)		48.7	58.2	48.7	4.4	16.5	2.5	1.3	1.9
経験年数別	1年未満 (n=7)	57.1	57.1	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0
	1年以上3年未満 (n=11)	18.2	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上5年未満 (n=15)	53.3	33.3	60.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0
	5年以上10年未満 (n=47)	42.6	70.2	42.6	2.1	19.1	2.1	2.1	2.1
	10年以上20年未満 (n=47)	51.1	51.1	55.3	6.4	12.8	4.3	0.0	0.0
	20年以上 (n=28)	64.3	71.4	42.9	7.1	21.4	0.0	0.0	3.6

2 地域の課題について

問4 子ども・若者支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。(2つまで選択)

「子どもへの虐待防止対策」が30.4%と最も高く、次いで「ひとり親家庭の子育て支援」が26.6%、「共働き家庭の子育て支援」が25.9%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満では「共働き家庭の子育て支援」「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」「子どもへの虐待防止対策」「青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策」、3年以上5年未満では「ひとり親家庭の子育て支援」、5年以上10年未満では「不登校児および家族への支援」、10年以上20年未満では「子どもへの虐待防止対策」、20年以上では「ひとり親家庭の子育て支援」「子どもへの虐待防止対策」が最も高くなっています。

単位：%		てひと支援	共働き家庭の子育て支援	抱乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援	子どもへの虐待防止対策	子どもの貧困対策	不登校児および家族への支援	ヤングケアラーへの支援	青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策	その他	特になし	不明・無回答
全体 (n=158)		26.6	25.9	20.9	30.4	14.6	25.3	17.1	13.9	4.4	8.2	12.0
経験年数別	1年未満 (n=7)	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0
	1年以上3年未満 (n=11)	18.2	27.3	27.3	27.3	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	18.2	27.3
	3年以上5年未満 (n=15)	40.0	33.3	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	13.3	20.0	13.3	13.3
	5年以上10年未満 (n=47)	21.3	17.0	14.9	23.4	17.0	29.8	17.0	14.9	4.3	8.5	14.9
	10年以上20年未満 (n=47)	19.1	31.9	25.5	34.0	6.4	31.9	21.3	8.5	2.1	10.6	4.3
	20年以上 (n=28)	42.9	32.1	25.0	42.9	21.4	21.4	14.3	10.7	3.6	0.0	17.9

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、障害者支援では「子どもへの虐待防止対策」「不登校児および家族への支援」、高齢者支援では「子どもへの虐待防止対策」、防犯・防災・交通安全では「子どもの貧困対策」が最も高くなっています。

単位：%		てひと支援	共働き家庭の子育て支援	抱乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援	子どもへの虐待防止対策	子どもの貧困対策	不登校児および家族への支援	ヤングケアラーへの支援	青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策	その他	特になし	不明・無回答
全体 (n=158)		26.6	25.9	20.9	30.4	14.6	25.3	17.1	13.9	4.4	8.2	12.0
専門分野別	子ども・若者支援 (n=77)	33.8	29.9	27.3	35.1	18.2	35.1	10.4	18.2	7.8	7.8	3.9
	高齢者支援 (n=92)	26.1	23.9	21.7	29.3	18.5	27.2	22.8	20.7	4.3	6.5	14.1
	障害者支援 (n=77)	23.4	26.0	22.1	32.5	14.3	32.5	13.0	11.7	6.5	11.7	11.7
	保健・医療 (n=7)	14.3	28.6	28.6	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	19.2	19.2	23.1	26.9	38.5	34.6	19.2	34.6	3.8	7.7	7.7
	就労支援 (n=4)	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【ひとり親家庭の子育て支援】

回答内容
こもりがちでまわりの人に話したら少し楽になると思うが、それが無い人が多い。
日中子供が過ごせる居場所作りをした方がよいと思う。
子供の居場所の確保。
私はこども食堂のひとり親に対して食料等の配布のお手伝いをしていますが、少し疑問に感じます。
マンションが多く状況把握が難しい。ご近所とのつきあひもあまりなく情報が入らず。
娘が離婚して子供2人育てていますが、体調が悪く働けないので、家の場合は私達が援助しているので生活できていますが、本当に一人で子育てをするのは大変です。教育にお金がかかるのでその金額を役所、国が負担していただければありがたい。
仕事と療育の両立。
身近におりませんが助けてあげたいと思います。子供は国の宝です。
子供の悩みや相談に対応できる支援施策及び活動。
経済的支援、子ども預かり支援。
近所に頼れる親族などが居ない場合、親が1人で全てをこなすのはかなり大変だと感じます。1人で抱え込んで考えたり悩んだり不安を解消できるような専門の相談機関や集まりなどが充実するとよいと思います。
児童手当以外に住宅手当など安心して生活できるようにする。
親が安心して働けるよう保育園、放課後児童クラブ等充実させる事。待機児童がないようにする。
子供が熱を出しても預かってくれる小児科併設の保育所があれば安心して働くことが出来ると思います。
保育園の充実・病児保育や病気の時のベビーシッター利用の補助。就労支援。子ども食堂や食料品・衣料品などの配布。
補助金支給と時間外及び急な時の子供の保育預かり支援。
相談窓口の拡大。
ひとり親世帯のほとんどは母子家庭ときてます。女性の非正規雇用の賃金格差等、難しい問題です。
子供も大人も（親を問わず地域の人全て）気軽に立ち寄り集えるコミュニティの場所を市内全域に作る事が出来たら良いと思う。子供食堂等もっと増やせたらと思うが、家賃の問題で閉める所があるのは残念。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できれば、役所等連携をとります。
経済的困窮に苦しんでいないか市の給付金制度について情報得られてるのか子供の成長段階で気がつかず給付を受けられなかった等がないと良いと思う。
何年か前に並べて、一人親世帯が増えている。助け合える関係の子育てができたと思う。プレーパークの遊び場のように。
市からの支援の情報が、親に行き渡っていない様に思われます。
精神的、物的に足りない物があれば支援したい。
特に地域で気になる課題は、見当りません。引き続き地域の課題の把握に努めていきます。
一人で抱え込んでいる人が多いと思います。安心してホッとする居場所作り、経験ママ、パパが聞き（聴き）役になり、気持ちや和む場所が欲しい。

回答内容
気軽に相談しにくいイメージがある。
就学支援の充実。子ども食堂へのバックアップ。病児保育施設の増設。
見守り話を聞きながら共助につなげて行く。
仕事と子育てを上手に出来ずにいる家庭が多くいる。相談することも出来ないでいるように感じる。
給付を増やす、、、とか？（とはいえ、現状の給付金など、、知らないです、、、）
無料で子供が病気の時の手助けができれば良いと考えます。
1人親の子育てで1番困るのは、親が病気になったりして子育てが出来なくなる事だと思います。そのような時に子どもを見てくれる人・場所が必要だと思います。
支援は金銭支給ではなく生活関連用品などの現物支給
経済的な支援と相談ができたり支援を受けられたりする情報を届ける。冊子などや健診時などに
こどもが病気になったときには仕事を休まないといけなくなるため、収入が低くなる。病欠したときの支援等があるといい。
預かり制度の充実
実態がわからないため、その把握が必要。個々による事情が異なるため、話せる場が必要。子供の意見も聞けるような仕組みが必要ではないか？

【共働き家庭の子育て支援】

回答内容
保育園の料金や支援が充実して欲しい。
少し障害がある様な子育てになっている場合アドバイスをしてもらえない働くことの方が。
日中子供が過ごせる居場所作りをした方がよいと思う。
保育園の充実。
保護者のかわりにお子さんと接する時間が長い保育園では保護者、職員間で常に情報の共有をし、共通理解をしつつ、保育するようにしている。
保育園に入れない家庭も多いと聞いています。
マンションが多く状況把握が難しい。放課後児童クラブの受け入れ時間を朝夕の延長等。
学童施設でも1施設に集中してしまうと入れないご家庭がある。
夫婦間で当事者意識に差が大きい。
1～6年生、学童の年齢制限をなくしたらいいと思います。
親が安心して働けるよう保育園、放課後児童クラブ等充実させる事。待機児童がないようにする。
時間外保育と急な時の預り支援。
地域における親同士、子供同士のふれあい不足の為に情報の共有化が中々出来ない為支援強化をうたっても認識、知識不足は否めない。
子供も大人も（親を問わず地域の人全て）気軽に立ち寄り集えるコミュニティの場所を市内全域に作る事が出来たら良いと思う。子供食堂等もっと増やせたらと思うが、家賃の問題で閉める所があるのは残念。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できれば、役所等連携をとります。

回答内容
自身も共働きで子どもを保育園にお願いして育てる事ができました。気になる事は町内で保育士さんの子どもに対する声かけです。強い口調が必要な時もあるでしょうが親は知らずに預けているのであろうと考えます。
保育園や学童の待機児童について。6小校区では小学2年生でも学童に入る事ができなかつたと聞いた。1年生で入る事ができても次年度保留となつては意味がない。民間事業所も取り入れ、受け皿が拡充できるとよい。
休日親子でそれぞれ楽しめる場所作り。
どうしても共働きを本格的に行っているとお子さんをお預かりする時間が長時間となるのでさみしい思いをさせないように子どもたちに寄り添った保育を行っている。
子どもに寄り添った保育を行うようにしている。
親が不在の間の子供との関わり方を考えたい。
夫婦でフルで仕事の場合、長い時間子供を預け夜は寝るだけ朝はまた保育にと子供ながら忙しい日々を過ごしている。もっと余裕を持って生活してもらいたい。
特に地域で気になる課題は、見当りません。引き続き地域の課題の把握に努めていきます。
物価上昇が大きい。
駅前への公共施設の設置。(図書館、児童館、保育園、小児科、病児保育施設)
放課後子ども教室、居場所等充実。
学校行事や地域社会の交流等に参加の機会が少なくなっているのではと安んじます。子供達に対する関心が低くなっている様な気がする。それが、子供達の不登校、いじめ等につながらない事を望む。
学童クラブ等の増設。施設を新たに建てると、今後児童が減少した場合に運営が難しくなるので、児童館などに間借り等する。
核家族化・晩婚化が進んだ現代、子どもの成長を支える親が祖父母等の援助が受けられず、子どもの支援が行き届いていないと感じています。これは共働き家庭だけに留まらず、ひとり親家庭、親がいてもいなくても貧困家庭にも同じようにかんじています。親世代に時間的余裕が無く、金銭的問題も抱えている昨今、虐待問題やヤングケアラー等の問題にも直結してくる問題となっているかと思ひます。この問4で掲げられている課題は全て繋がっていると思ひます。何から支援していくのか…が課題となっているかと思ひますが、まずは子どもを産み育てる人の雇用が守られ、若い世代でも安心して結婚・妊娠・出産・子育て・生活していける基盤を作れる世の中になることがいいのかと思ひます。
学童終了、4年生からの地域での見守り
学童を増やしたらいかがでしょうか？3年生まで学童を使いたい人は多い気がします
保育所の人材優遇により、保育を利用している家庭の保育時間を緩やかに対応できるようにする。保育士不足がゆえに利用する共働き家庭に寄り添った対応に余裕が出来ていない現状。
朝や夕方の子供の保育が必要な時に、保育園や学童室を利用して、ボランティアで見ることができないか。
市内の放課後児童クラブの定員にあふれてしまった児童向けに放課後こども教室の事業を立ち上げる。
親が不在の間の子供の遊ぶ環境の整備
障害児を持つ正社員の場合、長時間預かってくれる所が少ない。放課後デイで長時間預かりたくても職員が足りない。

回答内容
子育てがしやすい街で、保育園の待機児童減少傾向にあると思います。しかし、小学校入学後の学童保育では1～2年で出されてしまうことが朝霞市の課題と感じています。
共働きでも収入が低い場合の補助があるといい。
預かり制度の充実
特に核家族化と併せて、社会の労働の変化、特に女性の働く環境が変わってきていることを知ること。個別の事情に合わせた、支援が必要。安心して住める環境が必要。

【乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援】

回答内容
オムツ、ミルク代が家計をひっぱくしやすい。
利用できるサービス、施設をしっかりと情報提供してあげる。
マンションが多く状況把握が難しい。こども未来課等からもう少し情報がほしい。
おかあさんと子供と一緒に児童館などで過ごせる時間を広くアピールして、同世代の方が集まれるような機会を作ってもらおう。
小さい子供をつれて集まれる(おしゃべり等)情報交換ができる場所作りが必要。
「絵本の読み聞かせ」の活動をしています。乳幼児期の子育てはやはり大変なので、お母さんたちも家庭から外へ出て友人関係を作ったり、絵本もお母さんにも楽しんでもらいたいです。
一時預かりサービスの充実または補助。保健センターでの月1回の身体計測を再開して欲しい。サークル活動をする団体が減ってしまったのは、何故か？
補助金
子どもを預かる場所を増やす。
地域における親同士、子供同士のふれあい不足の為に情報の共有化が中々できていない為支援強化をうたっても認識、知識不足は否めない。
支援センターや児童館が充実しているのもっと PR すると利用者が増え不安や心配事を相談したり、友達ができたりとプラス要素がある。
保育園とは違う。子供達を安心して預けられるしくみ作り。少子化に歯止めをかける。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できたら、役所等連携をとります。
夜泣き、眠れないなど続くと、どうしても乳児ノイローゼになりがちです。保健婦さん等に相談できるように、検診の時などアピールをしてはいかがでしょうか。
公園などで、乳幼児親子が参加できる無料イベントが増えるとよい。内間木地区などは人通りがなく、公園も少ないため、遊べる場所がない。周知方法も市役所付近の掲示板や一部の SNS のみなので、情報が届かず、家に閉じこもるしかなく、孤立している。
子育てのマニュアルから解放できる場がほしい。
子育て支援が充実している市(千葉、流山)では、人口の増加や駅の再開発が進み活気が出ていていると聞いた。子育てサロンや福祉が充実すると街に好循環を生むと思うので子育て世代へ力を入れて欲しい。
子育てに対して行き詰った際に話を聞いてあげる他に、日頃家庭の少しの異変にも気付けるようにコミュニケーションを大切にしている。

回答内容
とにかく話を聞いてあげ、家庭の様子を気にかけてあげるようにしている。
母親1人での子育てにならないよう支援したい。
子育てサロン等の充実。
地域での声かけ。支援センターへのお誘い。
乳幼児期は、子供が保育園などで色々な病気をもらい発熱や体調不良でどこにも預ける所がなくそれでも家のローンの返済の為に、働かざるを得ない時に、体調不良の子供を預ける場所（特にひどい状態でない場合）が、保健師さんのいるセンターなどが受け入れてくれると良いなと思う。
相談できる場所が増えるといいのかな…
保育所の人材優遇により、保育を利用している家庭の保育時間を緩やかに対応できるようにする保育士不足がゆえに利用する共働き家庭に寄り添った対応に余裕が出来ていない現状。プラス、ファミリーサポートの拡大を促進すれば、保育所だけに負担がかからず幅広い子育て支援が出来ると思う。
母子だけでの不安や、親の気分転換の手伝いとか、話し相手がある図書館などを利用して一緒に話したり遊んだりできないか。
子育てでの不安などを解消できる環境の支援
一時預かりなどをもっとしたり話せる場があったら
子育ての相談できる窓口が少なく、安心して子育てできる情報提供があるといい。
相談窓口の増設
朝霞は昔から住んでいる家庭は、親兄弟の支援がある良い風潮が残っていると思う。一方、新しく朝霞の住人となり住み始めた方の孤立も多いのではないかと思う。何でも相談できたり、コミュニケーション取れる支援が必要。

【子どもへの虐待防止対策】

回答内容
ネグレクトの子への支援が難しい。
子供が相談しやすい環境作り。
親の心のケア、子育ての輪、支援の拡大。
身体チェックをしつつ、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。少しでも不信があれば役所とも連携をとる。
ご近所さん方のコミュニケーションがあれば見のがすことはないかと?!
マンションが多く状況把握が難しい。こども未来課等からもう少し情報がほしい。
学校、幼児施設、医療機関の連携。虐待時保護施設の拡充。
一人で悩みを相談できる相手がない、相談のしかたがわからないという保護者に LINE 等、若い親が日常の悩みを気軽に相談できるツールがほしい。
親の相談窓口の充実。
虐待の研修も大事だと思うが、まず子どもとの関わり方を学び虐待につながらないようにすることが大切だと思います。
外からはなかなかかわからないので学校や近所の人たちがいつもまわりを気遣う事が大事だと思う。
近所からの情報を得ることが大切。深入りしづらい事ですが。

回答内容
なるべくご近所づき合いができる機会を持って、少しでも会話ができるようになると思う。町内会のお祭りとか何か気軽に参加できるイベントとかあると良いのではと思います。
近所の連携と通報。親への指導と相談。
見守りも表裏が有り、難しい問題です。
見えにくい部分がある。幼稚園～小学生は預け園や学校での指導者の目での確認が必要だと思う。
子ども達が相談しやすい環境作り。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できたら、役所等連携をとります。
虐待などで、どうしても育てる事が長く続く様であれば、里親制度にお願いして、命を助けて頂き、里親の方の広い心、優しい人に育てて頂きたい。
親のストレス、子供を一時的に預けられる場所。気楽に近所にあると良いと思う。
部屋の中だけの子育てから outdoor のストレスのあり場があると良いのでは。
家庭の中での虐待を把握するのは本当に難しい事なので地域全体で一丸となって、とり組むしかない。
身体的虐待だけが虐待ではないということをもっと周知することが必要であると思います。（子育て家庭にもそれ以外にも）
地域での声かけ。行政と連携しながらの見守りなど。
虐待が少しも減らず、もう少し周りの大人も関心を持つように働きかけをしていってはいいいのではないのでしょうか。見回りの徹底。
子供に関わる全ての事業所に対し、事業所側が虐待防止委員会設置や、研修等、やっている旨をしっかりと家庭にも公に周知してもよいと思われる。障害では虐待防止委員会は設置義務となっているが、家庭がそれを知っているかというところが半数が知らないと感じる。それだけでも小さな予防策とはなると思われる。
高齢者や障害者の家族と同居もしくは関係しているケースが多いと思います。縦割り行政ではなく、横との連携を取りながら役割分担をしっかりと進めていく必要があると思います。
保護者のヘルプが出せる窓口があると（数が増えて、周知されること）虐待は減るのかな。。。??
保育課とこども未来課、教育課、障害福祉課、保健センターの連携が取れていない。見守り家庭である児童の認識も連携が取れておらず、防止ではなく起こってからの対処も遅いと感じる。
虐待を受けている子との関係性や関係機関との連携が取れるようにする。事案を知った時の動きなどを事前に相談しておく。
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
専門医か専門家の指導による、手伝いができるようなフォローができないか。
困りごとのある家庭を早期に発見し、福祉相談サービスへ繋げる。例えば、発達に遅れがある子や経済的に困窮している家庭の子を保育施設や学校教育現場で発見した際にソーシャルワーカーや児童発達相談員に繋がられるように積極的に外部の保育所等訪問支援事業を利用し、市内の専門機関に繋げていく事が大切であると考えます。
虐待に向かわないような開かれた多くの見守りがある環境支援
子どもを産んだ時から母親支援が必要だと思う。母親を孤独にさせないようにする。
一般の人がより通告がしやすいように、通告の制度の周知、情報提供者の保護の徹底
障害児者や子育てで孤立しないように支援する。

回答内容
子どもの虐待通報先「189」は、福祉の現場で働いている人であれば、認知しているが、市民にはなかなか広まっていないのが現実です。コンビニやスーパーなど、多くの人が見てもらえるようなポスターを掲示してもらうことで、虐待通報先がわかるのではないのでしょうか？
虐待が表面化しにくいいため、こどもが安心して通報できる仕組み作りが必要。地域連携で気になる子がいたときに連絡する場が明確になるといい。
見守りのくしみを再考 保育園、学校の連携の強化
一般市民は実態がわからないこと、関わりたくないこと、などがあると思う。市民に広く周知する講演や啓蒙運動が必要ではないかと思う。今まで気づけなかったことに気づいて情報をもらい専門家に繋げるようにする。

【子どもの貧困対策】

回答内容
実際、子どもの貧困を感じたことはないので難しいです。
TVのCM等で食事を食べれない等とありますが、本当なののでしょうか？
保護者の生活の安定。
助けてあげたいです。修学旅行の費用も高いと聞いています。
生活保護世帯の援助。学校との連携。
ご飯を3食食べられていない様子の子がいる(お昼なしなど)。こども食堂が身近にない地域もあるので、こども食堂を増やしたり、曜日に関係なくいつ行ってもご飯を食べられる場所を作ったりすると良いと感じる。
働いている親達にむけたこども食堂もあるようだが本当に困っている子供に向けたこども食堂を増やしてほしい。
こども食堂。大学生等のボランティアで勉強や宿題を教えてもらえる。
外からの判断がわからないので自己申請かこども食堂等の利用や支援。
子供食堂等ありますが、利用者が限定的な感があります。利用者と提供者のバランスが難しいのかなと思います。
古着回収。学校で必要な教材など不要になったものを常に回収し必要な家庭に配布。気をつける事は、それを売ってしまう人がいる事。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
学校との連携がないとできない。
子供食堂を増設しそこに中学生・高校生等のボランティアを派遣し学習指導や見守りを行う。
貧困故に、本来あるべき環境の中で安心して生活できない、十分な本人の望む教育を受ける事が難しくなっている事に、将来を危惧しています。国の宝である子供達の安全・安心な生活環境を整え、教育にもっとお金をかけて欲しいと思います。
町内会地域の公民館などで週に1回位でも子供食堂、食材の配付を試みる。
行政からの家賃補助や定期的な給付金。
おそらく、、、なにかしてくれていると思うのですが、、、知られていないのでは????

回答内容
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
希望者は、学童教室で栄養補給が出来るが良い。
預け先が多種あって親が働けるようにする。
虐待と同様、表面化しにくい場合があるため、こどもが通報できるシステムが必要。
見守りの仕組みを再考 保育園、学校の連携の強化
支援金など支える支援も大事である。それと同様に貧困やお金稼ぎで闇バイトなどに手を出さないような教育も必要。貧困と犯罪は隣り合わせと思う。

【不登校児および家族への支援】

回答内容
中学にさわやか相談室がありますが、小学校にも来てほしいです。家族への支援ができています。
私のエリアには中学生が不登校している子が居て中学校に相談に行きましたがそのままかな？！家族は外国人でご近所さんも話にならないと。多分、猫ちゃんの相手をして、学校に行かずにいて、母親もそれでいいとすねているのです。
今は不登校があってもそれにかわるフリースクール等がありゆっくり見守る事が大切かと。そして相談があれば話を聞き出来ることがあれば協力(サポート)。
無理に行かせなくてもいいと思います。フリースクール等で支援したらよいでしょう。
学校に行くことが全てではない。学校以外に学ぶ選択肢を、当たり前にも選べるような発信をしてほしい。
学校へ行きづらくなっても学習の機会が失われないようオンラインでの授業を受けられないのか？
学校では学校へ来てほしい考えで、相談室ではまずは休息が必要と案内される。相談室登校が難しい子ども他の行き場所、居場所が少ないので選択肢や場所を増やしてほしいです。
学習塾等でも出席扱いができるようにする。
学校のカウンセラー配置の推進。
先生だけに負担がかからない良い方法。
ある一年生の児童。お母さん、おじいさんが働いており一人ぼっちで留守番をしている不登校の児童です。学校も、私にも連絡が出来なくなりむろん訪問しても出てくれませんでした(私はしつこく TEL したり訪ねたりしてきられたかも)。2年生になりしばらくして担任の先生と連絡がつくようになりホッとしております。よりアイデアは浮かびませんでした。
家族との相談や学校との懇談や話し合い等を重ねる事やさわやか相談室の充実が大事。
不登校児のためのフリースクール。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
学校ばかりが、絶対に行かなければならないところではないので？グループで話し合い、色々な悩みを話す場所があれば良いと思う。
2つという事ですが、朝霞市の子ども数の増加にともない多くなっている、親の不安をやわらげるため当事者同士のしゃべり場の設置。
気軽に出入りできる場所を市内に作って欲しい。
難しい。

回答内容
子ども、親、学校での話し合いで先生の呼びかけを、期待します。
今、学校が荒れていて、落ち着きのない子が多いように思います。そんな中で、不登校ぎみの子は、益々行きづらくなっています。子どもの個性を伸ばすのは大切だが、自由の中にも規則があり守っているから社会が成り立つことをまわりの大人が知らせて欲しい。またボーダーの子が増えている。その子に合ったカリキュラムを用意し見守る体制を考えていく。
市内に公設のフリースクールがあれば良い。いつでも自由に通える場！
不登校になるきっかけ、理由が多様化、複雑化しているように感じています。「しんどさ」を抱える子ども達が多いというのを理解した上で、不登校の先に何が待っているのかを、子ども達がどれくらい理解しているかが気になります。不登校の先輩達がどのような人生を歩んでいるのか等の調査はあるのでしょうか？
積極的に電子機器を使用しての親、子供とのコミュニケーションをとる（携帯等）。
家族対象のサークルとかを作って意見交換サポート支援を行ってみてはどうでしょうか。
高齢者や障害者の家族と同居もしくは関係しているケースが多いと思います。縦割り行政ではなく、横との連携を取りながら役割分担をしっかりと進めていく必要があると思います。
家族の意識調査
家庭内と学校だけで解決しようとする行き詰まってしまう。学校などからカウンセラーや医療機関を提案したり紹介したりする。
どこに相談したらいいのかわからない保護者は多そうです。医療でもないし、福祉でもないし、、、困ってセンターに連絡が来ることがあります。
数年前はコロナの影響もあると思ったが、現在での不登校となる理由の多くはなんだろうか？
ご家族も協力してくれないと登校するのも厳しいので学校や市の方含めて登校できる環境にしていく。
学校以外での「そこにいても良い場所」作り
他市では学校外に通える相談室があるのに朝霞市にはない。学校に相談室があっても学校へ行くのが辛いのにそういう視点がない。
不登校でも自宅で学習できるシステムがあるといい。スクールカウンセラーとオンライン相談等ができるといい。
学校クラス担任の指示のもと、学校運営協議会と民生委員と地域保護司と PTA と連携し、訪問支援、送迎支援などを行う
なぜそうってしまったか個別の理由がある。実態がわからないので現状どうなっているか各機関と協力して知る必要がある。カウンセリングなどで支援策を考える。

【ヤングケアラーへの支援】

回答内容
声を挙げ、助けを求めやすい窓口の設置、情報公表(学校等で具体的に知らせる)。
お手伝いと違い児童との話し合いで理解をしてもらう。そして何の支援が必要かを考える。
市の職員の方が見守り、話を聞いてあげるべきです。
役所、学校の連携推進。
関り方の初期がむずかしい。

回答内容
外からの判断がわからない。家族との話し合いや福祉相談受付を（窓口）わかりやすく設置する。
子供達への勉強会。手伝ってくれる支援があることを知らないと思うのでまずはそこから。
一人で悩まないようにする。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
親の介護と同時に兄弟の世話へのリスクも高い。学校と福祉連携、当事者が将来へ望みが持てるような環境・相談先。
障害を持った家族を子どもが介助しているニュースを見る事が増えた。頼る所がない、頼り方が分からず、自分の事を後回ししてせざるを得ない状況が出来てしまっているのだと思う。相談窓口を拡充、情報提供を積極的に行い、サービスや支援を受けやすい体制作りが必要だと感じる。
地域全体の協力。
今、学校が荒れていて、落ち着きのない子どもが多いように思います。そんな中で、不登校ぎみの子は、益々行きづらくなっています。子どもの個性を伸ばすのは大切だが、自由の中にも規則があり守っているから社会が成り立つことをまわりの大人が知らせて欲しい。またボーダーの子が増えている。その子に合ったカリキュラムを用意し見守る体制を考えていく。
相談先リスト。
ヤングケアラーと言う子どもたちの人数が当市では把握できているだろうか？
ヤングケアラーは、あまり表面化しないので、わからない場合が多い。学校で、当事者が相談しやすい環境（学活の時などにこれがヤングケアラーなんだよ）と言う話をする機会があると良いと思う。
積極的な保健センター、市の介入
困ってるよ！助けてほしいよ！ってヘルプを出す場所の周知と、ヤングケアラーがどの程度存在しているのかの把握をして、定期的に「困ってる？」など、こちらから発信するような機会があるといいのでしょうか？
地域包括支援センターでの業務の中で、ヤングケアラーとされるケースを対応したことがない。どこで、どんなタイミングで情報を得るのか？
現在の支援は縦割り行政のままなので、若い人にわかりやすい利用案内が必要と思う。
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
子供たちに負担がいかないよう、子供らしく生活できる環境整備
早期発見、多機関との連携、総合支援できる部署の開設
家庭でなにが起こっているのか把握するシステム。学校や地域、福祉など横の連携
自分だけで抱えなくていいこと、人を頼っていいことを発信して、支援の方法があること、相談窓口等の情報を届けられるといい。
生活保護受給担当職員とケースワーカーと民生委員と地域保護司と連携会議で実情を把握し、訪問支援
学校による状況把握
ヤングケアラーという言葉がまだ浸透していない。また自分自身がそれに該当していると気づいていない人もいるのではないかと。わかっていても支援のことを知らないのではないかと。

【青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策】

回答内容
地域防犯パトロールを実施しているが、隊員が高齢化している。
この様なお子さんがいるのであれば、ご近所のコミュニケーションがあればみつけるのではと考えます。
情報が多い社会でまわりの大人がシンプルであるが事の善悪を教えるのではなく考えさせる(小学校から)。
保護司としての対象者サポート。
今、闇バイト等がはやっておりますが、警察、学校等で講演してください。
薬物乱用、闇バイトに手を出さないよう中学校で年1回ぐらいは話をしてほしい。
警察、学校の連携をする。
広報活動の充実。
SNS 拡散防止。子供1人1人の気持ち、意思の向上の為の指導、悪い事は悪いと言える空間作り。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
根岸台の一部の地域で外国人居住者の子ども達が貧困の為、犯罪に走る傾向があります。市の方で把握しているのでしょうか？
幼児から、紙芝居、寸劇などを使い、楽しさ、怖さの教育が必要かと思えます。
「おはようございます」「さようなら」等、あいさつが良くできています。
少しでも間違った方向に行かないよう、人の道を踏み外す事のないよう、大人がしっかり見守らないといけないと思っています。いけない事はいけないと教える必要があり小さな兆候は見逃す事のないよう、少しでも早いうちにと、微力ながら月2回程朝霞近辺の補導パトロールのサポートを仲間と続けていこうと思っています。
啓発活動に参加。
浜崎近辺は、怪しげな子はみかけません！！
乱暴な言い方だが、「発散できる場所」作り。青少年たちの意見で出来る場所作り
強盗や凶悪事件の低年齢化、貧困対策や教育の安定化を行政だけでなく、地域活動を通して、行えるものもあるのではないかと。
家庭や経済支援など上記の問題が解決すると健全育成につながると思う。
善悪が理解できるように地域全体で防犯活動等を取り組み、小学校等も巻き込み、こどもの頃から参加できるといい。
子供の頃から、教育で道徳や倫理、家庭内で躾などを当たり前のように教えるべき。上記の不登校、ひとり親家庭や共働き家庭の対策などにつながることを認識をする。大人も学ぶべきで、子どもは親を見て育つ。

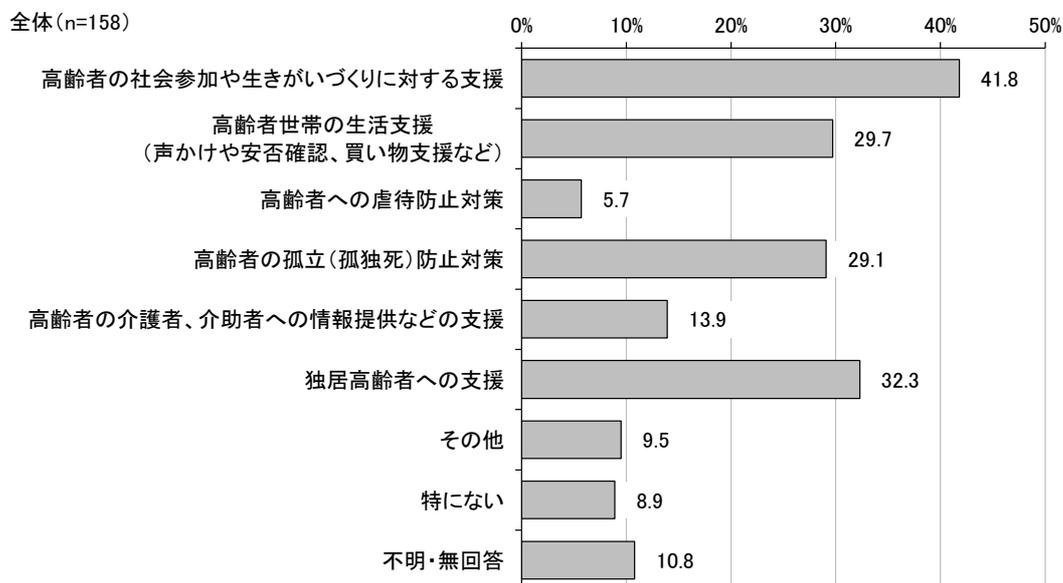
【その他】

回答内容
「挨拶の励行」の看板を提出している。
放課後の居場所
[福祉の遅れ]

回答内容
近辺の市区町村に比べて、福祉は遅れている！と、言われがちですよね…。相談支援も増えるといいのかな??
障害児者の支援、特に成人後
児童相談所の増設など、救急車並みに直行できる制度は無理なものなのか？時間がかかりすぎる。
5、6、7、8については各学校の先生方が身近に感じている問題と思います。学校と行政、民生委員等常に連絡をとり協力していく事だと思います。
ニート・引きこもりになってしまった若者が介護職員になるシステムがあれば、介護人材不足の解消につながるのではないのでしょうか。
この頃特に、狭い道が多いにもかかわらず、トラックやダンプが増えた気がする。かなり乱暴な運転を見受けるので注意が必要。特に通学路など見ていてヒヤヒヤすることが多く思える。

問5 高齢・介護に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。(2つまで選択)

「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」が41.8%と最も高く、次いで「独居高齢者への支援」が32.3%、「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が29.7%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満、5年以上10年未満、20年以上では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」、3年以上5年未満では「特にない」、10年以上20年未満では「独居高齢者への支援」が最も高くなっています。

単位: %		支援が 高齢者 の社会 参加に 対する 支援	高齢 者の 生活 支援 (声 かけ や 安 否 確 認 、 買 物 支 援 な ど)	高 齢 者 の 孤 立 (孤 独 死 防 止 対 策)	高 齢 者 の 生 活 支 援 (買 物 支 援 な ど)	高 齢 者 の 孤 立 (孤 独 死 防 止 対 策)	高 齢 者 の 介 護 者 、 介 助 者 へ の 情 報 提 供 な ど の 支 援	独 居 高 齢 者 へ の 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		41.8	29.7	5.7	29.1	13.9	32.3	9.5	8.9	10.8	
経験 年 数 別	1年未満 (n=7)	0.0	57.1	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3	
	1年以上3年未満 (n=11)	63.6	27.3	9.1	27.3	18.2	27.3	9.1	9.1	9.1	
	3年以上5年未満 (n=15)	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	26.7	0.0	33.3	20.0	
	5年以上10年未満 (n=47)	44.7	34.0	4.3	27.7	17.0	25.5	6.4	4.3	12.8	
	10年以上20年未満 (n=47)	42.6	27.7	2.1	29.8	12.8	44.7	12.8	6.4	4.3	
	20年以上 (n=28)	42.9	25.0	14.3	28.6	10.7	32.1	14.3	7.1	14.3	

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」、防犯・防災・交通安全では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」「独居高齢者への支援」が最も高くなっています。

単位：%		支 援 が い づ く り に 参 加 す る 生 き が い の 支 援	高 齢 者 の 支 援 （ 買 い 物 の 支 援 な ど ）	（ 声 か け や 安 否 確 認 、 支 援	高 齢 者 世 帯 の 生 活 支 援	策 高 齢 者 へ の 虐 待 防 止 対 策	死 亡 防 止 対 策	高 齢 者 の 孤 立 （ 孤 独	支 援 者 へ の 情 報 提 供 な ど の 介 助	高 齢 者 の 介 護 者 な ど の 支 援	独 居 高 齢 者 へ の 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		41.8	29.7	5.7	29.1	13.9	32.3	9.5	8.9	10.8				
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	45.5	32.5	2.6	24.7	15.6	31.2	6.5	11.7	11.7				
	高齢者支援 (n=92)	50.0	37.0	7.6	34.8	10.9	39.1	13.0	2.2	5.4				
	障害者支援 (n=77)	45.5	37.7	5.2	29.9	11.7	32.5	9.1	7.8	11.7				
	保健・医療 (n=7)	57.1	28.6	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0				
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	50.0	38.5	15.4	34.6	11.5	50.0	15.4	11.5	7.7				
	就労支援 (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0				

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援】

回答内容
性格上、生きがいづくりにさそっても難しい人が多い。
いろいろなサロン等に参加してもらおうこと。
先日の民生でも言っていましたが、地域包括の方々の努力で居場所作りをしているのを知らせるのがいいのだと思います。
民生委員、児童委員でサロンを運営。世代交流の場ではあるが参加者をいかに声掛けするか。特に男性は少ないのが課題。
現状ではサロンなどボランティア活動になっているのを市役所も積極的に地域人と関わってほしい。
学校に日中行けない子供達と、お仕事されていない高齢者が一緒にご飯を食べる、学習を見守る、お話を聞くことやゲームを教えてあげるなど共有できる場所作り。
老いていく道程で、コミュニケーションとるのが苦手という声は心の中を知る中でじっくり話を聞いて、一緒に考え、移行できるよう支援した。
サロン等を作り、参加して頂きたい。
ラジオ体操、清掃活動等のよびかけ。
デイサービスはリハビリ特化等、ただの預けではないところもふえてきているが、デイ未満(要介護、要支援未満)の人が参加できる必要とされる社会のために、団体をたちあげやすくする等。
多様化する趣味、生きがい作りへの対応(画一的なプログラムのメニューだけでなく金銭をとまわらない麻雀やパソコンサークルなど)。

回答内容
居住している地域に集える場所づくり。
サロンなどの紹介。
サークル活動、老人会のしょうかい、参加勧誘。
本人が喜んで参加してくれるなら良いですが、無理強いをしてまでやると互いにつらい。
中には人と接することがイヤな人もいるので、無理強いはできないが声かけで参加を促すしかないと思う。
高齢者の方は、自分の殻に閉じこもりがちで催し物の参加に誘っても中々出て来ない方が多く、いかに参加してもらえるか？
人によって生活は様々ですが、まずは健康でなくては。それには、スポーツや趣味、シルバーでの仕事、何より家族との関係を良好にして、笑顔でいられるように、家族同士の声かけなど。
社会参加してもらう為に、病院（かかりつけ）での支援など。
小学校や保育園などから近隣に住む高齢者へ「見守り」「読み聞かせや素話」「昔あそび」などの協力をもっとアピールし、高齢者が率先して参加するよう働きかける。
無料で月に何度でも高齢者が気軽に集える場があると楽しく元気に過ごすきっかけ作りが必要だと思う。
訪問時に地域のサロン等の話をする。
定年の延長、70歳、75歳でも働きたい人は、本人の希望で仕事できるようにする。
日常的に家にこもらず、他人と過ごせる場所があると良いと思う。他人との交流からスタート。
高齢者が寝たきりにならない様に月1回歌、運動、季節の行事等のボランティアをしておりますが、参加していない人に声かけをしております。
町内会のイベントに参加したり、誘うなどする（健康であっても人の関わりが苦手な方は難しい）。
近所にあると良いと思う。足腰が弱い人が多い為又は話せる場所。
内間木地区では歩道が狭く、大型車の交通量が多い。一軒ごとの間も離れており、とても社会参加や生きがいづくりができる環境ではない。中心地のみならず、全体を見て対応してほしい。
働ける場があり、個人を認めてもらえ、必要とされる所作り。
健康な高齢者が、スポーツ等で、より健康を維持する場合の施設が足りない様に思います。
ひとりで出歩けない人はデイサービス等に頼るしかない。
高齢者が増加している近年対策として社会参加は、欠く事の出来ない課題である。参加の方法として役所、社協、民生委員、公民館又は、インフォーマル等の組織を利用して、健康の増進、社会奉仕（花植え、防犯パトロール等）・地域交流・レクリエーション等の諸活動の活発化を仕向ける。
デイサービス等の施設に、公民館等でお稽古している（詩吟、カラオケ、踊り等）事を披露する。
サロンなどでつながってはいるが、一定の元気な人のみ参加。やはり、近場で少人数でお茶飲みなどして、話せると良い。
敬老会等の活性化。
本人の意欲、身体の問題等により年齢が高くなればなる程、女性よりも男性の方が社会参加や生きがいづくりに消極的になる傾向が強いように思う。人生100年時代と言われている現代で、社会参加や生きがいづくりをする事はとても大事であり、それをしやすい環境作りや啓蒙活動の必要性は感じている。
誰でも自由に出入り出来る居場所作り。軽くお茶を飲みながら世間話が出来れば良いように思う。おしゃべりをして元気になる。

回答内容
生きがいをもてる支援活動。集まって体操、脳トレ、おしゃべり等々笑って過ごせる時間場所を継続的に提供して共に過ごす。
自分の健康や老後に対する意識向上の為に意識改革ができる様な事（思いつきませんが…）。
介護予防事業や地域活動へ参加して欲しい方がいても、要介護の方だと送迎がないと難しい場合がほとんどです。決まりきった介護保険サービスだけでなく多様な参加の場へ誘導できるよう行政サービスがあると良いと感じます。
気軽に出入り出来る場所がもっとあり、その集いをもっともっと知られていけば良いかと思う。
デイサービスや地域包括支援センター、市などと協力してイベントを行う。
シニアクラブ連合会の充実
これまでに培ってきた仕事、趣味等の経験を活かす場所を提供・設定し、容易にアクセスできる環境を作っていたいただけると有難いです。
働き口を増やして、地域とつながる！！とか？
自治会館や町内会館の管理やルールは会の独自のものと思うが、せっかく、周辺地域住民に知られた場所ならば、高齢者の集いの場として開放してもらえるといいのではないかと思う。
高齢者の元気な方が、介護や話し相手や買物などのお手伝いした分をクーポン券として、自分が買物などが必要になった時に使えるようなシステム
知恵や知識が活かされる社会参加
より自宅の近くで参加できるイベントの実施(集会所や公園を活用)、高齢者限定のイベントや年齢制限を設ける(80歳以上の人のみなど)
機会を作るためのリーダー作り、世代交代への対応
高齢者が「役割」をもつことは非常に大事ですし、認知症予防・症状の低減にもなります。手芸・料理など得意なこと、英会話などやりたかったことの小さなサークルがあれば良いなと思いました。

【高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）】

回答内容
一人暮らしの高齢者のサポートが不足していると思う。
地域で声かけをします。
日々の買い物に困っている人が多いです。配達もありますが、金額ある一定買わないと使えません。出かけたくとも、交通の便が悪いです。
身体介護を専門職が行っているが、生活援助を必要としている方が多い為資格がなくても出来る人材を増やす。
一人でいると、一日誰とも話をせず過ごしている。話し相手が乏しい。一人暮らしの老人を狙った犯罪が多く、見回りを勤めている。
やはり、ご近所のコミュニケーションでは。
車を運転していると横断歩道のない大きな道路でも平気で横断している高齢者をかなり見かける。ほぼ高齢者の方ばかりなので、危ないと思うことが多々あります。
声掛け、安否確認、おしゃべり、お話を聞いてあげる、買い物、通院等お手伝い。高齢者が集いおしゃべりする場をもうける。

回答内容
顔を合わせてあいさつできる関係をまずは目指しています。
ゴミ捨ての際など見かけたら声かけする。
高齢化社会に向けて、中学生の職業体験的なことで参加する。
自治会からの情報活用。
家族以外の方が家に入る為の取っ掛かりが必須。
地域包括につなげていろいろなサービスをうけられるようにする。
家の回りはスーパーがあり便利であるが、遠い場所では買物もできないと話を書くことがあり「とくしまる」のスーパーカー利用や買物したものを自宅まで配送システムを増やした方がよい。
日常の挨拶が大事。
猛暑の時期など外へ出るのがつらくて、買物も出来ないとの声を聞きます。地方では移動スーパーがある様に、お店の方が近くに来てくれる環境が作れたら買物が楽になるかもしれない。
重い買物（お米等）がある時に声をかけて下さいと伝えています。又、自宅の前の道路を腰痛のため掃除できない隣人の為はいています。
独居の方が、今後増える。商工会、自治会で協力、市内なるべく多くの場所で移動スーパーを小分けして分散販売。
高齢者が増加している近年対策として社会参加は、欠く事の出来ない課題である。参加の方法として役所、社協、民生委員、公民館又は、インフォーマル等の組織を利用して、健康の増進、社会奉仕（花植え、防犯パトロール等）・地域交流・レクリエーション等の諸活動の活発化を仕向ける。
アンケートなどを取り、今一番何を欲しているかを聞く。結果をそのままにせず出来るかどうかは後に判断、こんな事をして欲しいとこちら側に投げてもらいたい。百に一つでも出来るかも知れない。
敬老会等の活性化。見守り、見回り。
家族機能の社会化。例（北九州市 NPO 法人抱樸）。
見守りをしている。
2、3日連絡がない時はこちらから電話する。チャイムでは聞こえない時がある。
75才以上の独居の方への訪問、イベントのお誘い、包括支援センターへのつなぎ。
支援の情報を知らない、躊躇する高齢者も多い。支援を必要とする高齢者を支援する側も把握しづらい。相互が気楽に気軽に情報交換や話しかける場所や機会がもっと増えれば良いかと感じる。
新聞屋さんとか、なんか、回ってる人たちを巻き込んで、安否確認!!!
町会の人か、民生委員などが、不定期的に訪ねる
障害者施設で勤務しているが、障害者の日中活動で配達とかできたら面白い
定期的に決まった人が声掛けや安否確認をする体制を作ってほしい。
地域の中で孤立することで、近隣住民と対立する事の無いよう、定期的な訪問支援
闇バイトによる今までになかった犯罪が毎日ニュースなどで当たり前になってきた。訪問や声かけが安易にできない社会情勢になってきた。活動や支援の仕組みを社会の現状に合わせないとならないと感じる。

【高齢者への虐待防止対策】

回答内容
家族、親子関係についての教育、支援するため若い世代の人に早くから人間関係の研修。

回答内容
情報と町の電気屋さん、コンビニ、新聞屋さん等から入手。
虐待する者、される者、それぞれの相談窓口を充実する。
通報システムの推進。
虐待に相談しやすい環境作り。
虐待の把握と家族の相談会等を継続的に実施、介護者の負担軽減を図る。
低賃金の為の人材不足。
入所施設を増やして、家族の負担を減らす！！施設では、、、研修か、、、もう、、、、防犯カメラつけて、市が視聴できるようにする！！（本当は見なくていい）
一人に対して複数の施設、複数人間が支援する体制

【高齢者の孤立（孤独死）防止対策】

回答内容
行政による手厚いサポートが必要と思われる。
日頃、近所とのつきあいがいとなかなか難しい。又、民生委員としての声かけも限りがある。
細かいエリアでの見守りや声かけ。
地域の行事に参加するよう勧めている。ラジオ体操。
ご近所のコミュニケーションが大事だと思う。
ご近所つきあいのないなかなるべく声掛けをする。
ボランティアや郵便などで困っていることがあったら連絡してください。と役所、社協の相談窓口をつくる。
ご近所におりましたら声掛け等をしたいと思います。
身寄りのない高齢者のための施設はないのかと思います。他の人と関わることは大切なことだと思います。
声かけや近所の方の情報。
地域住民の交流。
近所付き合いの若手な方が難しい。
地域包括支援センターとの連絡を窓にしてお互いの情報交換が必要。
民間のホームセキュリティーの導入にあたり工事費や月々の料金に対して一部助成する事で急変時に対応が容易になると思います。
新型コロナウイルス感染の影響で高齢者の孤立が…人と人とが繋がりを実感できる居場所づくり。支援を求める声を上げやすい地域づくり。
信頼のおけるご近所さんや、民生委員などに連絡先（ご家族や親戚）を伝えられる間柄であることが望ましいが、警察・行政が把握し、何か異変があった場合すぐに連絡が取れ踏み込める状況であって欲しい。
近所の人達が日常の変化を見逃さない。
個人情報もあり専門家なりがしっかり関わった方が良い。民生委員だけではムリがある。
声かけや、郵便受、新聞等の確認をし、市役所、包括に連絡。
独居の方を地域で見守る。
兄弟や子供が、別居であれば、居住地がどこか、遠方なら知人・友人と交流があるかなどを把握できるようにしておく。

回答内容
確認の為。80才以上の家庭1人個人に1個又は、ボタンを押すこと一日一回。
内間木地区では孤立しやすい。SNSが利用できない高齢者にとって情報が届かない。近隣とのつながりが気薄のため、孤独死しても誰にも気づかれない恐れがある。
今後、単身の高齢者世帯が増えて行き、孤独死に直面してしまう恐れにある方々も多いと思う。地域住民同士でつながっていれば良いが、最近はつながりが薄れていると感じる。サロン、集会等、集まれる場所の提供や安否確認が出来る状況等、孤立しない環境整備が必要。
高齢になって孤立しないように若いうちから周りに関わりを持っておく。
高齢者の孤立化防止の為には、出来ると思われる事は、町内会・老人会、地域住民（隣家）、諸行事、防犯パトロール（社会参加）等、積極的に参加出来る仕組みづくりを醸成する。
訪問、声かけ。
民生委員として、お宅を訪問しても「来ないで欲しい」「訪問されるとみっともない」などと言う人がいる。近所の人が見守ってくれると安心するんだと思うので、負担にならない程度の訪問をしてくれるとお互いに良いかと思う。
町内会の機能がどんどんなくなってきていて地域のつながりが希薄になっていると感じます。町内会の機能自体を見直し、再生させることが地域づくりの近道なのではないかと思います。
町内会での高齢者への取り組み
提供主体にかかわらず、高齢者の安否確認、見守りを定期的に行い、情報共有できる体制が整備できれば、孤立を回避しやすくなると思います。
いざという時に地域包括支援センターや社会福祉協議会にたどり着けばなんとかなるので、ささいなことでも気軽に相談できるように受付体制を工夫して欲しい。
3番と同様。みんなを巻き込む
外に出ることが嫌い、人付き合いが苦手な人に対して、どのような支援をしたら良いのかが難しい
買物などの声掛けを皆で行う。保育園の散歩のついでに行けないか？
市内の独居老人の自宅を訪問したり、高齢者がサロン、老人センターなどで福祉サービスを専門としている職員がデイサービスなどの福祉サービスを利用できることを案内して、福祉の手が必要をしている人達にいきとどくようにする。
高齢者共同住宅等の設置及び積極的な居住者の募集

【高齢者の介護者、介助者への情報提供などの支援】

回答内容
だれにでも分かりやすい情報の提供。
民生の方、若い方が情報を渡すのがいいと！チラシを渡す等する。
後期高齢者の介護者や家族に向けての研修、セミナー、仕事と介護の両立の仕方、プランナーのアドバイスなどの情報提供を手紙などで欲しいです。関わり方や、高齢者の自立と支えのよりよい距離感などのじょうほうを知りたいし、虐待防止へとつながるのではないかと思います。
朝夕、家周りで掃除などを行い、近所の方から声かけしやすい雰囲気を作って話を聞いたり相談に応じる。
話を聞いて上る情報をもっと知りたい。（介護はいつ終わるか解らず、疲れるし淋しいものであるから）。
老々介護、介護者が障害や難病等何かしら病を抱えてる家庭の把握と相談先の提供。

回答内容
老老介護、老障介護等、家族が頑張ってしまう、心労が重なって限界を迎えてしまう事実も少なくない。声を上げづらい状況にある、情報が行き届かない実情があるため、情報の提供や地域の現状を把握し、サービスが利用できる方向に持っていければ良いと思う。
とにかく注意をして、異変に気付くようにして、話を聞いてあげる。
このため役所、民生委員や上記の各インフォーマルな組織に老人の社会参加をさせることにより、孤立化を防ぐ為の認知度不足の補填を行う。
高齢者を見守る側（家族など）も実際自分の生活などで、手を貸せない状況がある。
SNSの発信！！ぼぼたんもみたい！！（ぼぼたんの制限きつい！）
ラインを活用したグループ作り
本人はもちろんその方の家族を含めた、包括的な情報提供が必要と思う。介護が必要になってきて、初めて知るケースが多いのではないか。色々な方法で、介護支援が受けられることを周知しながらコミュニケーションを取ってはどうか。

【独居高齢者への支援】

回答内容
私は、気が付いたら支援する旨を伝えている。
地域での取り組み。
声をかけあいコミュニケーションをする。
定期的に訪問し、お話を聞く。
訪問をしながら包括支援センターと情報を共有し相談をしながら出来る事はする。
町内会などへの入会をより簡単にできるようにしたい。
都では、シニア向きの食事会があるそうです。我が町でもどうでしょう。
見守りサービスの拡充。
声かけや近所の方の情報。
公設の介護施設。
人との付き合い方ができないと難しい。
連帯保証人がいない為に賃貸住居に入居が難しい高齢者に対して入居が容易になる様にして頂きたいと思えます。
訪問時、体調の状態や困っている事等の確認する。留守で何回か会えない時は地域包括支援センターに連絡し生活状況を確認する。
見回り、声かけの中で不足な事、悩み事などを聞き出す。
市と民生委員が連ケイし、高齢者に声かけをする。
高齢者となるといつなん時何があるか分からないと思うので常に様子を見にいたり、異変に素早く気付き対応することでさみしい思いもせず、安心して過ごせると思う。
独居高齢者の孤独回避と支援は、1. 公的機関が実施する見守りシステム改発と増設、2. 地域住民が行う諸行事への参加促進、3. 近隣住民からの支援、4. 公民館等で行っているグループサークル。
訪問し、話を聞き、包括支援センターに依頼してありますが、連絡先は明記しておく。
1の質問で答えたように、寿命が長くなったことと高齢でも元気な方々が増えてきている為に当然周囲にも独居の高齢者が増えてきている。一人でも一応日常生活に問題がなければ、何とか自分でやっていき

回答内容
いと考えられる方も多く、小さくても問題を抱える方を見つけるのは難しい。そういう方々を見つけ出す為にも周囲に目を配り見守る必要を感じている。何かあれば必要な支援を受けられるよう行政等につなぐ事も必要。
日中独居の方が多いように思う。普段の近所付き合いが大切。お互いを認めあうことにより安否確認できる。
身寄りのない高齢者の後見や意思決定の行政サポートが必要。
住居など身元保証制度が必要な独居者への対策。民間法人への認証対策。
地域ぐるみで考えなければならぬので独居の方に常に訪ねたり、お誘いすることが重要。
訪問、現状をお聞きする。
地域参加の為に子供達を巻き込んだ取組み。
高齢になると、買い物が大変なので、移動販売車を週に2回位出してもらえると助かります（現在は週に1回）。
いざという時に地域包括支援センターや社会福祉協議会にたどり着けばなんとかなるので、ささいなことでも気軽に相談できるように受付体制を工夫して欲しい。
身寄りのいない利用者への支援、生活困窮者への支援
電球替えたい！とか、ちょっと困ったに手がかせるようなボランティア制度！協力したら1ポイントで、大学進学に有利とか！！就職に有利とか！！とかとか！！
独居高齢者のリストがあるといいと感じる。避難台帳にある情報は実情とは違うことが多い。
認知症で独居の方の支援で関わっていたことが多くあり、本人、家族の了承を得て近隣、町内会も巻き込んで支援してもらっていたことがある。
外に出ることが嫌い、人付き合いが苦手な人に対して、どのような支援をしたら良いのかが難しい
定期的に保育園や学校などの給食に招待する
町内会などの協力を得て、地域の独居高齢者の人数などを把握する。
経済的状況を確認して、支援を考えてほしい。物品支援なども。
地域の見守り方法の見直し、50代、60代から独居に向けての情報発信を行っていく。
サークルや地域行事への参加支援。町内会、民生委員、保護司と連携し訪問支援。

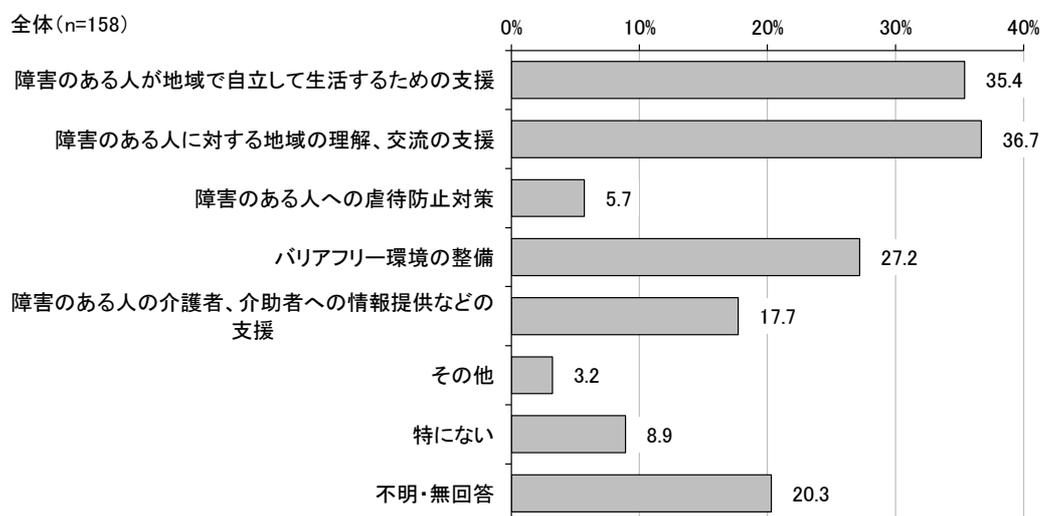
【その他】

回答内容
<p>[デイサービス]</p> <p>デイサービス利用者の方は現状に満足、安心して通所していると思う。行きたがらない理由は？提案ですが、各デイサービスの特徴を明記、選ぶ自立になるかなと思います。例えば、街を歩く。料理教室がある。体操教室がある。カラオケ、絵画教室、マッサージ等今迄やったことがない種目で楽しみを見つけて遊びながら学ぶ。一年一度発表会を催す。家族も参加出来るようになる。</p> <p>高齢者でも可能な仕事メニューの紹介。</p>
<p>[環境]</p> <p>近隣の高齢者（自身も含め）に対しては共助の気持があるためか、あいさつ、声かけが多くなったように感じます。がハード面で夜は暗いところが多く高齢者がつまずき、転倒を多くみかけます。対策を希望します。</p>

回答内容
活動の周知と促進（現在は認知度が低いのでは）。
[栄養指導] 現在、要支援の方への栄養指導はありますが、要介護者へはなく、訪問し、相談にのっていただける制度があるといいと思います。
貧困、身寄りの無い人への支援
[ADL の維持・フレイルの予防] 大きな病気をしないように、持病を今以上悪くしないように、運動できる機会と栄養（食事）を学べる場が必要だと感じています。
月1回、高齢者とおしゃべりする機会を作っている。そんな機会に参加できない人が増えている。性格の問題多いにあり。
最近、物騒な事件が多くて、固定電話には出ず、訪問しても出てこられない(留守なのかもしれませんが)お会いできないことも多いです。
第2号介護保険サービス利用者向けのデイサービス、デイケア等が増えるとよい。
高齢者の1人住まいは地域の中でも老人だけのアパート等、片寄っています。情報となる広報もポストに山積にされていて連絡が難しい時があります。オーナーの人に理解を求め伝達しやすくなればと思います。
高齢者による高齢者の介護は、地域のつながりがあれば多少は解決できるかもしれません。また、介護保険外のサービスの充実が今後重要な役割を担うのではないのでしょうか。
1の質問で答えたように、寿命が長くなったことと高齢でも元気な方々が増えてきている為に当然周りにも独居の高齢者が増えてきている。一人でも一応日常生活に問題がなければ、何とか自分でやっていきたいと考えられる方も多く、小さくても問題を抱える方を見つけるのは難しい。そういう方々を見つけ出す為にも周囲に目を配り見守る必要を感じている。何かあれば必要な支援を受けられるよう行政等につなぐ事も必要。
地域の人たちと、町内会活動等々を通して自然と情報を得るよう心がけている。
認知症の一人暮らしも増えてく中で認知症を理解してる方の支援が重要！

問6 障害者支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。(2つまで選択)

「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が36.7%と最も高く、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が35.4%、「バリアフリー環境の整備」が27.2%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満、10年以上20年未満では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」、3年以上5年未満では「バリアフリー環境の整備」、3年以上5年未満、20年以上では「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」、5年以上10年未満では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が最も高くなっています。

単位: %		た め の 支 援	障 害 の 理 解 、 交 流 の 支 援	障 害 の 有 り の 人 に 対 し て の 支 援									
全体(n=158)		35.4	36.7	5.7	27.2	17.7	3.2	8.9	20.3				
経験年数別	1年未満(n=7)	28.6	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3				
	1年以上3年未満(n=11)	54.5	27.3	0.0	36.4	27.3	0.0	0.0	27.3				
	3年以上5年未満(n=15)	26.7	33.3	13.3	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0				
	5年以上10年未満(n=47)	34.0	34.0	10.6	27.7	19.1	6.4	6.4	21.3				
	10年以上20年未満(n=47)	44.7	34.0	2.1	31.9	14.9	2.1	12.8	12.8				
	20年以上(n=28)	21.4	50.0	3.6	21.4	17.9	3.6	0.0	28.6				

回答内容
福祉作業所以外にも民間で受け入れてくれる会社が増えると良いと思う。そのためには、その人の個性、接し方なども注意深く説明し、理解して頂くことも必要であるが…。
シニアカーの利用が目立って来ています。交通ルールの徹底と通行区分の明確化が必要です。
障害のある人でも、できる仕事を増やしていく。時給を上げて、生活に困らないようにする。
市内就労先開拓、市内通勤により就労が可能者が増、福祉的就労事業所の誘致。知的障害者の自立訓練からの就労、自立への支援。
障害者枠で雇用される人への待遇、与える作業の改善が必要。より長期の契約、給料 up、孤独な作業のみから、仲間と話や交流ができる方向へ。
市内にグループホームが少なすぎる。これでは、障害者が地域で自立して生活することはできない。8050問題の壁を回避できない。又は地方の入所施設に行かざるを得ない。この数年、民間事業所のグループホームがヶ所できはじめ、もっと増やすべき。
コミュニケーションを良くとり状態を把握しておく。その上でご自身でできることは、ご自身です。
ワンストップ型相談支援センターを設定。
地域にどんな方がいるのかまず把握していかなければならず、担当課の知る限りの情報提供！2にも通じます。
介護者、介助者なくひとりの方の支援がどのようにしたら良いのか。
サークルなどへの介助（声かけ）。
障害者が働ける施設を幅広くする。例えば農作業、草刈り、宿泊設備付き。
公的支援、NPO 法人の支援や地域の人材の啓発及び発掘事業などのキックオフ事業
朝霞市のグループホームの需要が高まる中、強度行動障害者に対する環境が整っておらず、お断りされるケースも多々ある。また、民間の小規模な共同生活援助は数多くあるが、現実、重度障害者が暮すには環境として適さないことも多い。改めて、市として入所施設として検討する必要があるのではないかと（現実には難しいが…）グループホームが複数ある中、未だに、満床にならない事業所もあるとのこと。利用者側も選ぶ権利はあるが、しっかりとしたサービスを受けられる体制（国…）を確立し、朝霞市独自のサービスも考えても良いと思われる。福祉・保育園等の職員に処遇を考えても良いと思う。人材不足の足止めとなり、東京の事業所で働きたい方が多いため、避けたい。
自分からまたは家族から周囲へ助け等必要なことを発信できない方々が多いように思います。私たちのような福祉関係者や近隣住民からの通報等をもとに、自治体の方ではもっとアウトリーチ的な行動を起こしてほしいです。
高齢者の欄と同様に、ボランティア！！
療育施設の拡充のみで中身が伴っていない。専門者が整った専用施設に未来ある子ども達（診断がついていない段階からでも）が通いやすいようにして行ってほしい。
重度の子だと地域での自立も現状難しく受け入れ先を探す際にどうしても遠い施設になってしまうので、地域での入所も可能なら保護者さんも助かると思います。
お店など働く場所の提供の協力
普段から、支援を補助するメンバーを決めて、必要な時に連絡し合う事ができるように交流しておく
公共交通機関や店舗などで働く人たちへの障害者は怖くない面倒臭くないということを知ってもらうこと 障害者と職員が参加しての対応などの講習など

回答内容
増えてはいるが、グループホームなどが足りていない
障害のある人が地域で暮らすための施設(グループホーム)が少ないように感じます。また、最近増えてきてはいますがすぐに利用定員が一杯になってしまう。実際に朝霞市で暮らしたいと思っても、生活の基盤がなく、やむを得ず市外や県外のグループホームに入居になってしまっている。
ニーズを吸い上げて、ニーズに合った地域資源を充実させる。バリアフリー環境の整備については、歩道が狭く、車椅子が通れない、斜めになってしまう等があるため、道路の整備が必要。
個別に事情が違うので、できることできないことで支援の方法や自立のための選択肢が変わってくる。民間の協力も必要。

【障害のある人に対する地域の理解、交流の支援】

回答内容
障害者への理解が得る様、健常者との交流の場を作る。又、小中のイベントなどの誘いもありではないかと感じる。
街をあげた障害者団体の催しの開催。複数の団体の物販、ゲームなどと地域の人にも見て参加してもらう。
就職がむずかしいです。
公共との広い範囲での協力。
これもコミュニケーションが大事だと思う！
普段障害のある人に接する機会がなくふれあいのイベント等にまわりの人達に声かけし参加し楽しむ。
地域にお互いが存じている事を認識し、挨拶したり、会話したりすることであたりまえの存在として接する。特別な交流イベントよりも数段大切だと思う。
あったら話しかけます。
地域で開催される、障害についての講習会。保育士や専門職の人だけでなく、地域の人にも誰にでも知り、学ぶことのできる講演会などがあると良いと思う。
障害の勉強会や障害のある人との交流会を行う。
障害施設周辺住民に対する啓蒙活動。
自治会で協力をして支援して欲しい。
障害者とその家族、健常者との交流の場をもっと増やすべきです。市で積極的に場の提供をしてほしいです。
理解はなかなか難しい。やはり地域でのざっくばらんな話す場とか使い、理解につなげるしかないのでは。お家の方も近隣に迷惑かけたくないの思いが強く感じる。
介助者等の育成と交流の場の企画。
昔に比べれば随分と理解が進んできたように思える。理解はできても障害によってどう対処して良いのかわからない人もいるのではないかと感じている。できる事できない事を理解した上で支えてあげるだけで障害のある人もない人も何も違いはなく、健常者と共生して楽しく交流できないか…と思う。
まだまだ一般の人の偏見が強いと思います。まずは、その見方から変えていかなければ優しい思いやりは生まれにくいと思います。
ワンストップ型相談支援センターを設定。

回答内容
優しい地域づくり、障害者に対する思いやりが、地域を良くすると思う。障害者スポーツを健康な人と共、子供達と企画して高齢者、障害者、児童との参加交流をする。
障害者の支援施設、作業施設等、一層の充実
幼少期から、障害のある人と接する機会をつくり、手を貸すことが当たり前になるように！！今からコツコツと！！30年後に期待！！！！
小学校や中学校の授業などで、介護の体験や、障害者と話すなど交流して壁をなくしていく。
特別視するのではなく、自然にいられる環境作り
発達に遅れがあるなどで療育に通っているお子様の、保育所等訪問支援をもっとすすめられるようにしたい。受け入れ先の幼稚園、保育園からの受け入れ困難で実現しないことが気になる。市から保育、幼稚園などに理解を求めてほしい。
障害のある人となない人との交流の場を積極的に設けることによって障害のある人への差別を減らす
人が集まる時、ストリートテラスなどで障害児者のブースを行って知ってもらう。
障害者が参加しやすいイベントを多く開催する。
地域で見守ることが障害のある方にとって安心できるかを健常者の方々に理解してもらうことが必要。災害もいつ起こるかわからない状況なので、避難訓練などを通して助け合うようなことができれば交流も進むのではないかな。

【障害のある人への虐待防止対策】

回答内容
大勢の人が、障害を持つ人の不自由な面(視覚障害、難聴)を理解し自然に補い手伝うことが出来れば良いと思う。
虐待につながらないためにも関わり方を学ぶことが大切だと思います。
施設職員の負担軽減のための福祉職員の待遇改善。
家族や支援者に対するケア、相談先の提供。虐待する側の未然対策。
障害者支援に対する正しい認識が施設職員でもまだまだ知識が十分でない事がある。研修の機会を増やす、地域の方々に対しては、福祉教育に力を入れる等して障害特性に対する理解やそもそも障害とは何かという事の理解を深める場がもっとあると良い。
ワンストップ型相談支援センターを設定。
市が開催して、虐待防止の研修をする！手帳を持っている家族も参加！！
先程の質問同様、市や関係機関との連携、起きてしまった時の対応等、事前に打ち合わせできていけばなと思います。
複数の見守りが出来る環境作り
家庭を孤立させない。福祉の人材不足を何とかして負担を減らす。福祉の人材マッチングなど。業者はお金がかかり過ぎるので公的にやってもらいたい。
家族を集めてお互いに意見交換をする場をつくったりして、気軽に相談できる環境を整えて、虐待を未然に防ぐように取り組む。

【バリアフリー環境の整備】

回答内容
公共施設のバリアフリーがおくれている。例えば、エレベーター設置要望が多い。
屋外でも車イスを使用し自走を安全にできる。交通整備、歩道がせまく段差もあるので、道路環境の整備が必要かと思います。
歩行者用専用道路、車いすでもスムーズに通れる歩道の整備。
家の中はもちろん、市の歩道等公園等のバリアフリーを直す事。城山公園はもう一年も前に市議会、市に行ってもなおっていない。公園のトイレもです。城山公園のトイレは車イスの方は使えません。
道路の整備、生活の中で目にするのは車イスの人が安心して外出がしにくい。
移動支援が少ない。予約取りにくい。
健常者であっても日頃の生活の中で少しの段差につまずいたり、視野のせまい状態を感じる事があるので、担当窓口に意見を伝えることが大切だと思う。
車イス等はあった方が良くと思います。
地域の方から、車イスやベビーカーで通るには狭く危ない道があり不便と話を聞いた。広い歩道の整備が必要とされていると感じる。
公共の場所、道等を段差をなくし、障害があってもどンドン外に出ていけるよう整える。
介護保険下とは別に身体状況の変化に合わせバリアフリーが必要な高齢者に対して住宅改善費の一部を助成して頂ければよりよく生活が出来ると思います。
歩道の整備。障害を持っている方が、どんな事に困っているか、聞き取り改善していく。
町の中は、少ししている所があるが、郊外ではまだまだです。安全ではないです。
車いすを利用して援助をする際、道路幅が狭く、デコボコが多いので安心して移動ができません。
内間木地区では歩道が狭く大型車の交通量が多い。道も穴があるなどすぐ傷んでしまい、バリアフリーはほとんど整備されていない。車いすや歩行が不安定な人を散歩に連れ出すには、とても不安である。公共施設が少ないため、排泄面でも不便を感じる。手押し信号を押しても、大型車が入ってくる事が多い。
市によって考え方やどこに重点を置かほかかわってくると思うがどんな人も同じように暮しやすい環境を確保できる権利があると思うのでどンドン障がいをもってる人の意見を聞き住みやすい町作りを行いどの人も安心して過ごしてほしい。
暮しやすいように障がいをもってる人の意見を聞き、住みやすい町にしてほしい。
障害の有無に関わらず、どんな方でも、高齢者も同様に、安心・安全を確保できる環境を整えることは必要。実際に不便を感じている方達に、何が不便か、どうすれば解決できるか等々まずは聞き取りを進めてどンドン改良していくことが重要と思う。
どこに行っても整備はされていません。改善することにより障害者だけでなく高齢者も住みやすいと思います。
バリアフリーは人々の心も含まれるのでよく理解する研修やお話をするべきです。
障害のある方々がお住まいの所が階段などが多い。
歩道等、車椅子でも移動しやすくする。段差や傾斜をなくす。
舗道が痛みや凹凸や高低差が至る所で見受けられるので、計画を持って改修していただきたい
公共の場の対策はかなり充実してきていると思います
2と同様！ハード面は、どンドン工事する！！

回答内容
定期的に障害者と会議を持ったり、町と一緒に動いて意見を提供してもらう。
障害者の意見を聞くこと
車椅子の子と散歩などに行くと、歩道が傾いていたり、段差があったり危険な場所が多い。
公共施設の化粧室の間口や個室を広くする(車椅子の人が通れるくらい)
歩道や道路の整備、休憩場所の拡充(ベンチの設置)
補助金
朝霞市は自然が豊かであることが強みであり、特に春の黒目川の桜は圧巻の景色で「朝霞市に住んでいてよかったな」と思います。しかしながら、道に凹凸が多数あり、高齢者や車椅子利用者に優しくないと感じています。車椅子の利用者も、その介助者も同じ景色を見られたらいいなと思います。
障害者にアンケートをおこない、生活し難い場所(具体的な道路等)を把握する。
整備不足の現場を報告していただく問い合わせ窓口の明確化と広報

【障害のある人の介護者、介助者への情報提供などの支援】

回答内容
親が高齢だと心配があるみたいです。特に精神的な方はなおさらです。
さまざまな分野からの細かな情報。
声を出すのが一番だと思いますが、市に対して相談するのが一番かな?!
まずその存在と地域の間が知る事が大切。小さなことでも情報を共有することで、支援へつながっていくと思う。
障害のある子どもをもつお母さんやお父さんから「どう関われば良いのかわからない」とよく言われます。気軽に相談できる場所や関わり方を学べる場所があると良いと思います。
抱え込まないようケースワーカーを増やし、相談しやすい環境作り。
上記1、に関して、制度上の問題であるものの、個別に事情を聴いてくれ、アドバイスしてくれる場所が必要。
福祉サービスを活用せず、家族で頑張って見ようとする家庭がある。情報を得られていない、サービスの内容が分からない等の実情もあると感じる。介助者、介護者双方の負担が減り、地域で安心して暮らせる様、情報の周知が必要。
障がいをもっている本人も不便なことがあり生きづらさを感じることもあるだろうけど、それをサポートする身内のまわりの人も同じように色々な悩みがあると思うので全面的にサポートしてほしい。生活面や心のケア、今後の本人に対する対応など。
障がいを持っている人が、何が言いたいのか、してほしいかなどを考えてサポートする、生活面や心の面でサポートする。
コロナ以降障害者の情報が、私達民生委員に届きにくくなっている様に思います。
身寄りのない障害者への後見や意思決定の行政サポートが必要。
サポートできる(生活、移動など)事業所をお知らせする。外出できるチャンスを伝えていく。
自分からまたは家族から周囲へ助け等を発信できない方々が多いように思います。私たちのような福祉関係者や近隣住民からの通報等をもとに、自治体の方ではもっとアウトリーチ的な行動を起こしてほしいです。

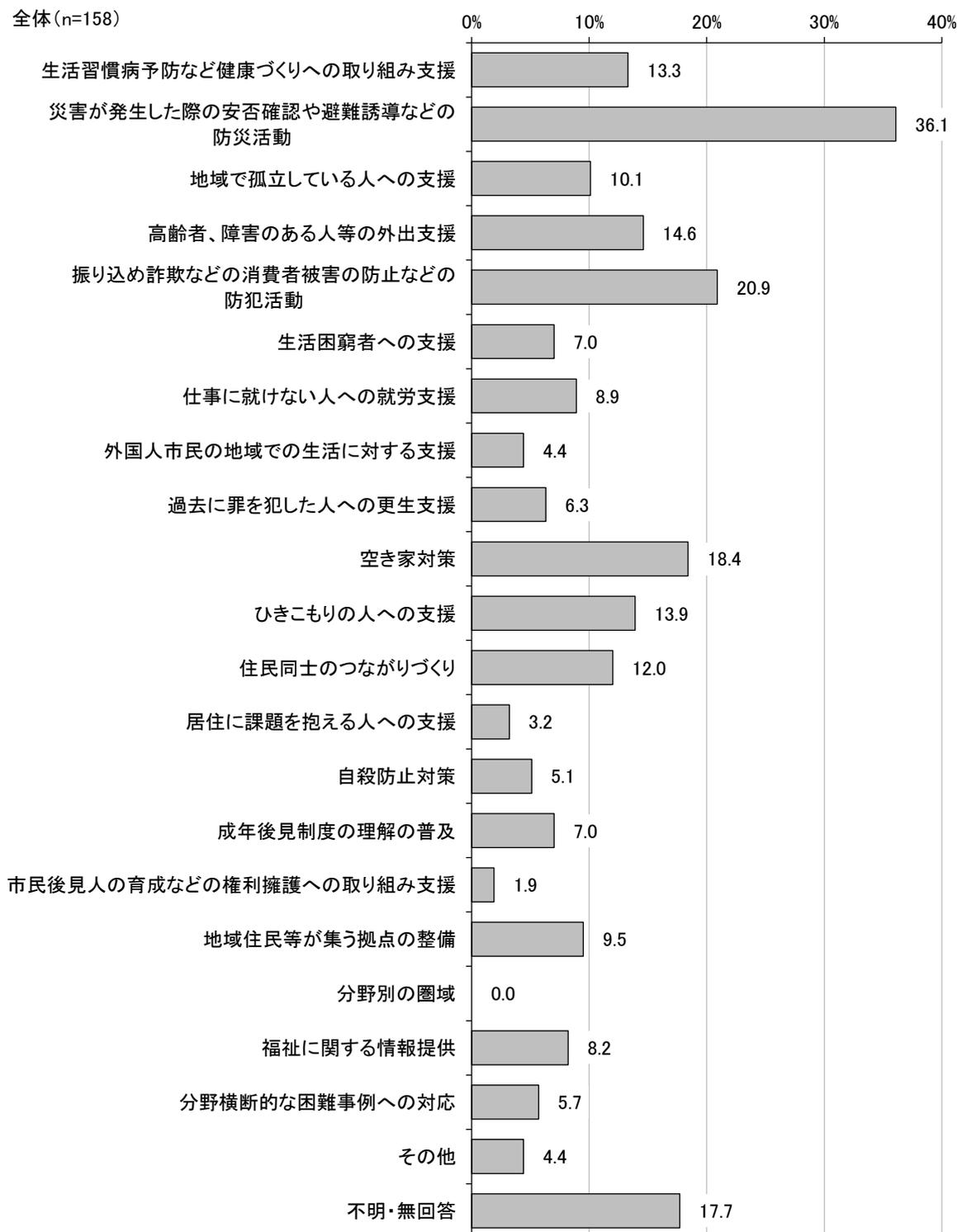
回答内容
SNS！！時代はSNS！！！（ぽぼたんも、ぞきりん並にみたいよ！！）
高次脳機能障害となった家族に制度の提案やさまざまな後遺症への理解、対応の難しさゆえ、寄り添える場所や人を必要とされている方は一定数いるような気がする。
専門者との十分な面談環境の拡充をする。集団生活でグレーなお子さんが保健センターの面談で1対1では問題ないと言われたとすぐ終わってしまい、その後は様子見でとなった。どうすれば子どもの為になるかと相談をうけることがあった。
定期的に介護者と事業者の意見をもらう。
欲しい情報にたどり着くのに、ある程度経験や知識が求められるように感じるので、もっと直感的に情報が得られるシステムがあればいい。
基幹事業所の早期開設。自立支援協議会などが形骸化しないように
障害のある人、介護者、介助者へは、情報提供だけではダメだと思う。障害についてしっかり学んで適切な支援を行えるような体制が必要。
どこにどのような障害児者がいるのか把握しているのは公的機関。公的機関には手続きなどで一番接点があるのだからそこで丁寧に届ける。
公式LINE等を利用して、地域の情報を提供する。

【その他】

回答内容
小規模事業所が地域と協同して防災活動ができるしくみ作り。
[障害者の定義] ここでいう障害者とは障害者手帳を取得している方と限定しているか？手帳を所持していない、手帳の申請をすることができない人の窓口はどこか？また、いままで、障害福祉課で相談をしていた方に対して、65歳になったら、高齢者支援係が担当課になるとご案内するものか？
障害がある時点でとても消極的になる。私達も気を使ってしまう。
障害者の同じ悩みを持つ者同士、家族同士のつながりの支援強化、補助。
カスタマーハラスメントが大きな問題となっております。障がい者の方にも、介助者へも気づかいを心がけていただきたいです。
なかなか情報が得られない。
障害者が、生きがいをもって生活できるように、障害者スポーツの振興をはかってほしいと思います。
何に困っているのか、そのためにはどんな具体的解決方法があるのかを明確にしていく。

問7 その他の支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が36.1%と最も高く、次いで「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」が20.9%、「空き家対策」が18.4%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」「空き家対策」、3年以上では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：%		組み健康生など安災人地人高ど振振生の仕の外への過空支ひづ住人居	み康活否害への域域等齡者者費り込困就事に外生への更去き家ひきこもりの住民同士のつながりへの課題を抱える	支援	の防認や発の孤で外出支障の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導	の防活誘導
全体 (n=158)		13.3	36.1	10.1	14.6	20.9	7.0	8.9	4.4	6.3	18.4	13.9	12.0	3.2	
経験年数別	1年未満 (n=7)	0.0	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1年以上3年未満 (n=11)	18.2	54.5	9.1	9.1	45.5	18.2	9.1	9.1	54.5	9.1	9.1	18.2		
	3年以上5年未満 (n=15)	13.3	26.7	20.0	6.7	20.0	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	
	5年以上10年未満 (n=47)	14.9	34.0	6.4	17.0	19.1	6.4	10.6	4.3	2.1	19.1	17.0	21.3	0.0	
	10年以上20年未満 (n=47)	10.6	34.0	12.8	14.9	17.0	8.5	6.4	2.1	10.6	17.0	14.9	6.4	6.4	
	20年以上 (n=28)	17.9	39.3	3.6	14.3	25.0	7.1	10.7	0.0	10.7	17.9	17.9	14.3	0.0	
単位：%		自殺防止対策	の普及	り組の市民後見人の育成	点の地域住民等が集う拠	分野別の圏域	福祉に関する情報提	例への対応	その他	不明・無回答					
全体 (n=158)		5.1	7.0	1.9	9.5	0.0	8.2	5.7	4.4	17.7					
経験年数別	1年未満 (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6					
	1年以上3年未満 (n=11)	9.1	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1	18.2	0.0	9.1					
	3年以上5年未満 (n=15)	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	26.7					
	5年以上10年未満 (n=47)	0.0	6.4	2.1	8.5	0.0	10.6	6.4	4.3	10.6					
	10年以上20年未満 (n=47)	10.6	8.5	2.1	10.6	0.0	6.4	4.3	6.4	17.0					
	20年以上 (n=28)	7.1	7.1	0.0	10.7	0.0	7.1	3.6	0.0	28.6					

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援】

回答内容
食事と運動(ラジオ体操の推進)バランス研修。
保健センター等の勉強会に出席し、情報を得るか、病院に相談し話を聞いてもらう?!
町内会、包括支援センターと協力しサロンへの参加を声かけ。
フレイル体操等を取り入れては。
ラジオ体操の推奨。
ファミレスとかの朝あいている駐車場を借りてラジオ体操とか軽い運動を指導してほしい。
市民センター等で行われている、ダンスや体操サロン等をもっと支援しても良いのでは？
行政が、町内会又は各団体等に出向き運動、食事等の指導をする。
糖尿病に有効な働きかけがあると良い。
無料の健康診断（年に1回）あるのであれば、結果を有意義に活用していく様にアドバイス。
講演会の開催、運動教室の開催など
予防の具体的な情報を郵送する。
ウォーキングイベントの開催や、ポイント制で地域物産を貰える仕組みがいい。
「いつまでも口からご飯を食べたい」「トイレは自分の力でいきたい」など目標を掲げて取り組める支援をしてほしいです。

【災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動】

回答内容
町内会に入らない人が多いため、古くから居住されている人以外はどんな家庭かわからないので災害がおきたら力をかせないだろうと思う。
コロナ前に行っていた、学校での地域をまき込んだ防災活動の実施。
いろいろな所とコンタクトをすることが大切。町内会と専門職とのつながりやすい。
家族等で話し合っておく。我が家はまだやってません。
災害時の要支援台帳をいただいておりますが、自分家族も大変な時に支援ができるか心配です。
日中か夜間かでも異なるが安全誘導にはお互いに訓練する必要がある。名前を周知していることも安心感につながると思う。
自身が年を取ってきたので、無理をしない様にします。
避難訓練及び避難場所の徹底。
高齢者が多い地域だととても難しい。
避難誘導して欲しい人達の名簿は市からもらっているが、それだけでその先ができていない気がする。もっと実質的な事を考えてもらいたい。
オンラインの安否確認システムを確立する。
町内会の防災メンバーの活動は、実際に働くか疑問が多い。集まっても老人ばかりでは動けないと思う。
私自身の住まいが密集地で避難場所と言われている場所までたどり着く事自体大変ではないか？とっています。担当地区でも小さな公園はあっても地域住民が一時避難出来るほどの場所はありません。市で細かく調べて頂き、広場の設置等考えて頂きたいです。
災害時の避難拠点でもある総合福祉センターの見直し、立地から安全性が低い。

回答内容
朝霞は浸水被害が多く、対応がいそがれると思う。
障害を持った方の避難先（強度行動障害、車イスで重度の障害の方）の環境が整えてあるか。避難場所での生活を余儀なくされた場合に備え施設の整備が必要ではないか。
最近では災害も多く起きてからではどうにもならないことが沢山あるので今までの経験をいかして一人一人がもし起きたらどうしたらよいかってことを市全体で共有することが大切なんではないかなと思う。
異常気象で大雨などもし起きたらいつでも対応できるようにしておく。
災害が起きた場合、こちらも被災しており、すぐには動けない。立ち話などでもいい、情報を知りたいと思います。
防災訓練、避難要支援有、高齢者台帳を作成し、災害時の対応を決めておく。
実際に大きな災害が起きた際の行動がイメージしづらい。予行練習を国レベルで実施した方が良いのではないのでしょうか。
突然災害が発生した時に、安否確認や避難誘導がいきなりスムーズには絶対できるはずがない。普段から近所の人達と顔のわかる関係を作り上げていくことが必要。町内会でのイベント、防災講座などで、防災の必要性を知って貰い、コミュニケーションづくりに努めたいと思う。
水害発生前の避難誘導の見直し。広報の SNS の活用の見直し。
町内会の役員になって防災活動に参加している。
障害のある人の人数と住所を把握して、どの方を優先して回るのか？
民生委員も自身を守ることが大切なので、ご自身も SOS をだしていただく方法を把握していただけるように日頃からお知らせしていく。
夜間における災害に対し、グループホームの夜勤者は1名～2名程度で利用者を避難させるのは困難。BCP、災害計画を策定しているが、現実、避難できる体制ではない。なぜなら、マンツーマンの利用者やパニックに対し人員を要す。応援職員も参集には時間を要す。
日頃からの地域社会の交流が必要 防災意識と相互扶助、自己努力も必要かと思う。
ヘルプが必要な人の災害時避難場所の開示
避難訓練、通報訓練、消化訓練は年に規定回数行っているが地域での行事として早めに分かればイベントとして組み込めるので地域の人達との関わりもできる点もいいなと思います。
避難訓練などの実働経験をしたい。
障害者が存在していることを忘れないように
ほぼやっていないのではないかな。もっと災害に対する啓蒙が必要、周知が不足していると思う。朝霞は坂も多く河川近くに学校や住まいが多い。小学生など学生や子どもたちと共に避難訓練や危険な場所をマップピングなど活動に工夫する。

【地域で孤立している人への支援】

回答内容
人と接することが苦手な人はどうにもならないと感じる。
ご近所さんのコミュニケーションが大事だと。
自身が年を取ってきたので、無理をしない様にします。
近所付き合いのかげんでその人の気持ちが難しい。
家々が、それぞれ遠いので、歩いて行く事が難しいので送り迎えがあると良いと思います。
訪問活動（見回り、見守り、声かけ等）。
孤立している人は情報弱者であることが多いのでは？と思っている上で、必要で有用な情報の届け方が大切だと思います。
最近は形式的な人付き合いのほうが良いと考える人が増えている。今後もこの傾向は続くと思う。いざという時に誰に、どこに頼ったらいいかという情報だけは届けた方が良い。
まず、誰が孤立しているのか把握する
地域の交流を盛んにし、皆で声掛けする。
地域で孤立し、近隣住民と対立している方が散見されるので、警察や市役所職員、民生委員さんと積極的な対応が必要

【高齢者、障害のある人等の外出支援】

回答内容
高齢者、障害者が気軽に立ち寄れるサロンの様な場所を多くもつ。
私は耳のきこえが悪い人の傾聴で病院につきそっています。
タクシー券などを配布したら良いと思う。
近年の真夏の気温の高さで近くても外に出られないという声を伺います。宅配弁当などのパンフをお持ちしてみる事もあります…新しい事を取り入れる事への抵抗感で前へ進めず、買い物代行や移動スーパーなどもっと利用しやすい環境作りが出来ると良いのかも知れません。
移動支援の担い手が少ない様に感じる。移動支援先がなかなか見つからず、家族が外出に付き添わざるを得ない現状がある。
NPO 法人しか生サポできない→不足する。
膝折地区の中で交通空白に対して、試験的取り組みを行って頂きましたが、未だに解決されずにおります。早い解決を望みます。
駅の近くでない高齢者になり車の運転をやめた人などどこへ行くにも困ってしまう。家族が居ても日中は一人交通手段がないのが一番困る。ワゴン車でよいので外出手段を考えて欲しい…と思います。
生活支援での外出の適用範囲の拡大。
サポート事業所は完全に足りていないわけではないが、いくつかあるので、一覧表などお渡ししていく。
生活サポートの登録事業者が NPO に限られており使える事業所が少なく、非常に使えないサービスになっています。登録事業者の規制緩和をお願いしたいです。また、高齢者は移送サービスを受けるには対象者のハードルが高い上、用途が通院等に限られており余暇には使えません。生活の質の向上のためにもその点を改善して欲しいです。
事業所を増やす！！
外出支援、交通手段において、自助、互助、共助でまかなえればいいが、公助の出番の気がしている。

回答内容
気軽にラインや電話などで、頼みやすいシステム作り。
自力で外出出来ない高齢者や障害のある人へ電話で予約して、車で乗せて行ってくれるような支援があると良いと思います。
朝霞市だけの地域タクシー(有料)
交通機関の減便やルートの変更、付き添いの人材確保や費用負担支援

【振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動】

回答内容
日頃の声かけが大事だと思います。
お年寄りの方がコンビニ、銀行でまよった人をみたら危ないので声をかける。
訪問、シニアクラブ等で声かけ。
今、高齢者を狙って情報を聞き出すメールが増えていて、実際に住所を打ち込んでしまった人が周りにいます。被害にあう人を減らすためにも防犯活動を強化すると良いと思います。
犯罪防止のピーアール、情報提供。
お金に関する事はその場で決めないよう、まわりの人に相談するよう広報活動をしつこいくらいにする必要があると思う。
こまめな情報交換の場所づくり。
住居のまわりでも電話や不審な方が家を見てまわっています。認知症独居の方も危ないところでした。行政に話したら、「警察に連絡してください」との回答でした。高齢夫婦、独居は調べるルートがあるようです。策をお願いします。
詐欺被害にあった方の救済処置がなく泣き寝入りになっている。お金は1円も戻ってこなかった。
様々な関係機関との連携、例えばコンビニ、スーパー等とも連携した活動も良いと思います。
コマーシャルみたいに、テレビで放映する。
サロン等で話を聞くチャンスがあるが、出席者は決った人のみ。これでは知り得ない。やはり少数人数での集まる場所があればお誘いして、身近な事、困り事、話し聞けるのではと思います。
訪問活動による注意喚起とチラシ配布。
詐欺や強盗のニュースが流れない日はないという状況なのに「どうして…」とってしまう。実際私の知人もひっかかった人が2人、何とか未遂に抑えられた人が2人もいる。認知症とは思えない人でも「それはサギだ！」と言い聞かせても受け入れられないという事がありまして多少認知症が入っていると、独居の方のサギ被害を防止するのは難しいと感じた事があった。周りで目を光らせるしかないのだろうか…。
防止について呼びかけられているが、それでも被害が出てしまう。
啓発活動の参加、ポスティング等々の活動に積極的に参加する事に心がけている。
地域社会の繋がり、声かけ、見回り
地域の声掛け活動の徹底（どこかのコンビニのお兄さんみたいに！！）
ATMの振込操作時に年齢確認、不用品回収業者の対応拒否の徹底
AIも発達しているので、啓発活動をおこなう。
特殊詐欺や、闇バイトによる強盗が他地域で多発している。朝霞市に於いても他人ごとではないと思います。

回答内容
現在、闇バイトの話題があり、情報弱者はターゲットにされやすいと思いますので、地域で見守れるシステムがあれば心強いと思います。

【生活困窮者への支援】

回答内容
これは個人情報というので分かりません。
本当に困っている人に助けてあげてください。
生活支援の認定の簡素化は出来ないものなのかな？
仕事の斡旋！！（お金の斡旋ではない！）
まず何に困っているのか確認・把握しての援助が必要だと思います。

【仕事に就けない人への就労支援】

回答内容
市がよく話を聞いて支援するのが一番。ハローワークに行けない人もいる。
幼児期に知的障害と判明した保護者の不安が解消されるように見学など情報公開してほしい。
仕事を誰もがしやすいメンタルケアのしくみ作り。会社ごとに研修するだけでは不足だし、会社の負担大。
より好みをしなければ仕事は有ると思う。相手の理解と意欲次第。
精神的不調から、社会参加できない人がいる。まずは、その人がなぜ苦境に陥ったかをソフトに聞き出し体調回復など身の回りから改善できるようサポートしていく。
無料で職業訓練とか？？？
送迎がないと就労先の選択肢も減ってしまうので送迎の支援等手厚いと安心して選択肢の幅も広がるんじゃないかなと思います。
在宅ワークでできる仕事が増えるように地域に協力を呼びかける。

【外国人市民の地域での生活に対する支援】

回答内容
私の民生のエリアは国際通りと言って外国の方が多い場所です。言葉は(外国の言葉で)いわれたらわからない。
見かけたら声かけする。
民生委員も翻訳アプリなど使って訪問する者も少しはいる。スキルを上げていくこと。
国際ボランティア的ななにかと連携して？？？言葉を教える！！とか？
各外国人の生まれ育ちを尊重すること。日本の生活スタイル・文化を理解していただくこと
ベトナムなど東南アジア圏の御夫婦で住まわれている方が増えている。お子さんやご家族への日本語習得支援や通訳支援
外国人は多くこれからも増加して行く傾向にあると思う。日本の風土や習慣が違うので、毛嫌いする方もいると思うがそれを知ってもらうためのコミュニケーションの場がないのではないかな。お互いを知るコミュニケーションをとらないと外国人同士、日本人同士だけで分断が起きてしまうし、日本の生活習慣を知ってもらうためにも必要だと思う。

【過去に罪を犯した人への更生支援】

回答内容
保護司が相談にのる。
特に性犯罪をした人への再犯しないようにできるのでしょうか？
真面目にやっていたら人は信じてもらえると思う。
更生事業主の拡充。
特に中高生などの学生に対して、安全安心できる場所やそれに特化した学校があるとよいのではないかと思います。
すぐに人はあやまちを反省して正していくことは難しいと思う。その過ちがなぜ起きてしまったのか、どうすれば起こさずに済んだのかそういうところを大切に少しずつ時間がかかっても支援を油断せずにしていく。
気長に少しずつ、反省と前向きな考えで対応する。
支援まではなかなかできないが勉強会など通して学んでいる。
仕事や生活状況等把握 話し相手(相談相手) 上記の他、よりよいアドバイス
動物を愛でる！

【空き家対策】

回答内容
利用。
今日も大学でこの問題をテーマにしたが私のエリアで人に頼んだけどどうにもならないと答えがきている。
町内会など、パトロールの強化。
ラジオをつけておくとか電気をつけておく。
町内会で家周りの掃除や行政への連絡を行う。
持ち主に連絡をまめにしてほしい。
空き家の持ち主が賃貸契約を簡単に出来れば空き家がなくなると思います。空き家に対して1年以上すれば固定資産税を毎年上げるようにすると空き家にするよりは更地にした方が良くと思わせるようにした方がいいと思います。
市などで、みんなが集まれるコミュニケーションルームにする、など。
建築基準法以前の違反建築等は、解体の法の整備を見直して撤去出来る様にしたら良いかな？
住宅街での空き家の近所に住んでいるといつも気になるので放火や住み家にならないような手続きを早くしてほしいと思う。
地域の住民の集い場や、子供食堂などの場所として使用させて下さる持ち主様は居ないのか？集いの場を運営していらっしゃる方と持ち主様のマッチングが出来る様な情報提供がもっと広がると良いのでは？
空き家を生かして、人々が集える場所を作って欲しい。
若者のたまり場になっている。
近所でも空き家が増えて来ました。市で借りてくれて、話合いの場として提供してほしい。
最近多くなっています。近所の人達は、不安がいっぱい。引き継ぐ人がいないと思いますが、行政で利用できる場所であれば、みんなの居場所作りの場にしてほしいです。
植物工場への転換と促進。

回答内容
空き家になってしまうとなかなか対策が難しいと、メディアやニュースで見ました。そうなる前の対策、事前に対策すればするほどメリットのある制度作りをしてほしい。
活用する策を考えて欲しい。例えば、低所得者層等に貸し出す為に積極的に所有者にアプローチ・活用する。
自治会や警察の見回り。公的機関の長期的対策。個人やら地域自治体では難しいと思う
近所迷惑の事案が増えているが対応策が欲しい
解体のための補助金をだす
地域の空家を登録しておく。
一般的な防犯用品の貸出
公共施設を作っても、多目的スペースが確保出来ない状況なので、他市の対策を参考にして、朝霞市でも取り組んで欲しい。
事業用で使用できるようにマッチングをおこなう。

【ひきこもりの人への支援】

回答内容
訪問看護や地域支援につなげていく必要がある。
ひきこもりをおこさないため、学校教育の充実と支援。
ひきこもりの人への積極的なアウトリーチ。場合によっては障害をかかえている場合もあり、社会資源へのつながりが必要。
小学校の頃からの支援を考えなおしてほしい。
声をかけあうのがいいと。
ひきこもりの人対象の生活でのアドバイスや講座、オンライン講座、カウンセリングなど。
学齢期から就職時期までのひきこもり防止策としての居場所、フリースクールなどの充実。
家族がひきこもりというケースがよくある。対応も難しい。
気になるがなかなか具体的に動けていない。
相談先をまとめたリストの発行と相談できる場があるという情報発信。
支援のアウトリーチをもっと増やしてほしい。
遊園地のチケット配る！子犬を提供（散歩に出る）。誰からもはなしかけられないネットカフェのチケット贈呈！！とか？

【住民同士のつながりづくり】

回答内容
まずは隣の人と挨拶が出来る環境作りが必要。相手が出来なくとも私は自分から声掛け運動をしている。
町内会ごとの行事を多くもつ。
ご近所さんは立ち話をしているのでそれもいいかな。
町内会、商店会と協力イベント等に参加して、そして何らかの手伝いをお願いする。
草取り等で仲よく話をする様にする。
町内会の回覧を回す際に話したり、見かけたら声かけする。
サークル、町内会への勧誘。

回答内容
一番大事な事。顔を合わせたら先ず、挨拶を自分からする事。
町内会を、自治会を抜ける人が多くなっているので色々仕事があるので、出来ない人は、出来なくても良いのでは？
災害時だけでなく何かあった時に大きな力を発揮するのは住民同士のつながりだと思う。普段の挨拶から始めるなど「つながり」作りをがんばりたい。
町内会活動、子供会活動に積極的に参加して、色々なイベントを通してつながりづくりをしている。
町会の活動に差異が大きい
繋がりたい人だけではないので…なんとも言えないです

【居住に課題を抱える人への支援】

回答内容
問題があれば市に相談するのが一番だということを伝える。
相談窓口がある？でも、相談の後…きっとお金がないから住居がどうにもできないんだろうな…

【自殺防止対策】

回答内容
民生でも本当は話を聞き悩み事をうちあけてもらうのがいいけど。
悩み等をきちんと聞いてあげる。
心の相談室のような電話相談員の増員(以前なかなかつながらなかつた子がいると聞きました)。もっと身近で親身になってじっくり話を聞いてくれ相談できる機関。困っているときに、いつでもすぐ対応してもらえるシステム。
心を病んでいる人はきっと人には打ち明けられない悩みで苦しむ、絶望感を感じてしまうと思うのでもう少しフランクに自分の悩みを打ち明けられるネットワークや会社などに窓口があると思いつめずに少しずつ考えや物の見方なども軽く考えられるのではないかなと思う。
とにかく一人で悩まずに周りに相談できる環境を作るようにする。
〇〇することが正義！！みたいな、妙な概念を振りかざす人を表に出さない！それでいい。って、思えたら、死ぬまで…いかないんじゃないかな…わからない…

【成年後見制度の理解の普及】

回答内容
成年後見になる人の信用と、個人の資金のあり方が明確でないこととどこまで信頼できるかによる。
行政に相談する。
説明会などの回数を増やす。
判断能力の不十分な人の財産管理等は難しい問題があり、安心して利用できる様になるまではねばり強くPRしていかななくてはならないと思う。
何度説明を受けても理解が難しい。
司法書士事務所などに同行することも良いと思う。
終活を進めることとか？70歳になったら、なんか、パンフレット送るとか！！
制度の説明会の開催

回答内容
市民向けに成年後見制度についての講演を開いて、現行の制度の問題点や成年後見制度を利用する際に気を付けるべき事などを知ってもらう機会を提供する。

【市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援】

回答内容
情報を知らせる。
お金がけっこうかかるので良いと思います。
エンディングノートの意義を教えても、活用しようとしていない人が多い。様々な機会をみつけて根気強く説明していく。

【地域住民等が集う拠点の整備】

回答内容
町内会のイベントに出る。
自治会等がくわわって話し等をした方がよいと思います。
各世代で集まる場所はあるが、幅広い世代が集える場所がなかなかないと感じる。地域住民同士の異世代交流を生むためにも、世代間交流ができる拠点の整備が必要だと思う。
地域の人々が集まって情報交換できる場所を増やすことによって防げることは沢山あると思う。住民同士のつながりが一番大切だと思うので集まれる場所を増やしてほしい。
補助金が年々少なくなってゆく。
各地域の集会場を利用し、高齢者が気にする内容の講演会を開催することで地域住民が集まりやすいと思います。
1対1では話せるが、大勢の中には入れないと思っている人が、一人でも気を許せるような近隣にいると良い。
高齢者が集まってボランティアグループと体操をしたり、おしゃべりをしたりしているが、場所が限られていたり、狭かったり、参加したい人もいるのに呼んであげられない。ボランティアのグループにも市民センターや公民館などをもっと優先的に無償で借りられる様にする。
集会場の老朽化が進みつつある
チルズに遊びに来てください!!!
空き家や企業など、場所を確保するためにも行政からの働きかけがさらに必要と考えます。その後のフォローも行っていけば、貸す側も安心できるのではないかと。

【福祉に関する情報提供】

回答内容
福祉サービスに対する認識が広まる様、積極的に情報開示していく事で生活で困った人、生きづらさを感じている人の負担感、軽減につながればと思う。
ぽぽたんが！SNSで！！楽しく発信したら、みんな見ると思う！！！！ぽぽたん可愛いし！！！！
メルマガみたいなもので発信してもいいと思う。

【分野横断的な困難事例への対応】

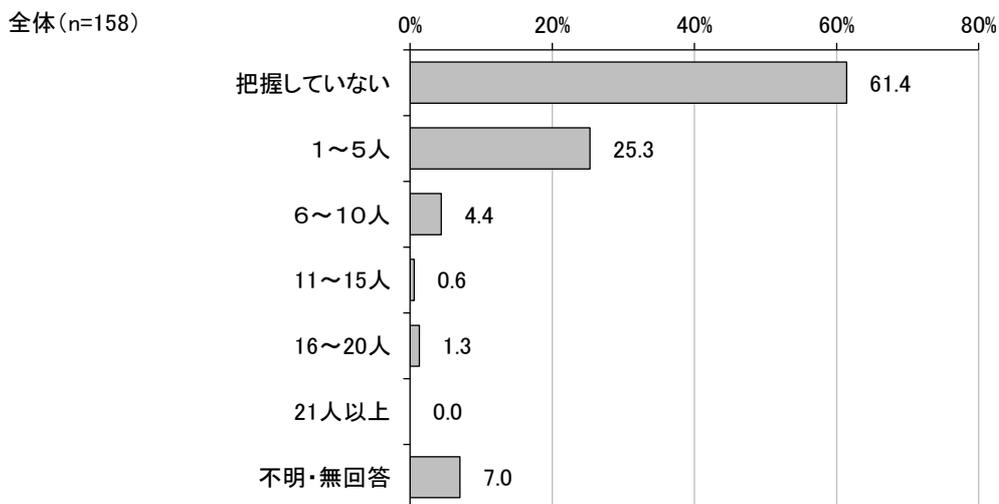
回答内容
私たちが関わるケースは、高齢者だけでなく、障害者やその子どもと一緒に問題が発生させていることがよくあります。横のつながりをもっと作っていただきたいです。
障害・高齢・生保がそれぞれの枠組みの中での業務となっているように思う。情報が共有できたり、連携をはかるといところを行政に期待したい。主導する担当課がなく、包括職員が右往左往する事態となってしまう。
まずは研修や横の繋がりができる組織づくり

【その他】

回答内容
[情報の周知] ペーパーレス化が進み、SNS や HP などの情報周知が多い。若い世代は良いが、50 代以降は SNS を利用していない（できない）ことが多い。駅から遠い、車が運転できないなど、中心地へ出かけることが少ない人も多く、「情報を知らない、教えてもらっていない、中心地住民や若者ばかり」という声を聞いている。議員さんの力が必要ですか…。
詐欺、強盗など犯罪対策
強度行動障害のある人の家族支援
役所の中でも課を越えた情報交換・情報提供をして欲しい。例えば、保健センターからの依頼で訪問すると、引っ越されていたり、1人個人の情報を1本化して欲しい。
共働きだったり、片親だけど仕事をしていて遅く帰ってくる等生活面でのヘルパーさんも手厚ければ有難いです。

問8 専門職としての関わりの中で、ひきこもり状態に該当する方をどれくらい把握していますか。(1つを選択)

「把握していない」が61.4%と最も高く、次いで「1～5人」が25.3%、「6～10人」が4.4%となっています。



〈専門分野別クロス〉

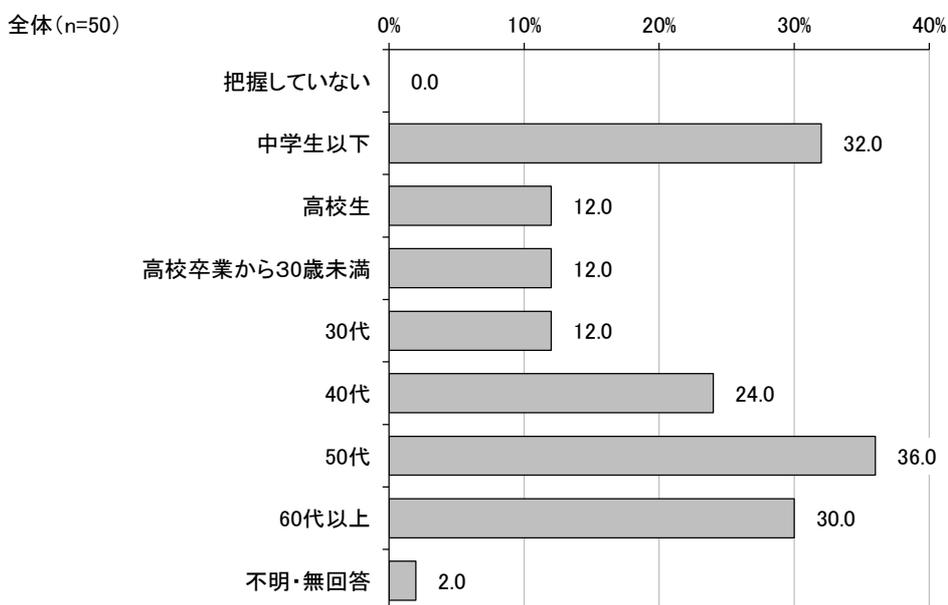
専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援、防犯・防災・交通安全では「把握していない」が最も高くなっています。

単位:%		把握していない	1 ～ 5 人	6 ～ 1 0 人	1 1 ～ 1 5 人	1 6 ～ 2 0 人	2 1 人 以上	不明・無回答
全体 (n=158)		61.4	25.3	4.4	0.6	1.3	0.0	7.0
専門 分野 別	子ども・若者支援 (n=77)	64.9	19.5	3.9	1.3	0.0	0.0	10.4
	高齢者支援 (n=92)	64.1	22.8	4.3	0.0	1.1	0.0	7.6
	障害者支援 (n=77)	55.8	28.6	7.8	0.0	2.6	0.0	5.2
	保健・医療 (n=7)	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	65.4	23.1	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	就労支援 (n=4)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8で「把握していない」以外の方

問8-1 把握しているひきこもり状態に該当する方の年代を、分かる範囲でお答えください。(あてはまるものすべてを選択)

「50代」が36.0%と最も高く、次いで「中学生以下」が32.0%、「60代以上」が30.0%となっています。



〈専門分野別クロス〉

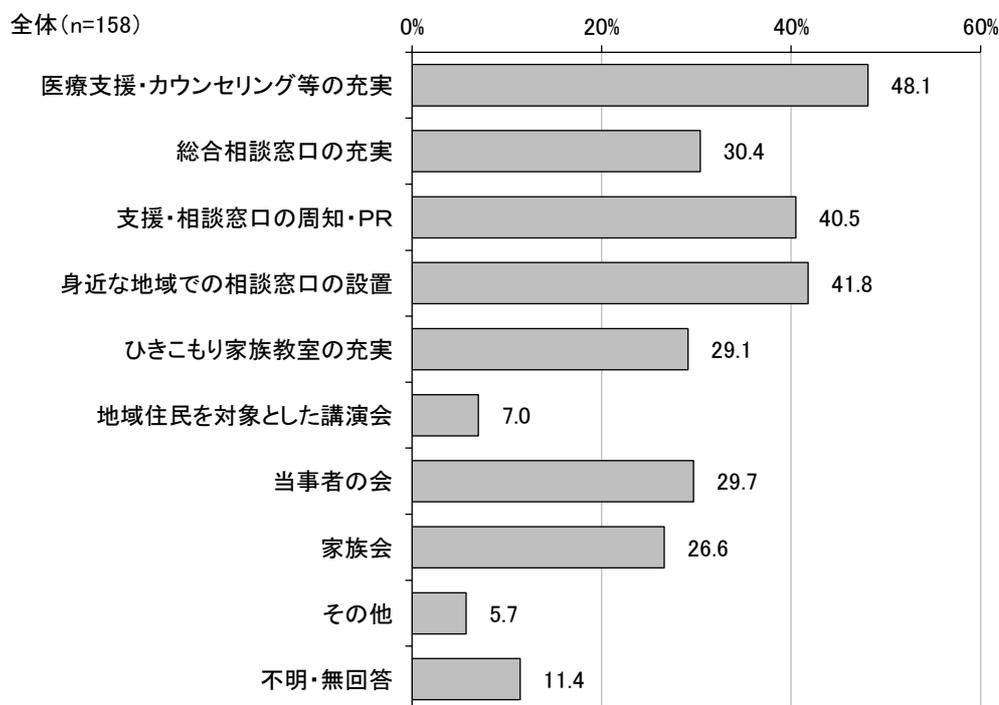
専門分野別にみると、子ども・若者支援では「中学生以下」、高齢者支援では「50代」、障害者支援では「中学生以下」「50代」が最も高くなっています。

単位: %		把握していない	中学生以下	高校生	高校卒業から30歳未満	30代	40代	50代	60代以上	不明・無回答
全体 (n=50)		0.0	32.0	12.0	12.0	12.0	24.0	36.0	30.0	2.0
専門分野別	子ども・若者支援 (n=19)	0.0	52.6	15.8	21.1	5.3	26.3	21.1	10.5	0.0
	高齢者支援 (n=26)	0.0	11.5	7.7	7.7	11.5	30.8	53.8	42.3	3.8
	障害者支援 (n=30)	0.0	36.7	10.0	16.7	13.3	26.7	36.7	26.7	3.3
	保健・医療 (n=3)	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=9)	0.0	44.4	0.0	11.1	11.1	22.2	44.4	33.3	0.0

※〔就労支援〕は該当者がいませんでした。

問9 専門職の立場から、ひきこもりの人への支援に関して、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてを選択)

「医療支援・カウンセリング等の充実」が48.1%と最も高く、次いで「身近な地域での相談窓口の設置」が41.8%、「支援・相談窓口の周知・PR」が40.5%となっています。



〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援では「医療支援・カウンセリング等の充実」、防犯・防災・交通安全では「支援・相談窓口の周知・PR」「当事者の会」が最も高くなっています。

単位: %		医療支援・カウンセリング等の充実	総合相談窓口の充実	支援・相談窓口の周知・PR	身近な地域での相談窓口の設置	ひきこもり家族教室の充実	地域住民を対象とした講演会	当事者の会	家族会	その他	不明・無回答
全体 (n=158)		48.1	30.4	40.5	41.8	29.1	7.0	29.7	26.6	5.7	11.4
専門分野別	子ども・若者支援 (n=77)	46.8	32.5	42.9	40.3	33.8	6.5	33.8	24.7	5.2	11.7
	高齢者支援 (n=92)	47.8	29.3	42.4	46.7	23.9	7.6	30.4	28.3	1.1	13.0
	障害者支援 (n=77)	46.8	29.9	42.9	41.6	31.2	9.1	33.8	28.6	9.1	3.9
	保健・医療 (n=7)	57.1	28.6	14.3	42.9	28.6	0.0	14.3	57.1	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	46.2	42.3	50.0	42.3	34.6	11.5	50.0	34.6	3.8	3.8
	就労支援 (n=4)	25.0	25.0	25.0	75.0	25.0	25.0	75.0	50.0	0.0	0.0

問 10 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例（制度のはざまの問題、分野横断的な課題への対応など）がありますか。（自由記述）

回答内容
8050 問題。息子の問題。
通所受給者証を取得することはできないが、学校になじめずにいる子への手助けができず、じれんまを抱えている。
公的福祉サービスを担っている事業所は民間がほとんどです。損益を考えての事業展開なので、地域ニーズがあっても利益が見込めないなら福祉サービス充実は困難。
学校からバスに乗って帰ってくる児童を迎えに行き、放デイでおあずかりしています。バスを降りてからが放デイの仕事だと思っていたのですが、バスの中まで迎えにきてほしいと言われました。障害児が乗るバスなのに、そうして契約上添乗員さんは乗り降りの手伝いをしないのでしょうか？（今はバスの添乗員さんが協力してくれています。）
問7-21にも書いたが、1人個人の情報を1本化して欲しい。また、主任児童委員は、住民台帳を見ることが出来ず、学校から「現在、居住しているのか」「保護者の状況・有無」を聞かれた時など、役所内で良いので閲覧できるようにして欲しい。近隣にいる民生委員さんに聞いても、高齢者の情報しかなかったりするので。
問6の1で回答したが、精神の病から就職の悩みを抱える40代男性とメールでつながっている。彼は障害者枠で会社に採用されるも単純作業しか与えられず、仲間との会話も少なく、給料も不十分で、短期間で離職の繰り返し。語学力があり性格的にも悪くないようであり、もう少し待遇改善してもらえないものか、と会社、行政機関に検討頂きたい。
医療的ケアを今まで以上に介護職員ができるようにならなければ、本当に困っている方を助けることができませぬ。厚生労働者の見解を変更すべきです。
ご本人に必要なサービスでも、介護単位や障害支給時間が足りず、無料でのケア提供が増えている。自治体間で基準が異なり、予想外の対応に戸惑う。
精神疾患がある方で引きこもりをしている場合、医療機関へ行くにも移送手段がない。
介護…通院時の院内介助が自費の為に利用しづらい（独居の為に医師との面談に立会いがない人。院内を車椅子介助が必要な方のサービス。
児童クラブの受け入れ人数。所属児童が全員来る日はない。常に部屋にいることもないので参酌基準の児童一人あたり1.65㎡はなかなか実用的ではない。基本的に児童クラブの入所を希望している児童は待機させてはいけないと思う。
他利用者に安全を守るために、重度障害者及び強度行動障害者のお断りをしてしまうことがあった。
高齢者の子供が明らかに精神疾患を患っている。そのため高齢者にマイナスな影響が出ている。精神疾患と思われる子供は通院しておらず障害手帳もない。現在、そのような人には障害者支援は関わっていただく事ができない。誰が何を困っているのか、当事者（高齢の親）から相談がないと…とか、その障害があると思われる人から相談がないと動けないとか。はっきり言って、それをしてくれるようなケースならこちらも苦労しないです。
リフォーム詐欺の疑いの方への支援、保護、対策
介護保険でデイサービスを利用しているが、卒業になった後に運動をしたいが、お金をそんないかにかけることができないため、路頭に迷ってしまう。デイサービスで体調不良の方がいた時に送る病院が見つかりづらい

回答内容
高齢者宅の樹木処理について
厚生支援のための話を聞いてあげられる場所の確保
不登校児は、どこに相談したらいいか、なにのサービスを頼ればいいのか迷走しています
認知症の80代夫婦とその息子とその息子の三世代4人暮らし。認知症の両親のキーパーソンが60代の息子であるが、定年退職をきっかけに、アルコール依存の傾向。持病の糖尿病を放置している。ほとんど食事を摂らず、医師から栄養失調と言われている。歩行能力も著しく低下しており、立っている状態を維持することも困難となっている。20代の社会人になったばかりの息子が父親と祖父母の支援をしなくてはならない状況を把握している。高齢者未満の息子を支援しないことには、80代夫婦の支援が滞ってしまう中、行政としては担当課となれるところがない。結果的に20代半ばのお子さんが、支援をしなければ、生活が立ち行かない状況となっている。後見人制度の話をしているが、市町村申し立ては同居のご家族がいるという理由で対応が難しくなっており、これについても20代のお孫さんのご協力をいただく必要があるかもしれない。80代夫婦の金銭的なところの把握をご本人しかりご家族もしておらず、施設入所を検討するにしても課題が多い。
分野横断的な課題への対応。各課の連携が取れていないことが節々と感じ疑問に思うことがよくある。市役所それでいいのかなと1市民として思う。
独居高齢者で持病があり一人で外出することが難しい方の支援で制度上、出来ないがやむを得ず行われなければならないことについて。
若年性認知症の方（65歳以下）への市の補助の適応不可※オムツ支給や寝たきり支援金の年齢制限
地域の方から障害を持った方の行動に苦慮しているとの相談を受けたことがある。地域の方から障害者が日中どこにも関わられていないと相談を受けたことがある
近所の苦情
本人ではなく、家族の問題の対応に苦慮する。
引きこもり状態の児童、強度行動障害の児童に加えて、家族支援が必要な家庭
医療的ケア児は注目されて取り組みがあるが、医療的ケアのある大人（者）に対しての取組が朝霞市は何も行われていない。
乳幼児期のアタッチメント愛着形成を問題とした、発達がゆっくりなお子さんが増えていると思います。出産などによる心身の体調変化や、働き方による家族と乳幼児とのかかわり方について家庭によって差がみられると思うので。専門家による継続的な訪問支援やオンラインによる子育て支援
地域の課題のその他に記入してしまいました（トラックのことについて）

問 11 問 10 に書かれた問題・事例に対して、解決に向けたアイデア・ご意見がありましたらお書きください。(自由記述)

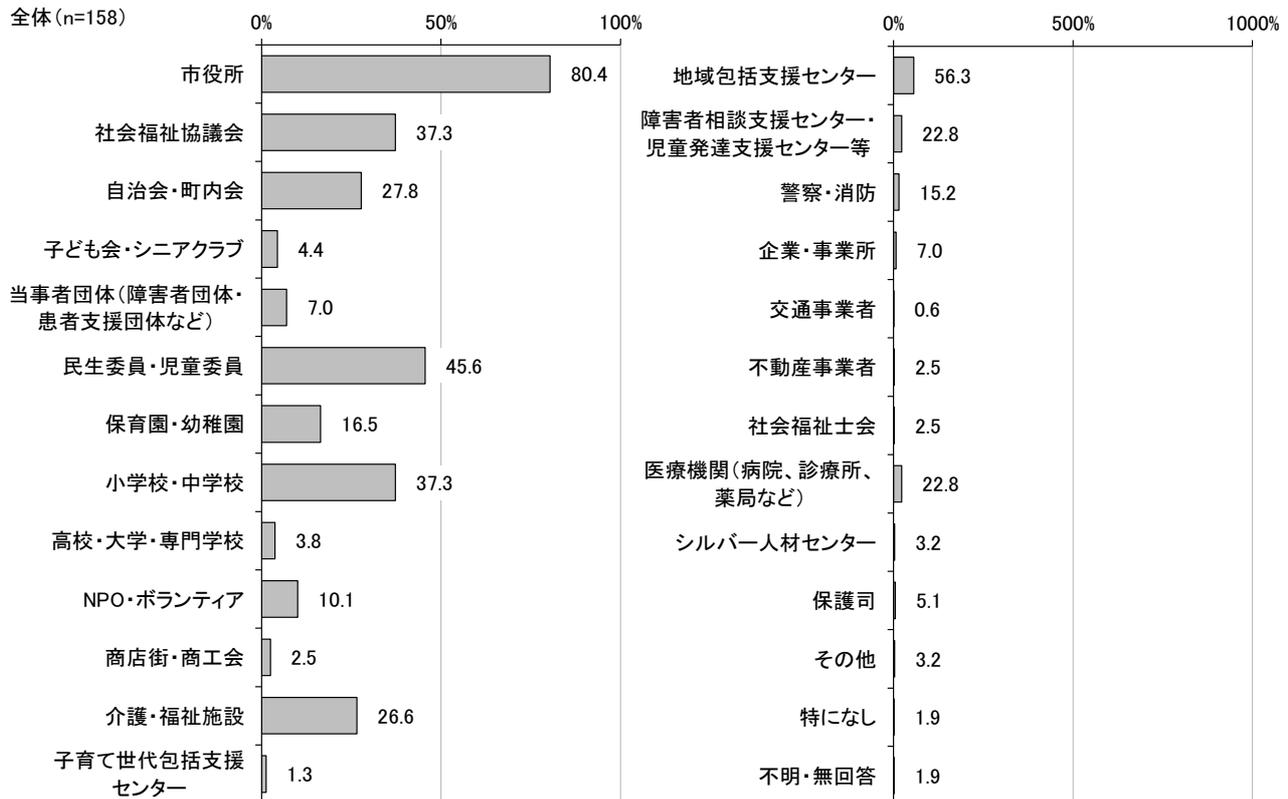
問 10 回答内容	問 11 回答内容
公的福祉サービスを担っている事業所は民間がほとんどです。損益を考えての事業展開なので、地域ニーズがあっても利益が見込めないなら福祉サービス充実は困難。	市、社協、民間が出来ること出来ないことを素直に話し合う場、問題意識を共通化し、協業する場のつくり、その場で問題解決に向けて話し合う。
学校からバスに乗って帰ってくる児童を迎えに行き、放デイでおあずかりしています。バスを降りてからが放デイの仕事だと思っていたのですが、バスの中まで迎えに来てほしいと言われました。障害児が乗るバスなのに、そうして契約上添乗員さんは乗り降りの手伝いをしないのでしょうか?(今はバスの添乗員さんが協力してくれています。)	現段階で乗り降りの手伝いをしないのは契約なので仕方がないと思いますが、子どもたちが安心して乗れるようにするためにも見直すべきだと思います。
医療的ケアを今まで以上に介護職員ができるようにならなければ、本当に困っている方を助けることができません。厚生労働者の見解を変更すべきです。	自費サービスの拡充が今後重要かと思います。
ご本人に必要なサービスでも、介護単位や障害支給時間が足りず、無料でケア提供が増えている。自治体間で基準が異なり、予想外の対応に戸惑う。	自治体間で調整を行ってほしい。
精神疾患がある方で引きこもりをしている場合、医療機関へ行くにも移送手段がない。	県とも協力した移送制度の実施。
児童クラブの受け入れ人数。所属児童が全員来る日はない。常に部屋にいることもないので参酌基準の児童一人あたり 1.65㎡はなかなか実用的ではない。基本的に児童クラブの入所を希望している児童は待機させてはいけないと思う。	児童クラブの増設
高齢者の子供が明らかに精神疾患を患っている。そのため高齢者にマイナスな影響が出ている。精神疾患と思われる子供は通院しておらず障害手帳もない。現在、そのような人には障害者支援は関わっていただく事ができない。誰が何を困っているのか、当事者(高齢の親)から相談がないと…とか、その障害があると思われる人から相談がないと動けないとか。はっきり言って、それをしてくれるようなケースならこちらも苦労しないです。	とにかく、アウトリーチ支援をもっと積極的に行って欲しい。そして、縦割り行政を改善して欲しいです。
リフォーム詐欺の疑いの方への支援、保護、対策	公的機関の立ち会い、さりげない見回り
介護保険でデイサービスを利用しているが、卒業になった後に運動をしたいが、お金をそんなにかける	補助金、行政のサポート、運動教室などの開催。デイサービスと病院やクリニックなどとの連携

問 10 回答内容	問 11 回答内容
<p>ことができないため、路頭に迷ってしまう。 デイサービスで体調不良の方がいた時に送る病院が見つかりづらい</p>	
<p>高齢者宅の樹木処理について、</p>	<p>関連部門の連携が必要</p>
<p>不登校児は、どこに相談したらいいか、なにのサービスを頼ればいいのか迷走しています</p>	<p>不登校手帳を出して、障がいとしてではなく、サービスを利用させてあげたい！！母子のために！！</p>
<p>分野横断的な課題への対応 各課の連携が取れていないことが節々と感じ疑問に思うことがよくある。市役所それでいいのかなと1市民として思う。</p>	<p>連携が必要な課同士が月々にでも連絡会等すればよいと思う。直近で保健センターに相談にきた家庭を未来課保育課福祉課が認知しておくべき。</p>
<p>独居高齢者で持病があり一人で外出することが難しい方の支援で制度上、出来ないがやむを得ず行われなければならないことについて。</p>	<p>地域との関わりもあまりないので、それぞれの力量で支援するしかないのか？</p>
<p>地域の方から障害を持った方の行動に苦慮しているとの相談を受けたことがある 地域の方から障害者が日中どこにも関わっていないと相談を受けたことがある</p>	<p>障害者に関して「とりあえずそこに相談に行けばいくつかの選択肢を答えてくれる」という場所が必要</p>
<p>本人ではなく、家族の問題の対応に苦慮する。</p>	<p>多職種連携が不可欠だが、どこの部署が担当していくのか、引っ張っていくのか。総合支援ができる窓口が必要ではないか。</p>
<p>引きこもり状態の児童、強度行動障害の児童に加えて、家族支援が必要な家庭</p>	<p>学校以外に通えたり、相談できる場を作る。支援する職員や家族の研修の機会、情報交換の機会</p>
<p>医療的ケア児は注目されて取り組みがあるが、医療的ケアのある大人（者）に対しての取組が朝霞市は何も行われていない。</p>	<p>先進市の取組を参考にして、朝霞市の問題点を考える。</p>
<p>地域の課題のその他に記入してしまいました。（トラックのことについて） （※この頃特に、狭い道が多いにもかかわらず、トラックやダンプが増えた気がする。かなり乱暴な運転を見受けるので注意が必要。特に通学路など見ていてヒヤヒヤすることが多く思える。）</p>	<p>警察や関係団体へ働きかけをお願いしたいです。特に歩道の整備を進められていることは実感しておりますが、まだまだ危険な道路が多いので安心して歩けるようにお願いします。</p>

3 活動の状況について

問 12 現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手先を選択してください。
(あてはまるものすべてを選択)

「市役所」が 80.4%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 56.3%、「民生委員・児童委員」が 45.6%となっています。



問 12 で「特になし」以外の方

問 12-1 現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手先との具体的な連携内容をお書きください。(自由記述)

【連携先(とその内容)】

回答内容
担当している地域で何かあると地域包括支援センターに連絡します。又、3ヶ月に一度地域包括支援センターとの話し合いがあり情報交換をしています。
学校応援団の活動に参加して学校との連携を密にしています。サロンで地域包括との連携しています。
田島団地にシニアのゆつふあ体操に行き、脳トレ、折り紙、体操の指導をしています。ソポケアにも月1回ですが折り紙、脳トレの指導している。
地域包括支援センター。独居高齢者の見回りと介護支援、老人施設等の斡旋、痴呆症独居高齢者の相談、解決法。
社協、包括支援センター、町内会、商店会。

回答内容
老人介護施設の現状を2ヶ月に1回会議があるので現在どんな状況であるかの報告を受けている。現状、人手不足、働き方改革などあり、大変苦しい状態なのだと思う。
子供の特性で、思うように学校に行けない悩み、母親に手がでることがあるまたその家族も、育児家事ができず子供に強くあたる。夫婦関係がうまくいっていない。児童相談所と連携して訪問等行っている。
同じ保育園系列や発達支援センターでの情報共有や市役所との連携。
高齢者の場合はほとんど地域包括支援センターにつなげてしまうが、子どもの場合、特に学校から連絡くることが最近なくなったように感じる。もし、連絡があったとしても顔も分からない人の見守りをするのも難しい。
市役所の保育課とは、虐待についての連絡や研修会、巡回相談など。小学校とは、学校見学や保幼小連絡会での情報提供。
地域包括支援センター(高齢者の情報交換)。
中学校の先生方との相談(見守りが必要な生徒さんの情報交換)。乳幼児健診の未受診児宅への訪問。
民生委員の定例会、研修、地域包括支援センター、社協。文化協会役員、社会教育委員として学校、市役所、サークル活動団体、公民館との連携。
利用者のケアマネジャーに対して身体的な変化や本人が困っている内容に対して連絡し、他のサービスが利用できるようなアドバイスやお願いをしたことがあります。
3ヶ月に一回地域包括支援センターと情報交換を行っている。週1回地域包括センター主催のラジオ体操に参加して情報収集。
中学校とは年に1回不登校の生徒の情報交換。民生委員同士では「気になる子」の情報交換。市役所・保健センターからは、「見守り依頼」「未受診訪問」。
地域の現状など情報を頂く。学校へはボランティアで校内の活動に参加し、学校の様子を知る。地域包括支援センターの方に不安のある世帯の見守りについて共有する。
中学校 不登校児などの見守り。小学校 親子の遊び場でのトラブル相談。若年性認知症の情報提供をしてもらっている。
サービス担当者会議を開催し、利用者の支援内容等の情報交換を行う。医療機関と利用者の健康管理に対する情報の共有(胃ろう対応、健康診断の実施等)。特別支援学校から実習生の受け入れ。
地域包括支援センター…困り事があると、すぐに連絡、即動いてくれ解決しております。一番頼っている場所です。サロン等にも参加してくれ参加者とも親しく、頼りにしています。
医療関係の方とのシステムによる情報交換をしております。介護業の他社様と情報交換をして、例えば弊社の人員が不足した際に協力をいただくことがあります。役所の方にはご不明点を伺ったり、ご指示をいただくために質問したりします。
担当地域のマンションでは管理人さんに協力を求め、住民の中で気になる方に気づいた時には知らせて貰う事になっており、定期的に管理人さんに会うようにしている。(マンションなどでは外から状況確認が難しい為)小さい事でも問題と感じた時は地域包括センターに連絡を入れ、相談をし情報を得て対処のアドバイスをいただくか、難しければ地域包括センターに対処をお願いしている。
市役所、民生・児童委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、町内会、サロン、居場所を通して情報交換。

回答内容
各種連携について相談。例) サギ被害防止にむけ、消費生活センター、警察と連携。
地域包括支援センターの方たちとは常にお話し、困りごと相談・勉強会を開いている。
民生委員会。民生をはじめて日が浅くみなさんの意見を参考にしている。
(市役所) 福祉部長寿はつつ課より介護保険制度の申請からサービス利用までを講座で学習等。(中学校) 民生委員、児童委員として年1回懇談会があり、各学年の生徒の様子、状況について教職員と情報共有。(地域包括支援センター) 担当地区の高齢者の方の健康、福祉、医療に関する現状の聞き取りと連絡。(社会福祉協議会) 身近な居場所づくり、いきいきサロンの参加で住民参加、在宅福祉サービスあり、はあと事業利用者の紹介。ホームクリーニング事業、平成8年~平成30年で終了し、あいはあと事業、令和3年4月からなるホームクリーニングでは利用者を紹介(とても喜んでました)。
小中学校…気になる児童・生徒とその家庭の情報共有。保健センター…乳幼児健診未受診家庭への訪問事業。こども未来課…要対協への参加、気になる家庭の情報提供、見守り要請への対応。
パソコン上で看護師、リハビリテーション関係者、医師等(MCS)で連携している。
1人暮らしの高齢者の体調が悪いとの情報を近所の人から受けると、市役所の福祉課や地域包括支援センターに電話するとすぐにその高齢者の自宅に行って適切な対応をしてくれる。通学途中で、具合が悪くなった小学生がいると近所の人から連絡をもらった時に、すぐに学校に電話したら教頭先生がかけつけてくれた(子供の親は仕事で誰も家にいないとの事だった為)。
保護司会
質問や連絡事項は他園と連絡確認を取り、すぐさま市役所へ問い合わせするよう心掛けている。
高齢者支援を行うにあたり、その方の地域である包括支援センターやかかりつけ医(訪問診療)など情報共有を行い、連携をしている。
企業や関係機関との情報交換や共有を行い、地域の高齢者や活動を支援の協力をいただいている。
困難事例は相談支援事業所に依頼して会議を開催してもらったり、個別に連絡している。相談支援事業所でも前向きな取り組みをしている所と最低限のことしかやってくれないところがある。
学校の懇談会参加 保育園の評議会参加 こども未来課との情報共有

【情報交換・情報収集・訪問】

回答内容
就労支援や訪問看護に関する報告。
連絡会への出席。スポーツ大会への参加、福祉祭りの参加。
民生委員相互の研修参加。防犯パトロールに参加。
利用児童の状況について、顔をあわせて、または電話で共有。
定期的な勉強会、虐待防止研修を行っている。
自園に対する入園、退園の情報交換と書類のやりとり。進級に伴う、提携園への情報交換。虐待が疑われる家庭の情報交換。
介護保険関係、ケアプラン作成に当たり情報収集、利用者の医療関係(入退院、訪問診療など)。
委員会、部会に出席し、勉強会に参加する。
子どもの様子に関しての情報交換。地域の催しものに関しての連携。施設管理に関しての連携。
保育所等訪問や児童の情報共有。

回答内容
市内在住の障害者の働くに関する相談、支援をさせていただく中で、様々なケース対応する際必要に応じ情報共有し当事者の働くを支援。
介護保健を利用してる方、難病の方、独居の方の報告等。
支援をする上での情報収集。地域の困りごとの把握。
中学校 不登校児などの見守り。小学校 親子の遊び場でのトラブル相談。若年性認知症の情報提供をしてもらっている。【再掲】
MCS や研修会。
園児の情報交換や園全体の運営などのサポートなど。
園児の情報を交換したり、園全体の運営のサポートをしている。
外壁塗装、屋根の修理で独居で判断能力があるのか、情報交換した。
会議・情報交換会、ライングループ。
前職が介護職だったため、情報交換はある（今の現状の把握等）
サービス計画の作成に伴う共有。
定例会 懇談会の参加
電話、会議、直接行く！、来てもらう、FAX、メール
電話や会議をおこなっている。

【見守り・イベント等への参加】

回答内容
心配な方の見守りなど。
一人暮らしのお年寄りの見守りの連絡を受け、訪ねている。
ノルディックウォークで高齢者の方々の健康とコミュニケーションでより楽しい老後が送れます様に活動をしております。又、学校生活を送る生徒の友人たちの様子、部活動等を見守っております。ほんのわずかですが助け舟の言葉を出すことが出来たと思っています。
連絡会への出席。スポーツ大会への参加、福祉祭りの参加。【再掲】
民生委員相互の研修参加。防犯パトロールに参加。【再掲】

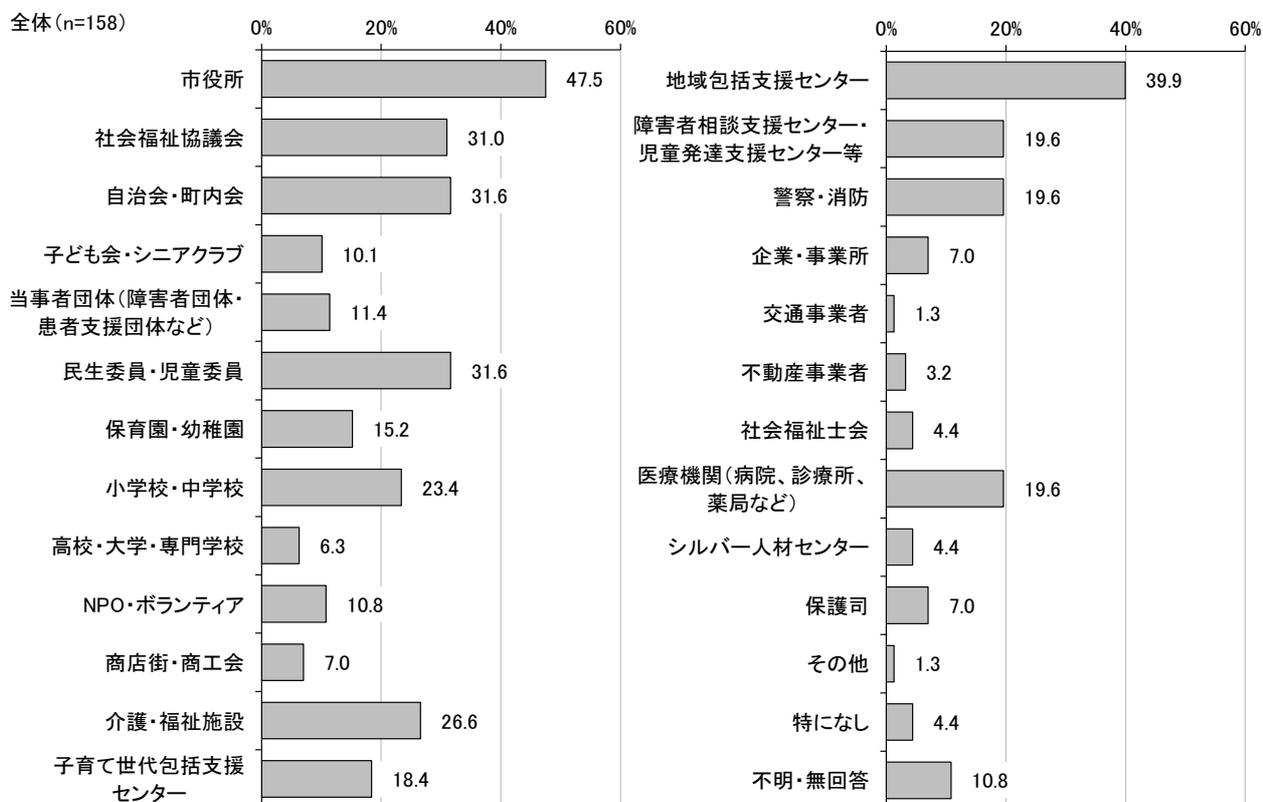
【その他】

回答内容
気になる時はすぐに相談に応じてもらって解決に取り組んでいる。
福祉関係のイベント開催のお知らせ等。
ケースワーカーと探したい。年齢が高くなり、一人暮らしが不安。どこか施設を探したいなどどこに相談したらよいかわからない。
電話
地域包括センターが一番情報を有していると思います。
学校や園での様子や、保護者が語らない学校や園での問題行動等。
1人暮らしの有無。認知症のレベル。
行政の基準の確認、手続きの確認。

回答内容
メール、電話、市窓口。
独居（75 才以上）、尚且つ障害もお持ちの方への支援についてなど。
担当する利用者や家族の情報、住宅環境などについて。
気になる世帯があった場合はこの世帯が既に支援を受けているかどうか確認する。
地域住民からの相談 入退院の支援 地域住民のお困りごと 地域ケア会議 認知症のことなど
虐待のケース、不登校のケース
訓練の実施、傷病時の協力、緊急時の協力
療育利用者の支援についての内容
市からひとり親の相談を受けて対応したが、市の内部での情報共有が全く無いため、部署を超えるやり取りが非常に面倒だった
民生委員としての活動です

問 13 今後、情報交換や連携を深めたい相手先を選択してください。
 (あてはまるものすべてを選択)

「市役所」が47.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が39.9%、「自治会・町内会」「民生委員・児童委員」が31.6%となっています。



問 13 で「特になし」以外の方

問 13-1 今後、情報交換や連携を深めたい具体的な理由をお書きください。(自由記述)
 【子ども関係】

回答内容
児童に対して個人情報あまり入らない(秘密義務)。入らない中での見守りには限りがある。
子育てや学童の入所情報などを共有したい。
似た状況の子への支援の幅をひろげる。保護者が横のつながりをつくれるよう支援したい。
中学校では懇談会をしていますが、小学校ではしていないので現状がよく分からない。
子育てをしている親にたいしてのケアも必要だと感じるから。
地域に住む子ども達、保護者が何に困っているのかを知りたい。小・中学校では、授業において手伝えることがあれば手伝えていきたい。そうして自然と子ども達や保護者と地域とのつながりを作っていきたい。
保育園、園児の過剰な泣き声や保育士の怒鳴り声など。話し合いを持ちましようと話はできますが、実行されていない状況です。
気になる(DV、自傷行為など)子を把握する。
散歩をする際に商店街や商工会との交流などを深めておくと街の人で子どもたちの安全を守る事がよりできるのではないかなと思った。

回答内容
現在、学校によって連携がとれている、とれていないの差が大きいように感じています。（校長先生が代わるとかわってしまうとか…）。
保育施設で集団生活に苦手が見られるお子さんが病院や保健センターに相談を促し、保護者の方が行動してくれるものの、様子見だけで帰されてしまい、保護者も保育所も困ることが多い。グレーなお子様を抱える家庭に保育所以外の出来る支援をすべて認識し、保護者に向けてお伝えする内容の統一をしていきたい。
市の指定管理を受けて社会福祉協議会が運営をしている放課後児童クラブでは、児童領域を運営しているのが、現状放課後児童クラブのみなので、自分達の組織内で児童領域の専門の相談機関がなく、また、外部へ繋げる手立てがない状態である為
子供を取り巻く環境の変化や現状を知る機会がもう少し欲しい。

【障がい者関係】

回答内容
就労支援B型のため、他企業と連携した作業ができないか。障害者事業以外にも直接当事者団体と話をし、ニーズの聞きとり共有したい。
就労支援や生活支援のためのインフォーマルサービスの充実を図りたい。
児童発達支援センターの研修や認定された子についての専門的なアドバイスを知りたい。
利用児者の困り事や苦手、問題等をきちんと把握し支援に活かしていく為。
障害者の利用者さんの医療についての悩みを気軽に意見交換したい。授産で製作した製品を福祉だけで売り買いするのではなく、一般にも広めたい。販売方法や商売についての意見交換を気軽にしたい
学校とは困難事例があった時のみの事が多く、放課後等デイサービスの事を知らなかったり、あまり重要視していない、下に見ているように感じる。下校時間に学校都合で待たされる事は良くある。理解している方や学校もありますが、少ない。知らないからだと思います。

【高齢者関係】

回答内容
寝たきりで一人暮らしの高齢者。介護訪問を1日に4.5回受けて、夜7~朝の7時位まで訪問なしのベッド生活をしている方を見守っています。夜に台風や停電でエアコンが切れてしまった時、エアコンのリモコンを入れに行き、ケアマネジャーに自宅に訪問したことを電話連絡して、ことなきを納めた(ケアマネジャーとのやりとりが出来たが、一人で夜に入ることにていこうがある)。
独居高齢者の情報を交換し、対策を。
通所リハビリで勤務しており、利用者さんからは生活上の不安を聞くことが多い。よりよい生活をしてもらう為にも家族やケアマネジャー等と連絡を密にして対応する必要があると思います。
健康に活動なさっているシルバー人材紹介で働いていらっしゃる方々との会話をしてみたい(有志の方々の名所旧跡歩き等)。
話し好きなお年寄りたくさんいるが、サロン等の活動をしている会を紹介するが、大勢の中に加わるのが苦手としている人が多い。
認知症高齢者が増加しており、地域との連携や情報は必要と思う。

【地域について】

回答内容
民生委員・児童委員の方と地域に住まわれている方の見守りや声掛け、様子など情報共有できたらいい。支援している方の生活の場になっていることが多いので、情報共有の場を設けやすくして、子ベル支援を考えていきたい。
地域の中でのそれぞれのコミュニティからの情報交換をすることで多角的に物事を捉える事ができる。単体での事業でなく、複数での連携が、必要。
近隣の住民や警察・消防と連携を深めて災害時などの繋がりを作りたい。

【その他】

回答内容
地域としての密なサポートをしていきたい。
闇バイトに関係しているような不審人物の訪問があったという利用者からの情報があったため、そのような時にすぐに情報提供をしたいため。
地域と地域包括支援センターとの連携が必要と思う。
詳細な対策。
親を知ると行動も早くなります。
東洋大の先生の脳トレはとて面白い。
経験が浅く、制度や法律などのアドバイスをお願いしたいので。
意外と不動産屋さんが色々なことをご存じで生活上の相談を受ける事が多いようです。定例会等で事例を聞いてみたいです。
元気な老人になりたい為。
情報を知りたいです。
支援が必要な方の早期発見につなげたいから。
民生の定例会に於いて、1番情報が役に立っているのは、民生員同士の体験談などの事例発表です。
現在、困り事はないのですか、住民の窓口として先ず福祉関係の部署の方との連携は大切なのではないかと思います。
町の人などの交流を深めておく。
私達はまず、それぞれの分野の現状を知りたいのです。民生委員は、部会が4つに分かれていて、1つの部会にはある程度、情報がありますが、総合的な事象が分かりません。
犯罪などが多い今、相談でき、安心したいなあと思います。
理解を深めるため。
介護業に興味を持っていただくために若い年代の方へのアプローチが必要だと考えるからです。
「個人情報」の縛りが強く、それでなくても何の権限のない個人では情報を集めるのが難しい。正しい情報を集める事が大事でそれがなければ何も判断できない。
ワンストップで理解できる情報の取得。
これから就労人口が減り、各機関で連携し市民を守っていく必要があるから。
長く民生をやられている方々の意見・活動を参考にしている。

回答内容
自分らしく、明るく、楽しく、健康でいられるように地域で人と関わる活動に参加し、人とつながるよう心がける。
末期の方の受入れ施設等の情報収集の為。
民生委員同士だけでは、なかなか事が進まない時はやっぱり市役所などは、1番頼れるし、住民の人も安心出来るから。
知識を広めたい。できること、叶うことが増えるかもしれない。
事情が多種にわたることで、他部門の意見 情報が必要
利用者に、多角的な視点から支援を行っていきたいため。
助け合いたい！！お互いに！
地域包括支援センターの業務遂行上必要と考えている。
制度上の支援に限界があり、その他のインフォーマルな資源が必要に思われるため。
様々な場面で協力を得られるよう交流の機会を持ちたい
急な応対も可能な施設であるため
連携を深めて行きたいと考えるが、日常業務が多く、そこまで手が回らない状況。 できるところからはじめて行きたい。
支援の可能性を広げたい。
地域の中で連携し、学びの場を維持したいから

問 13 で「特になし」以外の方

問 13-2 連携強化に向けて、必要な支援はありますか。(行政からの支援に限りません。)
(自由記述)

【情報提供、情報発信】

回答内容
市役所からどのような支援があるかを明確にしたパンフレットがあると利用者さんに説明しやすいと思います。
自分の立場では入り込めない母子家庭や障害のある方、生活保護などもう少し世帯情報を頂く事が出来るとどんな支援が出来るのか？必要ではないのか？こちらでの対応の仕方を考えられる気がします。個人情報なので難しいと思いますが…支援のチラシなどプライドを傷つけてしまうのでは？と躊躇してしまう事があります。
ワンストップのリーフレット等があると良い。全国共通で。
市から、「福祉施設でボランティアしたら？」みたいな、アナウンスとか???

【勉強会や交流会等の開催】

回答内容
勉強会や会議などをしてほしい。
当事者団体、家族会への直接的なアポイントが取りづらく、説明会や報告会が定期的にあると参加しやすい。
児発、放デイ、保訪の事業所の集まりを活発にし、法改定等に現場の声をとどけられるようになれば良い。
連携がスムーズに行えるよう、顔つなぎの場、お互いの機関の理解を深める機会作り。

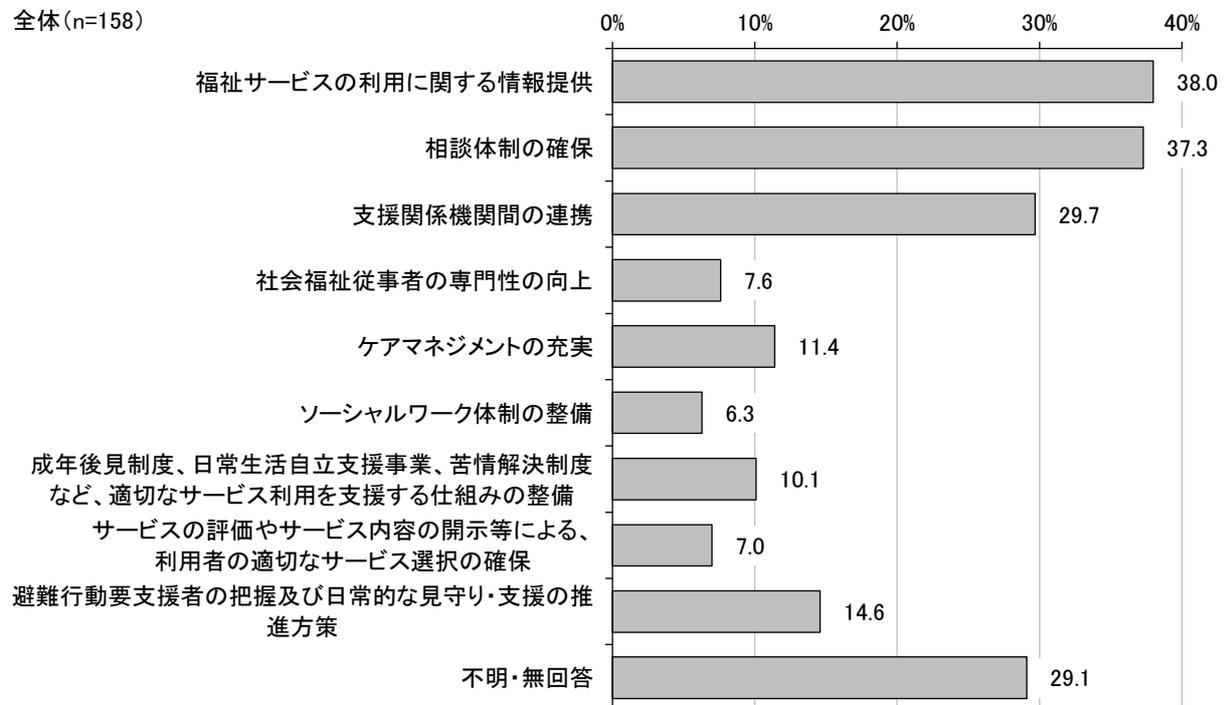
回答内容
小中学校の教員と福祉施設職員の関わる機会→特別支援教育が伴走的なものへ。ex) 支援学校→福祉施設へ移行時、情報伝達がないのが現状。ex) 発達障害又はグレーゾーンの子どもへのアプローチ、教員では難しい→障害、福祉分野の知識、技術が乏しい。
施設間で支援の悩みを話せる場があると支援で悩んでいたり、行き詰まっている所の解決のきっかけになると思う。市からそういった機会を設けていただくと貴重な情報交換の場となると思う。
就職セミナー等の開催（学校側と企業側に案内）。
やはり知り合う機会を設ける事だと思います。年度はじめに送迎を含めて会議を持つなど

【その他】

回答内容
専門職でない人だとなかなか的確な回答がもらえないことがある。
マンション等の管理会社(管理人)が協力があればもう少し 100%ではないにしろ出来ることもあるかもしれない。
集団生活の場で生きづらさを感じている子供達が増えてきている様に感じる。学校などの先生達もなかなか別での支援は難しく限界を感じる。理想は、学年ごとに心理士などのスクールカウンセラーをはいちして、いきとどいた子供や保護者対応ができればありがたい。
地域包括支援センターよりサロン作りについて。
家に閉じこもっても良くないので自分からアンテナを立てて頑張りたい。
読み聞かせ、ミシン応援、九九検定、プリントの丸つけ、ノコギリ応援…などの小学校での活動。あいさつ運動などの中学校での活動。
令和6年度の報酬改定により、事務作業量が増している。更に人員確保が難しい。人材会社へ登録しているが、経験あるスタッフとの契約に至っていない。慢性的な人手不足の解消の手立てがほしい。
商店街とアポを取り合ったり、事前に下調べを行う。
商店街との連携をとり合う。
財政支援。企業とコラボして収入を得つつ、福祉施設の運営(例カフェと図書館とサブスクでの貸本など)。
皆の本気度。口ばかりじゃない、つなげる気持ちがほしい。
連絡しやすい各窓口の公開
・精神疾患が疑われる方へのアウトリーチ支援 ・高齢者と同居している閉じこもりのかたへの支援 ・高齢者虐待が発生した際の被害者のためのシェルターとなれる場所の支援とか
インフォーマルの資源を利用するにあたり個人情報についてが難しい。
どこに行けば良いのかわからない
幼稚園という学びの場とは何かをもっと知ってほしい

問14 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「福祉サービスの利用に関する情報提供」が38.0%と最も高く、次いで「相談体制の確保」が37.3%、「支援関係機関間の連携」が29.7%となっています。



■ 具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【福祉サービスの利用に関する情報提供】

回答内容
地域包括等利用されている方は情報が入りやすいと思うが、されていない方はわからないのではと思う。
定期的な訪問。
困ったことがあった際、市役所に電話したら利用できる支援全ての情報を郵送してもらいたいです。
得られるべき情報を得られていない地域住民の方もいらっしゃるように感じるので、情報を得られる環境づくりや福祉サービスの公報が必要に感じる。ネットを使わない人も情報を得られるよう広報誌やポスターで提供すると良いと思う。
岩手県の盛岡市は各地域包括支援センターに生活支援コーディネーターを配置しており各地域の社会資源を活用し高齢者の暮らしを支援しております。もしその様な人材がはいちされれば地域の福祉サービスを活用されると思います。
住民同士の世間話的な所から、身近な情報を得ている人が多い。
新設グループホーム（障害）等の市からの情報発信がないことが疑問。なぜ、限られた人しか知る事ができないのだろうか。HP などに、建設予定などでも公表すべき。（公平性が保てない）。
利用できる福祉サービスの内容や申請方法等が分かりやすく明記、周知がされる事で、サービスの手が行き渡る様になって欲しい。
福祉サービスの利用についてまだまだ知らないサービスもあると思うので積極的にメディアや回覧などで知らせていくと知ることができると思う。
メディアでもっと情報を言い、多くの人にサポートしてもらえるようにする。
私達も、チラシ等の投函で、提供してますが、包括センターが開設しているサロンや座談会で広めていければと思います。
町内会、老人会等に分かりやすく情報提供していく。
定例会等での周知。
お話をさせていただいたお年寄りの中には「どこに聞きに行けば良いのかわからなかった」「そんなサービスがあるとは知らなかった」とおっしゃる方がいらっしゃる。情報が届かない人もいる、届いても無関心で頭に入っていない等、情報提供の難しさを感じる。問題相談・受付窓口1ヶ所から最後は福祉サービス利用の完了まであちこち回る必要なくわかりやすく窓口（1つ）があると良いと思う。
必要な人にサービスが届けられない現状。チラシなど読まない人への個別訪問。
はーとぴあ等のヘルパーが出来ない介助についての情報の広報をして利用を知らせる（ペットのエサ買い、清掃、銀行（外出）介助等）。
何か相談したい時に、社会福祉協議会に行ったら良いのか地域包括支援センターに行ったら良いのかほとんどの人は分からないと思う。どこに相談したらいいかわからない場合はここに来てくださいというような入口を分かりやすくして欲しい。
SNS とスーパー、病院に掲示
なんのサービスがあって、どんな支援をしてくれるのか、どんな事業所があるのかわからない
チラシやビラにして配る
ホームページの充実

【相談体制の確保】

回答内容
民生の方がよりそって相談されるといいと思う。
まずは誰もが困った時、自由に電話等で相談できる体制を作り、どうしたら良いか解決方法を導いてくれる事が必要だと思う。
地域よっての総合的な相談窓口があるといい。
相談支援事業者を増やす。
相談支援事業所の不足。県に許認可権があるが、市の問題として対策について市、民間で策を考えるべき。
いろいろな相談に対して専門の相談員を増員することによって迅速にかつ時間のゆとりを持って相談を受けたいです。
各地域の住民がどこへ相談へ行くのかを明確にする。
気軽に相談に出向けるような支援。
一人暮らしの高齢者に対して、民生委員として、仲間と一緒に訪問している。自分一人よりも二人で訪問することで、会話が続き、相手の困りごとを誘導しやすく感じている。
サービスを提供する側の人員体制、環境の整備が手厚くされて行って欲しい。人材が確保されないため、支援が遅れてしまうという状況にならない様な体制作り。
相談が出来ずに悩んでいる人は多いと思うので気軽に情報などが漏れずに相談が出来る窓口や SNS が増えると良いのではないかと思う。
窓口を設置する。
お話をさせていただいたお年寄りの中には「どこに聞きに行けば良いのかわからなかった」「そんなサービスがあるとは知らなかった」とおっしゃる方がいらっしゃる。情報が届かない人もいる、届いても無関心で頭に入っていない等、情報提供の難しさを感じる。問題相談・受付窓口1ヶ所から最後は福祉サービス利用の完了まであちこち回る必要なくわかりやすく窓口（1つ）があると良いと思う。
ワンストップ型の総合相談窓口を創設。
相談の窓口（入口）がシンプルで「こんなこと相談していいのかしら？」と市民を迷わせないような気軽さをアピールしてほしい。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだとも思います。
人員不足 一人で複数の担当を多く持っている為、その作業も事務的になってしまっているのではないか。
一次的な総括相談窓口が欲しい
じーばーのセンター作る！各相談窓口の周知
地域包括支援センターの職員の増員
完全に入り口を一つにしてそこから振り分けるようにしたらいいと思う。
利用希望の問い合わせがとにかく多いが、受け入れが難しく断っている状態。家庭や状況を踏まえどのサービスを受ける事が妥当なのかを相談出来る場所があると良い。
なかなか気軽に相談に来てもらえない可能性が高いので、スーパーや郵便局などの施設で相談できるような環境の整備
人材確保が急務。働き方や労働環境を整備しながら、従事者の専門性や人間性のスキルアップが必要ではないか。

回答内容
様々な場を設けて顔を合わせたコミュニケーションをまずとる。相手がわかれば、ITの活用でコミュニケーションを取れる方法が広がる。まずは入口の体制を整えて欲しい。

【支援関係機関間の連携】

回答内容
窓口となる市福祉課での連絡フローチャートの作成。
横のつながりほしいこと沢山あります。
普段からの交流が必要。
横の連携がない。
個人情報もあると思うが、お互い信頼関係ができれば教えて頂かないと先に進まないと思います。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだとも思います。
縦割り行政の改革
支援センターにおける連携は凄いとっています
学校、保育園幼稚園が、もっと協力的になるといいんだけど…心意気は、各園各学校次第か…
堅苦しい会議ではなく、福祉施設の合同販売会や施設対抗運動会などのイベント
縦割を少しでも見直して、横の関係を繋げる関係作りが必要。仲を取り持つ、部署が必要ではないか。

【社会福祉従事者の専門性の向上】

回答内容
質の確保より量の確保が急務。
給与を上げてもっと人材確保が必要だと思う。
公の施設では、資格手当がない。モチベーションを維持することが、専門性の向上へとつながると思う。また、資格を活かすことのできる部署への配属も、向上につながると思う。
支援する側の知識向上は、制度が変わる、時代が進んでいく中で、対応も刻々と変化する状況にある今、大事な事だと思う。研修の機会は増えても良いと思う。
研修、育成。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだとも思います。
市で研修を開催してほしい
社会福祉協議会の研修は継続しているんな課題で行ってほしい
研修の機会、特に市内のみで
向上の前に人員不足が課題となっているため、社会福祉従事者の仕事の魅力を伝え、人材確保する。
さらなる研鑽の充実

【ケアマネジメントの充実】

回答内容
地域包括支援センターのおかげで、私たち民生委員は見守りは少なくなったと思う。

回答内容
実質生活には困り感がないが、あまり人に会わない高齢者の巡回。例えば、80歳になったらケアマネの訪問があるなど。
医療、介護、福祉、保健、行政の横のつながり。
ケアマネジャーの紹介は、包括センターはもちろん、利用者同士の口コミがけっこうあります。
ケアマネジャーの方々の障がい福祉サービスの理解を深めていただく機会があると良いと思います。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだといつも思います。
最終段階で頼りになるのはケアマネジャーと思います
人材が足りていないような
民間も巻き込んだ社会資源やサービスの充実が必要と考える。財政的な問題もあると思うが、企業とコラボすることで、お互いが得する対策をしていけるように体制を見直して行く必要があるのではないか。
さらなる研鑽の充実

【ソーシャルワーク体制の整備】

回答内容
給料増やして、辞めない体制づくり！！目指せ海外！！障害者へ関わる人は、一般の職業より30%給料アップ！！とか
向上の前に人員不足が課題となっているため、社会福祉従事者の仕事の魅力を伝え、人材確保する。
さらなる研鑽の充実

【成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備】

回答内容
申請から承認までに時間がかかるためすぐに介入して欲しい人につなげられない。
成年後見制度についての講座を聞きに行ったら信託銀行についての話だった。これはこれで役に立つと思うけど。
成年後見制度は、お金が大部かかると思います。公共の場所で元気うちに登録して時々情報交換できるような仕組みがあると良いと思う。
身寄りのない方の後見の制度が使いやすくなると助かる。
成年後見センターの設置と周知。
役所内で、「仕組み作る部署」結成する！！
後見制度の申し立ての支援とか
地域活動支援センター事業がどんどん減っている。サービス事業では補えない部分もフォローできると思うが朝霞市が前向きに動いていないと思う

【サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保】

回答内容
どんなサービスがあるか知ってもらう。実際、自分が困らないとサービスを使う事を意識していない。

回答内容
保訪について、学校や園に評価をもとめることになったが、保訪問したいへの理解が低い中で評価をもとめる事の意味がわからない。
サービスを受ける側は弱い立場なのでいろいろ思っても言えないことが多いと思う。サービスを提供する側もいろいろな人が居るので教育も徹底してほしい。
こちらが、利用ストップ！を促しても、保護者が利用したくて、サービスを使いたがる人は一定数いて…受給者証が出ている限り、サービスは断れないので。なんか…もう終わり！！みたいな何かがあれば「適切な」に、なるのかな…（児童発達の話をしてすみません）

【避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策】

回答内容
書類をもらっても会う機会がありません。機関が集まることもなく、もったいないと思います。
民生で台帳があるが、全員を廻って(年一度は廻る)ないし、家族のいる方がいいですといえばそれ以上言えない。
把握はしても当日にならないと使用できず、他の団体との共有がむずかしい。
実際災害があった場合、民生委員の自分がどれだけ支援者の援助が出来るか不安がある。把握はしても自分の家族が第一になるから難しい。
要支援者の把握は、市でできていると思うが、具体的な支援内容、支援方法、留意点も把握する必要がある。
正確に把握できていません。
「避難行動要支援者台帳」を預かってはいるが、内容は簡素と感じる。『個人情報』の関係があるのか、私達が内容を充実させていく必要があるのか？わからないが、お名前、居住先を把握できているだけでも良いと思う。
本当に必要な人は載っていないと思います。個人の意志で登録するものなので仕方ないと思いますが～、元気な人が多いように思います。本当に必要な人は、ケアマネさんや包括さんが介入しているので良いのかもしれませんが～？
詳細の個人情報までいらないけど…みんなで、この辺に要救助者がいるよ！って知っていたい気持ちはある
避難行動要支援者の内容がタイムリーなもので随時更新されていると活用がしやすいかもしれない。
年に一回程度、地域全体での避難訓練を行う。各地域の避難所に集まる練習を行う。
車椅子に乗っている肢体不自由児も多いので、いざ災害が起こった時に不安がある。

問 15 権利擁護活動（福祉サービス受給のための支援、生活・金銭管理、施設内での虐待防止活動など）につながる取組を行っている場合、その内容をお書きください。
（自由記述）

回答内容
研修の拡充。全自社事業所が集まったのディスカッション等でリアルな理解を促している。
権利擁護、虐待防止研修。
ミーティングや勉強会を行い、逆艇について話しています。
定期的に虐待防止や身体拘束廃止関連の研修等を行っています。
虐待防止委員会の設置。
虐待防止のためのポスターを掲示して知らせている。
虐待防止につとめている。
通帳管理の難しい場合に社協の安心サポートの利用をすすめる。判断力がないとこられた方は民間の生活支援をしている法人へ依頼。
虐待防止委員会。各事業所がどのような形で行っているのか、共有できる場が必要。
センターで、委託相談しています。必ずしもサービスにつなげているわけではないですが、療育を使うきっかけになっている事もあるかもしれません
地域住民に向けての防犯講座の開催。利用できる制度のご提案。虐待案件の対応、行政との連携等
虐待やグレーゾーンの方がいた場合に、必ず、市や地域包括ケアセンター連絡・相談している。又、他事業所間での研修を行い、事例検討会をしている。
規定を設けてチェック体制を整えている。
できる方にはお金の計算、お小遣い帳など日々お金に触れるような取り組みをしている。虐待については常に職員同士で利用者視点で支援するようにしている。
虐待防止研修を行っている。
成年後見制度講座の開催
職員会議を頻繁に行う。同じ業種の横の繋がり。送迎時に様子を見て報告し合う。
施設内での虐待防止活動

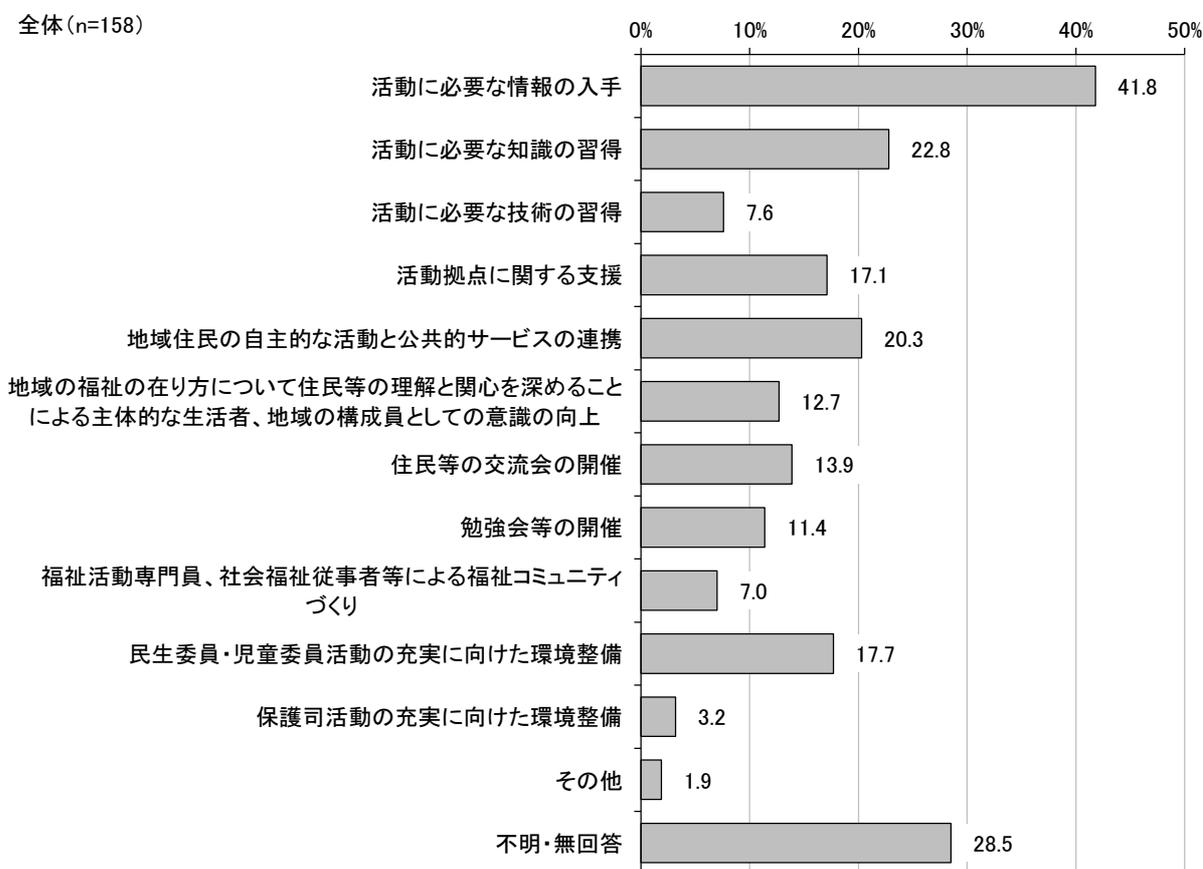
問 15 に記入された方

問 15-1 上記の権利擁護活動を円滑に進める上で、行政や専門機関等からの支援が必要と感じた場合、その内容をお書きください。(自由記述)

回答内容
行政が持っている事例の提供など。
利用者の保護者から学校で虐待を受けたかもと相談の電話があり、すぐに(夜だったので)相談員さんに電話しました。相談員さんは朝1番に市役所に電話してくれましたが、別の所にかけてくださいと言われたそうです。その日の夕方に学校に電話にしてみますと返事があったのですが次の日から被害を受けた児童は学校に行かなくてはいけないのに、実際に動くのが遅いと思います。保護者の方も仕事があるから学校に行かせなさいいけない。どうしよう。と不安がっていました。的確な指示を受けることができれば良いと思います。
弊所は、通所施設で児童達の療育を行っていますが、将来利用児童達がグループホームに行くのか？通所して作業所等に勤務するのか保護者が、どこまで理解して考えているのか不明なので、色々なパターンを想定し情報提供が出来るが良いと考えます。
虐待防止について職員個人が支援に対し振り返る機会を作る。障害者への虐待を未然に防ぐために適切な支援を施設では心がけているか、何かあればすぐに「朝霞市障害者虐待センター」につなぐ。
全てが全て虐待とは限らないので慎重で丁寧な対応が必要になると思う。また○才児健診などで様子をよく見たり来ない家庭には積極的に声掛けなどを行っていくと良いと思う。
虐待の判断が難しいので慎重につとめている。健診などでチェックする。
後見制度のすみやかな導入。市長申立の円滑化。
センターで…意見書…とか…かく？ドクター居なくてもいいのであれば…
生活保護の申請にまつわる場所。精神疾患と思しき方を医療につなぎたいとき。認知症疾患と思しき方を医療につなぎたいとき。制度のはざまのかたへの支援が必要な時。多問題ケース対応の際など
虐待や独居高齢者の生活支援について。
細分化されて規定がどんどん増えていくので大枠でくくってほしい。
成年後見センターの創設、市民後見の活動促進
こども未来課、児童相談所との連携の継続

問 16 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「活動に必要な情報の入手」が41.8%と最も高く、次いで「活動に必要な知識の習得」が22.8%、「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が20.3%となっています。



■ 具体的なアイデア・ご意見 (自由記述)

【活動に必要な情報の入手】

回答内容
まずは情報を得ることが大切だと思う。市の広報などはHPからの情報が多く、気軽に出来ない人も多い。
SNSでの発信。
その地域にどのような社会資源があるかをパンフレット等で明確化し、ケアマネジャーを通すことで要介護者の皆さんに知ってもらうことになると思います。
若年層は知らないことが多い。または、他人事。情報発信の媒体、興味を持ちやすい企画やPOPがあるとよい。
地域福祉に関心を持ってもらえる様に情報を提供。住民が地域の情報を得られやすく、意見を出しやすい環境を作る。
情報がなければ活動にも移せないと思うのでその時の時代にあったニーズで知らせていくことが大事だと思う。
時代にあったニーズで知らせる。

回答内容
私達が知らない情報も、包括センターが把握している場合があります。是非、情報を共有してほしいと思います。
守秘義務が強く、御近所さんの話もなかなか聞けない。所々に知り合いを作り、相手側からの情報を得ています。ご近所さんは何でも知っています。
定例会での周知。
情報の周知等。
できる限りの情報は行政側から知らせるべき。
シルバー世代（素晴らしい方がたくさん）にチラシなど個々にお知らせ。
子供、高齢者、障害と一つになり活動する為の共同の為に一緒になって模索するのも必要かと思う。
SNS！そして、参加者には、ぼぼたんの記念品とか！！なんか配る！！（プラスがないと参加しない）
地域福祉が自分たちの生活にどのように結びつくのかの情報を発信する。自分の生活している場所にどんな施設があるのかを知る。
地域福祉の活動というものが機能している実感がないので、取り組むのであれば、市が主体で周知してほしい。
世帯表だけでは必要な情報が集まらない

【活動に必要な知識の習得】

回答内容
NETにより情報を得ている(体操、折り紙、お料理等)。
研修はしていても中々還元できずいつか役に立つだろうと頑張っています。
何かしたい気持ちはあるが自信や経験がないという方に向けた講習会があればいいと思います。
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
オンラインで情報を載せる。
福祉に対する実際にあった事例の勉強会があると参考になる。
小中学校の授業の一貫として取入れてはどうか？
定例会、講習会で、参加して、得ていますが、時間がなく、SNS等で、自分で学ぶしかない時もありますが、中々、それも、時間が取れません。
定例会に合せた研修。
3にも通じるが、知識を学ぶ機会を作る。
集会所など利用して楽しく講習会など。
意識に間違いがないか勉強が必要
知識が必要すぎると、参加者は減ります
直接的なボランティアだけが支援ではないということの理解
上記を行った上で、知識を習得するための勉強会を行うと良いと思います。

【活動に必要な技術の習得】

回答内容
努力しています。
何かしたい気持ちはあるが自信や経験がないという方に向けた講習会があればいいと思います。

回答内容
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
各団体に必要な技術の講習会の開催。
集会所など利用して楽しく講習会など。
一本化した上で必要な技術の習得の為に講座の開催もしくは、電子機器（Zoom）等での可能ならば活用する。
技術を習得したい！！くらいの意気込みの人は、すでに福祉の仕事についているのではないのでしょうか…

【活動拠点に関する支援】

回答内容
市民センター等に避難する際、車移動になる為、より近くの家、倉庫等手広く利用出来る協力者を確保。
拠点の数を増やし身近な集いの場の提供。
高齢者、障害者が利用しても、階段が急とか、段差が多いという集会所がある。バリアフリー化を推進すべき。
サロンをするにも、話しあいたいことがあっても場所が少なく、部屋を借りることが出来ない。無料で利用できる場所が欲しい。
空き家などを使いやすくする。
市内各地域ごとに空き家とかを利用して活動拠点があれば良い。現在絶対的に不足してる。
現在ボランティアで地域包括支援センターの人達と一緒に活動していますが、地域で色々な活動をする場所が足りないの、空き家や空き店舗があるなら市役所の人などが何とか活動出来る所に行って、借りられる様話をしてくれるとありがたい。
委託の金額…あげてほしいな…委託のために、人員を割けるほどの金額ではなく…厳しい限りです

【地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携】

回答内容
町内会各層を通して。
どの様な活動があり、どの様な集団があり、どの様な方が所属しているのかの情報と、この流れの逆の情報提供。
各自治会と福祉に関する情報の共有を強め誰でも気軽に利用して良いもの、すべきものと高齢者側の認識を変えてもらえる様な活動の仕方が必要。（高齢者の方は、自分には必要ない、世話にならないという考えの方も多く見られるので）。
地域住民だけでは限界があり、やはり行政との連携が大切だと思います。地域的に遠い所での開催では、そこへ行くまでも大変。交通手段も大切だと思います。
こども食堂などへの参画。
体制を理解して、連携できる知識を学びたい
自主的な活動の場を知らないの、やはり、周知させることがまず先決ではないかと思ひます

【地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上】

回答内容
防犯活動等で年齢の離れた方との会話からいろいろ情報を得る。
地域のつながりがなくイベント等を通し多くの人達と交流、理解してもらいながら活動を楽しんでもらう。
各自治会と福祉に関する情報の共有を強め誰でも気軽に利用して良いもの、すべきものと高齢者側の認識を変えてもらえる様な活動の仕方が必要。(高齢者の方は、自分には必要ない、世話にならないという考えの方も多く見られるので)。
住民は、最終的に行政やその関連団体に委ねる印象がある。
強く動機づけを行わないと、地域の方に意識が浸透しないと思います。
一回、遊びに来てもらう！！そして、「いいところだな。手伝おうかな」と思ってもらおう！！
主体的に活動している方はとにかく忙しい。地域福祉の理解を共有しながら、人材発掘、育成を行っていく必要がある。

【住民等の交流会の開催】

回答内容
町内会等で聞く。
サロン等で話し合い等よいと思います。
日頃から住民同士が交流を持っていることで、地域福祉に関する活動への積極的な参加にもつながると思う。自分の住む地域について皆さん関心があると思うので、地域について話せたり知れたりするような交流会が良いと思う。
住民同士のつながりが一番大事だと思う。となり同士お互いに関心を持って声をかけあうだけで防げる事は沢山あるように思う。
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
夏の盆踊り大会が夏祭りとして6月に町内会行事として行った所、子供達と若い親が多数参加して大盛況、又、バーベキュー大会も好評だった。
交流会を開催する事によって広く住民に福祉についての理解を深める。各団体及び一般市民を募集する。
マンションの集会室が狭い。エアコンなど設備が古いなど使い難いところがある。空室の利用、設備の更新などが必要。
住民同士の交流の場も近年減ってきている。若い人が地域の事に関心を持てる様な催し等あれば良いと思う。
少人数での話し合いが本音を聞ける。
高齢者や障がい者の独居の方々を地域全体で支える社会をつくるために必要かと思います。
餅つきしたい！！
施設見学会や授産施設の合同販売会など

【勉強会等の開催】

回答内容
時間が取れない場合もある。

回答内容
各地域で高齢者が気にしている運動機能面や認知機能面、健康等に関する講演を開催することで外出の機会を増やすきっかけになると思います。
地域福祉に関する活動とは、そもそも何か？どういった形で参加が出来て、意見を出せるのか等、知る機会を作っても良いと思う。
やはり知識がないと取り組むことは難しくなってくるのでそういう学ぶ機会をもつことは大事だなと思う。
勉強しておかないと、いざという時、何もできないので必要である。
地区別に開催。
障がいの方々が避けられない（当たり前存在する）社会づくりのために知識が国民1人1人にいきわたると良いです。
役所開催の勉強会を、・・・・・・・・・・チ・・・・ルズで・・・・やりますか??

【福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり】

回答内容
専門の方に来て頂いて話等を聞きたいです。
みんな忙しくて、つながるタイミングが取りにくいんだと思います。市が、ライングループとかとか作ってみたらいかがですか????強制参加で!!!
同事業種別に集まれる場を作る。

【民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
民生委員も高齢化するにつれ、新しい民生委員の引き受ける人がいない。
民生委員の認知度アップは当然ですが、他の機関との連携が不可欠かと。
地域別に活躍しております。
現状仕事をしながらの活動には限界がある。今は定年後も働いている人が多く、なり手不足だと思う。1人のボランティアがいくつものボランティア団体で活動していて、ボランティア疲れしているのでは?
活動内容を具体的にアピールする。後継者が出やすい環境作り。
委員の年齢が高齢すぎて、明日は我が身の人ばかりで若年齢の人が参加しやすい場所に世代のつながりで増員出来たらと思う。
仕事をしながら完ペキに民生のお手伝いは難しく、休日等を利用し高齢者宅訪問をしている現状である。人員増員した方が良いと思う。
地域の人達と話す場があるといいなと思います。
民生委員・児童委員の周知がされていないように思う。また、委員の活動についても温度差があるように思います。受けたからには前向きに参加して欲しいです。
他県、他市で始まりつつあるサポート民生委員を年ごとの少しの報酬で設置する。
常駐しなくても1ヶ月に1度、集まる（情報交換等の為）部屋の確保できると安定した支援、活動につながるのでは?
現活動への積極的取組
朝霞の民生委員が、存在していることを存じ上げておらず…もうしわけありません

回答内容
民生委員の知名度の圧倒的な欠陥(変な宗教団体と間違えられるなど)

【保護司活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
対象者と面接をする際の場所の拡充。
現状仕事をしながらの活動には限界がある。今は定年後も働いている人が多く、なり手不足だと思う。1人のボランティアがいくつものボランティア団体で活動していて、ボランティア疲れしているのでは?
面接の時に自宅以外を使っていきたいと思います。積極的に応援お願いいたします。
対象者との面接場所確保
ある程度のお金を差上げるべきです!!

【その他】

回答内容
町内会の改革
町内会の高齢化を改善したい。
過度な期待はしていない。これはどの機関にも言える。

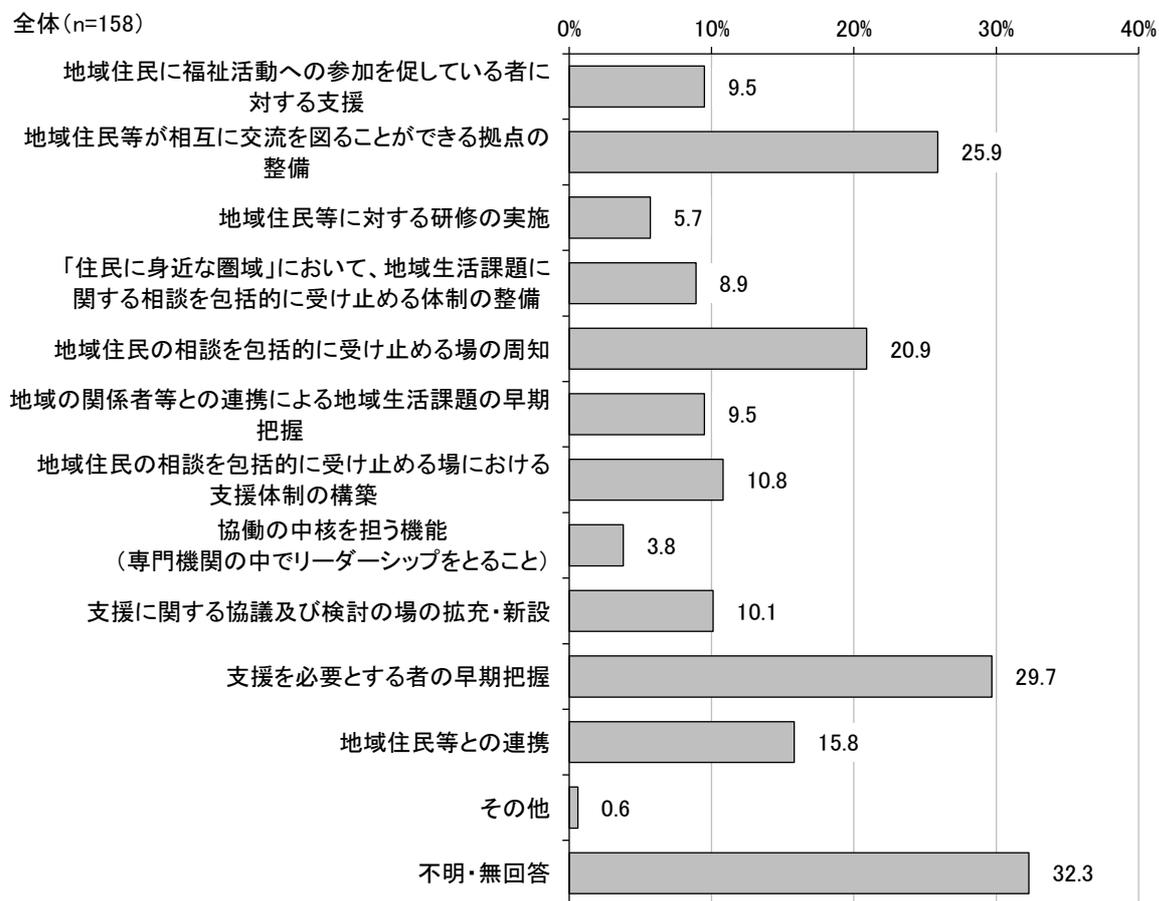
問 17 コロナ禍を経て、地域福祉に関する活動への住民の参加促進に向けて課題となっていることがあれば、お書きください。(自由記述)

回答内容
コロナで外出しない事になれてしまっている姿。
このコロナ禍の4年間はシニアにとって大きな差が出ていると考えています。認知症の方はひどくなっており、死亡した方もいた。
男性の参加、若い人達の参加を呼びかけしています。イベントには参加しますが、一過性に終わり継続させるのは何が必要？
一度リセットされているので、もう一回初めから朝霞市の地域課題の住民間の共有が必要。
活動の住民への周知方法。
コロナで交流を持つ機会が少なくなっていたせいか、以前よりも集まって交流を持つことに積極的な住民の様子が見られる。
まだコロナ終息がみえないので、以前のように活動に消極的である。
活動の幅が狭くなったことにより地域住民への浸透・理解が薄まってしまった。関係性・近所での交流が気薄になってしまった。
声かけが重要だと思います。1歩参加への気持ちを押すことにより参加率も上がると思います。企画の充実。何が興味あるかを知る事が大事でもあります。
以前よりも人と人との集まりが消極的になっている。
コロナ以降、ボランティア団体の会員の参加者が少なくなり近所のお年寄りに声をかけてもなかなか参加してくれません。この先会が自然消滅するのかと懸念しています。
非対面型の活動もあるとよい。
コロナ禍で一時的に交流の機会が減ってしまったが、地域の方々は、周囲とのつながりを意識していると思う。地域懇談会やサロン等、交流の場に定期的に参加されている方だけでなく、情報が行き届いていない単身高齢世帯や若い世代、働いている人達が地域の交流の場に参加しやすい場の提供がまだ不足している様に感じる。
今でも後遺症に苦しむ人もいると思うので、そういう人へのケアなどを行ってほしい。ワクチンを打ったとしても街へいけば移ってしまうこともあるのでかかった後の事後の配慮も大切にほしい。
後遺症などもあり、その辺のケアが必要だと思う。
高齢者が増え、トボトボ歩く年配の方が多く目立ちます。少人数での話す場があるといいなあと思います。以前のように家に上ってお茶少なくなりました。
それまで参加できていた高齢者が引きこもりがちとなり、要支援、要介護状態になることが多々見られる。
コロナになり訪問する事がなくなり、人との関わりが出来なくなりました。何う事に遠慮しています。
引きこもりの方（外出しない方）が、安全な様な気持ちがある方もいる。住民参加の意識の低下がある。まだ終息していないので暫くは続くのではと思う。
訪問しづらくなった
中断した行事等の再始動は、思いのほか大変
もう、コロナを気にして集まらない人はいません！！
町内会。都内はなくなってきている。自分の住まいは隣市だが、コロナ禍で活動が減ったため班ごと町内会から脱退した。

回答内容
障害を持っている人と一つの場所に集まるということに、潜在的な不安があるように感じることもある。
コロナ禍の影響を受けた人(外出できなかったことによって認知症になってしまったなど)の救済
コロナ禍の期間は高齢者にとっても、とても影響がありました。今できることを提案、提供して、新しい生活スタイルの中で活動できるように支援していきたい。
研修など全てにおいて顔を合わせての活動が減っている。
感染予防につとめていけば安全安心であることを周知する事
感染症対策が甘いと思います。

問 18 地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として、優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「支援を必要とする者の早期把握」が 29.7%と最も高く、次いで「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が 25.9%、「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」が 20.9%となっています。



■ 取り組んでいる事例・具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【地域住民に福祉活動への参加を促している者に対する支援】

回答内容
私も老人会に入会してませんが、その様な会に入ると色々話がきけるのではと感じます。
地域住民の福祉活動は高齢者が多く中々世代交代が出来ず、若い人に経済的、時間的等事業者に協力してもらおう。
若年層が興味を持てる企画、活動があるとよい。東洋大学の学生とのコラボなどはいかがでしょうか？
「促している者」とは…どなたなのでしょう…

【地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備】

回答内容
高齢者がいろいろなスポーツ、ノルディック等で交流をはかっている。お話をすることで生き生きと健康寿命をのばしていることは良いと思う。
週1回のラジオ体操でもコミュニケーションが出来ると思います(おしゃべりの中で)。
誰もが参加できるサロンを運営し世代交流の場としています。社協、包括支援センター、こども未来課、障害福祉課、長寿はつらつ課等全て出入り自由。
要支援者も含めた地域住民の交流を図ることができる仕掛け作り。
サロン作り。
地域の方と手芸の会を行っている。
サロン活動を町内住民対象に行っているが、コロナ禍で休会した為、回数も減り、利用する参加者も減った。
近くに公園ができました。現在その公園の更なる整備が行われていますが、今後管理をどのようにしてくださるのか不安です。地域住民の交流の場となるよう安心、安全な公園作りを行っていただきたい。夜間、トイレ、遊具などの管理ができなければ交流の場にはならないと考えます。
若い世代や働いている人で、中々地域福祉の事に目が行かない人達を地域の交流の場への参加を促していく方法があると良い。懇談会だと敬遠してしまうが、清掃、祭りの準備、レク的な企画への参加から色々な世代が交流できると良い。
サロン、ただおしゃべりだけでも良いので、居場所作りが大切、必要と思う。
地域の居場所、認知症カフェを午前 9:00～午後 16:00 迄開催してるいつでも好きな時間に来て語り合う場。
町会行事の開催
拠点は…どこなのでしょう…
住民等が気軽に徒歩 15 分圏内で交流できる場所が整備されると良い。他市や企業など広域に渡り、協力体制をつくることはできないのか。

【地域住民等に対する研修の実施】

回答内容
防災訓練など。
例えば、はあとぴあでやっている様な生活支援員の研修で若い母親・父親等、シルバー。

回答内容
どのような研修を指しているのか、いまひとつピンときません…ほぼたんのプロフィールを学ぶ！…とか？

【「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備】

回答内容
地域住民と行政（関連団体）では認識に違いがある。また、社会福祉協議会の分野が広すぎる。地域のみ にフォーカスして専門性を向上させ包括的な役割は担えないか。
子供食堂等と連携して実施する。話し相手からお困りの相談等と把握する。
福祉に携わっていてお恥ずかしいのですが…体制が、わかりません…

【地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知】

回答内容
包括や基幹センターに SNS、ライン等で気軽に相談できるようにするといい。
どこに相談したらよいだろう。というスタートだと、対応が遅くなってしまうと思うので、包括的な相談 窓口の周知は必要だと思う。そしてその窓口が市民の身近にあることが必要だと思う。ネット、広報等様々 な媒体で広く周知し、存在を認識してもらおうと良いと思う。
何を相談して良いか、頼っても良いのか悩んでいて、行動出来ず、抱えてしまっている人も少なくない。 困っている事を気軽に相談できる窓口の設置、情報の周知。
そういう場があるということを知らない人もいるので周知させる必要があると思う。方法はさまざまだ と思うので色々な取り組みを行い周知させていく。
もっと相談ができる所があるという事を広める事が必要。
サロンで話していますが。まだまだ知らない人が多い。
地域包括支援センターの存在が大きいと思っています
福祉に携わっていてお恥ずかしいのですが…体制が、わかりません…
困り事を気軽に相談出来る場所があると良いと思います

【地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握】

回答内容
問 14 の 2. に関連するが、お困りの家庭を訪問する際、お困りごとに応じて、社労士、行政書士などの専 門職と同行できれば、心強い！問題解決への成果も得やすい。
NO. 10、11 と同じに近い。「早期」が重要。
市、社協、関係機関との連携。
「地域の関係者」とは誰をさすのかわからず…更に、その把握って…難しいです。

【地域住民の相談を包括的に受け止める場における支援体制の構築】

回答内容
高齢者、障害者、子供、生活困窮者の各分野の相談員を市役所におく。各相談員が各分野で連絡を 図ることによって支援がスムーズになると思います。
地域包括センターの支援が必要なので一番に相談している。

回答内容
地域包括支援センターのレベル up による専門性を活用した住民支援を行う。又、包括自身、市民の認知度が低いのではないか。この為、職員自身の努力と、国、県、市が平準化した統一的研修を行い、支援体制の構築を図る。
総合的な相談支援センターの創設。例（明石市社協「福祉まるごと相談」）
まずは、市役所に部署を作る！！

【協働の中核を担う機能（専門機関の中でリーダーシップをとること）】

回答内容
基幹ができるって噂。。。。

【支援に関する協議及び検討の場の拡充・新設】

回答内容
本人との交流のなかで生活苦を知り、市とのやり取りの中で生活苦を知り、何度か本人と市の支援を得るため生活保護の申請にこぎつけた。
できるだけ多くの住民を巻き込んでの意見の集積が、とても大事だと思う。まとめる必要はなく住民の欲しい支援を引き出すことをして欲しい。
児童発達に関しては、アサカツで実施していきます

【支援を必要とする者の早期把握】

回答内容
行政と訪問看護の連携を強化してつながりやすく、サポートを充実したい。
このことが一番重要であると思う。話を聞いたなかで早く市、社会福祉協議会と密に取り合い、本人からも良い方法で解決していくことがのぞましい。
包括支援センター、町内会、商店会の情報収集。
ひとり親支援として、シェアハウスや賃貸がスムーズにいく支援があるといい。
地域包括センターとの連絡を密にしている。
地域福祉の活動に関心のある人ばかりでなく、情報弱者とされる人や本来なら福祉のサービスが必要にも関わらず、本人が意識出来ていない例もある。地域の方々が相談しやすい環境の整備が必要。
訪問活動、郵送による照会。
高齢になると一旦体調を崩すと驚く程、悪化が急に進み最悪簡単に亡くなってしまうという事態になるという経験を2度しました。変化の早期把握はとても大事で、油断をしてはいけなと考えて動いている。
アウトリーチ事業の創設。
相談窓口、SNS の DM とか?????
生活の悩みを吐露しやすい環境の整備(普段はなかなか人に言いにくいため)

【地域住民等との連携】

回答内容
ご近所さんとの立ち話も必要だと感じている。
普段からあいさつ程度のお付き合いが大事だと思う。
専門職にも参加してもらう。

回答内容
担当地区の自治会の方と面識が無い事に気づきました。災害時等でも協力が必要なので各地区の福祉に携わる横のつながりを持つ場があると良いのでは？
支援している人と無関心な人の温度差が大きくなる。
私個人では住民の方々の情報を得ることは難しく、近所の方々との協力なくしては動けないと思っている。災害も増え大きくなって来ており、高齢化も進み、独居の方も増えてきている現況では、皆も意識を変えて住民同士コミュニケーションをとる必要があると思う。
町内会加入者も減少、高齢化も大きいと思います。何をやっても役員のなり手がいない！
高齢者の訪問活動は月1～2回行ってる。
地域福祉に携わる市の職員を増員して、職員を地域ごとに配置して活動を連携させる役割を担って欲しい。
地域に根付いた場所で、交流会実地

【その他】

回答内容
常時、地域の方への周知が望ましい。(行事やイベント他)

問 19 その他、地域福祉に関して、市・社会福祉協議会へご意見・ご提言等ありましたら
お書きください。(自由記述)

回答内容
密な連携、受けやすい様にサポートしていける様よろしく願います。
ばくぜんとしたことへの取り組みを記入することは困難です。今迄、記入出来ることは記入しましたが私の経験のなさがあり深く入り込んで回答、意見は記入出来ません。すみません。最後に、時々アンケートの要望があり協力していますが、結果については全くこないがどうなっているのでしょうか。
地域福祉は皆さん本当によくやっていると思います。同じような研修はまとめてできると良いと思います。いざ、書こうとするとあまり書けませんでした。機会をありがとうございました。
民生委員を引き受けるにあたり、こんな自分に出来るのだろうか、私の思いえがいていた委員とずいぶん違っていた。昔は、それなりの人、今は歳をとっても働いている方が多い。老人のお話を訪ねた時「私も民生委員を引き受けて頂けないか」と相談されたがご自分の父親から「おまえごときに出来る仕事ではない」と言われやめたなど。今は引き受けて下さる方がいない。引き受けてもそれなりに活動されている方が少ない。良かった点は、いずれ私自身も歳をとります。その時に備えての勉強が出来る。老人のお話が参考になる。まだ、こんな老人になりたいと思える人には出会えていないが、出会えたらと思っています。
先日警察の方が自転車でこられて、私は丁度でかける所に出くわし、どうしたのですかと問うと不審車(黒い車)が何時間も止まっていたとっていました。どなたかが通報したのですかと聞いても相手は答えてくたさらなかった。紙メモを入れておきますと言ってメモを入れていきました。やはりこれも必要ですね！お互いに声掛けを。
空らんの部分が多いのは意味がよくわかりません。もう少し、簡単な言葉で書いた方がよいのでは。
高齢者が定期的に参加できる、もしくは主体的に参加してもらう何かがあるといいと思う。ノルディックウォーキングは成功例だと思うが、目黒川も歩きやすく整備して行って市外からも人が訪れるような場所になれば、街の活性化にもつながると思う。
1日1回家から出る。専門の体操指導者に見守られながら軽い体操をファミレスとかの駐車場を借りてやれたらなと思います(1週間に1回とか)。
聞くだけでなくまず動く事、出向く事だと思う。
具体的なものが無く役に立てず申し訳ありません。情報はとても大切です。相互協力が一番大切だと思っております。
朝霞市は、時代と逆行しているかのように、子ども・児童数が増え、それと共にマンションが増え、ますます核家族化が増し、地域との関わり、子ども会やPTAなどの活動が減っています。時代のニーズに合わせた地域の活動、関わりが求められていると思われます。マルシェ等の充実、公園や緑の多い環境はとても良いと思うので、それを生かし、子育てしやすい街づくりをしていきたいです。子ども食堂や、子育て世代の情報交換の場所づくり、子育てから手が離れた人が手伝える環境づくりを充実させていきたいです。
市も社協も良くやっていると思います。現実には動ける人が不足している現在、高齢者も一段と気をつけて、健康を維持して行かなくては、先行き、暗すぎます。
各問に対して具体的なアイデアを求めています。地域住民の意識がないとできません。意識があっても様々な問題に住民が自覚して行動する事は個人情報に関係もあり難しいです。行政が、市民の中に飛び込んで実態を把握して適切な体制に取り組む事だと思っています。

回答内容
町内会、NPOの中には、人材難、資金難なのか、優れた活動をして、実績を上げている団体がある、市・社協は、従来より取組まれていると思うが、より客観的に活動を評価し、実績に応じた補助金などの支給、また必要とされる人材・ボランティアを積極的に紹介し、団体に定着しうようご協力を頂きたい。
市内に障害分野のグループホームを増やしてほしい。社会福祉協議会、同じ分野での異動をすることで、専門性の向上、情報共有がしやすいのではないかと？また資格手当などがあると、モチベーションが上がり、離職率が下がるのではないかと？内間木地区の防犯、交通安全に力を入れてほしい。街灯が少ない、歩道が狭い、防犯カメラがなく物騒、大雨時の冠水が多すぎるのに、根本的な改善が見られない。シンボルロード付近ばかりにお金をかけているが、駅から遠い場所には力を入れない。お金は公平に使ってほしい。
他市での地域福祉の取りくみなどを一緒に勉強し朝霞市に取り入れたいですね。他を見る事は大事だと思います。
市、社協が連携を深め、今後も地域の福祉に貢献出来る様努めて行きます。
福祉活動というのはやはり簡単に出来ることではないと思います。忍耐力や体力もつかうことだと思います。もう少し色々な形でそういったことに取り組んでいる人にフォーカスを当てて見てほしいです。現場は思っている以上に日々せわしなく、大変なので配慮してほしいです。それも配慮してほしい事業だけでなく、各事業に当たり前のようにやってほしいです。人と人のつながりは大変なことが多いと思うので。
福祉は知識や理解がないと出来ない。もっと勉強の場を増やしてほしい。
定例会に社会福祉協議会も毎回出席してはいかがでしょうか。
市の役割の明確化。社会福祉協議会の実行力の強化。現場へ出向く機会をつくる（これまで以上に）。市との連携を。※市は県との連携強化を見相もできるので、その強化を望む。
民生委員のなり手不足に大変困ってます。民生委員退職者の代わりがなかなか見つかりません。
金融機関やお寺などとの連携も必要と思います。
自分が今出来る事に取り組んで努力する事に心がけています。
共に生きる社会づくり、お互いに力を合わせ「暮らしつづけたい町朝霞」「朝霞に住んで良かった」まちづくりを市民同士の支え合い助け合い公的な支援サービス協働で目指しましょう。
全体的にバラバラな活動をしている気がします。
毎年、充実に向かっての活動がうかがえます。ありがとうございます。
ゴミ屋敷に対する支援
このアンケート長くてちょっと辛かったです。ろくなことかけなくて、ごめんなさい。
国から県から社会から地域からやらされてやるのではなく、より良い朝霞市を作っていきたいという思いを持って何事もやってほしい。それに対しては全面的に協力する姿勢はある
市が担当すべき案件と民生委員が担当すべき案件を明確に分けてほしい
福祉の事業所が増えているので仕方がありませんが、顔を合わせる場がない。福祉フェスティバルのようなイベントもあったら良い。

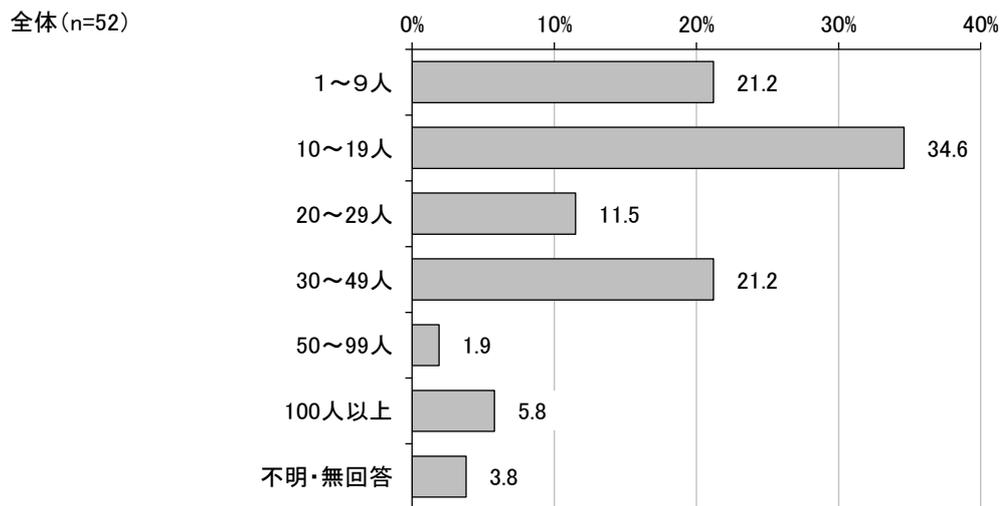
V 団体調査結果

1 団体について

◎ 貴団体の概要についてお書きください。

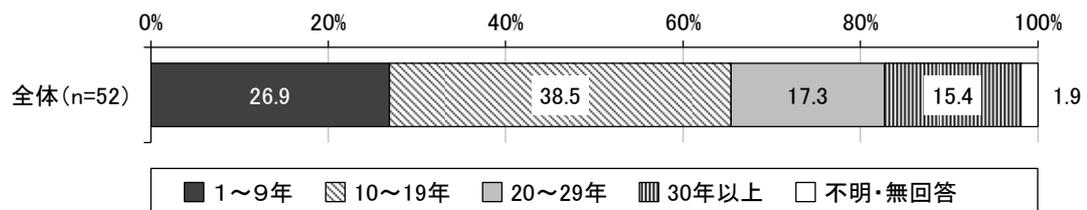
■ 会員数

「10～19人」が34.6%と最も高く、次いで「1～9人」「30～49人」が21.2%となっています。



■ 活動年数

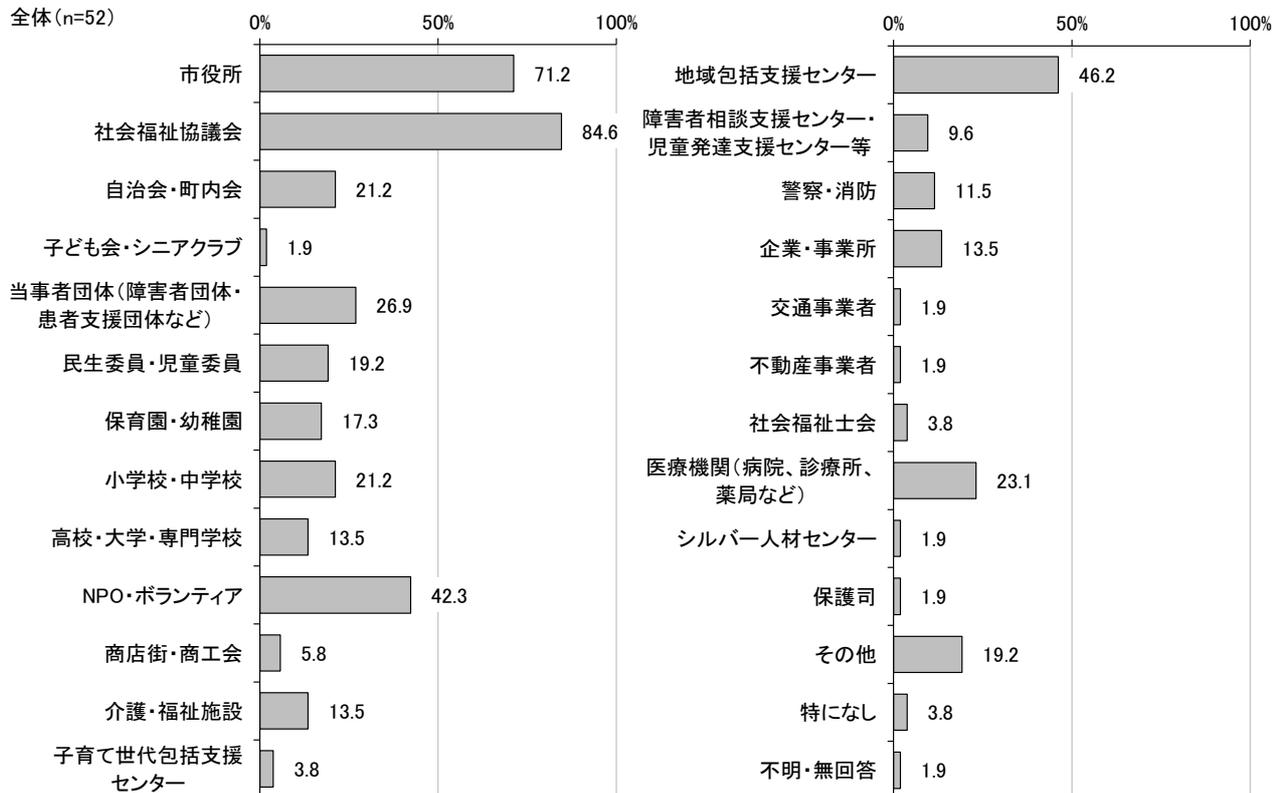
「10～19年」が38.5%と最も高く、次いで「1～9年」が26.9%、「20～29年」が17.3%となっています。



2 団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてを選択)

「社会福祉協議会」が84.6%と最も高く、次いで「市役所」が71.2%、「地域包括支援センター」が46.2%となっています。



問1で「特になし」以外の方

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関等とどのような関係がありますか。(自由記述)

【情報発信、広報活動】

回答内容
情報交換、補助金申請。
情報を提供していただく、意見交換、交流会。

【イベント等への協力、協力依頼】

回答内容
自然観察会、虫取り観察会などへの参加要請対象。
助成金や補助金を頂き、講習会やイベントを開催。又、市民講座等の依頼を頂いている。保育園型ニューボラ事業に講師として依頼して頂いている。
学習会、コミュニティカフェの後援、講師の依頼、地域包括支援センター運営協議委員、コミュニティあさかの参加するあさかいいききネットワークに参加、自分が社会福祉会に入会など。

回答内容
手話講習会、手話通訳者派遣等。
出張教室の実施。ウォーキング大会等のイベントにおける協力、連携。後援、共賛等。
相互に参加したり、情報共有、行事開催協力。
講座、講演などを不定期ですがやっただく。
チラシの設置や掲出、食糧支援、見学の受け入れや研修会での講話。
講話の依頼、経済支援。

【連携先（とその内容）】

回答内容
市役所による出前講座、他団体の代表・会員に講師依頼他。
地域包括支援センターからは時々、見守りや情報を寄せてくれます。社会福祉協議会とは、ボランティア団体登録しご指導いただいています。医療生協さいたまより、講師派遣などしていただいています。
社協に活動等紹介していただいています。補助金をいただいています。
1,2→補助金の受領。24→協同事業開催。
各課題事項別に問い合わせや活動に参加して頂いております(特に地域包括支援センターモーニングパーク)。
市役所-広報誌の音声化の依頼、イベントの後援等、当事者、NPO-視覚障害者をサポートする方々と協力してイベントなど。
情報交換、地域包括支援センターの民生委員。サロン等のたちあげでは、社会福祉協議会。団地管理室。
サロン未来館からの相談があれば関係機関に連絡し場合によっては情報共有し、見守る。
市役所、場所の提供。社会福祉協議会、助成金をいただいている。民生委員、ボランティアスタッフとして協力してもらっている。地域包括支援センター、いろいろアドバイスをもらっている。
社会福祉協議会とはこれからあると思います。市とのやりとりは、公園の整備でコミュニケーションをとったぐらい。
朝霞市みどり公園(運営協議会参加団体代表との情報交換)など。朝霞市立中学校美術部員作品展での協力など。社協とは、学童、児童館なども育開催の情報発信を支援いただいている。元気きつず、さくらんぼ保育室には園児の作品を展示するなど密に連携をしている。東洋大学ボランティア部の方と情報共有とコラボ相談。朝霞警察と交通安全のアナウンスのためのグッズ提供(とも育イベントにて)。秋田の農家からの食料(無農薬)食育の提案など。
弊会の宣伝(1, 2, 10, 14)。講演会時の講師(21)。定例会時の参加(10, 14)。
市役所や地元企業とのコラボ企画の開催。
市役所の福祉課と連絡を取り当事者や家族の相談を受けている。補助金を活動の一部としている。
朝霞市とは災害協定を定結し、発災時には情報収集、非常通信、ボランティアセンター協力等を行う。
2. 歳末援護金等活動費を活用してもらっています。5. 21. 県内の他地域の親の会との交流会(県立小児医療センターで開催)。9. 立教大学ボランティアサークルの学生さんに、イベント時の保育をお手伝いしていただくことがあります。12. 15. 21. 療育施設や病院の先生方に講師になっていただき、子育てについてや歯科講習、OT(作業療法)ST(言語療法)などの勉強会を開催。24 地域の(ダウン症児)情報提供、情報共有。
地域包括支援センター、介護度の低い方の紹介。

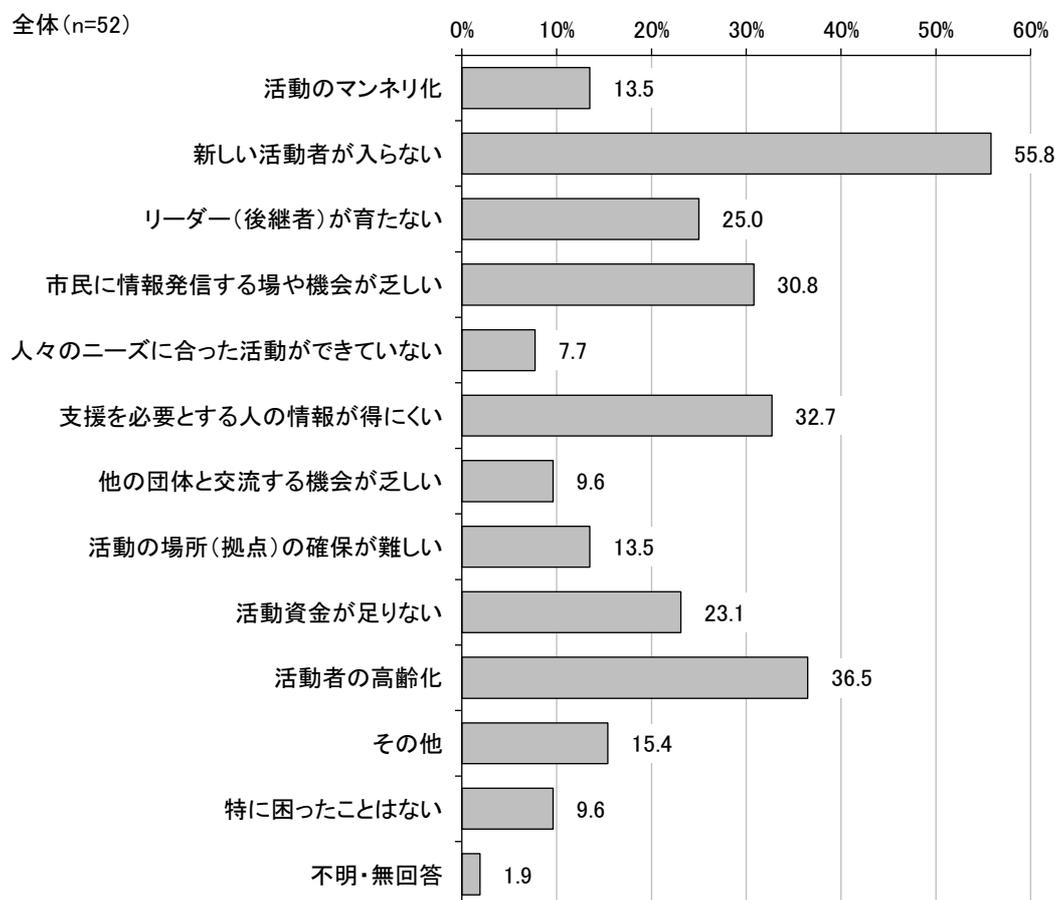
回答内容
1：委託窓口、ゴミ回収、他 2：保険
1.お互いに持てる物、人との協力。2.包括支援センターとは高齢者スマホ教室などでズーム対応などお世話になった。3.活動に通所者を紹介して頂いた。4.通所者の安否確認に協力して頂いた。5.小学校で国際協力交流に協働で授業をしたり昔遊びを教えたり世代間交流。
朝霞市の福祉の事業を通じて、病院のリハビリ科の先生により、介護予防体操などを指導してもらった。詐欺防止の講座をお願いした。
包括支援センターの方に、月に1度来ていただき、最近の状況や気をつけて行くことなど、困り事など相談させてもらっています。
行事を実施する際に必要に応じて相談に行ったりしています。生活ホームでは口腔ケアに力を入れているので毎月歯科に通院実施と課の歯科衛生士会と契約してケアしてもらっています。
1.市役所～放課後こども教室の実施等。2.社会福祉協議会～補助金申請等。10.NPO ボランティア 13.子育て世代包括支援センター、他団体とネットワークを組み活動を実施。
①プレーパークの委託を受けている。②活動のための助成金。⑦⑧親または子のもめ事などを学校と連携。⑨東洋大の学生と遊び場を作る。
町内会会場借用、地域包括支援センター、包括支援センターのお知らせの案内、脳トレの資料の配布、社会福祉協議会助成金交付、地域情報勉強会等。
市役所の生涯学習ボランティアは5年講師を行う。福祉協議会は依頼を受けて演奏に行っている。病院から打診はあったがその後向こうの都合で取りやめになったらしい。ひいらぎの里からも打診あったが、その後会場のクーラーが壊れ依頼取り消しになった。

【その他】

回答内容
会員募集の補助。
自治会等、サロンに対し全面的に声掛け応援して頂いている。地域包括(朝光苑)相談頂いている。団地内での活動で、他地域との交流なし。
公民館の部屋予約。参加者募集、連絡。支援センターからのお知らせ、告知。
ポスター掲示、情報公開、場所の貸出。
年金者組合の会員です。川柳の仲間。
大半はボランティア活動を行っている場所です。
法人だけでなく、運営している地活が交流等をしている所もある。

問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「新しい活動者が入らない」が55.8%と最も高く、次いで「活動者の高齢化」が36.5%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が32.7%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～9年では「新しい活動者が入らない」、10～19年では「新しい活動者が入らない」「活動者の高齢化」が最も高くなっています。

単位:%		活動のマンネリ化	新しい活動者が入らない	リーダー(後継者)が育たない	市民に情報発信する場や機会が乏しい	人々のニーズに合った活動ができていない	支援を必要とする人の情報が得にくい	他の団体と交流する機会が乏しい	活動の場所(拠点)の確保が難しい	活動資金が足りない	活動者の高齢化	その他	特に困ったことはない	不明・無回答
全体(n=52)		13.5	55.8	25.0	30.8	7.7	32.7	9.6	13.5	23.1	36.5	15.4	9.6	1.9
活動年数別	1～9年(n=14)	14.3	42.9	14.3	35.7	21.4	35.7	7.1	14.3	21.4	21.4	21.4	7.1	7.1
	10～19年(n=20)	10.0	55.0	35.0	25.0	5.0	30.0	10.0	15.0	15.0	55.0	10.0	10.0	0.0
	20～29年(n=9)	22.2	66.7	22.2	22.2	0.0	22.2	11.1	0.0	33.3	22.2	11.1	22.2	0.0
	30年以上(n=8)	12.5	75.0	25.0	50.0	0.0	50.0	12.5	25.0	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0

問2で「特に困ったことはない」以外の方

問2-1 問2で挙げた課題を解決するためには何が必要だと感じますか。(自由記述)

【情報発信、広報活動】

回答内容
市民に今以上に周知してもらい会員を増やす。特に若い世代に周知してもらう。
情報交換の場、情報発信の一本化。
募集チラシの配布。
活動のPR、特に若い人への周知活動、SNSの活用など。
高齢化でリーダー不足なので口コミで若い方をおさそいしている。
公報あさかに、地域活動団体の共同チラシの折り込み。幅広い地域の連携、社協の設置。WEB上の地域活動団体共有ページやSNS。駅など認知の高い場所での掲示。
活動内容の周知、広報。個人情報保護のためだと理解はしているが、困っている当事者につながるがむずかしい。
こどもや家庭にチラシを配布したい。
4と6について。案内やチラシを願っているが、置いておくだけではダメで、口こみや手渡しでもっと良さをアピールすることが必要。
親の会の存在や活動内容を広く周知していく。市役所のHPや掲示板のりようなど。新生児については、保健師さんとのつながりを密にして、乳幼児・児童期のお子様については療育施設や小中学校(支援級・支援学校)とのつながりを密にして、団体の存在をお知らせしてもらう。魅力のある活動を企画開催する。退会者については、通院・仕事・家族の介護などやむを得ない理由もありますので仕方ないですが、特に成人期になると、会に在籍するメリットが少なく感じられるのではないかと?大人になっても楽しめる企画を考えると共に、OB・OGという形での接点はつないでいたいと思います。
NPO 法人だから自助努力は言うまでもないが、ミニデイのエアコン等の設備費の助成があると良い。ミニデイを会場にする事業も広報に載せて欲しい。
活動内容についての広報活動。障害福祉課においての橋渡し。
自力で各方面に発信できれば良いのですが、会員が高齢化しているので無理。若い活力あふれた人材が入ればと思います。
広報面の充実化。
福祉協議会、町内会の広報でのPR。

【資金援助、バックアップ】

回答内容
潤沢な資金、活動場所の確保。
資金の積極的なサポート。
補助金
朝霞市の小さなボランティア団体に対するバックアップが足りていない。大きな団体ばかりに注力している。
行政のボランティア活動への理解不足。ボランティア団体の活動をしやすくするための支援、人、資金の予算増やすこと。ボランティア団体を紹介する機会がない。

回答内容
NPO 法人だから自助努力は言うまでもないが、ミニデイのエアコン等の設備費の助成があると良い。ミニデイを会場にする事業も広報に載せて欲しい。
助成金があればうれしい。
民生委員や学校、こども未来課などと連携をしていくことなのかと思います。助成金の申請のみでは限界を感じている。子ども、親ともう少し活動日数を増やし、見守るための予算をつけてほしい。こども未来課へはたらきかけ、企業との連携。

【活動場所の確保】

回答内容
公民館に準ずる気軽に活動できる場所を増やしていきたい。
活動場所、日時が一定ではない為、支援が途切れてしまう。自治体から業務委託という形で、一定の場所一定の時間に活動ができれば参加者のハードルが下がると考えている。
潤沢な資金、活動場所の確保。
活動場所が土日祭日も利用できたなら、近所の方にも知っていただけるのではないのでしょうか。

【その他】

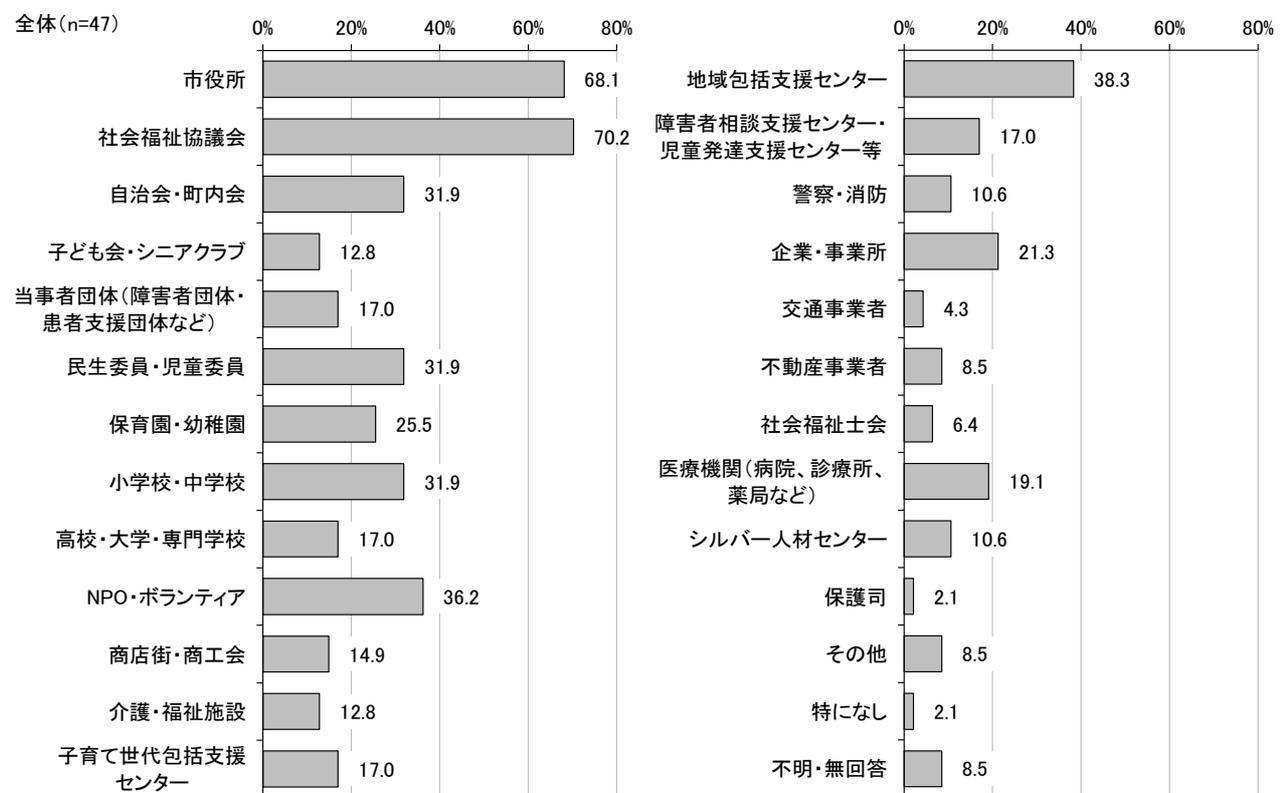
回答内容
活動内容が身近に感じられない。
活動といっても日頃の自分のための活動しかしていません。活動(運動のあとで)薬のみ忘れるぐらい元気になってほしいと思っています。
何回かお願いにうかがっていますが、保健センターの乳児健診の際に、はみがき指導と同じように寄りたい人が寄れる、長机に座らせていただけたら、健診に来た外国人親子の人たちに、ばんびーの存在を知っていただけたらと思っています。つながりができれば、困っている時に手をさしのべることができるので、ありがたいです。
手話普及のための講習会(通訳育成の講習会とは別に開催)。
居住者が高齢化しすぎているので大変です。動いている役員も高齢化です。次の代に移れない。
民生委員、児童委員が活動しているがこれから民生委員のなりてがない。
自然消滅寸前。
本当に困っている人々とどけること。そしてその人々が何をもめているのかを知ること。
理解をしてもらう機会がない。行政との連携が少ない。
うらの会が 24 年も続いており、住民の中に気軽に参加できる様な雰囲気作りがもっと必要なのではないかな。
当事者との新たな出会いの場を作りたい。
重度知的障害者を持つ子供と共に生活している中での限られた時間での活動なので、行政や理解をしてくださる市民の皆様にも協力をしていただき、一緒に活動してほしい。手伝うという感じで。
問2で選択したものが多岐にわたっている為、一言では回答しにくいですが、例えば 20 代~50 代の現役世代の力を借りて、解決の糸口を見つける場を作る。その為のノウハウは民間企業のアイデアも借りる。庁内、社協内の担当以外の 20 代~50 代の職員も参画する、とにかく高齢者ばかりでは先に進まない。

回答内容
利用者が亡くなったり施設に入ったりして、人数が少なくなっている。掲示板に募集のチラシをはったりしているが。
新しいメンバーの加入。

問2で「特に困ったことはない」以外の方

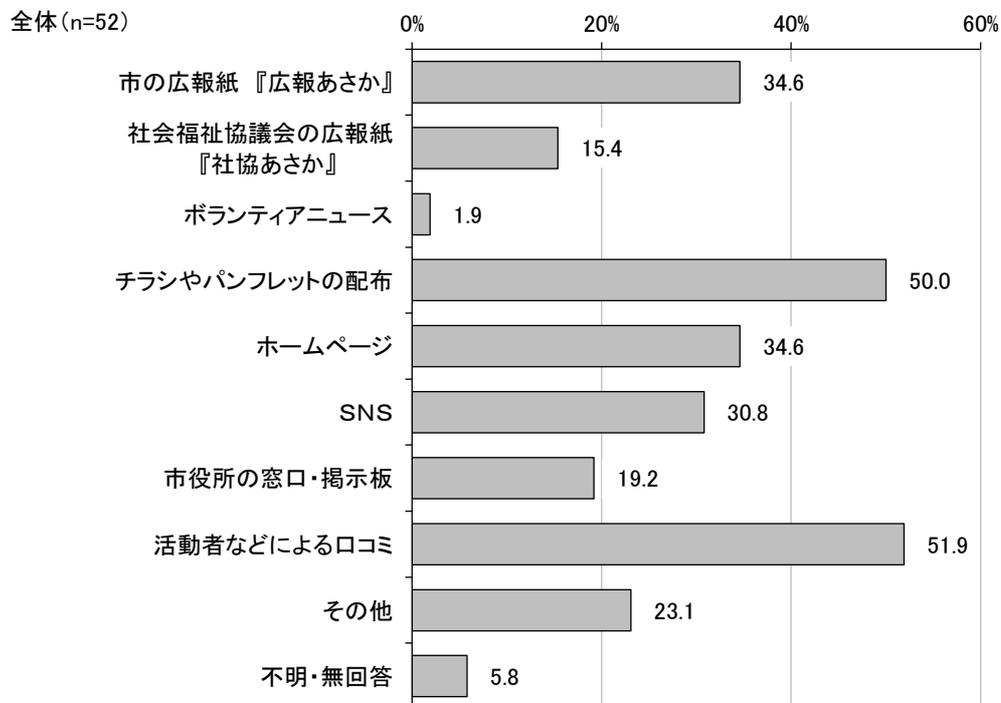
問2-2 問2で挙げた課題を解決するために、どのような機関・団体と連携したいですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「社会福祉協議会」が70.2%と最も高く、次いで「市役所」が68.1%、「地域包括支援センター」が38.3%となっています。



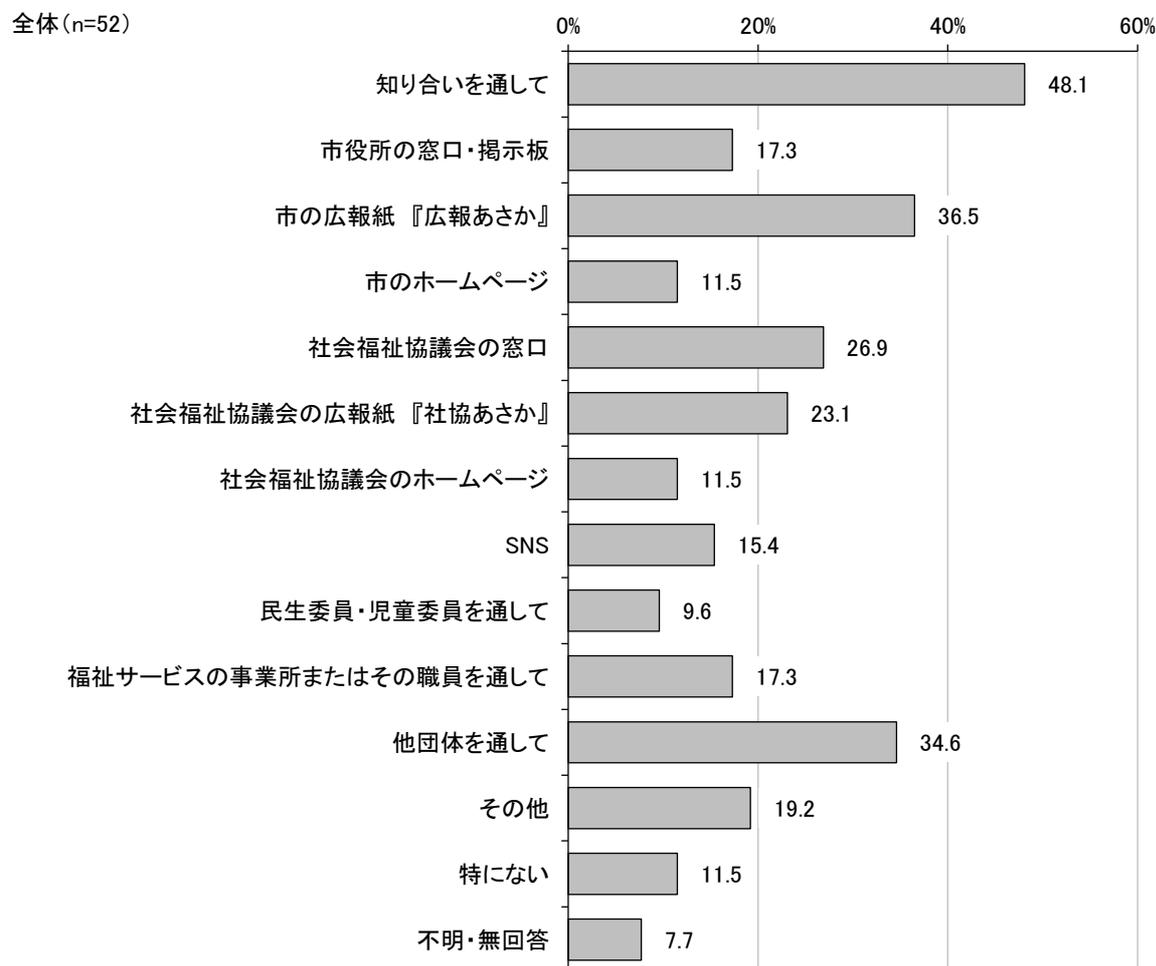
問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「活動者などによる口コミ」が 51.9%と最も高く、次いで「チラシやパンフレットの配布」が 50.0%、「市の広報紙『広報あさか』」「ホームページ」が 34.6%となっています。



問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「知り合いを通して」が48.1%と最も高く、次いで「市の広報紙『広報あさか』」が36.5%、「他団体を通して」が34.6%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～9年では「知り合いを通して」「他団体を通して」、10～19年では「知り合いを通して」が最も高くなっています。

単位: %		知り合いを通して	市役所の窓口・掲示板	市の広報紙『広報あさか』	市のホームページ	社会福祉協議会の窓口	社会福祉協議会の広報紙『社協あさか』	社会福祉協議会のホームページ	SNS	民生委員・児童委員を通して	福祉サービスの事業所またはその職員を通して	他団体を通して	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=52)		48.1	17.3	36.5	11.5	26.9	23.1	11.5	15.4	9.6	17.3	34.6	19.2	11.5	7.7
活動年数別	1～9年 (n=14)	50.0	14.3	14.3	7.1	35.7	14.3	7.1	28.6	0.0	7.1	50.0	21.4	7.1	7.1
	10～19年 (n=20)	55.0	15.0	50.0	20.0	25.0	30.0	10.0	10.0	20.0	25.0	45.0	15.0	15.0	5.0
	20～29年 (n=9)	33.3	33.3	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1
	30年以上 (n=8)	37.5	12.5	50.0	0.0	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5

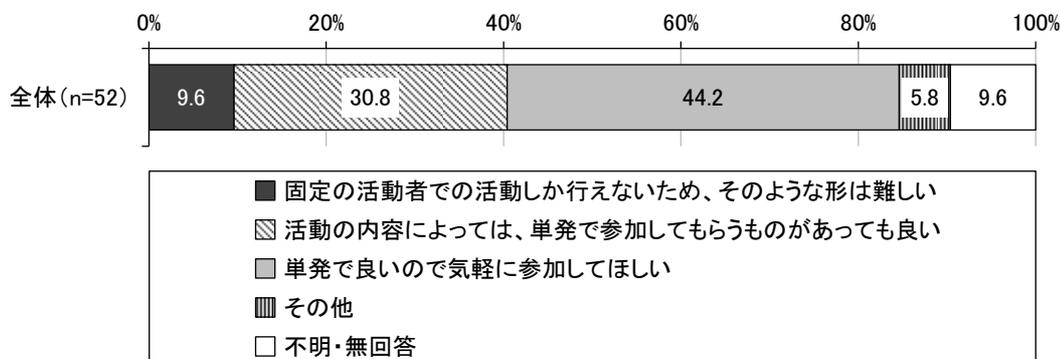
〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、[新しい活動者が入らない][支援を必要とする人の情報が得にくい]では「知り合いを通して」、[リーダー（後継者）が育たない][市民に情報発信する場や機会が乏しい][活動者の高齢化]では「市の広報紙『広報あさか』」、[活動資金が足りない]では「知り合いを通して」「他団体を通して」が最も高くなっています。

単位：%		知り合いを通して	市役所の窓口・掲示板	市の広報紙『広報あさか』	市のホームページ	社会福祉協議会の窓口	社会福祉協議会の広報紙『社協あさか』	社会福祉協議会のホームページ	SNS	民生委員・児童委員を通して	福祉サービス事業所またはその職員を通して	他団体を通して	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=52)		48.1	17.3	36.5	11.5	26.9	23.1	11.5	15.4	9.6	17.3	34.6	19.2	11.5	7.7
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	57.1	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	48.3	24.1	44.8	10.3	27.6	27.6	17.2	13.8	3.4	13.8	24.1	17.2	3.4	3.4
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	38.5	23.1	53.8	15.4	30.8	38.5	15.4	15.4	15.4	15.4	30.8	23.1	7.7	7.7
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	50.0	31.3	56.3	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	6.3	25.0	50.0	12.5	6.3	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	64.7	23.5	41.2	11.8	35.3	23.5	11.8	23.5	17.6	23.5	58.8	17.6	0.0	0.0
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	60.0	40.0	60.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3
	活動資金が足りない (n=12)	58.3	25.0	50.0	8.3	33.3	8.3	0.0	33.3	25.0	25.0	58.3	33.3	8.3	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	36.8	21.1	42.1	15.8	36.8	26.3	15.8	0.0	10.5	10.5	21.1	21.1	10.5	10.5
	その他 (n=8)	62.5	12.5	25.0	25.0	37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	0.0	87.5	37.5	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	60.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0

問5 市民の方が気軽に活動に参加できるように、市民の方が貴団体の活動に単発で参加することは考えられますか。(1つを選択)

「単発で良いので気軽に参加してほしい」が44.2%と最も高く、次いで「活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い」が30.8%、「固定の活動者での活動しか行えないため、そのような形は難しい」が9.6%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～9年では「活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い」、10～19年では「単発で良いので気軽に参加してほしい」が最も高くなっています。

単位: %		固定の活動者での活動しか行えないため、そのような形は難しい	活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い	単発で良いので気軽に参加してほしい	その他	不明・無回答
全体 (n=52)		9.6	30.8	44.2	5.8	9.6
活動年数別	1～9年 (n=14)	14.3	42.9	35.7	0.0	7.1
	10～19年 (n=20)	5.0	5.0	70.0	10.0	10.0
	20～29年 (n=9)	0.0	33.3	33.3	11.1	22.2
	30年以上 (n=8)	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0

〈活動上の困り事別クロス〉

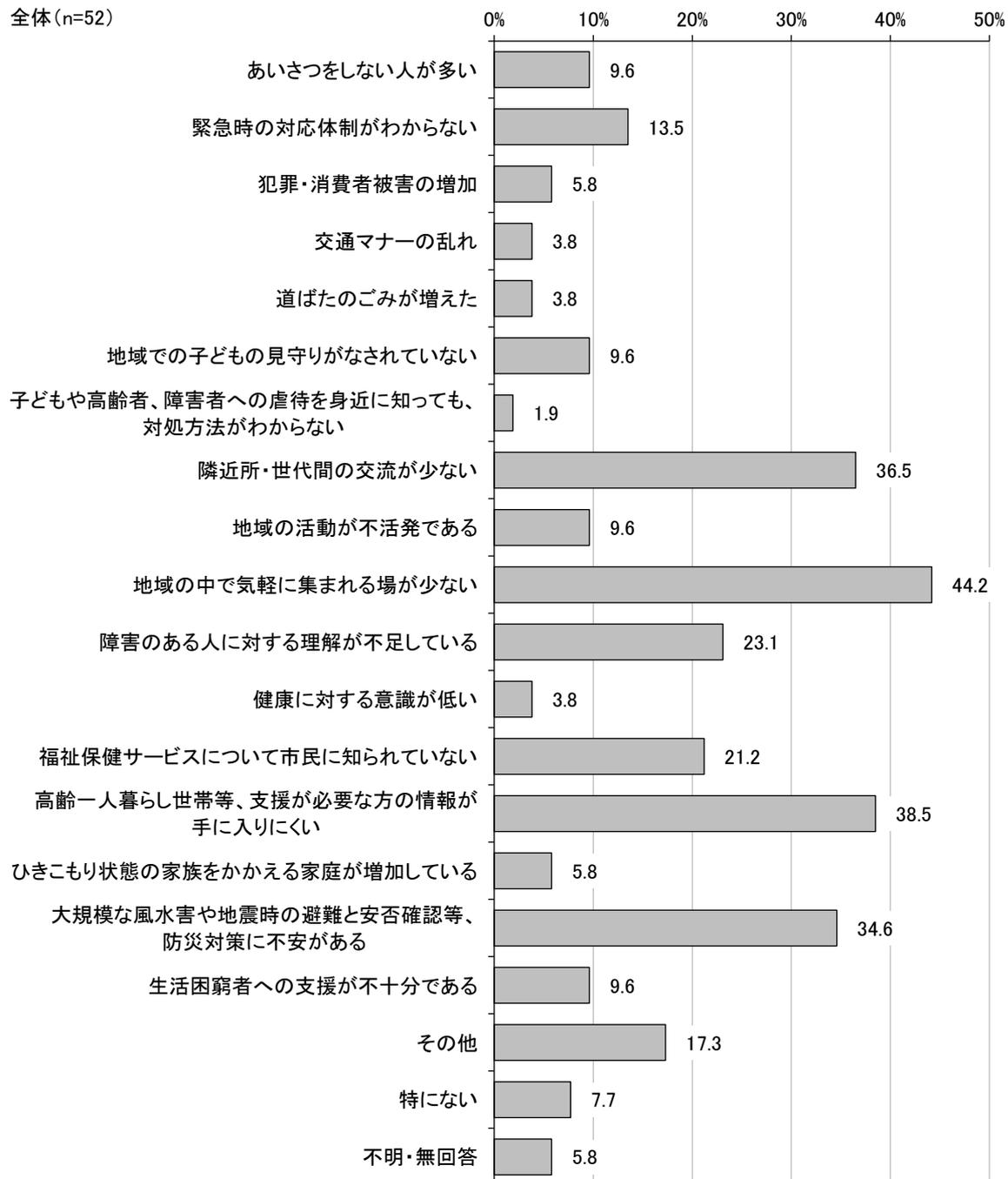
活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔リーダー（後継者）が育たない〕〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕〔活動資金が足りない〕〔活動者の高齢化〕では「単発で良いので気軽に参加してほしい」、〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕では「活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い」が最も高くなっています。

単位：%		うか な形 は難 いめ 、の そ の動 よし	固 定 の活 動者 で い 、の 動 よし	の単 発 活 動 者 も し 、	加 単 発 活 動 者 も し 、	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=52)		9.6		30.8	44.2	5.8	9.6
活動上の 困り 事別	活動のマンネリ化 (n=7)	0.0		28.6	42.9	14.3	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	10.3		31.0	44.8	3.4	10.3
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	15.4		23.1	38.5	15.4	7.7
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	0.0		50.0	43.8	6.3	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	0.0		75.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	5.9		29.4	52.9	11.8	0.0
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	0.0		20.0	80.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	0.0		57.1	42.9	0.0	0.0
	活動資金が足りない (n=12)	8.3		25.0	58.3	8.3	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	10.5		15.8	47.4	10.5	15.8
	その他 (n=8)	12.5		50.0	37.5	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	40.0		0.0	40.0	0.0	20.0

3 地域の課題について

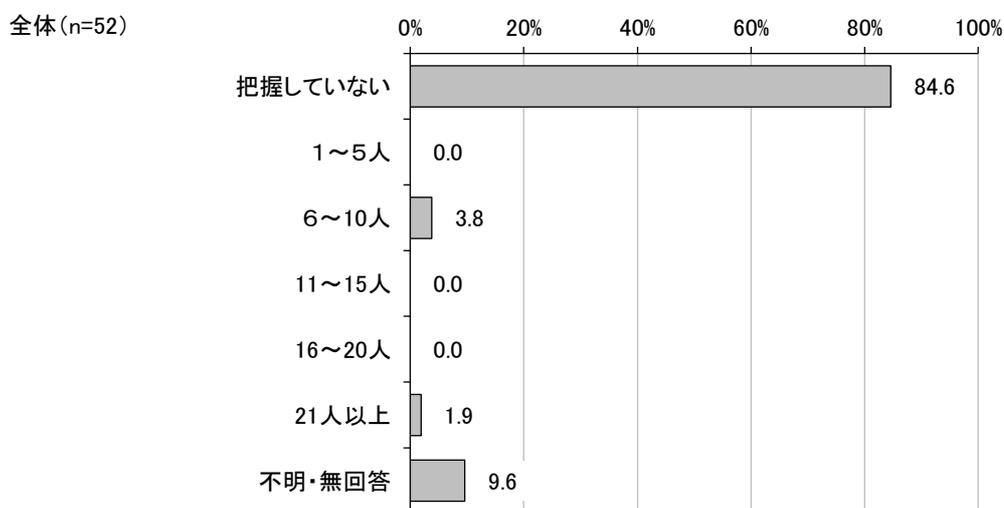
問6 貴団体の活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が44.2%と最も高く、次いで「高齢一人暮らし世帯等、支援が必要な方の情報が手に入りにくい」が38.5%、「隣近所・世代間の交流が少ない」が36.5%となっています。



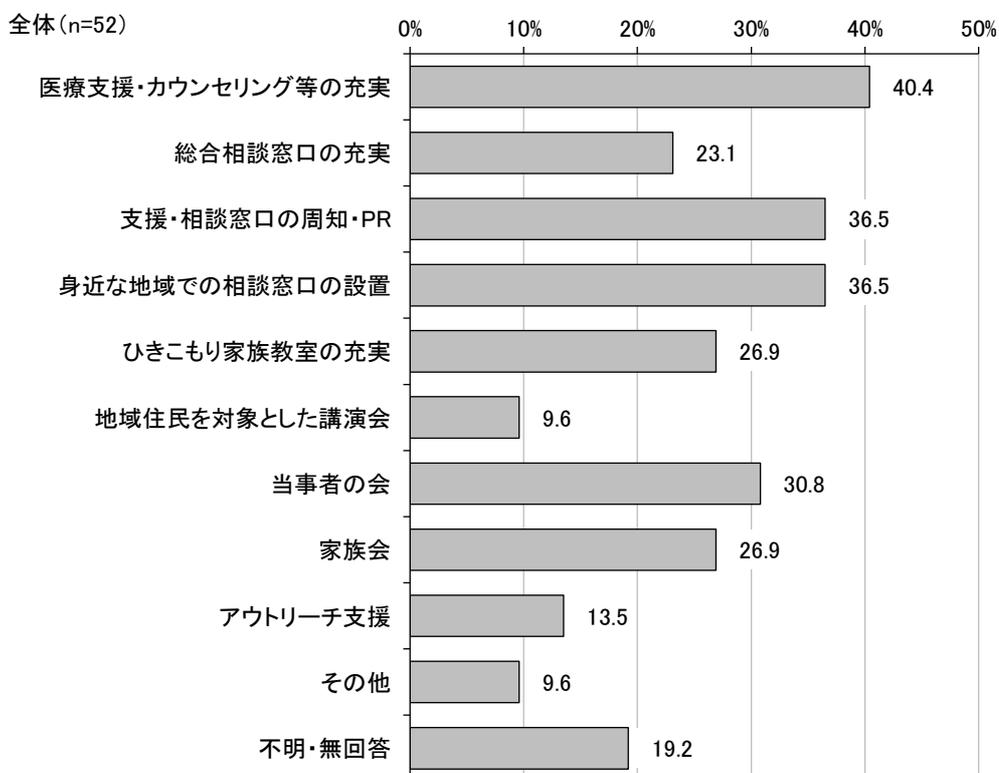
問7 貴団体の活動地域に、ひきこもり状態に該当する方をどれくらい把握していますか。
(1つを選択)

「把握していない」が84.6%と最も高く、次いで「6～10人」が3.8%、「21人以上」が1.9%となっています。



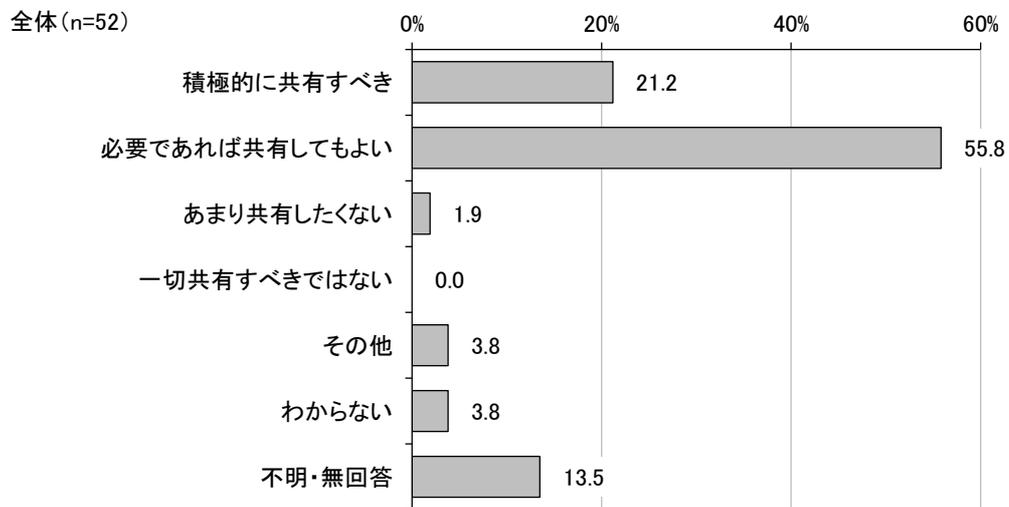
問8 ひきこもりの人への支援に関して、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「医療支援・カウンセリング等の充実」が40.4%と最も高く、次いで「支援・相談窓口の周知・PR」「身近な地域での相談窓口の設置」が36.5%となっています。



問9 貴団体では、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(1つを選択)

「必要であれば共有してもよい」が55.8%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が21.2%、「わからない」が3.8%となっています。



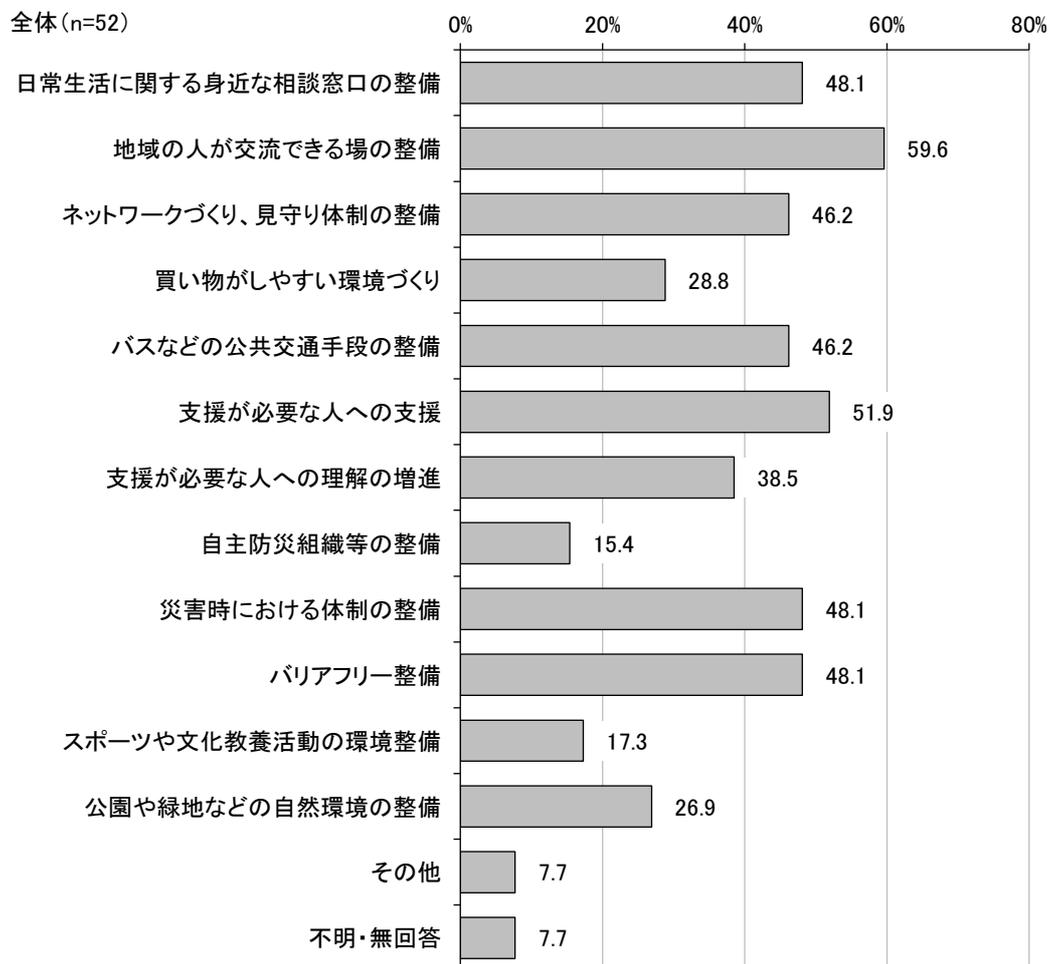
〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔リーダー（後継者）が育たない〕〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕〔活動資金が足りない〕〔活動者の高齢化〕では「必要であれば共有してもよい」が最も高くなっています。

単位：%		積極的に共有すべき	よい必要であれば共有しても	あまり共有したくない	一切共有すべきではない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=52)		21.2	55.8	1.9	0.0	3.8	3.8	13.5
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	13.8	65.5	3.4	0.0	3.4	0.0	13.8
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	0.0	76.9	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	18.8	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	17.6	70.6	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6
	活動資金が足りない (n=12)	25.0	50.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3
	活動者の高齢化 (n=19)	0.0	78.9	5.3	0.0	0.0	0.0	15.8
	その他 (n=8)	12.5	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
特に困ったことはない (n=5)	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	

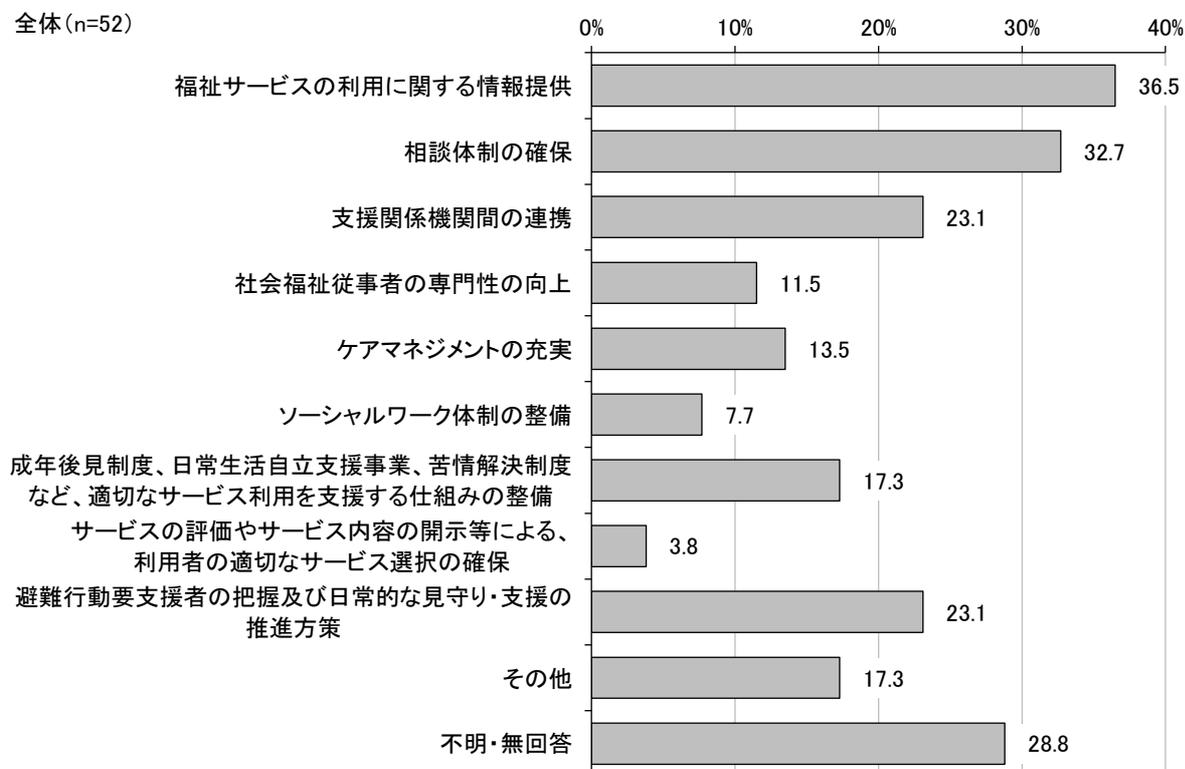
問 10 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてを選択)

「地域の人が交流できる場の整備」が 59.6%と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が 51.9%、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」「災害時における体制の整備」「バリアフリー整備」が 48.1%となっています。



問11 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「福祉サービスの利用に関する情報提供」が36.5%と最も高く、次いで「相談体制の確保」が32.7%、「支援関係機関間の連携」「避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策」が23.1%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見 (自由記述)

【福祉サービスの利用に関する情報提供】

回答内容
個人、施設などに訪問時、小冊子などの配布。
SNS や LINE(公式)を通しての情報提供、LINE チャットグループを作成し、気軽に市民が質問できるようにする。
どのような福祉サービスが受けられるのかわからない人がほとんどでは。利用した本人などの話や利用方法などを公報などのコラムに掲載しては。
チラシを回覧板で流す。
例えば、不登校をかかえる親のカウンセリングや学校の環境を整える。
いくら家族が介護サービスを利用すると言っても拒絶する人が一定数いる。本人に聞き取り調査に来てもらって希望を聞いて、半日からでもサービスを受けることを義務化してほしい。
広報に具体的な掲載スペースの確保を申し入れる。
定期的に市民向けに情報を伝える会を設定してほしい。
ボランティアで、脳トレなど必要。

回答内容
会員が利用しているサービスを把握して、不都合なものへの改善をする。
地域の人たちが交流できる無償の場所、自転車や歩行者が安全に通れる道路を整備。公園をもっと増やしてほしい。
多くの人が気軽に訪れられる場が必要。公民館に登録した団体のみ使用できる場以外は誰でも訪れることのできる部屋(親子も高齢者も)が必要。そこに派遣されたスタッフ民生委員が情報の聞き取り、アドバイスをする。必要なら支援機関への連携をとる。

【相談体制の確保】

回答内容
相談の担い手、実働人の確保。
地域社会、町内会ベースで各班毎に相談担当者を置き、何でも相談できるように努める。
虐待防止など。
朝霞市はフリースクールなど相談や資金体制を充実させた方が良いのでは？
相談できる場の周知。
朝霞市の相談窓口の1本化。1本化しにくい場合はできるだけスリムに絞り込む。総合窓口は、たらい回しになりかねない。例えば障害関連の窓口を、障害福祉課、健康づくり課の1本化。高齢者関係でいえば長寿はつらつ課、地域包括センターなどで、個人情報許される範囲で共有、連携。
会員の意向を把握して相談者を探す。
市役所、社協、包括支援センター連携してほしい。
相談と改まると話さない人もいるので、相談所の充実の一方でフランクに困りごとを話せる場や人が必要。

【支援関係機関間の連携】

回答内容
支援機関が集まったの情報交換会や申しおくり。共有プラットフォームをつくり、リアルタイムで共有(支援内容は進捗)。市民への困りごとがおきた時のパンフレット配布(又はSNS発信)。
地域包括支援センターの方から、お知らせを頂いて、参加される方を受け入れている。
助成サービスはとかく個々個別に独立がち。情報の横串、連携の日常化は必要。
全ての支援機関が情報共有すべき。
行政は病院との連携を密にすべき。
市役所、社協、包括支援センター連携してほしい。

【社会福祉従事者の専門性の向上】

回答内容
愛着障害などの理由をかかえるひきこもりや非行にはしる子供の交わり、関りの向上。
家族会との交流。
市民の勉強会等増やしてほしい。
積極的に職員を募集し、研修を行い専門性を高める。

【ケアマネジメントの充実】

回答内容
多職種連携の強化。例、自治体—民生委員—市民活動団体。医師—保健センター—子育て支援団体など。
地域社会、町内会ベースでケアマネジメント、地域包括支援センターとの連絡網を作り、定期的な情報交換が必要と思う。
家族会との交流。
本人を重視したケアマネジメントを。
介護申請していないと関係性が少ない。

【ソーシャルワーク体制の整備】

回答内容
地区社協の設置、事例研究会の開催、家計相談支援事業の実施。
家族会との交流。
介護、病気、福祉等に関わらなければ一般市民には関わりを持たない。

【成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備】

回答内容
高齢者が日常的に出向き、気がるに話ができる場が増えると良い。
いろいろな国の人が暮らすようになって、それぞれの文化や生活習慣の違いにより苦情もやすくなっている。苦情の内容について、日本人からの一方的なものにならないように通訳をつけてきちんと話をきいて解決できるようにしてもらえたらいいと思う。
市の柔軟な対応が必要。
成年後見制度、日常生活自立支援制度と苦情解決制度とは内容が異なるため回答するのは難しい。
会員の意向を把握してサービス利用できるようにしたい。

【サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保】

回答内容
どんなサービスがあるのか？がだれにでもしっかりと見える(理解される)事が一番。
PR し、通所者を増やしていく。

【避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策】

回答内容
視覚や聴覚に障害がある方々が、災害が起きた時にとり残されたり、情報が少ない状況が考えられるので、手帳などでしっかり把握して、連絡がとれるようにしておくと思う(もうしているかもしれませんが)。
地域社会、町内会ベースで要支援者リストの作成(個人情報も含めるとリスト記載に周意確認必要ですが)し、その支援者を明らかにしての活動。
個人的な意見として、集合住宅では「近所つきあい」がまったくないのでいざというときの助け合いや声かけにどうすればよいのか。又、適切な行動とはどうすれば可能なのか。
民間要支援施設の見守り、支援(公共施設以外)。
地域の町内会との連絡を密に取れる体制作り。
把握だけでなく具体的にどのような支援が必要かまで聞き取りをしてほしい。それぞれ支援の仕方が違うので、いざそうなった時に把握だけでは意味がないと思う。
避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り、支援の推進方策とは意味合いが違うのでアイデアは出しにくい。避難行動要支援者でいえば、登録者の名簿を整理、配布先の民生委員、町内会、警察、消防署等々で、実際に災害に遭遇した場合を想定し、何が盲点かなどを話し合う。その為にはまずはモデル地域を設定し、対象者を絞り込んだシミュレーションをやりながら先に進む。
高齢者の多いマンションです。目前の歩道が狭く歩きにくく50年以上前よりこの状況です。県道ですが利用者の多くは朝霞市民です。この歩道の整備をすぐやってください。

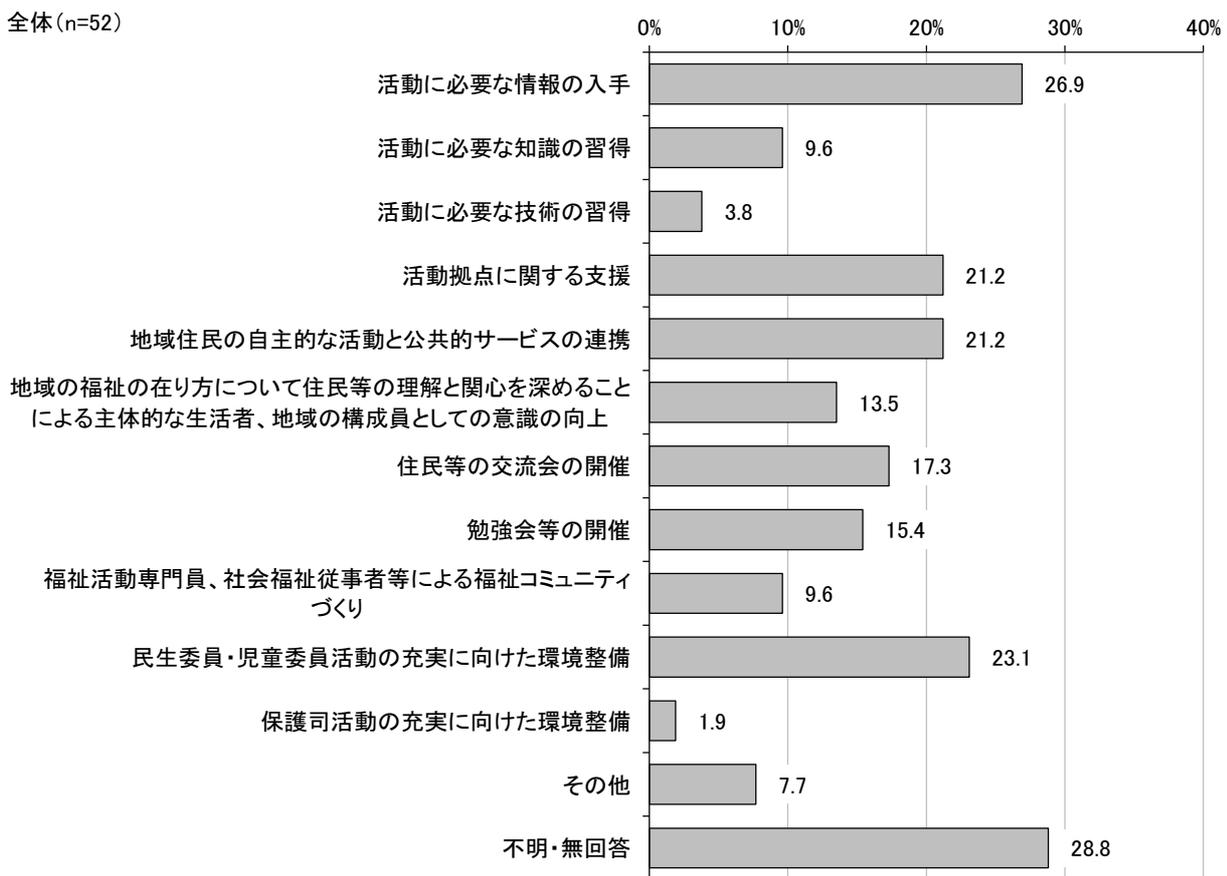
【その他】

回答内容
<p>[統括部門]</p> <p>一番、二番を実現する為には全ては把握、マネジメントする人(部門)が必要。</p>
<p>[1～9までをまとめて]</p> <p>長い目で見たとき、市民1人1人が小さな時から「人間力」を身に付けていくことが、「人材確保、質の向上」につながると思う。また「相談しなくてはならない状態」の人を少しでも減らす事になる。朝霞市に1ストップ施設(湯～ぐうじょうあとなど)をつくる。朝霞の独自カリキュラム。子供～高齢者まで「学びの場」ボランティアや行政、地元事業者などいろんなカリキュラムを提供。学校だけではなく学び。大人の得意を伝える事で高齢者も活躍し学ぶ。カリキュラムの中にいろいろな実ケースを混え想定を広げていく。</p>
<p>[集いの場]</p> <p>市内各所に集いのルールを作り、日変わり時間変わりで、いけばいつでも誰がいるような場を作ってほしい。市民センターにシルバーサロンを設けているが、空いている時が多くてもったいない。</p>
<p>[自ら学ぶことの普及]</p> <p>普及活動に協力。</p>
<p>皆さん何でも良く知っていますよ。介護のこと、道具(用品)の事など。</p>
<p>子育て世代、高齢者が集える場所に相談できる人が居て、行政につなげられるシステムがあると良い。</p>

回答内容
市の施設の窓口にある外国語のカードが、それぞれの国の言語が日本語で書かれてあるので外国の人には自分の言語がどれなのかわからないと思う。何度か窓口の人に伝えたが、改善されていないのが気になる。
積極的に行動しないとけっきょく孤立老人になってしまうのではと感じるこのごろです。老人会食などを利用して知り合いを1人でも増やせる機会を(お茶会)作りたい。
受け皿は用意されているが、市民が公に求めることを知らない。出来ない、しないのではないか?など思う。自分が困ったら求めることを普通にすればよいと思う。

問 12 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「活動に必要な情報の入手」が26.9%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備」が23.1%、「活動拠点に関する支援」「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が21.2%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見 (自由記述)

【活動に必要な情報の入手】

回答内容
地域の町内会への参加を進め定期的な活動に参加してもらい情報の交換に努める。

回答内容
他の会食グループの活動内容など情報があれば知りたい。
子供や大人の成長に必要な情報を集める。不登校児や発達障害の子供のセルフイメージを上げる。
広報あさかをもっと使える様にしてほしい。
マンネリ化を防ぐために必要。
住民の方の福祉に対する意義がどのようなものか解ると良い。
認知症にならない対策、方法、意識。怠心を打ち消してくれる、対策、方法、意識。
地域の活動に参加している人は情報は入ってくるが、家に閉じこもりの人たちは情報は少ないので、市役所、社協、包括の方たちが家を回る。

【活動に必要な知識の習得】

回答内容
講習などがあれば積極的にうけていきたい。
家族教育などの充実。
お知らせ等勉強会。

【活動に必要な技術の習得】

回答内容
長年にわたり朝霞市では音訳者養成講座を開催していないので、初級講座等で活動メンバーを育成したい。

【活動拠点に関する支援】

回答内容
自然の中でのリフレッシュ。
現在、調理室での会食となっているが、テーブルが狭くて座りにくい。食べる時は会議室？などゆったり座れるところに移動できたらいいなど。
空き家などの提供(アトスペースなど)。役割を与えることができる。
空き家などの一戸建て1Fは食堂、2Fは学習支援ができるなどの居場所が必要。
地域の居場所を作る。空き家利用など、行政で借り上げて。
拠点が大事なので、空き家利用を考えて欲しい。
気軽に集まる活動拠点がありません。市民センター、公民館など自由スペースの拡張を希望します。カフェのような雰囲気も重要です。
市役所、社協、包括等。

【地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携】

回答内容
朝霞市には、たくさんの子育て支援サークルがあり、その内12団体が所属している朝霞子育てネットワークという任意団体があるが、活動拠点が固定ではない為ひきつづきのサポートができない。定点になる所がほしい。拠点を自治会で提供してくれたら、連携可能ではないか？
主に防災関連で地域住民に声かけし、参加してもらう。

回答内容
NORDIC あさかは活動を進めながら、都度ご支援を頂ける所を探し、説明しご理解を頂いた所からサービスを提供して頂いています。
地域での生活が出来る様にしたい。

【地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上】

回答内容
地域住民一人ひとりの意識の向上のための活動。福祉寄りでなく、一般のイベントにも参加。
福祉として、サービスに何があって、利用した先にこんな成功があった。という事例の紹介をわかりやすくマンガなどでみせてほしい。生活の質が向上していく様を肌で感じる事ができたらうける側も提供する側も達成感が得られるのでは？

【住民等の交流会の開催】

回答内容
だれでも参加できるフェス。
地域に住む外国の方たちと、近隣の人たちとの交流の場として、日本の文化を知ってもらったり、外国の方の文化や料理を知ったりする場ができると、相互理解につながると思う。
イベントを通して積極的にお手伝い等をお願いし参加してもらう。
気軽に参加できる会があると良い。
顔を合わせることが大事なので、交流会を定期的に設定する。
顔の見える関係のため、定期的に開催すべき。
住民同士が集い楽しむ機会が多ければ良いつながりが広がると思う。
朝霞の森秋祭りなどの開催で他団体との交流ができる。

【勉強会等の開催】

回答内容
子供の未来アクション学習会などの学習会の開催。
いろいろな国の人々と共生するためにいろいろな国の方に講師を担当していただき、文化を相互に理解できるような会ができれば良い。
人生100年まで学ぶことを日常生活レベルで届けている。

【福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり】

回答内容
福祉というと、障害やシニアの問題がないと自分事ととらえにくい。「福祉はみんなのもの」ということの認知が必要だと思う。例、地域イベントと連携させる。
地域包括支援センターの活用を定期的に行い相互で理解し合う体制。
福祉活動専門員が配属されていますが、カタカナ文字で具体的には何を専門とされるのか分かりません。もう少し具体的にどんな仕事をされるのか団体にご紹介ください。

【民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
あまり活動が知られていないように思うので、もっと活動を公報して、支援を必要としている人に支援の手が届くようにしてほしい。
地域担当の民生委員が誰かを知ってもらい、何かあれば相談出来る様に勧める。
個人情報保護があり障害者、こども関連の情報が入らない。現在、見守りのみ。
高齢者にとって、民生委員との接触は多い方が良いと思う。
見守りをもっと積極的に。
民生委員を地域の住民に知ってもらう事が大事なので町内会単位で民生委員と住民の会う場を作る。
地域住民に地域の民生委員を周知する機会をつくる。
民生委員、児童委員の若返りも重要です。その為にも民生委員、児童委員の仕事を見直す。また何らかの報酬、それなりの見返りも必要だと思います。法律に引っかからない程度で朝霞市独自のやり方で良いと思います。
民生委員の方が障害者に理解をしてくださっていて、いろいろ勉強したがつっているのでボランティアで来てくださったりと交流している。
子ども食堂との連携で外ランチ会、朝霞の森であればサポート可能。
子ども食堂を市民センター等に作ってほしい。

【保護司活動の充実に向けた環境整備】

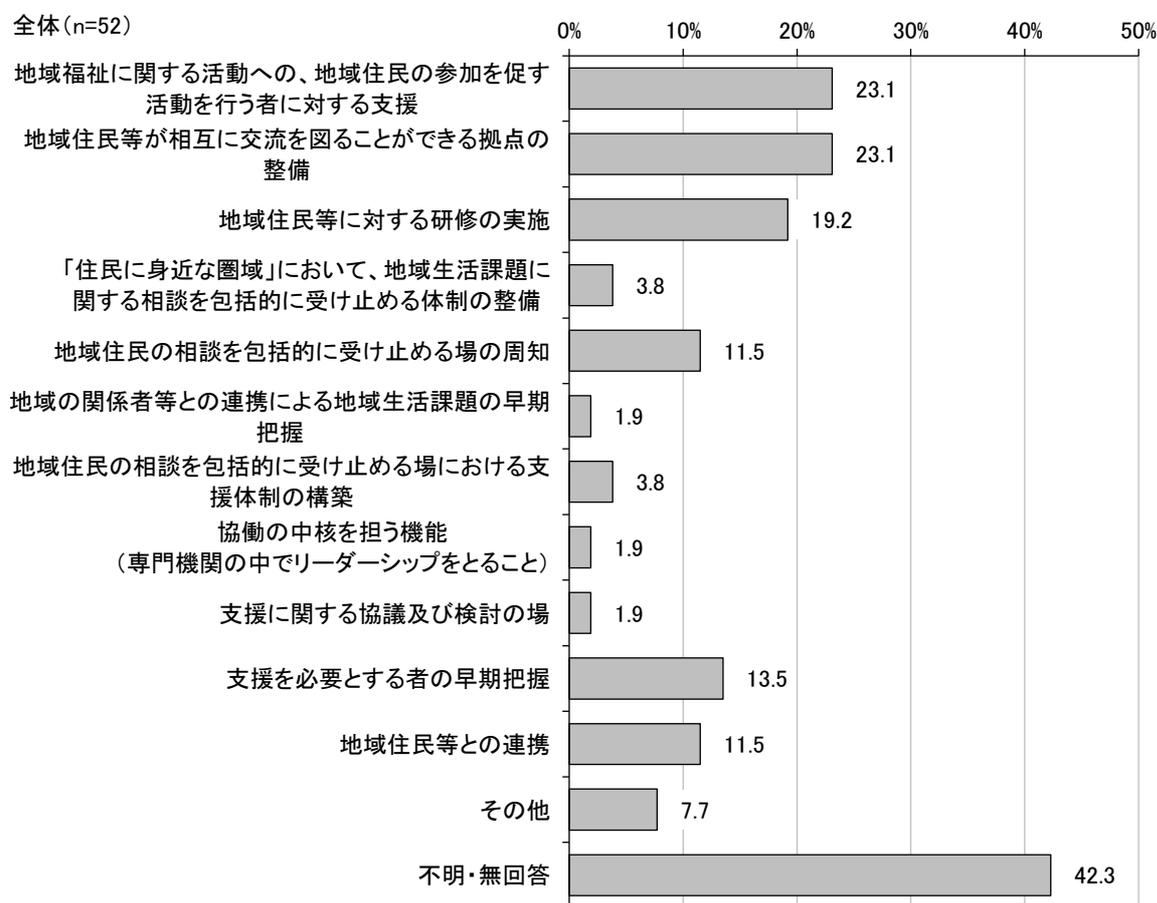
回答内容
保護司の活動を充実する為に、地域住民に伝える機会を増やす。

【その他】

回答内容
[1～11]
おしゃれに、わかりやすく発信すること。民生委員も1人担当ではなく仕事をもっていてもできるように1地区2～3名にしてチームで取りくむなど考えてみる。
活動資金がギリギリなので助成金の支援をお願いしたい。
脳の特性のある子供(アスペ、ADHA)などの子供の二次障害をへらす取り組み。親子関係など。
住民がひとりで参加するのはとても勇気がいることなので、なじむまでサービススタッフが同行する。

問13 包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援」「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が23.1%と最も高く、次いで「地域住民等に対する研修の実施」が19.2%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見 (自由記述)

【地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援】

回答内容
オンラインと会場参加のハイブリッド参加にすることにより従来よりもはるかに参加者をうけ入れられ、アーカイブ録画することにより、当日参加できなかった方へのサポートも可能になる。
地域社会、町内会ベースの働きかけをもっと行い、地域住民に参加を働きかける。
NORDIC あさかの活動は身体の健康と仲間とコミュニティを育てています。これを市民に少しでも多く知って欲しい。
精神障害者が一人で生活出来る様にアウトリーチを作りたい。

【地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備】

回答内容
朝霞の森の活用。

回答内容
主に、子育て世代に対して交流を図ることができる様、サロンを展開しているが、場所が固定でない為、毎回募集・予約をとっている。もっと気軽に参加してほしいという課題はある。
町内会館の利用を増やし、気軽に利用する様に町内会ベースでも勧める。
町内会館、お祭り。
放置された空き家を市又は運営団体が借り上げ1回あたり200円程度の利用料で高齢者等の居場所作りとする。公共料金は市が負担、至る所に拠点。
昔の井戸端会議ができるような、いつでもだれでも参加できる場所があると良い。
地域の居場所を作る。空き家利用など行政で借り上げて。
拠点が大事なので、空き家利用を考えて欲しい。
気軽に集まりやすい拠点が必要。
井戸端会議が気安くできるようなちょっと集まれる場所があったらよいです。あの場所へ行ったら誰かしらに会えるという場所。

【地域住民等に対する研修の実施】

回答内容
弊社では、すでに福祉課より助成金を頂き、子どもの発達、生活の質を上げるべく専門家をお呼びしての講演会を多数開催しています。
避難訓練
理解出来る様な研修。
研修というよりフラットな集いの場を考え開催する。
研修は住民間でやれば良い。

【「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備】

回答内容
地域包括支援センターの存在をもっと知ってもらう様に、センターさん側に協力をお願いする。

【地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知】

回答内容
1人暮らしの高齢者が多くなるので、一層必要になると思います。
広報の活用充実。
どこに行けば相談して解決できるのか、その場所が周知できれば良いと思う。

【協働の中核を担う機能（専門機関の中でリーダーシップをとること）】

回答内容
当事者を中心としたアウトリーチの構築。

【支援を必要とする者の早期把握】

回答内容
災害時には町内の役割が必要。個人情報云々より命を守ることが優先する。支援して良いとする人との情報共有が必要。

【地域住民等との連携】

回答内容
各世帯の状況を把握するためには、地域住民、民生委員からの情報提供がかかせない。向こう三軒両隣の関係を構築する必要がある。
町会の加入率を増やす。
町内会とのつながりを濃くする。
町内会、他の団体と積極的な交流。お祭りなどを通し、仲良くなる。又、座談会も良い。団体活動ができる方は地域に関心がある為、課題についても理解されてる方が多い為。

【その他】

回答内容
[学校での外国人親子支援について] 以前、日本語がわからない外国のお子さんの支援を頼まれたことがあったが、地域のサークルの方や民生委員さんと話したりしてすすめた。しかし、支援者側が親御さんへのサポートも必要と話したが学校側はそこまでできないと話していて、うまくいかないなと思った。外国人の親への支援をやらないと子どもが将来的にヤングケアラーになることが多いので、家族全体を地域で協力してサポートできるといいと思う。
当事者の話を聞く。団体間のメンバーで無理のないよう困っている人を共有する。ただし個人情報にも十分気をつける。今自分たちは何のために活動しているか、これからするかを自問すること。
プレーパークなどとの連携。
NORDIC あさかの平均年齢は74才です(201名)。日本の健康寿命の平均とほぼ同年齢ですが、皆しっかり歩いています(歩けるようになっています)。
活動資金を志で支援する。

問 14 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、又はやりたいですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいことをお答えください。(自由記述)

回答内容
継続的な相談。
内容ごとに関係機関につなげる。
年齢に関係なく個になる人を無くしたい。子育て中の人、支援をされている方などと集まり茶話会やお話したい。
いっしょに活動すること。自然を守る活動。
専門機関におつなぎすること。その方が必要としている内容によっては弊社でも対応可能です。
カフェ「さんぽみち」では仕事にもやもやのある人、仕事を探している人の居場所ケア。ひきこもりの方なども含みます。コミュニティあさかは、社会参加を増やすことを目的にしています。そのためにできることを増やしていけたら良いと考えています。
外国の方が窓口に行きたい時につきそう(通訳までできるかはわからないが、ほんやくアプリ等でサポートできる)。
町内会で手助けの組織表を作成して有り、町内会内ではこの組織表に基づいて行動を取る様にしております。
民生委員に連絡。管理事務所に行き話をする。包括に連絡。
相談者の話を聞きどうしたいかによってどうすればいいのかをじっくり聞く。専門的な事が必要ならば関係者に連絡。
楽しく食事がとれるようにしたい。月に1回でもそこに行けば食事をしながら話ができる。こんなことがあったとつぶやくことができる。そんな会をめざしたい。
年齢問わず誰でも参加できる場所作りを行いたい。認知症や障害の方など特定の方が参加できる支援を行いたい(オレンジカフェなど)。
情報提供(障害年金など)、脳の特性のあるかた(自覚が無い方への促し)、不登校家族で苦しんでいる方への助言、居場所提供。
歩行困難者への歩行運動指導。
通常のとちも育活動が子育て世代、子供に対する活動なので特にない。
介護者側の気持ちに添って話をきく。
とにかく何でもいいので困っている所を解決にむすびつけられるようなハブでありたい。
何故ひきこもっているのか？病気なのか？分からない方の相談を受けて行きたい。
発達ゆっくりなお子さんや保護者様の不安を和らげられるよう、寄り添ってお話を聞いてあげたり、病院や療育や学校支援級の情報提供なども含めて、子育ての実体験をお話ししてあげられるのではないかと思います。そういった意味でも、様々な障がいを持っている方々や団体のネットワークも持ってみたいと思います。(他市の親の会では、市の依頼で新生児訪問に保健師さんに同行してお話を聞いているそうです。)
①ミニデイにお誘いする。②行政や民生委員につなぐ。③集いの場を紹介する。若者への学習支援。高齢者との交流も兼ねて。
まず話を聞き、状況を理解し、関係機関に相談し連携する。

回答内容
相手の困っていることを聞いて必要な機関につなげる。話を聞いてあげる。
何かに困っている人がいれば解決できる範囲で手助けしたいと思います。
足、手、目、耳の少し不自由な高齢者が多いサロンなので、遠いところまで行けません。サロンに来ていただくのが第一条件です。そのように取り組んでいるのですが。
様々な年齢、子ども～高齢者がともに集い、話したり体験をすることで地域社会を活性化していけるのではないかと考えます。
不登校児の支援、居場所の提供、学習支援を他団体と連携。
当団体は高齢者のみの集まりやお茶会である為手助けは難しいと思います。

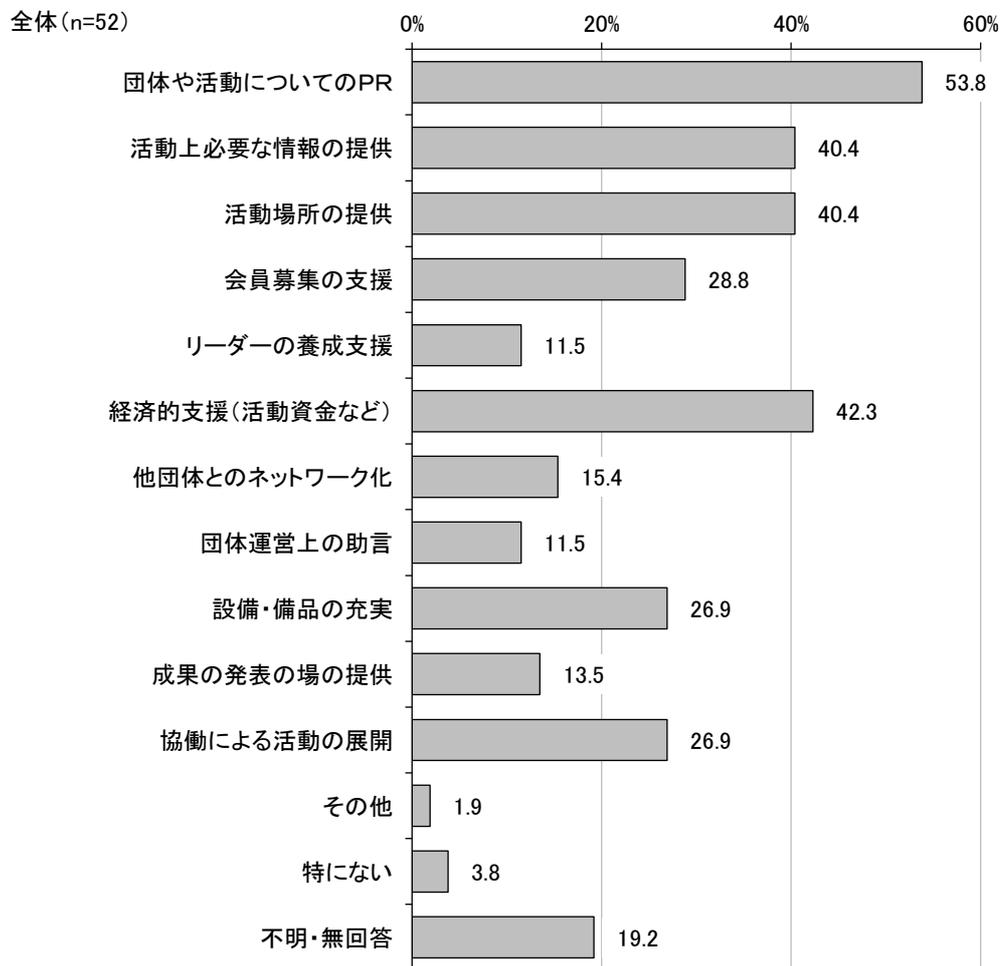
問 15 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。(自由記述)

回答内容
当団体の担い手の確保。
運営団体の人員確保。
広く報知すること。
後継者の育成。活動している人たちも介護や病気等で活動ができなくなることが考えられる。又、ボランティアでは気持ちが続いていかない為固定の収益も必要。
ボランティアをしている人達の自己肯定感を高める。団体へ資金援助。
地域活動は、主体的に取り組むために教育したり指示したりすることは困難です。しかし、地域活動の必要性やおもしろさをもっと伝えることは大事だと思います。特に現役世代では、そのような情報に接する機会もなく、ますます地域への参加が減っており、情報、活動場所、活動費用などの支援は大切だと思います。
市として、「こういう方がいるのでよろしく」と丸投げではなく、団体へのサポート体制はほしいと思う。AIS の方々も、交通費にちょっと出るくらいの金額でお子さんたちの支援をしているので、もう少し多文化共生サポーターの方とかを利用して、和光市のように時給ができるようにしてほしいと思う。
各地域での清掃活動などを通じて地域社会の集まりの場、コミュニケーションの機会を多く持てばと思います。
団地では、いろいろなサロンを継続して行く為に役員も高齢者ですので体力、健康に気をつけなければならない。次のリーダーがいらない為。
民生委員、児童委員の充実。地域の企業等の協力を頂き、有休ではなく特別休暇を考えてほしい(社会貢献としての協力)。
規則も制約も必要だが、自由に使える場所、時間などがあるといいですね。
団体メンバー(会員)。
高齢化の為、発展や拡大は考えにくい。
資金のサポートや必要なアイテム、市とのアートの事ができる。場所の提供があると色々広がる。
やろうと思う人が増えること。活動資金支援は後押しになると思う。
集まる場が地味すぎる。誰でも行きやすい目立つ場所。客の入っていない中央公民館のこりすカフェを集いの場にする。

回答内容
活動する人と場所、お金などの支援が必要。
朝霞市が福祉にもっと関心をもってほしい。
不便に感じること、疑問に思うことをかいぜんしていこうとするバイタリティー、行動力、それに賛同する人々の思いをつないでいくための PR、周知活動。リーダーシップをとれる人材の育成。福祉活動に必要な知識や資格を取得するためのサポート。
居心地の良い環境、自然豊かな環境、様々な生き物、植物が多い場所を皆が求めている。そういう環境を残すこと、そういう環境作りをして居る団体ボランティア等の理解、支援を積極的に行うことが大切。
行政と共働して PR 活動。活動の場の確保、空き家を行政が借り上げ、団体が複数で安く借りられるように、いつでも気軽に相談に行ける場を増やすこと。
会員数が増えることがまず第一。少数の人に責任や負担がかかることなく、多くの人が少しずつできることを、できる範囲で関わっていく体制。
活動者、利用者共高齢化しているので、声掛けはしているが入会には至らないのが悩みです。
私達のネットワークはつながりが大事なので、仲間の団体行事には率先して参加することが大事。
少人数の団体ができたとして、やはり活動資金が必要と思いますので補助金を出してあげると良いと思います。
孤独は知らぬ間に心と体に悪い影響を及ぼします。サロンに参加して楽しい時間を送ってほしいと取り組んでいます。でも誘ってもなぜか参加しない方が多いです。
それぞれの活動団体が活動しやすい環境、活動資金、活動場所の確保等を安定して進めて行けることが必要と考えます。
より多くの親子と出会う機会を増やす為、プレーパーク開催日を増やす。不登校、うつ状態の親や子の支援が月5日間ではとぎれてしまう。
会員 60 歳超の人へ呼びかける広報。

問 16 貴団体が活動をしていく上で、市役所に望むことはどのようなことですか。
 (あてはまるものすべてを選択)

「団体や活動についてのPR」が53.8%と最も高く、次いで「経済的支援(活動資金など)」が42.3%、「活動上必要な情報の提供」「活動場所の提供」が40.4%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～19年では「団体や活動についてのPR」が最も高くなっています。

単位：%		て団体や活動についてのPR	の活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	援リーダーの養成支援	資金的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	提供成果の発表の場の提供	展開協働による活動の展開	その他	特にな	不明・無回答
全体 (n=52)		53.8	40.4	40.4	28.8	11.5	42.3	15.4	11.5	26.9	13.5	26.9	1.9	3.8	19.2
活動年数別	1～9年 (n=14)	64.3	50.0	50.0	28.6	14.3	50.0	28.6	7.1	21.4	7.1	28.6	0.0	0.0	7.1
	10～19年 (n=20)	50.0	35.0	40.0	30.0	15.0	30.0	10.0	15.0	35.0	15.0	20.0	5.0	5.0	30.0
	20～29年 (n=9)	22.2	44.4	33.3	22.2	0.0	44.4	11.1	22.2	22.2	22.2	44.4	0.0	11.1	22.2
	30年以上 (n=8)	87.5	37.5	25.0	37.5	12.5	50.0	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5

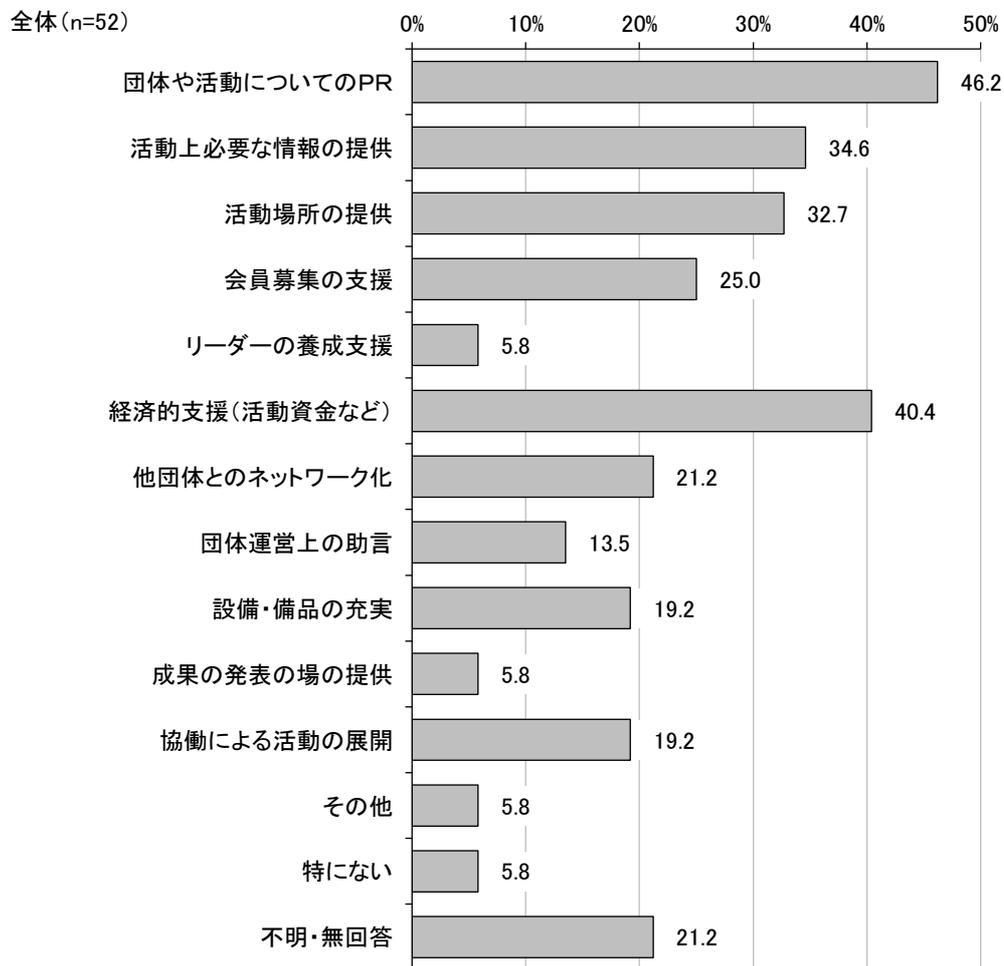
〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、[新しい活動者が入らない][市民に情報発信する場や機会が乏しい][支援を必要とする人の情報が得にくい][活動者の高齢化]では「団体や活動についてのPR」、[リーダー（後継者）が育たない][活動資金が足りない]では「団体や活動についてのPR」「経済的支援（活動資金など）」が最も高くなっています。

単位：%		て団体や活動についてのPR	の活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	援リーダーの養成支援	資金的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	提供成果の発表の場の提供	展開協働による活動の展開	その他	特にな	不明・無回答
全体 (n=52)		53.8	40.4	40.4	28.8	11.5	42.3	15.4	11.5	26.9	13.5	26.9	1.9	3.8	19.2
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	42.9	42.9	28.6	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6
	新しい活動者が入らない (n=29)	51.7	44.8	37.9	37.9	17.2	44.8	20.7	13.8	20.7	13.8	31.0	3.4	3.4	17.2
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	53.8	46.2	38.5	38.5	15.4	53.8	15.4	15.4	23.1	7.7	38.5	7.7	0.0	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	87.5	75.0	62.5	50.0	18.8	62.5	43.8	31.3	37.5	25.0	50.0	6.3	0.0	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	75.0	75.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	82.4	64.7	41.2	41.2	11.8	47.1	35.3	23.5	23.5	17.6	35.3	5.9	0.0	5.9
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	80.0	80.0	60.0	40.0	20.0	80.0	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	57.1	14.3	100.0	28.6	0.0	57.1	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
	活動資金が足りない (n=12)	83.3	41.7	75.0	41.7	16.7	83.3	16.7	33.3	58.3	41.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	52.6	42.1	26.3	42.1	21.1	26.3	5.3	10.5	31.6	5.3	10.5	5.3	5.3	26.3
	その他 (n=8)	87.5	62.5	50.0	37.5	0.0	50.0	25.0	12.5	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0

問17 貴団体が活動をしていく上で、社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。
 (あてはまるものすべてを選択)

「団体や活動についてのPR」が46.2%と最も高く、次いで「経済的支援(活動資金など)」が40.4%、「活動上必要な情報の提供」が34.6%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～19年では「団体や活動についてのPR」が最も高くなっています。

単位：%		の団体や活動についてのPR	活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	リーダーの養成支援	経済的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	成果の発表の場の提供	開協働による活動の展開	その他	特にない	不明・無回答
全体	(n=52)	46.2	34.6	32.7	25.0	5.8	40.4	21.2	13.5	19.2	5.8	19.2	5.8	5.8	21.2
活動年数別	1～9年(n=14)	57.1	35.7	42.9	28.6	14.3	50.0	21.4	14.3	21.4	7.1	21.4	7.1	0.0	14.3
	10～19年(n=20)	45.0	35.0	35.0	30.0	5.0	35.0	20.0	10.0	20.0	5.0	10.0	5.0	5.0	35.0
	20～29年(n=9)	33.3	33.3	33.3	22.2	0.0	44.4	11.1	33.3	33.3	11.1	33.3	0.0	11.1	11.1
	30年以上(n=8)	50.0	37.5	12.5	12.5	0.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5

〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔活動者の高齢化〕では「団体や活動についてのPR」、〔リーダー（後継者）が育たない〕では「活動上必要な情報の提供」、〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕では「団体や活動についてのPR」「活動上必要な情報の提供」、〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕では「団体や活動についてのPR」「活動上必要な情報の提供」「経済的支援（活動資金など）」、〔活動資金が足りない〕では「経済的支援（活動資金など）」が最も高くなっています。

単位：%		の団体や活動についてのPR	活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	リーダーの養成支援	経済的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	成果の発表の場の提供	開協働による活動の展開	その他	特にない	不明・無回答
全体	(n=52)	46.2	34.6	32.7	25.0	5.8	40.4	21.2	13.5	19.2	5.8	19.2	5.8	5.8	21.2
活動上の困り事別	活動のマンネリ化(n=7)	57.1	28.6	42.9	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6
	新しい活動者が入らない(n=29)	48.3	37.9	34.5	37.9	3.4	41.4	17.2	10.3	17.2	6.9	20.7	3.4	6.9	20.7
	リーダー（後継者）が育たない(n=13)	38.5	53.8	46.2	30.8	7.7	46.2	23.1	15.4	23.1	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい(n=16)	68.8	68.8	50.0	50.0	18.8	50.0	50.0	31.3	18.8	18.8	37.5	6.3	0.0	6.3
	人々のニーズに合った活動ができていない(n=4)	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい(n=17)	52.9	52.9	41.2	35.3	17.6	52.9	47.1	23.5	17.6	5.9	35.3	5.9	0.0	11.8
	他の団体と交流する機会が乏しい(n=5)	60.0	80.0	40.0	40.0	0.0	80.0	60.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい(n=7)	57.1	14.3	57.1	14.3	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3
	活動資金が足りない(n=12)	50.0	41.7	58.3	33.3	8.3	66.7	33.3	25.0	33.3	16.7	33.3	16.7	8.3	0.0
	活動者の高齢化(n=19)	42.1	36.8	26.3	31.6	5.3	26.3	15.8	10.5	21.1	0.0	10.5	5.3	10.5	26.3
	その他(n=8)	62.5	25.0	25.0	25.0	0.0	62.5	50.0	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
特に困ったことはない(n=5)	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	

問18 その他、福祉環境をよくするためのご意見・ご提言等ありましたらお書きください。
(自由記述)

回答内容
<p>隣に誰が住んでいるのかわからないほど地域の繋がりが希薄なこの地域においては、過度に干渉されることはないことが精神障害者にとっては暮らしやすい地域かもしれないが、人との交流を求める時には、当事者や支援者のもとへ訪問することがほとんどです。障害特性を理解しつつ、近隣住民の方への理解を求めていくことは、長期に継続的な地道な活動が必要です。地域づくりの特効薬はありませんので、少しずつ息の長い事業展開が必要と考えます。</p>
<p>朝霞市はシニア支援はあるが子育て支援は少ないと感じています(自治体主導の)。療育を必要とする子どもが増加傾向にあり、発達障害がわからないと療育をうけることができないシステムの中、グレーゾーンの中にいる母子が不安を抱えることなくつどえる拠点があることが望ましいのではと思っています。</p>
<p>成年後見利用支援事業、家計相談支援事業所などぜひ実施してほしいです。一方、地域活動団体が関わることができ、地域福祉を活性化することができる重要な仕組みが地区社協(地域社協)の創設だと思えます。福祉の制度は進歩していますが、互助、共助を支える地域資源は、自治会加入率低下に表れる通り、弱体化しています。社会参加の減少を食い止め、地域社会を維持するために連携を強化し、お互いに知恵を出し合う必要があると考えています。微力ながらお手伝いできればと思っています。</p>
<p>介護、福祉に携わる人たちの時給を上げること。時給が上がれば、人も集まって人手不足も解消していくと思う。人手が足りないと、提供したい質の良いケアもできない(時間が足りない)。</p>
<p>社協の方々には、いろいろお世話になっており、協力していただいております。</p>
<p>大部分の人は「どこで、何が行われているのか。どんな支援が具体的にうけられるのか」を知らないと思います。又、興味がないと、広報や公民館などにおかれている資料などを手にすることもないでしょう。誰でもいつでも情報が手に入れられるためにはどうすればよいか。たとえば、市内放送を使って、簡単なお知らせを流すとか。具体的でもなくても「健康体操が〇〇日から△△で始まります。」ぐらいの「知るキッカケ」を作ることも必要だと思います。アンケートの設問も言葉と問われていることが(私には)難解でした。もう少しやわらかいことばだとありがたいですね。</p>
<p>当然のことだが、このアンケートは現役の方向けでよい事だと思いますが、人生100年時代の80才過ぎには違う世界が待っていますので、参考にならず申し訳ありません。旨い着地を日々考えながら、朝霞という恵まれた処に生きている事を感謝したらの営みです。実は、サロンかわせみも今年内までの活動と話し合っています。今までの活動に感謝いたします。</p>
<p>地域のメンタルヘルスが問題となり大人のいじめ問題やマウントをとりたがる大人が増えているように思います。子供も親のクセをうけついでいく流れがある為に、学校や地域でのいじめや仲間はずしを心理的にうけているやりとりを見ます。市に相談しても、それは～と言われ窓口もないように思いました。今の時代に必要なやりとりができるのではないのでしょうか。朝霞のメンタルヘルス向上を祈ります。</p>
<p>子供も戦力。高齢者も戦力。守るだけでなく、支援者となれる事を前向きに発信し「育む」事が大切。「自分の足で立つ」=自立に初めて他者を支援できる。互助につながる。</p>
<p>こども食堂(こどもの居場所)という面で見ると、いつでもやっている食堂や居場所が必要であると考えます。24時間365日、不登校の子でも、ここならこれるよという場所。いつも同じ人もいるけれど、いろんな食堂の人が日替わりでくればよいと思う。それをNPOと協力して行うなど。</p>
<p>理解と環境を整えてほしい。</p>

回答内容

困りごとがある人と困りごとを解決してくれる(助けてあげたい)団体をマッチングしてくれる窓口(ハブ機能)を充実させる。困り事があった時に、気軽にそうだんできる窓口で、助けてくれる人(団体)を紹介してもらえたら、早い対応ができるのではないかと思います。そのためにも、団体のリスト化やネットワークは大事ななと思う。近年では、インクルーシブ教育、インクルーシブ公園、インクルーシブ遊具など「障害のある子もない子と一緒に～」というキャッチフレーズが冠されることが多くなりました。池袋のとしまキッズパークや世田谷の砧公園は有名です。来年度は、新座の大和田水辺の丘公園がグランドオープンされます。朝霞においても宮戸二丁目公園やまぼりひがし、まぼりみなみ公園ができる予定です。よくも悪くも周知させるという意味で「インクルーシブ」という言葉は必要だと思ひますし、参加する側も気軽に利用できるのでありがたいと思ひます。その中で最近思ふのは、公民館等で開催される子ども向けイベントに、対象幼児までとか未就学児までとか小学校低学年まで、或いは小学生までとか書いてあることが多いなということです。障がいのある子は、年齢に沿った成長よりもゆっくりの子が多いので「このイベント行ってみたいな」と思っても「あ。小学生じゃダメなんだ。」とか「あ。中学生じゃ行けないんだ、残念。」と思つて参加できないことが多々あります。個別に問い合わせするのも、説明が面倒だし困られたら嫌な思ひをするので私は断念しています。イベント開催者様も年齢に応じた企画をされていると思うので致し方ない部分もありますが、日常生活でインクルーシブという空気感を育てていくためにも主催者様のご理解が得られた場合には「対象小学生までのお子さんと障がいを持っているお子さん」のような参加条件が明記されていると、参加しやすいと思ひます。子どもはいろいろな体験をして成長していくものです。障がいがある故に、体験する場(機会)が失われてしまうのが残念です。いずれは、インクルーシブという言葉がなくても、誰もが皆自然にふれあえる社会になってほしいと思ひます。

朝霞市は人口増と同時に児童数も急増している。それだけに朝霞を知らない人が増え、益々住民間関係が希薄になります。町内会加盟率も一向に上がらないので大きな課題です。朝霞の森シンボルロード、彩夏祭などでのイベントが多く経費をかけて実施されるが、市内の交通の便も悪く恩恵とはいかない。高齢者へのパスモ年間補助は、もっと多様な補助制度を工夫して、市内を動きやすいようにしてほしい。補助金を減らしてでもヘルプを必要としている人が元気になる方に予算処置を。②広報朝霞の充実で福祉の自助、互助、共助、公助の趣旨普及と拠り所のPRを根気よく伝える内容になってほしい。

積極的な人はどんどん種々の活動に参加しているが、家から出ない人を外出させるためにはどうしたらいいですか。

私達の団体は重度知的障害者の親の集まりで、行政に対してまだ理解していないことが多く、取り組むことなど具体的な事まで考えるところまではもう少し時間がかかりそうです。困っている事、親なき後に子供をどうするか、助けてほしい事等相談できる相談支援員さんの数もまだまだ不足していると感じています。誰もが気軽に話すことができる場がもっと増えてほしいと思ひます。

①先駆的な活動をされている団体と交流。②朝霞市全体がやさしい地域になる様積み上げていけたらと思ひます。それには小さい頃からの教育が充実していないと実践につながらない。保育園小学校から形を変えた福祉教育が大半ではないでしょうか。③障害を持った方はもっと外へ出て頂く。社協だけが受け入れるのではなく。④誰も取り残されない、みんな一緒にという考えの土壌づくり。

行政と団体の協働で行政がとどかない所を団体が補うような形が良いと思ふ。多忙な社会からほっと一息つける場作りが必要かなと活動をしているうえで考える。職員も市民も同じ。

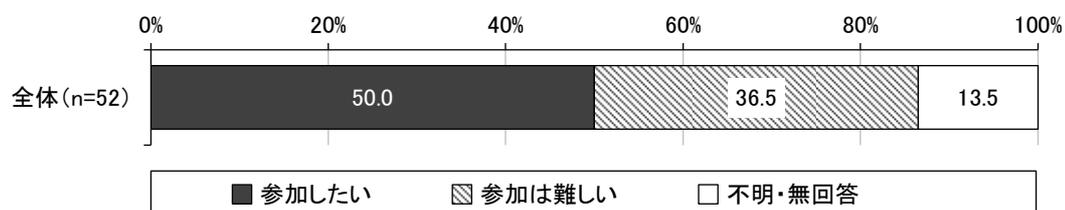
社協自体が実際に何をしているか見えにくい。当団体は相当以前に登録したが1件依頼があったほか、数年間全く連絡なかった。去年もう1度登録に行ったがそれ以来も1件紹介あつただけにとどまっている。

回答内容

社協にそもそも情報が集まってないように感じる。市役所も地域福祉にどのような取り組みをしているか分かりにくい。5年間生涯学習の講師をしたが、場所の紹介など役所内での目的が定まっていなかったように感じた。今年は2つの講座をやめてみたが、やめても特に支障はないようで5年間の努力が本当に役に立っていたのか疑問を持っている。

問 19 本アンケート調査票にご回答いただいた団体を対象に、後日、分野ごとのグループヒアリングを実施する予定です。グループヒアリングへの参加意思をお答えください。(1つを選択)

「参加したい」が50.0%、「参加は難しい」が36.5%となっています。



VI アンケート調査結果からみえる主な課題・方向性

1. 福祉関連の情報発信・周知

福祉制度や福祉関連機関の中には、認知度が低いものが多く見られることから、周知方法の改善を図るとともに、広報紙やホームページの他、SNS なども活用しながら、誰にでもわかりやすく、届きやすい情報発信を進めていくことが求められています。

- ・「朝霞市社会福祉協議会自体を知らない」が 43.0%で最多。【P27 市民:問 12】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「だれにでもわかりやすい福祉情報の提供」が 52.1%で最多。【P64 市民:問 30】
- ・生活困窮者自立支援制度については、「制度名は知っているが、内容は知らない」が 46.5%で最多。【P64 市民:問 31】
- ・朝霞市の情報を今後何から入手したいかでは、「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が 65.4%、「朝霞市のホームページ」が 54.3%、「SNS」が 29.4%。【P65 市民:問 32】
- ・成年後見制度については、「制度名は知っているが内容は知らない」が 50.5%で最多。【P67 市民:問 33】
- ・地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項では、活動に必要な情報の入手」が 41.8%と最多。【P157 専門職:問 16】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 38.0%と最多。【P149 専門職:問 14】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 36.5%と最多。【P190 団体:問 11】

2. 相談支援体制の強化

生活上の問題や悩み事は多岐にわたっていますが、そうした中、必要な支援を受けられていない人や、どこに相談してよいか分からない人も少なくありません。福祉のまちづくりに向けて、プッシュ型・アウトリーチ型（おせっかい型）の相談体制づくりなど、これまで相談や支援につながりを持ちにくかった人々を想定し、相談支援体制を強化していくことが求められています。

- ・生活上の問題や悩み事についての相談や支援では、「問題や悩み事は特にない」が 43.1%と最多であるが、「ほとんど支援を受けていない」が 13.1%、「どこに相談してよいか分からない」が 8.5%【P13 市民:問 8】。〔18～29 歳〕では、「どこに相談してよいか分からない」が 15.9%で他の年代と比べて高い。【P14 市民:年齢別クロス】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「相談支援体制の整備」が 27.0%で 3 番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「相談体制の確保」が 2 番目に多い。【P149 専門職:問 14】

3. 子育て支援の充実

子ども・若者支援に関して、優先的に解決すべき事項としては、子どもへの虐待や、ひとり親家庭、共働き家庭、乳幼児のいる家庭への支援をはじめ、不登校児やその家族、ヤングケアラーへの支援などが上位に挙がっています。

また、家庭や学校以外にも、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保するとともに、保護者も孤立しないよう、相談の場や交流の機会づくりが求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについて、〔18歳未満の子がいる〕家庭では、「居住期間が短くわからない」が44.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・これからの地域福祉の取組についての意見では、「保育園」などサービスの充実の他、「子どもの居場所、遊び場の充実」などが見られた。【P70 市民:問35 自由記述】
- ・子ども・若者支援に関して優先的に解決すべき事項では、「子どもへの虐待防止対策」が30.4%、「ひとり親家庭の子育て支援」が26.6%、「共働き家庭の子育て支援」が25.9%、「不登校児および家族への支援」が25.3%、「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」が20.9%、「ヤングケアラーへの支援」が17.1%。【P87 専門職:問4】
- ・〔ひとり親家庭の子育て支援〕についての解決策では、子どもの居場所の確保や、保護者も不安を解消できる専門の相談機関や集まりなどを求める意見が挙がっている。【P89-90 専門職:問4 自由記述】
- ・〔不登校児および家族への支援〕についての解決策では、フリースクールなど学校への登校以外の選択肢を求める意見や、家族も安心できる場や相談相手を求める意見が挙がっている。【P96-97 専門職:問4 自由記述】

4. 高齢者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、高齢者のみ世帯にとって、暮らしにくくなったと感じる割合が1割を超えています。また、高齢者から、生活上の不安の声が多く寄せられています。高齢者世帯の日常生活への支援をはじめ、孤立防止、社会参加、生きがいがづくりに向けた支援が求められています。さらには、介護・介助を行う家族に対する支援など、地域が連携して支援に取り組むことが重要です。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかでは、〔高齢者（65歳以上）のみである〕家庭で「あまり変わらない」が53.2%と最多であるが、「暮らしやすくなった」が6.4%と他と比べて低く、「暮らしにくくなった」が10.9%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・高齢者支援に関して優先すべきことでは、「高齢者世帯の生活支援（声かけ、安否確認、買い物支援など）」が50.0%、「孤立（孤独死）防止対策」が41.3%、「高齢者の社会参加や生きがいがづくりの支援」が31.5%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が26.1%。【P31 市民:問16】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「お祭りやイベントの増加」や「高齢者との交流や子ども同士の交流など、市民の交流機会の創出」に関する意見が見られた。【P82 児童生徒:問11】
- ・高齢・介護に関して、優先的に解決すべき事項では、「高齢者の社会参加や生きがいがづくりに対する支援」が41.8%で最多、次いで「独居高齢者への支援」が32.3%。【P101 専門職:問5】
- ・今後、情報交換や連携を深めたい理由として、サービス利用者である高齢者から、生活上の不安の声を聞くことが多い、との意見が見られた。【P145 専門職:問13-1】

5. 障害者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、障害のある人たちにとって、暮らしやすさが向上している割合が高くなっています。一方で、障害のある人が地域で自立して生活するためには、バリアフリー環境の整備や障害に対する理解をはじめ、介護者、介助者に対しては、情報提供など、地域ぐるみの取組が求められています。

また、障害者のいる家族では、身近に虐待を見聞きする割合が高くなっていることから、虐待防止に向けた一層の取組と支援が求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすさについては、〔障害福祉のサービスを受けている〕家族で「暮らしやすくなった」が18.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して優先すべき事項では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が54.0%で最多、次いで「バリアフリー環境の整備」が41.8%、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が30.5%【P33 市民:問17】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が60.0%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が40.0%と他と比べて高い。【P34 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・身近な地域で、虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を見たり聞いたりしたことがあるかでは、「ある」が5.6%【市民 P41 問21】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では「ある」が12.0%と他と比べて高くなっている。【P43 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が36.7%で最多、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が35.4%。【P111 専門職:問6】

6. 地域コミュニティ・地域活動の活性化

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、近所付き合いが希薄化しており、新たな交流も生まれにくい状況がうかがえます。暮らしにくさと、近所付き合いの減少に相関も見られる中で、近所付き合いを深めるきっかけとなる、地域での交流の場や交流機会の創出が求められています。

また、現在活動していなくても、今後何らかのコミュニティ活動してみたいと考える人や、日常生活の様々な場面で手助けできると考えている人が多くいることがうかがえます。こうした潜在的な地域力を、積極的に活かす仕組みづくりも求められています。

- ・5年前と比べた普段の近所付き合いでは、「近所付き合いに大きな変化はない」が45.8%で最多、次いで「居住期間が短くわからない」が28.1%、『減った』が12.2%。一方、『増えた』は5.6%にとどまる【P19 市民:問10】。5年前と比べた〔暮らしやすさ別〕では、〔暮らしにくさ〕と〔近所付き合いの減少〕に相関がみられる。【P22 市民:暮らしやすさ別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望では「現状のままでよい」が74.8%、「近所付き合いを深めたい」が12.2%、「近所付き合いをなるべくしたくない」が8.5%。【P23 市民:問11】
- ・「近所付き合いを深めたい」と回答した人の中では、近所付き合いを深めるためのきっかけとして、「気軽に集える場所」が45.2%と最多、次いで「趣味を通じたサークル活動」が41.7%、「地域の見守り、声かけ活動」が36.5%。【P26 市民:問11-1】
- ・日頃コミュニティ活動をしているかでは、「特にない」が76.3%と最多。【P45 市民:問23】
- ・今後機会があればしてみたいコミュニティ活動では、「特にない」が44.4%、「スポーツ・レクリエーションなどの活動」が22.4%、「祭りや各種イベントなどの地域活動」が20.0%。【P48 市民:問24】

- ・コミュニティ活動に参加して良かったと思うことでは、「特にない」が 49.0%と最多。次いで「年齢の異なる人と交流できた」が 12.6%、「新しい仲間ができた」が 11.9%。【P52 市民:問 25】
- ・今後、地域の人を手助けできることでは、「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「日用品などのちょっとした買い物」、「電球交換などのちょっとした作業」、「ごみ出し」、「散歩の付き添い」、「近所のイベントの手伝い」で、それぞれ3割を超える。【P53 市民:問 26】
- ・今後、地域で参加したいと思う活動では、「お祭りや伝統行事」が 66.3%と最多、次いで「スポーツ活動や文化活動」が 43.7%、「外国人との交流活動」が 28.4%。【P81 児童生徒:問 10】
- ・団体活動を通じて感じる、地域の問題点や課題では、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が 44.2%と最多、「隣近所・世代間の交流が少ない」が 36.5%と3番目に高い。【P185 団体:問 6】
- ・すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要かでは、「地域の人が交流できる場の整備」が 59.6%と最多。【P189 団体:問 10】

7. 防災・防犯対策の強化

近年の自然災害の多発等を受け、「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」を重視する割合が高くなっています。特に、介護・介助を要する家族で、ニーズが高くなっています。

一方で、防災訓練への参加割合は低く、情報伝達をはじめとする防災・防犯対策などの備えも十分ではないとの意見がみられます。

身近な地域での実践的な防災訓練への参加や、災害時の安否確認、避難誘導、防犯カメラの設置など、防災・防犯対策の充実が求められています。

- ・地域の防災訓練に参加しているかでは「はい」が 7.7%。【P54 市民:問 27】
- ・災害時に避難の手助けが必要かでは「はい」が 12.8%。【P54 市民:問 27】
- ・災害時に避難の手助けが必要な近所の人に手助けすることができるかでは「はい」が 43.2%。【P54 市民:問 27】
- ・その他の支援に関して、今後優先すべきことでは「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 48.8%で最多【P35 市民:問 18】。また、〔家族の介護・介助をしている〕家族では 71.1%。【P37 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・今後、朝霞市及び朝霞市社会福祉協議会で福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が 28.3%で2番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・これからの地域福祉の取組についての意見では、防犯・防災に関して、「防災無線の聞き取りにくさ」、「防犯対策の強化」などに関する意見があった。【P70 市民:問 35】
- ・今までに、地域で参加したことがある活動では「ひなん訓練や防災活動」が 36.1%と3番目に高い。【P80 児童生徒:問 9】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるための意見として、防犯・防災に関しては、「街灯の増設」「防犯カメラの設置」「見回りの強化」に関する意見があった。【P82 児童生徒:問 11】
- ・その他の支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 36.1%と最多、次いで「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」が 20.9%。【P119 専門職:問 7】

8. 生活困窮者への支援

その他の支援に関して優先すべきこととして、生活困窮者への支援、就労支援、子どもの貧困対策などが挙げられていますが、特にひきこもりの状態の人がいる家庭で、経済的な支援を求める割合が高くなっています。一方で、支援制度についての普及が進んでいない状況がうかがえます。

今後は、支援を必要とする人に対して、様々な分野が連携し、支援や情報提供を図ることが求められます。

- ・子ども・若者支援に関して今後優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「子どもの貧困対策」が40.0%、「ヤングケアラー対策」が33.3%となっている。【P30 市民:問15 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「生活困窮者への支援」が46.7%、「仕事に就けない人への就労支援」が40.0%となっている。【P37 市民:問18 家族内被支援者別クロス】
- ・生活困窮者自立支援制度については「よく知っている」が3.4%、「制度を知っているが内容は知らない」が46.5%、「制度名も内容も知らない」が45.3%。【P64 市民:問31】

9. 外国籍市民への支援

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、外国籍の人たちでは、暮らしやすくなったとする割合、暮らしにくくなったとする割合ともに、他と比べて高い傾向が見られます。

外国籍市民については、言語支援や文化交流などを通じた、相互理解の重要性や、教育支援では本人だけでなく家族への支援も必要であるなど、幅広い支援の必要性が指摘されています。一方で、外国籍市民は「近所付き合いを深めたい」とする割合も高く、スポーツ活動など、外国籍の人たちのニーズを踏まえつつ、地域での交流機会を創出していくことが求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについては、〔外国籍である〕人のいる家族で「暮らしやすくなった」が16.7%と他と比べて高い。一方で、「暮らしにくくなった」も12.5%で他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望について、〔外国籍である〕では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高い。【P25 市民:問11 家族内被支援者別クロス】
- ・今後してみたいコミュニティ活動について、〔外国籍である〕では「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が37.5%と他と比べて高い。【P50 市民:問24 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して、解決に向けた意見では、言葉の支援や、相互の文化を知るためのコミュニケーションの場などの必要性が挙げられている。【P126 専門職:問7 自由記述】
- ・団体活動上の課題解決に向けた意見では、児童生徒本人だけでなく、保護者への支援も必要との意見が見られる。【P200 団体:問13 自由記述】
- ・今後、地域で参加したいと思う活動では、「外国人との交流活動」が28.4%と3番目に高い。【P81 児童生徒:問10】

10. 交通・移動環境の充実

交通・移動環境に関しては、道路や歩道の整備と安全対策、コミュニティバスの充実や増便を求める意見が見られます。特に、児童生徒から、道路・交通の改善に関する要望が多くなっています。また、高齢者や障害のある人等の外出支援も求められています。

今後は、国・県等と連携し、インフラの維持・充実を図るとともに、市民の活動・交流の活性化に向けて、移動手段の充実を図ることが求められています。

- ・これからの地域福祉の取組についての自由意見では、「道路や歩道の整備、安全対策」「コミュニティバスの充実、増便」に関する意見がみられる。【P69 市民:問 35】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「道路や歩道の整備・安全対策」「自転車道の整備」「交通ルールの遵守」に関する意見がみられる。【P82 児童生徒:問 11】
- ・「高齢者、障害のある人等の外出支援」の解決に向けた自由意見では、「タクシー券の配布」、「移送サービス」「生活サポート」の充実に関する意見がみられる。【P124-5 専門職:問 7】

11. 専門職や団体への支援・ネットワークづくり

団体活動の中では、新規の活動メンバーの不足や活動者の高齢化が大きな課題となっており、単発でも、市民が気軽に活動へ参加することが望まれています。

また、専門職や地域の支援団体等は、様々な連携とネットワークの中で、情報共有や助け合いを行っています。しかし、支援を要する人の情報入手が困難な状況も見られます。そのため、活動を進める上で団体間の連携・ネットワークの強化への支援が求められています。

- ・現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手については、「市役所」が 80.4%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 56.3%、「民生委員・児童委員」が 45.6%。【P139 専門職:問 12】
- ・今後、情報交換や連携を深めたい相手については、「市役所」が 47.5%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 39.9%、「自治会・町内会」「民生委員・児童委員」が 31.6%。【P144 専門職:問 13】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「支援関係機関間の連携」が 29.7%と 3 番目に多い。【P149 専門職:問 14】
- ・活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係があるかでは、「社会福祉協議会」が 84.6%と最多、次いで「市役所」が 71.2%、「地域包括支援センター」が 46.2%。【P173 団体:問 1】
- ・団体活動上の困りごとでは、「新しい活動者が入らない」が 55.8%で最多、次いで「活動者の高齢化」が 36.5%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が 32.7%、「市民に情報発信する場や機会が乏しい」が 30.8%。【P176 団体:問 2】
- ・団体活動上の困りごとを解決するために、どのような機関・団体と連携したいかでは、「社会福祉協議会」が 70.2%と最多、次いで「市役所」が 68.1%、「地域包括支援センター」が 38.3%。【P179 団体:問 2-2】
- ・市民の方が団体活動に単発で参加することについて「単発で良いので気軽に参加してほしい」が 44.2%と最多。【P183 団体:問 5】

Ⅶ グループヒアリングの概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、市内で福祉に関する活動を行う団体の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、実施しました。

2 調査概要

実施日	令和7年1月29日（水）
実施場所	朝霞市総合福祉センター（第1会議室）
対象団体	第5期朝霞市地域福祉計画・第5期朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査で参加の承諾をいただいた14団体
対象分野	子ども、高齢者、障害者、地域活動の4分野

Ⅷ グループヒアリング結果

1 子ども分野

① 地域の問題点や課題について

- ・コロナ禍はオンラインも多く、リアルでの母親同士の交流がなくなった。
- ・産婦人科に行くのも旦那といくみたいなのが增え、母親同士で声を掛け合うことが減った。親同士が交流をしてはいけないような雰囲気というかそんなものを感じる。これは、コロナの前には無かった雰囲気。
- ・どのようにお友達になりましたかと聞くと、支援センターに何回も行って顔を合わせると、そこでお友達になれる、ということを知った。支援センターのように、定点で会う機会があれば輪が広がりやすい。
- ・パパの育児参加もしてほしいということで、土日に事業を開催することが多いが、そうすると家族ごとになってしまうということは感じた。
- ・月に1回中央公民館を借りているが、拠点がないため、いつでも来れるようなものではない、居場所になるのは難しい。
- ・外国籍の子どもも増えている。ハローワークと一緒に連れてほしいとか、ファミサポの手続きと一緒に連れてほしいとか、仕事するための相談も増えてきている。
- ・不登校の子どもは来ずに、親だけが相談をしに来るようなパターンも増えている。
- ・189に電話相談をしたことがあるが、長時間保留にされる。対応者が訓練されておらず、結局市役所に相談してください、との回答のみであったなど、対応がずさん。
- ・教員の働き方改革などの影響か、普段から先生が不在のことが多く、そのタイミングで不安になる子どもがいる。子ども食堂に来るときは笑顔しか見たことがなかったので、学校とも色々な面で連携出来たら、もっと手厚いサポートができるのでは。
- ・民生委員として、不登校児に関する情報はもらうが、その後なにをしていいのかわからない。
- ・学校いっだけかすべてではなく、居場所が他にあっていいのではないかと考える。そのため、月に5日間という本団体の活動頻度（補助金の制約）では足りない、そのため、子どもにも、親にももっと居場所になる場所がほしい。
- ・子ども達が信頼して相談してくるようになるような、子どもとの関係性を築くことは時間のかかるもの。
- ・地域のつながりがない。子育てが孤立に繋がり、親が不安になったりしている。不安な子育てをしていることが、少子化などにもつながっていると感じる。
- ・子どももあまり外に出ないと、体調不良や人間関係などもうまくいなくなる。
- ・朝霞は流動性も高いため、交流の仕組みを意図的に作らないと交流は生まれない。
- ・常設の居場所づくりを、少しずつでも進めていきたい。
- ・地域活動でいつでも使える場所が一か所でもあると、だいぶ違うと思う。ぜひ作ってほしい。

② ひきこもりの人への支援について

- ・スクールソーシャルワーカー、カウンセラーを常置してもらいたい。その人達を核にして、民生委員など地域の活動団体などと連携していければいい。地区ごと、学校ごとに、関係者が集まって協議できる場があると良いと思う。そうすると、情報共有もでき、ある程度専門性も持たせることができる。
- ・不登校に対する認識もまちまち。学校に通うべきという人もいれば、通わなくてもよいという人もいる。最終的には個別の対応が必要。学校に行ってもらうように支援する方がよい子どももいれば、無理をして学校に行かせない方がよい子もいる。
- ・子どもがどういう形で勉強したいかが一番大事。不登校にはレベルがあって、親の生活習慣が影響していることもある、家庭に何がおきているか知れるようなネットワークが必要。いろんな立ち位置の人の目で複眼的に見るとというのが大事。
- ・情報は全てネットに頼るお母さんが多い。また出産ぎりぎりまで仕事していることで、妊婦仲間ができにくい。子育て自体初めての体験で、不安になりやすい。
- ・発達障害はもともとないのに、親が作りだしてしまっているケースもある。子育て支援をしている人、歯科医なども気が付き始めているが、不登校につながるような、神経が繊細になってしまうのは、子どもの育ちのところがすごく大事。子どもが言葉を発する前に培われてしまっている。表面に現れるのが、学校には行ってからというのが多いが、元々は生活基盤、生活習慣のところをしっかりとっていくことが大事。また、子育て道具を使いすぎる弊害もある。快・不快の両方を感じて、学び取っていくことが大切であるはずだが、「快」の部分だけ与えすぎている。動画を見せる五感が育たないし、人との距離もわからないようになってしまう。
- ・オランダ人家族をホームステイで受け入れたことがあるが、小学生は8時に就寝。絶対ネットは見せない。テレビを見る時は家族税員で見る、という子育てを目の当たりにしたとき、日本人の子育てはどんどんダメになっていくと危機感を覚えた。

③ 個人情報の共有について

- ・活動の情報共有をする場があると、そこから団体同士の連携が生まれたり、より充実した支援に繋がると思う。
- ・子育てについて、正しい情報はどこから得ればいいのか、知らせるようなこともやっていきたい。
- ・お母さんたちが、SNS などネットの情報をうのみにして、妊娠中に飲まない方がいいとされる薬を飲もうとすることもある。信頼できる情報の取り方、使い方を親にも教えないといけない。
- ・生活保護世帯の情報など、困っている人の情報をもらっても、何をすればよいのかわからない。どこまで踏み込んでよいのかわからない。支援をする人に対する研修などの予算をつけ、サポートしてほしい。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・市の案内資料として、外国人向けの外国語カードがあるが、何語かを日本語で書いているため、外国人は把握できない。
- ・今まで中国の人が多かったが、最近は、ネパール、モンゴル、ベトナムが多くなっている。英語が通じない人が増えた。
- ・支援を受けられずに困っている人を見つけるための仕組みが重要。
- ・困っている人がいた時に、それに関係する人が集まってそのような事例に関して会議を行う仕組みが

あればよい。

- ・生活困窮者に関する相談窓口が身近にあった方がよい。
- ・グレーゾーンな障がいを持っている方への支援では、あそび場に来てくれる人であれば支援ができるが、来ない人は見つけられない。頻繁に関われるような場や機会が必要。町内会にも期待している。
- ・周りに目を配ってくれるような人がいれば、地域になれば良いと思う。
- ・県の公式ラインから情報が流れてくるが、市ではラインがない。インスタから若い方が入ってくることもある。SNS で正しい情報を積極的に流していくことが必要。若い人への情報提供ではインスタが良いと聞いている。X よりも伸びやすい。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・地域の人が集まるイベントも、楽しそう、とか面白そう、がないと若い人の参加は望めない。キャンプギアの企業とのコラボなど、自治体と民間とが一体となって進めていく必要があるのではないか。
- ・食を通じた繋がりづくり、親も子も、一緒に食事をする体験はとても大事。周りの子育てを見ながら、修正もできる。
- ・固定的な活動拠点があることがとても大事。一つでも固定した場所があれば不安を抱えた人にとっても安心を感じる要素となるのではないか。
- ・民生委員があまり知られていないのが問題。
- ・どのようにサポートすればよいのか、あまりわかっていない民生委員もいる。何をすればよいかわかっていないのであれば、地域で見守っていることがわかるような支援をしてほしい。
- ・民生委員が訪問する際、パンフレットを用意するとか、ジュースの1本も渡せるようにするなど、民生委員が活動しやすいようなサポートが重要。訪問していただくことが大事。対象者に会えなかったとしても、それも一つの情報となる。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・外国籍の子どもたちは、普段話せているからといって、必ずしも日本語への理解、学習内容への理解ができているわけではない。学習支援を適切にする必要がある。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・常時誰かがいる、みたいな体制を作る。市だけで難しければ民間や企業を巻き込むなどして。
- ・ほっとできるような場所が多層的にあると良いと思う。既存の活動の場もうまく使って。
- ・保育士、訪問介護担当者への待遇を良くしてほしい。福祉に関わる人の生活水準が他の仕事よりも低いのはおかしい。男女とも、生活に密着している仕事ほど給料が低い。
- ・地区社協を創設する。

2 高齢者分野

① 地域の問題点や課題について

- ・町内会館が無料で使えているが、事前の申請が必要なので、ふらっと立ち寄り、集まるみたいなことができない。
- ・曜日を固定して活動しているが、他の予定と被っていつも参加できない方もいる。
- ・宮戸市民センターを借りて活動しているが、会場費がかなりかかる。現状、助成金で会場費は賄えている。
- ・活動日を増やせないのは、スタッフの体力、予定などが影響している。
- ・地域での孤立が問題。家族を支えるために、サロンに来れなくなり、孤立化が進行する。また、単身男性にも声掛けするが、なかなか地域に馴染めない。
- ・マンションの集会室を無料で借りて活動を行っている。1年目はマンション住民に限っていたが、地域の人たちとの協力も必要と考え、2年目からはマンション住民に縛らず実施。
- ・去年、マンションで風呂での孤独死などが3件あった。市の通報ベルが使えず、しばらく見つからなかった、など。同じ階に住む人でも会わないこともある。どのようにしたら防げるのか。
- ・マンションの前に大きな県道があるが、歩道が40年以上できない、最初は作る前提であったが、話が進まない。歩道のないところを、大きなトラックが通り、非常に危険。
- ・昔はマンションに何班にも分かれるほど子どもがいたが、今は1班しかいないほど子どもが減っている。
- ・非常ベルを、風呂に入っても使えるような仕様にできないか。

② ひきこもりの人への支援について

- ・ひきこもりは1人暮らしよりも家族と暮らしている人が多い。
- ・民生委員もやっており、近所の方から話を聞いたりする。ひきこもりの方が50歳くらいになっている世帯もある。話を聞いたら、定期的な情報交換の中で包括センターの方に話はしている。
- ・ひきこもりの話が来た時には、役所で担当される職員に相談したりする。
- ・民生委員として何うと、話したいからぜひ来てほしいと言われるが、会のような集団のところには行きたくないという人もいる。無理に出てこなくても、こうしたつながりを維持することが大事。
- ・話をしてくれる人はいる。そのようなつながりを維持することはできている側面もある。
- ・月1回役員会をするときに情報交換し、そこにメンバーとしている民生委員に動いてもらったりすることしかできない。
- ・自分たちだけでは対応できないので、参加している方にも声掛けなどをお願いしている。
- ・限界あるが、できる範囲で、個人情報に注意しながら、包括センターにも情報共有している。
- ・サロンのメンバー同士で、来なくなった人にアプローチすることで、参加を再開してくれる人もいた。役員会で情報共有できているのは、ちょっとした機会での声かけにつながるなど、良い取り組みであると思っている。
- ・単身者には声かけもするが、断られることも多く、連れてくるのは難しい。距離感も、一人ひとり違う。

③ 個人情報の共有について

- ・昔からの町内であるため、お互いのことはよく知っている場合が多い。去年、一人暮らしの方が亡くなった時、地域の方が気づいて、比較的すぐに見つかったことがあった。しかし最近は、高齢になって町会の回覧をやめてしまう人も出てきて、その人たちの情報が入らなくなった。高齢のため町会を抜けた方の情報共有は必要。
- ・地域の清掃を自発的にしてくれる人も何人かいる。町内もきれいに保たれている。
- ・記録が残るときは個人情報詳細に伝わりすぎないようにしている。どうしても困った時は包括センターなどに協力を求める。
- ・普段から包括センターと連絡がとれる仕組みは作れている。包括センターの職員が対応に来てくれることもある。親密な関係を持っていると思う。
- ・マンションで亡くなった方がいて、親族に連絡しないといけない状況があったが、連絡先がわからないことがあった。マンションでは、当初そのような時に連絡できるように情報がまとめており、今も多くの世帯からは提供があるが、全ての世帯ではなく8割程度。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・町内会で毎年避難訓練はしているが、会の集まりの際に災害が実際に起こったら、どのように対処したらよいか分からない。
- ・サロン参加者の娘が鬱気味で、色々調べて電話などしたが、行政から思うような回答が得られなかったそう。やっとの思いで電話しており、自分であれば、相談するのが嫌になりそうだと感じた。相談窓口の一本化を進めて欲しい。
- ・時間や場所に制約があり、相談したいときに相談できる窓口ではないというのを実感した。消費者センターのように、いつでも電話すれば誰かが対応してくれるような、相談しやすい形にする必要がある。
- ・総合窓口による案内も、もっとしっかりと最後まで支援してくれるところに繋げてくれるような仕組みにしないといけない。他の部署に回すだけでなく、そこでしっかりと受け止めてくれる窓口がほしい。
- ・要支援者でなくても名簿登録している人がおり、使いにくい。実際の災害を想定して名簿を活用できるように見直していくべき。行政や消防が把握しているのかもしれないが、何が使いにくくて、どうしたら使いやすくなるか、一度実際の災害を想定してやってみてはどうか。
- ・歩道の整備を早急に進めて欲しい。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・毎年4月に、1年間の活動内容を定めるが、毎年似た内容となっている。新企画などあれば参加者も増えるかもだが、スタッフも高齢化してきて、新しいことを考えることも難しい。他団体でどのようなことを実施しているのか知りたい。
- ・民生委員も引き受けてくれる人がいない、スタッフに若い人が欲しいが、声をかけても難しい。肩書や役割を与えられるのが嫌という人が多い。お手伝いくらいならやってくれる人もいるが。
- ・民生委員も、活動は大変だと感じているが、民生委員へのやりがいなど、もっとわかりやすくあると増えるのかもと思う。知ってもらえる機会や、やりがいが伝わるものがあると良い。
- ・社協の夏休み体験ボランティアを通じて、今よりも若い方が来てくれたり、学校支援のボランティアを通じて、少し年齢層が下がった。これからは、地域の若い母親のグループと連携して何かしらでき

ないか、と考えている。

- ・同じ施設で活動している団体とも繋がりたいと思っている。いきなり来てもらうのは難しく、関係づくりにも時間がかかると思うが、交流がないともったいない。アプローチを考えている。
- ・活動に学生を呼び込むのはどうか。朝霞市には学生が多くいる。大学で単位をとるために学生ボランティアが来たこともあったが、若い人が来ると雰囲気が大きく変わるため、そういう学生と連携する何か仕組みがあれば、役所にもお願いしたい。
- ・認知症にならない習慣など、参加者が興味を持つテーマがある。認知症にならないための対策として、ぜひサロンに参加してください、と呼び掛けている。
- ・団体同士が情報共有できる機会がないかと思っている。良い事例、活動結果などを共有したい。
- ・高齢者ばかりなので、移動も難しい。バスなどの支援もあればうれしい。
- ・イベントの支援など、来てくれる方がいればベストだがそういう人についての情報なども教えて欲しい。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・女性たちだけであるが、町内の八百屋にいつも集まっており、それを町内会館でも出来たらいいと思う。何もしないけれど、ふらっと集まれるような場所。
- ・小学校の桜の木の下にベンチを設置してもらった。そのようなところも集まるのに利用されている。自然な形で話せるような場所が出来たら良いと思う。
- ・研修を実施するから集まって、と声をかけてもなかなか集まらない。研修を呼びかけるよりも、自然発生的に、住民同士が自然と情報交換や教え合いができるような場や仕組みがあれば良い。
- ・地区ごとに担当者がいて、何かあると担当者に相談できるようにしている。小さい範囲で、困った時にいつでも支援を必要とする当事者が話しやすい環境づくりが大切。
- ・役場まで遠いため、役場の近くで何か活動があってもなかなかいけない。サロンにきて情報を提供したり、お話ししてもらえると非常に助かる。
- ・マンションで避難訓練するが、放水の仕方を教わるだけで終わる。せっかくなので、そのような人が集まる機会を利用して、朝霞市ではこういう例がありました、こういう点に気を付けましょうなど、身近な例で防災に関する講話をしてもらえないか。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・町内会で12月に餅つき大会があり、ついた餅を来た人に配るが、それにはお年寄りの方も子育て世代の人も結構来ている。そうした何かイベントをやると、普段外に出てこないような人も出てきやすい。コロナで中止していたが、去年から再開した。
- ・参加者を増やすために、他のイベントを通して活動参加につなげてもらったりすればよいかと思う。
- ・町内は交流などしているほうで、問題があると各々で対処していたり、行事などもあるため住みやすい地域であると思う。
- ・声かけや見守りなど、地域の中で細かく目配りして活動するグループに対して、小さな助成でもいいので個人的な活動をする人たちが利用できる助成金に関する情報をもっと得られるとよい。
- ・災害時の支援、家族の病気時の支援など、障害者とその家族の困りごとを地域みんなで支える、絶対に取り残さない仕組みづくり、基盤づくりをしていけたら良い地域になると思う。
- ・参加者を増やすために、ラジオ体操で参加者にスタンプ押す、貯まったら景品をもらえるみたいな、

- なにか参加したくなる楽しみがあればいいかも。ボックスティッシュを配る程度の補助はできないか。
- ・子ども、高齢者、障がい者というように分けなくて、分野で分けなくて、みんなと一緒に活動できるような形ができればよい。
 - ・先駆的、効果的な活動の情報など、横に広げていける仕組みづくり。
 - ・私たちが小さい頃は隣近所との関係性が深かったが、今はない。今は個人情報で、ということで難しいかもしれないが、もう少し気軽に互いを知り、交流ができる地域になれるとよいと思う。
 - ・この地域は、何か問題があるとみんなで対処してくれる。環境もよいし、町内会でも行事がたくさんあり、とても住みやすいまち。

3 障害者分野

① 地域の問題点や課題について

- ・障害のある方への理解が不足している。
- ・家族、周囲の人できちんと理解している人は少ない。
- ・周りからの対応が変わるのではないか、などの不安から言い出せないパターン。
- ・本人が統合失調症を理解しないパターンが多い。本人も含め、初期から理解が進んでいけば、こんなにも苦労しなくても済んだのに、ということも少なくない。発症自体は10代~20代に多いが、それも知られていない。教師もどこまで知っているのか。
- ・特に高次機能障害は外見ではわからない。記憶障害、疲れが出る。周りから何回聞くのか、と言われることで、本人はすごく落ち込む。まずは周囲に理解してもらわないと、本人や家族の負担も増えるばかり。
- ・障害の診断を受けても、どこに相談すればよいか分からない。相談に行けても、うまく話せない。本人だけだと、引きこもりになってしまう。
- ・事故に遭った場合、当初から全身の検査を受けていないと、後日脳機能の障害が見つかった場合、保険等の対応が受けられない。
- ・緊急時の対応体制わからない。緊急のことが起きて、障害児・者を預けないといけない場合、グループホームなどが制度上あるが、すぐには預かってもらえず、実際の役には立っていない。
- ・部屋を借りる費用、常に使える場所を確保したいが、空きがないと抽選になってしまうため、使いたいときに使えない、障害のある方だと、場所や日時を毎回変えると間違ってしまうことがあるので、同じ場所、同じ時間と固定的に使える場所があると良い。
- ・町内会館はバリアフリー化されておらず、行きづらい。予約など手続きもあるため、簡単に行けるようになれば尚よいが、難しい。

② ひきこもりの人への支援について

- ・通所施設に行きたがらない子どもは一定数いる。親が連れ出したりすることもあるが、やはり子どもの気持ちが大変であるため、なかなか改善されない。
- ・家族会、地域活動に参加している人は、外に出て参加しようという意思をもっている。8050問題、障がいをお持ちのお子さんの面倒を、高齢の親が見切れなくなる、という問題は、家族会や地域活動にアプローチして来ない人こそ問題になっている。
- ・周りの理解が得られないと思い込んで引きこもってしまうことのないように、どのようにアプローチしていくかは、それぞれのケースで考えていくしかない。正解はない。
- ・どうやって病院に行ってもらい、診断してもらうのか。そこからの問題かもしれない。
- ・親が介護疲れになっている。当人も通院が必要な状態であるが、キャンセルが続き、支援団体から面倒を見切れないと言われる事例もある。家族自体が疲れ切っている世帯をどう助けるかが問題。

③ 個人情報の共有について

- ・包括センターから紹介を受けた方、障害者関係の講演会に参加した方が団体のことを知り、参加の希望がきたこともある。
- ・統計的には障害を持った方はたくさんいるはずだが、実際に集まっているのは少なく、そのような隠

れた方々を見つけ出して支援していくことも必要。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・障害を持っていても、家族会などのつながりを持たない方がたくさんいる。そのような人たちともつながっていききたい。
- ・専門領域について、領域が近い専門領域の知識持つ人とのつながりを作れると、もっと活かせたりすると思う。
- ・市で相談支援を統括できるような窓口があれば良い。
- ・日曜日にも移動支援が利用できるようになると良い。
- ・どのようなサービスがあるのか、当事者も家族も分かっていないことが多い。費用面の助成があるのかどうかなど。
- ・知らない人がどう支援を見つけることができるのか、が一番肝心。そのために家族会がある。専門職でなくても、家族会みたいなのがあると情報や経験を共有してもらえる。
- ・障害の診断を受けてから、支援サービスを受けるまでは、ほぼ自力での作業となっている。診断からサービスの利用開始まで、アウトリーチの支援が必要。
- ・医療と福祉の連携がとれればよい。漏れがないような仕組みづくりに向けて、朝霞市では医師会等との連携などを進める必要がある。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・地域の色々な方に障害を知ってもらい、理解してもらうのが良い。
- ・知らないは怖いにつながる。精神障害者の場合は施設に通っていることを近所にばれたくないこともある。周りからの理解とともに、当事者自身にも、周りの人とのコミュニケーションが大事であるとの意識づけも重要。
- ・障がい者が活動しやすい場が増えれば。地域でどんな仕事ができるのか、模索しているところ。障がい者ができる仕事を一緒につくっていってもらえるとよい。
- ・地域住民とともに活動するようなことはないが、来てくださった方に障害を理解してもらえればと思っている。
- ・共助が地域住民に広がれば。顔見知り同士で、病院に連れていくだとか、買い物するだとか、そのような形でなにかネットワークができればよいと思っている。
- ・気軽に参加できるイベントが数多くあれば、参加者の数も増えると思う。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・向こう三軒両隣のネットワークが広がっていけばよい。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・朝霞市は、平均年齢は若い一方、隣近所との関係性は浅い。地域コミュニティをどのように築いていくかが重要。
- ・精神障害者にとっては、周りとの関係性が浅い方が住みやすいと考える場合もある。それでも、ある程度お互いを知ったうえでコミュニケーションづくりが、これからの課題かと思う。
- ・お互いを知るための取組みを継続していく、長く続けていくことが大事だと思っている。

- ・理解をしてもらえれば地域で仕事をし、暮らしていくための環境も整ってくるかと思っている。
- ・統合失調症の場合は、一人暮らしできると一歩前に進めるということにもなるため、それを目安として持ちつつ、それは現状難しいため、環境が整っていけば良いと思う。
- ・成年後見人制度についても、朝霞市では市長申立てに支援が限定されているが、本人・家族からの申し立てについても支援を速やかに進めてほしい。
- ・気安く集える場所、いつ行っても誰かがいて、話や相談をできる場があると救われると思う。
- ・誰にでも問いかけられる、話を聞いてもらえる環境が必要だと思う。障害者だからではなく、一人の人間として話を聞いてもらえる、受け止めてくれる環境が必要だと思う。
- ・受け止めてくれる人が近くにいて、その輪が広がっていけば、行政だけに頼らず、自分たち地域でやっていけるのではないかなと思う。
- ・福祉的アプローチは昔から行っているが、最近は一般企業が色々なイベントを始めているため、そのようなところに障害者理解のブースを設けるなど、福祉ベースのイベントではなく、一般ベースのイベントに福祉の要素を入れるような形が良いと思う。民間の力を引き出していく取組を進めてもらいたい。

4 地域福祉活動分野

① 地域の問題点や課題について

- ・コロナ前と比べて、活動メンバーの人数が大きく減少してしまった。
- ・地域によっては、世帯が新旧で別れ、全く交流がない。
- ・古くからいる人たちは年齢が上がり、外に出なくなってしまう。
- ・若い人との交流、地域との交流がない。
- ・町内会も人が減り、催し物も減っている。
- ・世代間の隔たりを感じる。子ども連れの若い人に手助けの気持ちで声をかけても、拒否反応を示されることがある。一度でも嫌な思いすると、もう声かけられない。世代間の交流が取りづらくなっていると、強く感じている。
- ・緊急時の対応体制について、実際に問題が起こった際、機能するのか。優先順位をつけて行動できるのか。地域の防犯活動メンバーも高齢化しており、災害時には助けられる側ともいえる。
- ・町内会の人たちに聞くと、自助の意識はあるが、共助の意識がない。行政がやってくれて当たり前と思っている人が多い。
- ・町内会を抜けるとごみ当番、集金等をしなくてよい、ということで、高齢になると抜ける人も出ている。
- ・新しく来た人との交流はない。こどもがいれば話しかけたりもできるが、そうでないとコミュニケーションをとるきっかけがすらない。もっとできたら民生委員としても活動範囲が広がる。
- ・民生委員を嫌がる人もいるので、町内会として聞くこともある。情報を聞くにも、誰に聞くか、どのような立場で聞くかなど、ひじょうに気をつかう。
- ・最低限の隣近所の付き合いができればと思うが、民生委員などの肩書がないと話しかけるのも難しい状況。
- ・交通マナーが大きな問題。歩道があまりない。狭い道に車と自転車が早いスピードで通る、バス停に行くだけでも気をつけていかないといけない、大変危ない。それぞれがマナーをわきまえないといけない。
- ・気安く集まる場所がない。高齢者のいきがい活動を支援する事業から補助が出ているが、人件費も出ず年中赤字で、集まるほど赤字となる。参加費がかかると来なくなることもある。お金をかけず、ふらっと来られるような場所と、常設できるよう人件費の補助があれば良い。
- ・バス停までも遠い人もいる。バスがあっても乗り継ぎが難しいこともある。集うところへの交通の問題は大きな課題。
- ・気楽に行ける場所がないため、他の目的があるような場に行って、そこで時間をつぶしたりしているような人もいる。色々な個性的な居場所があると良い。

② ひきこもりの人への支援について

- ・高齢になると、車や自転車の運転を家族に止められることが多い。講座への参加など興味があるけれど行くまでの足がない、バスはあるけど本数が少ない。出るのが億劫になり、引きこもりたくはないが、引きこもりにならざるを得なくなる。興味をもつものはあるが、足がないから引きこもってしまうというのも大きな要因の一つ。
- ・高齢者は、足が痛いなど、体調に問題があると外出がおっくうになってしまう。

- ・せめてバスが細かく運行されていれば、出るきっかけになる。
- ・無料で行ける場所があるとよい。
- ・老人会や包括センターから情報は得ているが、引きこもりの人の情報はあまり入らない。
- ・家族会の支援もとても重要。親子ともに支援を受けながら、徐々に外出頻度が高くなっていった例もある。
- ・行政からの訪問制度などもあれば頼りやすいのかなと思う。
- ・本人は支援を拒否しても、どのレベルであれば支援につなげた方が良いかなど、判断に迷うことがある。
- ・家族から、電話に絶対出ないように言われている人や、自分がかかる時以外は携帯の電源を切っている人もいる。今日の詐欺被害などへの警戒もあるかもしれないが、集まりに来なければ孤立してしまいそうな人と、思うように連絡が取れないケースもある。

③ 個人情報の共有について

- ・あまりにも個人情報保護が前に出過ぎて、気になる家庭を見つけても、民生委員としてその後どうなったかの確認、フォローができない。
- ・田舎では、お悔み欄に、住所、氏名、年齢など全て載っている。これを朝霞でやったらどうなのだろう、と感じた。怖い気もするが、誰かが亡くなっても、隣近所に誰も知らせないのも問題ではないか。
- ・情報を得てもそれをどこにあげていけばいいのか、本人家族が嫌がる場合もあり、難しい。
- ・シニアの体操教室を週1回実施しており、そこに参加する人同士の情報が安否確認にひじょうに役に立っている。
- ・自分たちには声かけくらいしかできていないが、声かけを当事者の家族に拒否されるようなこともある。そうした、課題をかかえる家族についての情報は、どこに上げていけばいいのか、ひじょうに悩む。
- ・地域や活動のつながりで、問題が見つかることもあるが、それを支援機関までどのようにつないでいくか、そこが組織立っていないので、線としてつながらない。時に、噂話のレベルで終わってしまう。
- ・朝のラジオ体操など、活動の前後の雑談が貴重な情報源。誰それがどうした、など、いろいろと情報が集まってくる。担当のケアマネさんよりも、当人の状況を把握していることもある。
- ・LINEでグループを作り、既読の頻度傾向などから安否確認をしている事例もあった。
- ・昔でいう、井戸端会議のような場があれば、もっと情報は共有できる。しかし今は、日中時間のある人は少ない。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・支援制度や団体は、必要ないから知らない人が多い。啓蒙活動の足りなさもあると思う。
- ・制度を使った経験を人から聞かされるとわかりやすくなる。そのような意味でもふらっときて話をできるような場は重要。
- ・自分が困らないと、素通りしてしまう。困って初めて興味を持つ。
- ・包括支援センターや社協すらあまり知られていなかった。広報に毎月少しずつでもよいので、繰り返し伝えていくことが効果的なのでは。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・定年を迎えた後の人だと、福祉みたいな複雑なことをやりたがらない。やってくれる人は、いくつも

引き受けることになる。結果として、同じメンバーになる。

- ・講師は引き受けてくれるが、企画運営までは引き受けてくれないことが多い。
- ・単発ではやってくれても、続かない。
- ・一人ずつ地道に育てなければいけない。好きなところからやってもらい、徐々に定着してもらおう。次のイベントでも同じ方に連絡することで、少しずつでも目的意識の醸成に繋がるかもしれないと思いやっている。
- ・定年後の人よりも、現役で働きながらボランティアで参加してくれる人の方が多い。
- ・活動を継続していく為の、基盤整備を進めることが重要。
- ・自分たちがやっていることのPRをもっともっとしていく必要がある。今の流れを見ていると、SNSでPRしているところが善、という傾向がある。
- ・社協にボランティア登録する人は、福祉への理解がある。そこで、いかに自分たちの活動へと導いていくかが大切。
- ・ボランティアといっても、無給でなければ来る人もいる。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・どこまでを共助でやり、どこから公助につなげていくか、現場レベルできちんと整理しておく必要がある。
- ・単純なものでいいので、公助につなげる判断の基準や、つなげる仕組みがあればよい。
- ・支援団体など、地域の様々な社会資源が、もっと市民に知れ渡るような広報も必要。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・朝霞では80歳を超えると女性の割合が増えている。そのようなところからヒントを得て、朝霞独自の政策や福祉活動ができると良いと思う。
- ・学校の整備でも、将来的な福祉利用も視野に入れながら進めてもらえると、朝霞らしい、福祉と教育の連携ができていいのではないか。
- ・どこまでが共助、公助か、基準を作る。

5 ヒアリング結果からみえる主な課題・方向性

居場所・活動場所について

- ・団体活動を進める上で、事前の予約や費用の問題なく、柔軟に使える場の提供が望まれる。
- ・既存の施設等も活用しながら、ふらっと立ち寄れる身近な居場所を重層的に展開することが望まれる。

情報提供・相談体制の充実について

- ・市や社協だけでなく、民間や企業等とも連携し、いつでも相談しやすい環境づくりが望まれる。
- ・相談に対応する人材の、対応力の向上が望まれる。
- ・市からの情報提供に SNS の活用が望まれる。
- ・支援を受けられずに困っている人を見つけるための仕組みづくりが望まれる。
- ・福祉サービスや相談機関、支援団体など、普段から広報などで繰り返し伝えていくことが望まれる。
- ・地区社協の創設が望まれる。

交流の機会づくりについて

- ・普段地域と関わる機会の少ない人に向けて、意図的に交流の仕組みを作ることが望まれる。
- ・ここに行けば、同じ境遇の人たちと出会える、という常設の場づくりが望まれる。
- ・民間と連携し、障害者理解の普及や交流を図っていくことが望まれる。

ひきこもり・不登校への支援について

- ・気になる家庭を、様々な立場の人の目で複眼的に見守り、サポートするネットワークづくりが望まれる。

個人情報の共有について

- ・情報の扱い方など、支援をする立場の人に対する研修が望まれる。
- ・朝霞市避難行動要支援者台帳の更新・共有と、実際の災害を想定した訓練の実施が望まれる。

活動の活性化について

- ・民生委員活動を、わかりやすく知ってもらう機会や、やりがいを伝える機会づくりが望まれる。
- ・夏休み体験ボランティアや学校支援ボランティア等を通じた、若い世代とのつながりづくりが望まれる。
- ・先駆的、効果的な活動の情報などを、横断的に広げていく仕組みづくりが望まれる。
- ・誰もが活動の場に参加できるよう、道路環境・移動手段の充実が望まれる。

朝霞市らしい地域福祉の展開について

- ・市内に立地する大学キャンパスの学生・教員・施設等と連携した地域福祉活動の展開が望まれる。
- ・市の将来の人口動態等をふまえた活動の展開や施設等の整備を進めることが望まれる。
- ・共助で支えていたものを公助につなげる際の判断基準や、つなげる仕組みづくりが望まれる。

第5期朝霞市地域福祉計画・
第5期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかる
アンケート調査・グループヒアリング
結果報告書

発行：朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係
TEL：048-463-1594（直通）
FAX：048-463-1025

発行年月：令和7年3月